

# 徳島の剣道

特報

1. 追悼 坂下彦之先生
2. ふるさとトーク 伊澤 章

第38号



徳島県剣道連盟



○令和4年度より、徳島県高齢剣友会では80歳以上で剣道修練をなされている先生方に、赤文字の名札（ゼッケン）を着けていただいています。上記写真の先生方以外に次の先生方に送付されています。《張西政晴・東内 勉・松村克隆・福永 徳・澤井勝之先生》



## 令和3年(2021)はこんな年でした

徳島新聞 12/27・28より

**2021年 10大ニュース** 国内

- 1 東京五輪・パラリンピック 無観客開催
- 2 新型コロナで度重なる緊急事態宣言
- 3 菅首相退陣、岸田政権誕生
- 4 新型コロナ「第5波」で医療崩壊
- 5 衆院選で自民絶対安定多数
- 6 東日本大震災10年
- 7 眞子さん、小室圭さんと結婚
- 8 記録的大雨で土砂災害、熱海土石流
- 9 新型コロナワクチン接種率7割超
- 10 藤井聡太さんが竜王位獲得で最年少四冠

**次点** 小田急線、京王線で相次ぐ刺傷事件

**番外** 大阪ビル火災25人死亡、放火疑い

**2021年 10大ニュース** 国際

- 1 バイデン米政権発足
- 2 アフガン米軍撤退、タリバン政権に
- 3 大谷「二刀流」で大活躍、満票でMVP初選出
- 4 世界の新型コロナ死者が500万人超
- 5 ミャンマーで軍事クーデター
- 6 香港リンゴ日報廃刊、民主派弾圧
- 7 トランプ支持者が議会襲撃・一時占拠
- 8 中国共産党が歴史決議、習氏が歴史的指導者へ
- 9 松山英樹がマスターズ優勝、日本男子初
- 10 G7首脳声明に台湾明記、米中対立激化

**次点** G20「今世紀半ば」に温室効果ガス実質ゼロ



## 巻頭言

# 徳島県剣道連盟会長に就任して

徳島県剣道連盟 会長 藤川 和 秋



令和三年三月十四日の令和二年度徳島県剣道連盟総会において、多くの会員皆様のご推薦を頂き、第十二代目の会長に就任させて頂きました。私にとっては思いがけないまた光栄なことであり、ご推薦して頂きました会員皆様に感謝とお礼を申し上げます。

さて振り返ってみますと高校生から剣道を始め、今日まで五十年という年月が過ぎ、あらためて生涯剣道を痛感しています。しかし現在の環境はどのスポーツも同じですが、少子化によりスポーツに携わる子供達が減少しています。剣道も例外ではなく、毎年小学生・中学生・高校生の剣道人口は減少し、日本古来の伝統文化として先人が築き上げてきた剣道の歴史に大きな影を落としてきています。

しかし、嘆いてばかりでは前に進めません。連盟としては、子供達に剣道への関心を持ってもらい剣道に携わる機会や環境を作っていく努力をしていかなければなりません。

今、剣道教室も県西部では人数が大きく減少しています。それ

ぞれの剣道教室ごとの稽古では従来の活気も無くなりつつあります。ここはピンチをチャンスと捉え、それぞれの支部や剣道教室が一致団結し、合同稽古会を開催するなど、いままでのエリアを越えた連携が必要ではないでしょうか。いまはコロナ感染症予防のため、西部・南部の交流稽古会も中断していますが、コロナ感染が落ち着けば小学生・中学生を対象としたブロック別剣道交流会を開催できればと思っています。

私は「剣道の基盤は少年剣道にあり」と思っています。小学生剣士を中学校に送り、中学生剣士を高校に剣士として送り出すことが当たり前にできるよう頑張っていきたいと思っています。

徳島県剣道連盟は現状に合った会則の改正等、今大きな課題が山積していますが、県下の一線現場でご苦労されている会員の皆さんの手助けとなるよう頑張っていく所存です。今後とも会員の皆様にはご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。最後に私の人生や剣道に対する信条は

【和衷共同】わちゅうきょうどう

心を合せ助け合う。一致協力して物事をなすです。会員の皆様、和衷共同で少年剣士を育てて行きましょう。

# 『徳島の剣道 第三十八号』目次

巻頭言……………藤川 和秋……………1

## 新任挨拶

徳島県剣道連盟副会長に就任して……………一村 昌和……………4

副会長就任にあたって……………松村 和宏……………6

徳島県剣道連盟理事長に就任して……………福多 雅英……………7

副理事長に就任して……………白木 洋一……………8

全国高体連剣道専門部副部長就任にあたり……………玉田 晋作……………9

## 《特報Ⅰ 追悼 坂下彦之先生》

徳島県剣道連盟名誉会長坂下彦之先生を偲ぶ……………藤井 稔……………10

坂下彦之先生を偲ぶ……………三木 毅……………11

坂下彦之先生を偲ぶ……………藤川 和秋……………14

坂下彦之先生を偲ぶ……………近藤 亘……………17

わが人生に悔いなし……………平野 誠司……………19

## 《特報Ⅱ ふるさとトーク》

私と剣道……………伊澤 章……………21

## 顕彰一覧

感謝状……………三木 毅……………27

感謝状を戴いて……………三木 毅……………27

剣道有功賞……………澤井 勝之……………28

八十歳からの進化を目指して……………澤井 勝之……………28

少年剣道教育奨励賞……………鈴江 俊和……………31

少年剣道教育奨励賞を受賞して……………鈴江 俊和……………31

少年剣道教育奨励賞を受賞して……………出口 正春……………33

スポーツ功労賞……………出口 正春……………33

「徳島県スポーツ協会功労者」表彰を受けて……………富田 正……………35

生涯スポーツ賞……………富田 正……………35

生涯スポーツ賞をいただいて……………川田 武志……………37

令和三年度徳島県中学校剣道優秀選手……………川田 武志……………39

令和三年度徳島県高等学校剣道優秀選手……………川田 武志……………40

## 先生を偲ぶ

「負けるものか」西岡 侃先生を偲んで……………西岡 直彦……………41

西岡 侃先生を偲ぶ……………池田 洋一……………45

西岡 侃先生を偲ぶ……………村井 正志……………47

平田照男先生を偲んで……………島尾 眞且……………49

平田照男先生を偲んで……………藤本 常己……………53

父を想う……………藤本 常己……………53

中山先生を偲ぶ……………中山 繁樹……………55

中山先生を偲ぶ……………影山 美雄……………56

恩師 中山啓男先生を偲ぶ……………井村 雅人……………59

至誠通天の生き様中山啓男先生……………富浦 廣志……………61

中山啓男先生を偲んで……………高村 克人……………64

全国講習会報告……………高村 克人……………64

令和三年度(第五十六回)「剣道中央講習会」報告……………藤川 和秋……………66

第四十八回居合道中央・地区講習に参加して……………坂本 憲一……………69

令和三年度 全日本剣道連盟授業協力者養成講習会……………坂本 憲一……………69

(オンライン会議)を受講して……………藤川 和秋……………71

中学校武道必修化としての……………藤川 和秋……………71

剣道授業の展開(一年生(二年生))……………高島 稔之……………74

徳島の剣道史……………高島 稔之……………74

阿波の新々刀工 吉川祐芳……………坂本 憲一……………77

本部武徳会と徳島支部……………三木 毅……………95

武徳殿炎上……………東條 浩士……………102

剣道に役立つ医学知識……………東條 浩士……………102

剣道人は誤嚥性肺炎にならないか?……………安田 勝治……………105

大会・行事所感……………安田 勝治……………105

第二十四回西杯争奪剣道大会実施にあたってのコロナ対策……………寺西 明弘……………108

有賀杯剣道大会の発足とコロナ感染対策……………寺西 明弘……………108

高齢剣友会「有志の会」初の新潟・富山県遠征……………中西 実……………109

各種大会に参加して……………乾 清孝……………112

全日本都道府県対抗剣道優勝大会……………乾 清孝……………112

全国高等学校剣道選抜大会に出場して……………山室 和士……………115

選抜大会に出場して……………松本 尊灯……………117

選抜大会に出場して……………塚田 志緒……………119



インターハイに出場して	永瀨 幹大	122
全国高等学校 総合体育大会に出場して	岡崎 理	126
全国中学校剣道大会に出場して	藏本 望海	129
全国中学校剣道大会に参加して	内田 美心	131
全日本女子剣道選手権大会	山田 莉子	132
全日本居合道大会に参加して	山田 師正	134
全日本剣道選手権大会に出場して	白木恒二郎	135
杖道との出会い 第八回広島杖道大会に出場して	筒井 勇	137
<b>随 想</b>		
継 続	中尾 正輝	140
「徳島の剣道」の創刊	石井 博	141
我が村の剣道	白木 崇	143
常に居て急に合わず	満壽 良史	145
部活動としての剣道	木下 臣仁	147
近況報告	山本 雅裕	148
剣道を通じて	金久 博	150
五十歳になっても・・・	小川 大造	153
剣道との出会いを通じて	米崎 信弥	154
十六歳の私へ	富永ますみ	155
杖道について	綾部 文明	157
<b>称号・段位合格者</b>		
剣道七段に合格して	江口 大祐	159
七段の合格で思うこと	玉田 真理	161
七段に合格して	近藤 敏晴	163
七段審査に合格して	出口 正春	164
剣道七段に合格しました	栗野 佳明	165
剣道六段に挑戦して	明口 豊	167
教士号頂いて	月岡 陽市	169
剣道教士に合格して	柳谷 照男	170
剣道教士称号審査を受審して	松本日出夫	172
教士号に合格して	岡田 豊	173
剣道称号「錬士」をいただいて	東内 守	175
称号・段位合格者一覧		177

<b>書籍紹介</b>		
小澤博著		
『私は人生のすべてを剣道から学んだ』	木原 資裕	180
<b>がんばろう徳島</b>		
専門部報告		
事業部	佐賀 博史	183
審査部	佐藤 佳明	184
強化部	白木 洋一	185
少年部	白木 崇	186
女子部	竹内佳代子	187
居合道部	満壽 良史	189
審判部	富浦 廣志	190
中体連	木下 臣仁	191
高体連専門部	河野 寿仁	193
大学連	木原 資裕	196
杖道部	青木 茂生	197
徳島県剣道稽古場所一覧		198
居合道 道場案内		201
徳島県剣道道場連盟だより		202
令和三年度 大会記録		214
徳島新聞に見る戦いの跡		215
令和四年度 昇段審査学科試験問題・解答例		276
令和四年度 徳島県剣道連盟行事予定表		290
令和四年度 審査実施計画表		292
徳島県剣道連盟審査資格・審査料等		294
剣道事務局について	柳谷 照男	295
<b>編集後記</b>		

表紙題字	堀江 幸夫
さし絵	村嶋 恒徳 (茨城県在住)

# 新任挨拶

## 徳島県剣道連盟副会長に就任して

阿波支部 一村 昌和



四年前の「平成」から新元号の「令和」になる年に阿波支部長を引き受けることになった。低迷が続く地域の剣道教室や支部活動の活性化が喫緊の課題であった。

この年の四月に改装工事中であった市場武道館が約三十年ぶりに改修された。これを機に、阿波市内にある阿波・市場・土成の剣道教室の合同稽古と支部の稽古会を毎週月曜日に実施することにした。川を挟んだ吉野川市から当時の三木毅会長、藤川和秋理事長、柳谷照男事務局長、阿波吉野川警察署阿波庁舎の次長として赴任していた教士八段吉田茂生先生のご協力をいただくと共に、塩田善治元支部長を師と仰ぐ教子や近隣の小・中・高校生、一般の剣道愛好家が集い活気あふれる稽古会となり、支部長として一番充実した喜ばしい一年であった。

次の年には吉田茂生先生が徳島中央署へ転出された。その上、新型コロナウイルス感染症の拡大により活動停止となった。再開後も地域

外の参加の規制や感染の不安等により、一気に細々とした活動になり。隆盛から凋落を味わった支部長一期目であった。

二期目の課題として、コロナ禍での活動のありかたを模索していた折、剣道連盟顧問の原田勝先生（居合道範士八段）から剣連副会長就任を打診された。しかし、先生には地域の剣道活性化のためにもう一期は支部長を続けたいと伝え、納得していただいたつもりでいた。数日後に、三木会長の訪問を受け、膝詰め談判されたが、私は副会長の器ではないし、支部長としてやるべきことが残っている旨を申し上げ、固辞し続けた。あまりにも埒があかないので、支部長の後任が決まれば考えるところでお帰りたいいただいた。

後日、歯科医師で錬士六段の安田勝裕副支部長が引き受けられることになり、承諾することになった。阿波支部には、一期で支部長を退くことになり、心苦しさが残ったが、支部は温かく送り出してくれた。また、居合道部からも当時の副部長の任からの退任を快く了承していただいた。この度の件で、ご理解とご支援をいただいた剣友には、心より感謝の意を表したい。

原田先生に「副会長は何をすればよいか」と伺うと、「会長を補佐すると共に、剣道連盟の会則に従って行えばよい」とのことであった。つまり、剣道連盟は、剣道・居合道・杖道の愛好者で組織され、三道の奨励発展をはかり、剣道理念を広く普及させると共に会員相互の親睦と融和をはかることを目的としている。剣道連盟の運営は、目的遂行のために規定されている会則に照らし



合わせて実施すればよいとの教えであった。

副会長就任の総会で、杖道部の新設、剣道の専門部から居合道部の設立が承認され、ようやく本県においても三道（剣道・居合道・杖道）体制が整い、始動する運びとなった。私は、剣道連盟の発展には、三道の鼎立がなされなければならないと確信している。居合道・杖道は剣道に比べれば基盤が脆弱であり、剣道人の理解と協力が必要である。全日本剣道連盟においても「全日本剣道連盟居合」、「全日本剣道連盟杖道」を制定し、普及を推進している。剣道人の資質向上を図るためにも、居合道・杖道に興味と関心を持ってもらいたいものである。居合道は、古来より剣道と密接な関係があり、「全剣連居合」は剣道人の基本的な教養ために制定されたものである。竹刀と木刀だけでなく居合を通じて日本刀に馴染んでもらいたい。杖道についても、有名な剣道家が「杖道を教わって、はじめて剣の理が分かった」と言わしめ、またある武道家は「間合いを学ぶには最良の武術である」と絶賛している。

私自身、七十歳にして三道を学び、楽しみ、仲間を集め、輪を広げる活動に取り組んでいる。会員の皆様には、一道に止まらず、二道・三道にチャレンジすることを推奨していきたい。表芸と余技という軽い気持ちでもよいのではなからうか。

剣道・居合道・杖道があらゆる世代で楽しめ、生涯剣道として相互に結びつき、広く深く定着することと地域においては剣道教室と支部活動が活性化することが剣道連盟の発展の原動力となる

ように全力で取り組みたい。

この度の副会長就任を天命と受け止めて、耳順、従心、さらにその先を求めて全うすると共に生涯における剣道・居合道・杖道の修行を継続していきたい。

結びに、会員の英知を結集し、剣道連盟が着実に前進することを祈念し、新任のご挨拶といたします。



## 副会長就任にあたって

徳島支部 松村和宏



私が剣道再開したのは約四十年前になります。高校卒業後、約十年間剣道から遠のいておりました。再開のきっかけとなったのは名西支部の久保隆司先生からの誘いでした。当時、久保先生は神山錬心館で少年剣道の指導に励んでおられ、私も地元入田町で入田錬成会を発足させ、微力ながら子供達の指導に力を入れることとなりました。その後、平成十八年からは徳島県剣道連盟少年部の指導に携わることとなり、入田錬成会を後輩の佐藤佳宏先生にお願いしました。

仕事の合間には自分自身の稽古もしたくなり、徳島錬心館の大澤先生の元へ指導を求め通いました。剣道を模索する中、米倉滋先生の紹介で国際社会人剣道クラブ近畿地区に入会致しました。日本ならず世界中の剣道家と剣を交える事の楽しさや苦しさを学び、人として知らず知らず世界観も変わって行きました。

京都の井上晋一先生との出会いは私にとって大きな存在です。剣道の師匠だけでなく、人生においてあらゆる面でのお手本です。井上先生曰く、「貴方が剣道から離れていた十年間は高段位を取るには、ずっと剣道が続けてきた人よりは倍の二十年はかかると

思っただけで稽古しなさい。」と言われました。あれから十七年が過ぎ、幾度か昇段へのチャンスは有りながらもまだ力不足で合資格には至っておりません。

今回、副会長就任にあたりまして、私の残りの剣道人生を徳島県剣道連盟の発展の為、微力ながらも、これまでお世話になったことを感謝しつつ、体力の続く限りお手伝いをさせて頂こうと思っております。どうか宜しくお願い申し上げます。





## 徳島県剣道連盟理事長に就任して

徳島支部 福 多 雅 英



令和二年度末の徳島県剣道連盟総会におきまして、はからずも理事長に推薦していただきましたが、私にとりましては分不相応な役職であり、浅学非才の私がこの大役を務めることができるのかと未だに困惑しているところであります。

昭和五十七年四月より、小松島高校・徳島農業高校（城西高校）・城北高校の三校で三十九年間教員として、部員達をはじめ多くの方々に支えられながら、剣道指導に携わってまいりました。

令和元年度末で定年退職となり、育てていただいた徳島県剣道連盟に何かお役に立てることができればと考えていました。が、連盟の運営には関わった経験も無く、はじめて見聞するような事ばかりでありますし、再任用として勤務している学校には剣道部が無く、他の運動部の顧問をしている関係で、思うように時間がとれず至らぬ点多かろうと存じます。

私を剣の道に導いてくださいました恩師の故吉田租先生は、聖徳太子の十七条の憲法第一条『和を以て貴しと為す』から、「みんな仲良く」と事あるごとにご教示をされてきました。この教えを持って、今後の徳島県剣道連盟発展のため微力ではあり

ますが、与えられた任期を一生懸命に努めてまいりたいと考えています。

会員の皆様におかれましては、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



## 副理事長に就任して

名西支部 白 木 洋 一



この度、藤川新会長よりの任命を受けて副理事長に就任することになりました。どうかよろしくお願いいたします。これまでは中体連の係として剣道連盟の仕事の一端を手伝わせていただいておりますが、副理事長という役職が自分自身に務められるかどうか不安でなりません。会則には、「副理事長は理事長を補佐し、連盟の運営をつかさどるものとなります」となっております。

私自身、これまで半世紀近く各種大会や昇段審査など、たくさんの場面で剣道連盟のお世話になってきました。四月より連盟の一員として運営に携わる中で、当たり前前に準備されていたと捉えていたことが、いかに剣道連盟のおかげであったか痛感しております。

現在はコロナ禍であり、剣道界も大きな影響を受けております。稽古や試合も多くの制約の中で様々な工夫をして実施されていきます。この現状をマイナスと捉えずに、プラスに転じるようにしていきたいと思います。藤川新会長のもと、平野誠司副理事長とともに福多雅英理事長を補佐し、徳島県剣道連盟がさらに発展しますよう微力ながら尽力して参りたいと思います。





## 全国高体連剣道専門部

### 副部長就任にあたり

徳島支部 玉田晋作



この度、全国高体連剣道専門部副部長に就任いたしました。

全国高体連剣道専門部は、全国の高校剣道の統括団体であり、インターハイや全国選抜大会の運営等を行います。

現部長は、東京都の土崎祐一郎先生で、歴代東京都の先生が部長となつています。副部長は全国を東・中・西の三ブロックに分け、各ブロックから二名の副部長が選出され、六名の副部長が部長を補佐し、事務局長を含めた八名が全国高体連剣道専門部の執行部となります。私は西地区から、昨年度定年退職された鳥取県の山中介先生の後任として、中国四国各県の高体連専門委員長先生の先生方に推薦され、令和三年五月の全国高体連専門委員長会議で承認されました。

私は、平成三年度に徳島文理高等学校の教員となり、以来三十二年間にわたり高校生の剣道に関わってきました。平成二十八年から令和二年度までの五年間は徳島県の高体連専門委員長として徳島県の高体連主催の大会運営等に携わり貴重な経験をさせていただきましたが、今度は全国大会の運営等にあたることとなり、

身の引き締まる思いです。就任して間もない六月には令和四年度に高知県で行われる四国インターハイの会場視察や、八月に開催された石川インターハイでは副審判長を任せられました。就任からまだ数ヶ月ですが、その職責の重さを痛感しています。

私も今年で五十七歳となり、教員としてまとめの時期となっています。今後更に少子化が進み、剣道人口の減少が予想され、高体連を取り巻く状況は課題が山積しています。残りの教員としての時間は、全国の高校生に剣道の魅力を伝え、これまでの伝統を継承するとともに、剣道人口の減少に少しでも歯止めをかけられよう、全国高体連の活性化に微力ではありますが尽力したいと思います。



# 《特報》元会長 坂下彦之先生を偲ぶ

## 徳島県剣道連盟名誉会長

### 坂下彦之先生を偲ぶ

北海道剣道連盟 会長  
全日本剣道連盟 審議員 藤井 稔  
剣道範士



坂下彦之先生の急逝を、全日本剣道連盟「月刊剣窓」で知り慟哭しました。あまりにも突然の悲報に、私の胸は張り裂けそうでした。ほんとうに無念で残念なことです。

坂下先生との最初の出会いは今から四十五年前、昭和五十二年四月でした。剣道の専門家になる入口であります警察大学校剣道指導者専科生として入校、六ヶ月の授業・研究・訓練を受けました。それから坂下先生とは長年に亘るご厚情を頂きまして、今日に経っております。先生のお人柄は、親しくなれば裸でつき合える開放性と実直性をお持ちの方でした。

先生は全剣道連主催の各種全国大会をはじめ、警察剣道大会の選手・監督及び審判員として出場参加するとともに、徳島県警察剣

道主席師範、徳島県剣道連盟の会長職、名誉会長となられ、剣道の普及・振興に御尽力され、まさに剣道界の重鎮として御活躍されました。

先生は毎年目標として、京都演武大会に出場され、立会の演武の勇姿内容は、遠い間合いから剣先と剣先の触れ合い、更に気当りと攻め、攻め返し等、打ち間までの攻防を剣道の醍醐味として楽しく味わい、観ている人達に夢と感動を与えて下さいました。

毎年素晴らしい立会いでした。先生ご指導有難うございました。坂下彦之先生の勇姿を偲びまして、北の大地北海道から、ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。先生さようなら。



## 坂下彦之先生を偲ぶ

徳島剣連名誉会長 三木 毅

坂下彦之前会長は令和三年二月八日、享年八十四歳で天に召されました。先生とは警察官時代から六十年間お世話になった間柄であり、心から哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。

先生は鳴門市の旧姓「桜田家」に生まれ、高校を卒業後、和歌山市の会社に就職の後、徳島県警察の警察官を拝命され、高校時代の剣歴が認められ剣道特錬生としてスタートされました。昭和六十一年から徳島県警察の剣道師範として後進の育成に力を添えられました。一方剣道連盟におきましても、長きに亘り、役員としてご活躍されました。事務局長十二年間、審議員二十年間、会長四年間であります。

警察剣道の師範という頂点に立ち警察剣道の揺るぎない地位を堅持され、また県剣道連盟の会長職に就かれ、県下剣道界の普及発展に寄与されたのであります。先生の個々の業績は多くの剣士諸氏が体感され、感謝の念をもっておられると存じます。

一方、先生は他の人になく一面の顔がありました。それは誠に個性的でありまして柔和な人当り、そして次々飛び出してくる冗句混じりの洒落言葉はいつもその場を賑わせ雰囲気や和らげる力をもっておられました。自称「ジャッキー坂下」「サブ」は忘れられない愛称であります。

## 若き先生との出会い

私は、今を去る六十一年前の昭和三十六年四月に徳島県警察官を拝命し、一年間の初任教養を受けました。初任教養の中の術科は剣道を専攻し、五人の選手にも選考されていきましたので、機動隊の特錬生との稽古の場で坂下先生（当時は桜田先生）との出会いがありました。

一年間の初任教養を終え、阿南署に赴任しました。この年、すなわち昭和三十七年四月のこと県警剣道師範は「堀江幸夫先生」となり、私は県警剣道の特錬生に選考され、坂下先生をはじめ他の特錬生との剣道生活が始まりました。先生の旧姓は「桜田」でありましたから、師範の堀江先生から「さくちゃん」とか「ひこちゃん」と呼ばれておりました。堀江先生は当時の特錬生の個々について苗字で呼ぶより愛称で呼んでおられ、なんとも言えない雰囲気で一体感を醸し出していたのです。

一年生の私は、先輩特錬生を愛称で呼ぶなどできるはずはなく、すべて苗字を冠し、例えば「桜田先輩」と呼ばせてもらい親近感を深めておりました。

桜田先輩は結婚後「坂下姓」となり、私は六十年間先生とのお付き合いを刻んだことになりました。

## 坂下先生に紹介されて

警察の最高教育機関として東京都中野区に存在した警察大学校

は、かつて徳川時代には「お犬さまの囲い町」であり戦前は「陸軍中野学校」でありました。

坂下先生は、昭和五十二年四月から六ヶ月間、警察大学の術科養成科に入校された経歴をお持ちであります。

私は三年後の昭和五十五年四月から六ヶ月間、警察大学の本科生として入校しました。入校直後の四月終わりころ坂下先生が、再び剣道専科生として入校され、校外での会食に誘ってくれました。

その店は、学校から徒歩五分の中野駅前筋にある「居酒屋 薫」でありました。店長は、北海道出身の「横山正美さん」で、岡山県美作出身の奥さんの「春枝さん」と店を営んでいました。

ご夫婦は、歯切れよく明快な方でしかも優しさを持ち合わせておられました。坂下先生は、「横山ご夫婦は安心してお付き合いできる人」と紹介してくれました。私は入校当初のことで、街の飲食店事情には無知でありましたから、機会あるごとに友人とともに「薫」に足を運ぶようになりました。薫の夫婦からはよく坂下先生のお人柄を聞かされ、私は聞くたびに「薫」のファンになっていきました。六ヶ月の教養期間を終える九月初めのこと、薫店長から「みきちゃん、今度の日曜日午前十時に店に来てくれ」その時本科生の「〇〇県の〇〇さん」など五名学生の名をあげて一緒に来てくれということでした。

日曜日の十時に店に行き、二階に上げていただく、長テーブルいっぱい料理が盛り立てられており、店長から「今日はわしのおご

りです。六ヶ月ご苦労でした。思い切り飲んで夕方まで寝そべってゆっくり休憩して帰って欲しい」と言うことでごちそうになることにしたのです。料理は高級の魚介類や野菜類で、見るからに高級材料であるのに驚き、私らが薫の店で使った費用を全て返してくれている料理でないかとさえ思ったほどでした。今でも鮮明な記憶に残っております。

横山ご夫婦のお人柄は、先生の言われた通りのお方であったと思いい「ああ、こういう人だったのか」と思い、坂下先生にも感謝したという出来事でありました。

### 横山ご夫婦の来徳

私は、その後六回警察大学校に入校していますが、そのうち最も長い入校は「特別捜査幹部研修所」への入校で六ヶ月間でありました。その後も警察大学校に入校の度に「薫」へ出入りし、回を重ねて大変お世話になっておりました。

私はこのご夫婦に来徳していただき是非「阿波踊り」を見せたという気持ちになり、お誘いをしたところ、即刻快諾され、私も夫婦で徳島をご案内いたしました。そして坂下先生とも再会ができ、横山ご夫婦は大変ご満悦で徳島を離れていかれました。

坂下先生のお人柄が人の絆を固くしていることを感じた次第でありました。先生との思い出は数々ありますが、ご紹介した横山ご夫婦との物語は群を抜いての重さのある思い出となっています。



## 改めて感謝

坂下先生の笑顔、はにかんだ素振り、剣道では豪と柔を持ち合わせて、時に気合の入った小手・面の二段打ちなど印象深い先生のお姿を思い浮かべています。

今の時代享年八十四歳は少々早いかもかもしれません。もう少し皆とお付き合いして欲しかったという気持ちであります。

心からの感謝の気持ちとご冥福を申し上げお別れいたします。



## 坂下彦之先生を偲ぶ

徳島県剣道連盟会長 藤川和秋



坂下彦之先生には私が警察官となった昭和四十五年から先生が亡くなった令和三年までの五十一年間、先生から剣道その他諸々のご指導を頂きました。坂下先生との思い出は五十一年間にたくさんあり、何からお話して良いのか迷いますが、今回は私が先生と出会い、私の結婚式に出席して頂いた頃までの先生との思い出を紹介させて頂きます。

坂下彦之先生との出会いは、私が高校を卒業し、警察学校に入校した昭和四十五年の四月でした。警察学校初任科生として警察官の勉強を始めたころ、坂下先生は学校施設の南にある警察本部警備部機動隊に所属し、警察学校の剣道授業には必ず剣道特練生として剣道授業に参加され指導を頂きました。初任科生時代は剣道の授業に機動隊の猛者が来るたび「今日も機動隊と稽古か」とため息をついていたのを思い出します。一年間の警察学校の勉強を終了し、私は徳島東警察署の助任町交番に配属になりましたが、ちょうどその時期に坂下先生も剣道特練の現役を引退し機動隊から徳島東警察署勤務となり、隣接の福島交番に配属され、私とは三交代勤務も同じ泊まりとなったのです。ここで坂下先生と私は

二年間勤務したのですが、いつも泊まりが一緒のため共同警ら等常に行動を共にしておりました。この間先生との二つの事件を紹介します。

一つ目は、スーパーカーラウン泥沼事件です。先生は中古ではありますがスーパーカーラウンに乗っていました。当時は夜間警らで家用車を使って警らするのは普通にされており、スーパーカーラウンを先生が運転で私ともう一人先輩が乗って警らを行っていました。雨のため泥沼にスーパーカーラウンが入り込み、坂下先生が「お前、降りて後ろから車を押せ」と言われたので降りて後ろからスーパーカーラウンを押ししていたところ、先生がアクセルを思いっきりふかし、タイヤが泥をかき上げ制服の私と先輩は泥まみれとなりました。しかたないので坂下先生の自宅（当時昭和町に豪邸があった。）にたちより先生の下着や着替えを借り、助任町交番の管内に真新しいモーターが出来ていたことから、管理人に頼み込み風呂に入らせてもらって、翌日何もなかったように本署で勤務終了の報告を行い無事難を逃れました。

もう一つは警ら中のスーパー軽四電柱衝突事件です。当時私もスーパー軽四乗用車に乗っていました。今度は私が運転し私の軽四で坂下先生と先輩を乗せ夜間の警らに出発したのですが、私がうとうと居眠り運転をしたことから先輩の「危ない」との声を聞いたと同時にコンクリート電柱に真正面から衝突してしまいました。当って初めて気が付いた感じです。坂下先生も多分後部座席で居眠りしていたのだと思います。真夜中での事故で私達はすぐ

降車し、警察官が現場臨場した風を装いました。大きな衝突音で付近の住民も集まってきたので先輩が機転を利かし「運転手がおらんわ。車を空き地に移動させるので手伝ってくださいませんか」と付近の人に頼みこみ空き地に手押しで軽四を移動し、これまた難を逃れたのです。それから坂下先生には会うたびに「首が痛いわ」と言われ私は「先生の可愛い弟子が困るけん。我慢しとって」と言い続け、いつの間にかこの件は一件落着となりました。

交番勤務の二年間が過ぎ私は機動隊に配属され五年間勤務しました。坂下先生はその後、川島警察署鴨島町交番に異動となり、当時鴨島町にお住まいの剣道七段、居合道八段の平尾勝美先生と一緒に鴨島少年剣道教室を立ち上げ、私も鴨島町出身のため坂下先生から剣道教室の指導に來いと言われ、よく剣道教室の指導に出かけました。剣道教室の稽古始め式には坂下先生と日本剣道形の演武を行ったことを覚えています。その後、先生は阿南警察署の駐在所勤務となり、先生から時折「藤川、飯食わしたる。駐在所に來い」と言われて行ってみると、自転車盗の実況見分調書を作成せず長期に未提出の状況であり、先生から言われ代筆で数件書かされたことがありました。（もう時効です。今流行の公文書偽造です。）

機動隊五年目で私が二十七歳の時、坂下先生の引き合わせで今の妻と結婚しました。結婚式は鴨島町のさくら旅館で行いましたが、当然坂下先生にも出席を頂き盛大に行う事ができました。当時の坂下先生はすでにジャッキー坂下という異名が付いており、

その毒舌ぶりは宴席では誰もかなう者はいませんでした。当時の写真が見つかりましたので皆様にご披露します。



昭和53年2月11日 私の結婚式でジャッキー坂下節を披露中！

最後に、私が警察官になって剣道の稽古の在り方を学んだのは、坂下先生からだと思っています。交番勤務が終了し非番には必ず「藤川、稽古に行かんか」と誘って頂き、旧の武道館に先生の後ろ姿を追いかけ通っていました。坂下先生との稽古時、北辰一刀流の切り落とし面もその時に打たれました。今だに鮮明に覚えています。

坂下先生、五十一年間お世話になりました。先生の意思を継ぎ未熟ではありますが徳島県剣道連盟会長の重責を全うしていききたいと思っています。安らかにお眠り下さい。





## 坂下彦之先生を偲ぶ

丹生谷支部 近藤 巨



「おー、さくちゃん来たか。」堀江幸夫先生の声が聞こえてくるような気が致します。

コロナ禍の最中に坂下彦之先生（旧姓・桜田）は、天国に旅立ちました。先生は、高校時代に剣道を始め、堀江先生の一弟子として警察官の道に進まれました。昭和五十四年に堀江先生が県警師範を退かれた後を、坂下先生が引き継がれました。その頃私は県警機動隊に勤務し、剣道特別訓練員として、稽古に明け暮れる日々を送っていました。

坂下先生は、堀江先生の剣道に対する厳しい姿勢と異なり、良い意味で緊張感をほぐし、肩の力を抜き、リラックスさせて頂く指導でありました。先生の目標は、全国警察剣道大会において二部で優勝し、一部入りを果たすことでした。（当時の全国大会は、上位八チームが一部、それ以下が二部）一部入りするには、二部で決勝戦に進出し、二位以内に入らなければなりません。

昭和五十六年十一月、師範就任二年目の全国大会を迎えました。大会前に主将がアキレス腱を切り、欠場というアクシデントがありました。私は初めての大将を任せられ緊張しましたが、腹を決め

臨みました。選手一同一丸となって戦った結果、準決勝戦まで進出いたしました。

あと一勝で念願の一部入りというところまで漕ぎつけましたが、残念ながら強豪熊本県警に敗れ、一部入りは叶いませんでした。しかし、初の三位入賞を果たし、大きな自信を得ることができました。

坂下先生は、人を楽しませ、リラックスさせる特技をお持ちのように思います。特に打ち上げの時など、マイクを持つと絶妙の話術と、得意の喉を披露し、場を盛り上げ大いに楽しませて頂きました。

先生は、当時、連盟事務局長を務めておられ、支部との繋がりを大切にされておりました。支部の先生からは、親しみを持ち接して頂いていました。また、後輩の方々とも良い関係を築かれていました。当時の連盟は、三木只雄会長・堀江幸夫理事長・坂下彦之事務局長の三人の先生が主となられて、各関係機関との連携や調整に心血を注がれ、誰もが自由に稽古ができる最高の環境を作って頂いていました。お陰で私も思う存分剣道に打ち込むことができたことは言うまでもありません。「一に稽古、二に稽古、三・四がなくて五に稽古」は、坂下先生の口癖です。

先生は連盟会長、また名誉会長に就任されてからも、率先して剣道着に着替え、自ら範を示されていました。その姿は、堀江先生のご意思をお継ぎされたものと、私も尊敬していましたし、皆さんから支持される場所であったように思います。また、先生

は県外において多くの先生、剣友をお持ちで、剣を通して「交剣知愛」を身をもって実践されていました。

先生は警察学校で、ひとり黙々と打ち込み台に向かい、打ち込みをされている姿をよくお見かけしました。今は、天国で堀江先生の胸をお借りして稽古をお願いされているのではないのでしょうか。

コロナ禍で稽古から遠ざかり、お会いできないままお別れすることとなったことを大変残念に思います。坂下先生、長い間ご指導本当にありがとうございます。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

合掌



## わが人生に悔いなし

警察支部 平野 誠 司

令和三年二月八日、徳島県剣道連盟会長を務められました坂下彦之先生がご逝去されました。まだまだお元気で長生きを願う思いも届かず、悠々自適の剣行は八十三歳で幕を下ろし旅立ってしまわれました。

坂下先生は堀江幸夫先生の後任として徳島県警察の剣道師範を務められ、徳島県剣道連盟では事務局長、審議員、そして会長という要職を務められ、長きに亘り徳島県の剣道界を牽引されてきた先生であります。

気さくで飾り気がなく、また社交的なお人柄は先生の最大の魅力であり、多くの方から慕われるとともに剣道振興の求心力となってきたところでもあります。昭和、平成という剣道の隆盛期において、選手、指導者として我々を常に導いていただきましたことに心から感謝申し上げます。

また、私が先生にお仕えして歩んできた警察剣道は今年で三十五年になりますが、この世界に入るご縁をいただいたのは坂下先生でありました。昭和六十年春、私は大学四年生で就職試験を控えており、長年の目標であった体育教師になるため教員採用試験の勉強に明け暮れていました。そんな中、当時の県警師範であった坂下先生は私の中学・高校剣道部の同級生である佐賀博史君

(四年先に県警奉職)を引き連れ、鳴門の自宅において、私と両親に警察官になることを強く推していただきました。

「天下の警視庁を倒して警察日本一になる。これが私の夢、一緒に目指さんか」と熱い思いで勧誘を受けたことは今でも鮮明に脳裏に刻まれています。

その後、私は全関西学生選手権に優勝、全日本学生選手権で三位という成績を残せたこともあって、先生の夢を共有しながら自分の剣を高めようと警察剣道を選択することになります。結果的には、この選択が東四国国体や世界大会へと繋がることになり、このご縁には感謝せざるを得ません。

一方、警察剣道で日本一になるには警視庁や大阪府警と対戦する警察第一部への昇格が必要です。私達の時代はあと一步、第二部第三位(一位、二位が昇格)で夢は途絶えています。この先、若い警察官が先生の熱い思いを受け継ぎ、この大きな夢に果敢に立ち向かってくれることを信じています。

もう一つ、先生を語るには忘れてはならないことがあります。それは、負けず嫌いというか、決して諦めない(諦めが悪い)という姿勢です。口癖は「おんどれくっそー」や「こんちくしょー」人前ではあまり出しませんが、我々の前ではよく口を歪めながらその悔しさを滲ませていました。

特に長きにわたり挑戦してこられた八段審査に対しては、自分の剣道をなかなか表現できないもどかしさをよく口にされています。そして、その悔しさを晴らすかのように体育館の姿見鏡に

向かう先生の姿があり、迷う心を振り払い、無心となり、何度も何度も続く打ち込みは一日数時間が何十年も続き、その床の色は今も色褪せたままです。いつからかその場所は「坂下ロード」と呼ばれ、諦めない先生の姿が今も神々しく蘇ってきます。

先生は折に触れて、「自分には剣道しかない」と口にされ、すべては「剣道のおかげ」「先輩方のおかげ」と感謝の気持ちをもつことも忘れていませんでした。剣道に活かされ、先輩方に導かれてきた誇りを胸に秘められていることがお仕えしてよくわかりました。

今ではあまり考えにくいことですが、当時はカラオケスナック最盛期、先生も大変お元気であり、稽古や会合後には必ず第二道場（スナック）を渡り歩いたものです。カラオケを愛し、ほろ酔いでマイクを握る姿はこれまた先生の魅力であり、周りを顧みず、また巻き込んで熱唱する自称・石原裕次郎は、自分の人生に悔いはないと豪語し、トリーはいつもの「我が人生に悔いなし」の熱唱です。

お世話になった警察剣道を愛し、恩に報いることをいつも口にされていた坂下先生、敬してやまない堀江幸夫先生から頂いた師承は、

「只管稽古（ただひたすら稽古するところに真理がある）」

「剣は人なり、剣は心なり（その打突に自らの人間性を磨こうとする心が大切）」

「以和為貴（和をもって事に当たることの尊さ）」

これらを最後まで唱えられた坂下先生、これからの徳島県剣道連盟、そしてこれからの剣道を担う我々が命題として受け止めなければならぬ大切な剣心でありましょう。心から坂下先生のご冥福をお祈り申し上げます。ありがとうございました。合掌



心  
あらまへ  
礼  
あや  




## 特報Ⅱ ふるさとトリーク

### 私と剣道

伊澤 章

(兵庫県伊丹市在住)



県剣道連盟の名誉会長三木毅先生からの要請がありと、藤川会長と広報部長の木原先生からも寄稿をお願い致しますと云われて、本当に困ったと思うと同時に、名誉でもあると思いついた次第です。つたない内容ですが、私の剣道とのつながりを記すこととします。

### 剣道との関わり

私は昭和十一年、徳島市南内町三丁目一番地「三谷屋」と云う屋号の旅館の次男坊として生まれました。小学校は徳島師範男子部付属小学校で、助任まで城の中の道を通っていました。その登下校の時に、武徳殿での稽古をしている竹刀の音を聞いたのが、剣道との関りかも知れません。(その時はまだ、剣道も竹刀も知らない時でした。)

終戦後は、徳島大学学芸学部付属小・中学校に通いました。中

学の後半だと思えますが、徳島市役所の会議場で剣道の稽古をしていて、その時に竹刀を借りて素振りをしたのが、剣道との二度目のかかわりでした。その時に指導されていたのが、大江勇先生と尾形郷一先生かと思われまます。

城東高校に進学後、機械体操部に入部して、北海道の国体、埼玉のインターハイに出場しました。その後、日本体育大学に進学して、体操部に席を置き、寮生活。武道の授業で、剣道を選択しました。これが三度目のかかわりです。

当時の剣道部監督は、阿部忍先生。授業では、千頭直之先生に「一年生と二年生の二年間、指導を受けました。その時に「お前は剣道部に入れ」と云われたのがきっかけで、三年時に体操部の寮を出た際に、剣道部に所属することとなりました。

下宿代を稼ぐのにアルバイトをしました。そのアルバイトが、体操の技を使ったショーで、アメリカ軍のキャンプ地(厚木、横須賀、岩国、広島、三沢)を廻りました。キャバレーのステージで、鉄棒を使ったショーに出て生活費を稼いでいました。その為、剣道部での稽古はあまり出来ず、試合にも出場機会がなく、大学での苦しい稽古も経験せずに、卒業となりました。しかし、卒業までに二段となりました。

### 教職に就く

卒業後、西宮の夙川学院に就職し、体操部を創部しました。二年間の在職でしたが、歌手の奥村チョーさんが在学していました。

私の剣道には、長期にわたって師に就いて指導を受けた事がありませんが、節目節目でお世話になり、影響を受けた先生がいまです。一人目は前述した日体大での授業中に「剣道部に入れ」と言ってお下された千頭直之先生。二人目は姫路の三浦経一先生でNPO国際社会人剣道クラブへの勧誘をしていただきました。三人目は、全日本高齢剣友会の高崎慶男先生です。

昭和三十七年四月から昭和四十五年三月まで尼崎市立大庄西中学校に在職。剣道部を創設して、初心者部員を募集しました。基本も教えず、基礎的な技の指導は一切せずに、防具を付けて試合をさせました。その時は私は二段でかなり無茶な指導をしていました。生徒にすれば、驚いたことと思います。後で分かったことだが、最初の部員であった鶴丸広治郎君現在教士七段の父親は、県警の師範であり、伊丹市にある修武館道場師範・鶴丸寿一先生（範士八段）でその後九段になられる方でした。

私の指導した大庄西中学校の一期生である鶴丸君と稲垣君（現在教士七段）は、阪神の強豪高校・報徳学園（師範は町田実貫八段）に進学し、国体・インターハイに出場しています。報徳学園へは次年度からも生徒を送るようになりまして。鶴丸先生と町田先生は昵懇（じっこん）の剣友であります。



## 私の剣歴

- ・昭和四十年八月 三段合格（県教委の第一回格技（剣道）二泊三日の講習会において）。
  - ・昭和四十一年七月 第一回県教職員剣道大会の三段以下で優勝。
  - ・昭和四十二年三月 四段を目指しての稽古中にアキレス腱を断裂。半年間の休職。
  - ・昭和四十五年四月、尼崎市立尼崎高等学校に転勤。平成九年三月の定年退職まで二十七年間在職。
- 尼崎高等学校に着任早々、生徒指導部に所属しました。此のころは、学生運動の名残があり、卒業式にも参加せず、自分達だけの式をして、貰った卒業証書を破り、火で燃やすという大変

な時期でした。前任校の中学では男子は丸坊主、女子はおかっぱ頭で可愛かったのですが、尼崎高校での長髪で髭ずらの男子高校生や、薄化粧した女子高校生に驚きました。

一年目はラグビー部の副顧問。二年目に剣道部の副顧問。三年目から剣道部顧問として剣道を指導するようになりました。

昭和四十六年九月 四段合格。

昭和五十年三月 五段合格。

昭和五十三年 錬士合格。

昭和五十四年十一月 六段合格。

昭和六十年十一月 七段合格。

昭和六十年十一月 教士合格。

・「全国教職員剣道大会」選手（大将）として五回、審判として三回、監督として三回、計十一回に参加。

・「全国健康福祉祭ねりん剣道大会」選手・監督として十回出場。

## 表彰

・平成十三年 功労賞 兵庫県剣道連盟

・平成十五年 尼崎市体育功労賞

・平成三十年 第三十一回ねりんピック富山大会 高齢者賞

・平成三十年 剣道有功賞 全日本剣道連盟

## 教え子の活躍

退職までの剣道部卒業生は延べ、三〇〇名を超えます。中でも昭和五十九年は二十五名・六十年は十八名・六十一年は十二名と三学年で五十五名でした。剣道場で二・三年生の稽古、一年はグランドでの稽古をさせていました。昭和五十年の阪神大会では男女アベック優勝し、男子は強豪の報徳に競り勝ち優勝することができました。

・昭和四十九年と五十二年は県インターハイ予選三位。

・昭和五十一年には女子の前瀧貞子が個人戦で二位になり、福井県でのインターハイに出場。

団体戦もこの時は三人制で、準決勝戦で一本に泣く。県民大会では優勝。近畿大会出場。

この学年の女子で、小山厚子氏（教士七段）現在も稽古を続けています。また、この学年は男子一人で、その高村克人君は、女子と一緒に強豪と云われる、女子高廻りをしました。その高村君はその後、筑波大学へ進学、さらに剣道八段に合格、高体連剣道部専門委員長・全国高体連剣道部副部長として活躍し、校長として定年退職しています。教職員では、兵庫県で初めての八段合格で、同期に徳島の米倉滋氏がいます。

## 国際社会人剣道クラブと高齢剣友会との関わり

・「NPO国際社会人剣道クラブ」現在、近畿支部副会長。

月一回の稽古と、一年一度の全国大会に参加。国際と云われるだけに、韓国、台湾、アメリカ、香港等の国が参加して、模擬審査・親善試合・稽古を実施。コロナの前までは、韓国、台湾の参加者が十人、二十人と多くなっています。海外への出稽古では、ニュージーランド・韓国・台湾・ハワイに行っています。

「全日本高齢者武道大会」

・平成十九年六月 第二十九回全日本高齢者武道大会に初出場し、特Aで優勝。

この時に会長の高崎慶男先生(現名誉会長)と出会う。徳島高齢剣道者交流大会や兵庫高齢剣友会の創立にもお世話になりました。

・平成二十年六月 第三十回全日本高齢者武道大会特A三位。  
・平成二十年十月 第二十五回三重高齢者剣道大会七十一歳以上優勝。

・平成二十一年四月 第二十四回徳島高齢者剣道交流大会に初参加。以後、二十五回・二十六回・二十七回と連続して参加。

・平成二十八年七月十九日 兵庫高齢剣友会発会式。全日本高齢剣友会本部から高崎慶男先生・岩立三郎先生・山田義雄先生・桜井鋭治先生、徳島からは高齢剣会長高島稔之先生と徳島県剣道連盟会長三木毅先生・美馬勝行先生・兵頭新平先生・松村和宏先生が来賓として参加していただき、兵庫高齢剣友会の誕生しました。

## 病との闘い

平成二十二年に台湾から帰って来て、柳生の稽古に行った際に、息切れ・手の痺れで稽古が出来ず、帰宅して診察に行くと、完全房室ブロック(心房から発生した電気が心室へ全く伝わらない状態)と云われ、即入院。四月六日に手術。退院後には体力的にも回復し、その後、コロナ発生までは、毎年台湾での試合および稽古に参加していました。

・令和二年二月十日 脊柱管狭窄症の手術。二月二十七日退院。

・令和二年六月二日 ペースメーカーの入れ替え。七月四日退院。

・令和三年 左右の目の白内障の手術。

八十歳を過ぎてから、身体の各所を手術して、思うような稽古ができませんでしたが、コロナの為に試合と稽古が自粛となった期間なので、自分に取っては都合が良かったと思います。

長々と思いつくまま書き上げましたが、このような機会を下さり、誠に有難うございます。

生前にお世話になった遠藤一美先生・坂下彦之先生・有賀秀敏先生のご冥福をお祈りいたします。

徳島剣道連盟の皆様方のご発展とご多幸を祈念いたしますと共に、兵庫高齢剣友会へのご指導ご鞭撻のほど宜しくお願いいたします。



# 令和三年度 顕彰一覽

## 感謝状（全日本剣道連盟）

○ 三 木 毅（徳島県剣道連盟名誉会長）

徳島県剣道連盟会長として、永年に亘り剣道の普及振興に努め、  
斯道の発展に寄与した。

## 剣道有功賞（全日本剣道連盟）

○ 澤 井 勝 之（徳島県剣道連盟審査員）

徳島県剣道連盟審査員として二十年、小松島支部長として六年  
間務め、剣道の普及発展に尽力した。また、毎年発行している  
「徳島の剣道」を閲覧できるようデジタル化してホームページに  
掲載するシステムを構築し、徳島県における剣道の普及、発展に  
大きく寄与した。

## 少年剣道教育奨励賞（全日本剣道連盟）

○ 加茂名少年剣道教室（指導者代表 鈴江俊和）

昭和六十年四月に創設され、三十六年間にわたり少年剣道を通  
じ、剣道の普及発展に寄与してきた。県中央部に位置し、地道に  
地域とともに剣道教室を運営し、地域に密着した中で人間教育に  
励んでおり、少年の健全育成に大きく貢献している。

○ 土成剣道スポーツ少年団（指導者代表 出口正春）

昭和四十六年に創設され、五十年間にわたり剣道を通じて少年  
の健全育成に尽力してきた。春分、秋分の日に地域あげて子供か  
ら大人が一緒になって錬成大会、地元神社への奉納大会等を行う  
など、伝統を引き継いでいく剣道の普及、発展に尽力し、生涯剣  
道の実践、少年の育成に当たっている。

## 徳島県スポーツ功労者表彰（徳島県スポーツ協会）

○ 富 田 正（徳島県剣道連盟審議員）

中学校教員として奉職し、全国大会等に選手・監督として出場  
するなど剣道の奨励発展に大きく寄与した。また、徳島県剣道連  
盟理事、常任理事及び審議員を二十八年間務め、徳島県における  
剣道の普及発展に大きく貢献した。

## 徳島県生涯スポーツ表彰（徳島県スポーツ協会）

○ 川 田 武 志（徳島県剣道連盟相談役）

警察官として奉職し、全国大会等に出場するなど剣道の奨励発  
展に大きく寄与した。また、徳島県剣道連盟理事、審議員及び相  
談役を四十四年間務め、現在も活動を継続し、生涯スポーツのあ  
るべき姿の模範として、徳島県における剣道の普及発展に大きく  
貢献している。

## 徳島県スポーツ優秀者賞表彰（徳島県スポーツ協会）

○ 白木 恒二郎（徳島県立川島高等学校 常勤講師）

令和三年三月十四日に開催された第六十八回全日本剣道選手権大会にて、ベスト八に入賞した。また、優秀選手賞を受賞した。

○ 岡崎 理（徳島県立富岡東高等学校女子剣道部）

○ 岩本 楓華（徳島県立富岡東高等学校女子剣道部）

○ 山田 莉子（徳島県立富岡東高等学校女子剣道部）

○ 塚田 志緒（徳島県立富岡東高等学校女子剣道部）

○ 藤井 瞳（徳島県立富岡東高等学校女子剣道部）

○ 嶋田 優月（徳島県立富岡東高等学校女子剣道部）

○ 谷村 七海（徳島県立富岡東高等学校女子剣道部）

令和三年三月二十六日から二十八日の間に開催された第三十回全国高等学校剣道選抜大会にて、ベスト八に入賞した。

また、岡崎 理は、優秀選手賞を受賞した。



# 感謝状

## 感謝状を戴いて

三木 毅

私は、この度、全日本剣道連盟から「感謝状」をいただきました。文面は、剣道連盟会長として剣道の普及振興に寄与した功ということでありました。とてもありがたく、感慨にふけておりました。家の宝物として未来永劫誇りにできるものとなりました。

顧みますと、私が剣道連盟という組織のお世話役に身を置いたのは、平成十五年四月に剣道連盟理事長にご推挙いただいたのが出発点でありました。先輩諸先生が残された伝統や様々な知恵をわが身としながら、会員皆様の絶大なご協力とご鞭撻を戴き、何とかその役を果たすことができた十八年間でありました。この間、皆様のお支えとご激励によりお世話役の任を果たせたものとして皆様にお礼を申し上げます。誠にありがとうございました。

思い出として、全国ねんりんピック徳島大会開催、全国スポーツ少年団剣道交流大会開催、全国中学校総合体育大会剣道大会開催、教育基本法改正による中学校武道正科導入により県下中学校で多数の剣道授業がなされたこと、県立渦潮高校で剣道科が実現

できたこと、居合道六・七段の全国審査会の開催と講習会の開催など大型事業がありました。

進行中のものとして、県立武道館の新築要望活動と徳島県における藩政時代以後の剣道の歩み（徳島剣道史）があります。

県立武道館新築は今後大きな

うねりが起こることを期待するところであります。「徳島剣道の歩み」は、皆様のご協力を戴き成就させたいと活動中であります。剣道の未来を考えると先ずは剣道人口の減少をいかに止めるかがとても大きな課題であります。会員皆様の熱意によって剣道連盟が力強くご発展することを切に願っております。



## 剣道有功賞

### 八十歳からの進化を目指して

澤井 勝之



令和三年度、全日本剣道連盟より剣道有功賞を拝受いたしました。これひとえに徳島県剣道連盟の諸先生方はじめ、多くの稽古仲間の皆様のご指導とご厚情によるもので、ここに衷心より御礼申し上げます。

令和四年一月の徳島県剣道連盟新年互礼会で剣道有功賞の表彰伝達式を挙行していただきました。丁度その日が私の八十歳の誕生日に当たり、今回の受賞を機に自分の剣道人生を振り返り、八十歳から剣道をさらに進化させるにはどうすればよいか、日ごろの実践を通して考えてみたいと思います。

私は若い頃から継続して、剣道（七段）、柔道（四段）、空手（五段）、短棒術（四段）、陸上競技（国体出場）等、いろいろな競技に取り組んできました。「強くなりたい」の一心でやってきたことですが、どの競技も中途半端になり、一つとして身についたものはありません。この反省から、退職後は剣道だけに絞り現

在に至っています。しかし、特定の指導者につかなかったため、私の剣道は自己流で、泥臭く、変剣で、きれいな剣道とは程遠く、未だ初心者域を出ていません。

そういう意味で、今回の受賞を機に、八十歳からの進化を目指して、日ごろ取り組んでいる剣道に関する考えや稽古法を次に述べ、ご批判やご指導を賜りたいと思います。

#### 一、毎日のトレーニングについて

①素振り用の超極太竹刀にチューブを巻き付けて二キロの重さにし、大きい動作で、重みを十分感じながらの素振り。②自宅階段を利用してのフルスクワット。③片方七キロのダンベルでのウエイトトレーニングを日課としています。コロナが流行り始めたころからやり始め、二年以上一日も欠かさず実行しています。

#### 二、稽古の概要について

①剣道の稽古は週三回を原則としています。稽古場所は、小松島支部、セント会、高齢剣友会、富岡西高校剣道部等を主とし、高齢のため疲労が蓄積するので、一日おきに休養日を取ることを大切にしています。

②稽古に当たっては、「一番早く面を着け、一番後に面をとる」と心がけています。これは、私のような者が皆さんと同じ稽古量ではとても追いつけないので、面タオルは最初からカブトにして頭につけ、面紐を早く結び、誰よりも早く稽古を始めることによ

り、少しでも稽古量を人より多くしています。しかし、親しい人から、「面のつけ方が初心者以下」と時々言われ、その都度大笑いをしています。

### 三、稽古で留意している事について

①稽古においては、常に宮本武蔵の「我以外皆師」の言葉を大切にしています。高段者の先生は勿論、誰と稽古をしてもらっても、色々と学ぶ事が沢山あります。また、稽古の終わりには、できる限り「一本勝負」をお願いし、稽古の質を高めるようにしています。

②誰でも多少はあると思うのですが、稽古相手として苦手な人がいます。その人との稽古はきつくなるので、できれば避けたいと思う時があります。私も同様ですが、苦手な人こそ最良の師と思いい、率先して稽古をお願いするように心がけています。苦手の人からは多くのことを学ぶ事が出来るからです。

③八十歳ともなると、脚力が衰え、遠間からの打ちは難しくなってきました。その為に「戸板の攻め」「一寸の攻め」でじりじりと攻め込み、一足一刀の間合いより、なお半歩ほど深く入り、攻め勝って、溜めて、踏み込んで打つようにしています。しかしこれは、相手も私を簡単に打てる間合いとなるので、相手に先を取られると、両手を高く上げて変に受けてしまい、自分でも情けないなと思うし、他の先生から指導を受けることもあります。これからの課題として、「剣道に受け無し」を心がけ、「面切り落とし

面」等のような技の習得を目指そうと思っています。

### 四、剣道とパソコンについて

私の、パソコン歴は五十年を超えます。最初の頃は、ソフトが無く、あったとしても高価で手が出ず、自分でプログラムを組んで一人で喜んでいました。そして、大学院で運動心理を専攻した際、剣道部を中心とした運動部員の心理分析のために、因子分析、多変量解析等が必要になりました。これらの分析を人が電卓で計算すると百年はかかりそうなので、自分でプログラムを組んでパソコンでやると数分で出来、パソコンの威力に感動し、だんだん深みに入りました。(笑い話のようですが、今のパソコンならば人が千年かかる計算も瞬時に出来ると思います。)その後は、職場の事務処理等を手がけて悦に入っていたのですが、自分一人でプログラミングばかりやっていたには意味がないと思いい、退職後は、地域貢献の一環としてシニア対象のロダン・パソコン・スクールを設立しました。今では、当スクールも設立八年を迎え、いつも定員いっぱいとなり、シニアの皆さんとパソコンの学習を通じて楽しく交流を深めています。丁度その折、県剣道連盟より「徳島の剣道」のデジタル化のお話があまりました。創刊号から現在までの膨大なデータ量でしたが、これらをホームページにして、いつでも、だれでも、どこでも、スマホかパソコンがあれば、「徳島の剣道」の創刊号から現在までのすべてを、簡単に閲覧できるようにしました。



これらのことが評価され、今回「剣道有功賞」に繋がったと思  
い感謝の念にたえません。

## 結びに

私は、八十歳からさらなる剣道の進化を目指していますが、気  
力、体力は日々衰えています。明日のことさえ分からないので、  
せめて、今日一日の稽古を一生懸命にやりたいと思っています。  
今後とも、皆様方のご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。



## 少年剣道教育奨励賞

### 少年剣道教育奨励賞を受賞して

加茂名少年剣道教室 鈴 江 俊 和

この度、加茂名剣道教室が全日本剣道連盟より「少年剣道教育奨励賞」受賞の栄を賜りました。推薦をして頂きました徳島県剣道連盟の先生方には心より御礼申し上げます。

本教室は昭和六十年四月、下村富夫先生、山田仁先生のお力添をいただき、生徒十四名から発足し、多い時には四十名をこえる子供たちが在籍していました。しかし、最近では本教室も入数が減少し数名となり心配をしていましたが、この度「少年剣道奨励賞」を受賞し、教室関係の多くの人に喜びをもたらしてくれました。

本教室は以前、加茂名小学校において、日曜日、木曜日、午後六時から八時まで行っていました。加茂名南小学校が開校した時に、日曜日の稽古は加茂名南小学校で行うようになりました。また保護者の希望で加茂名中学校でも、土曜日に六時から八時まで稽古を行うようになりました。

現在では藤本俊夫先生に助けていただきながら、正しい打ちが身に付くように、手足の使い方や気持ちの持ち方、打突の機会を注意しながら、基本の稽古を中心に、打ち込み稽古、かかり稽古

を行なっています。

子どもたちが卒業後も剣道を続けてもらえるようにまたかつ健全な剣士となり、人間的にも成長することを願い、今後も活動を続けていきたいと思っております。今後とも指導のほどよろしくお願いたします。





## 少年剣道教育奨励賞を受賞して

土成少年剣道教室 出口 正 春

このたび土成少年剣道教室が少年剣道教育奨励賞の榮譽を受けましたことにつき、推薦等に尽力いただいた剣道連盟の方々に厚くお礼を申し上げます。又長年この少剣に関わってきた保護者及び指導者の方々にも併せて感謝申し上げます。この機会に土成小剣の推移に触れてみます。

この教室は昭和五十年頃に、町内の有志により始められたと聞いています。当時は土成小学校の体育館を使用していました。後に土成町農業者トレーニングセンターができ、この中の一室で行うようになり、現在に至っています。

さて、この少年剣道教室に私が関わったのは、平成五年の二月（筆者四十三才）からです。当時職場の上司から誘われて、子供の相手がいないから来てくれと言われ、それ位ならどうにかなりそうと思い、始めた次第です。当時の人数は指導者五人と少年剣士が十人前後でした。指導者は町内の出口嘉平・糸谷文雄・安丸満代・安丸孝生の先生方、さらに市場町からは一村喜佐男・坂本裕二の両先生と、吉野町からも時折、岡島茂雄・三木毅の両先生が来てくれました。私自身は先輩先生のほんの補助として、少年剣士達の稽古相手をしていました。

私自身の経験年数は、高校時代に一年余りのみで、段位は初段

でした。当時の剣道教室は、出口嘉平先生が代表で、主に基本中心の稽古であったと思います。準備運動の後、面・小手・胴や連続の面打ちを空間打突していました。それから面や小手を着けて実際に打つ稽古に入りました。約二十六年ぶりに基本稽古をしてみると、あちこち筋肉が痛くなり、呼吸も苦しくなりました。稽古日は水・金の二日でした。出口嘉平先生の稽古は、今思うとなかなか厳しいもので、粘り強い剣士が育っています。この教室では、経験の少なかった私にとっては学ぶことが多く、いまもって共に学ぶという気持ちが強くあります。

さて一年ほど経つと出口嘉平先生の来る回数が少なくなり、ある時、私に「もうあんたが中心になってやっていくてくれ」と告げられました。最初数年は、分からないことや未経験のことも多く、とまどいの連続でした。ただ試合数も少なく代表





と言ってもらいたかった用向きも無く過ぎていました。しかし、次第に昇段審査を受けるように勧められ、四段になると、一村喜佐男先生から「そろそろ審判にも出ないかん」と言われ、時々審判にも行くようになりました。一村喜佐男、坂本裕二の両先生には後々まで大変世話になりました。

また、坂本裕二先生はよく「小中学生の時は、剣道の基本をしっかりとやるのが大事じゃ」とおっしゃっていました。私もこれらの気風に沿い、子供に接してきました。その後、両先生は教室に来られなくなりましたが、阿波中学校の朝稽古で週に二回、平成十七年の春まで十年ほど顔を合わせていました。

平成十七年に阿波市が誕生して、土成と吉野の剣道教室は、板野西支部から阿波支部に移りました。平成二十一年頃吉野の剣道教室の入門者がなくなってから笠井勝先生が指導に来てくれることになりました。笠井勝先生は「木刀による剣道基本技稽古法」を稽古の始めにまず指導してくださり、平成二十九年六月に亡くなるまで指導してくれました。平成二十五年以降には、父兄の中から香川利治・上田昌也・前田秀一・小柏祐三ら気鋭の若い先生方が熱心に指導に加わり、大変活発になり、一時は十五人を超えるほどに人数も増えていました。ところが一昨年の新型コロナ流行の時期から、卒業で減ったのと入門者も少なくなったので、現在人数は六人になっています。少しさみしい状態ですが、又賑やかになる日もあろうかと考えています。

本教室は、少年剣士達が将来人として大成することを願い、そ

の育成と仕込みの大事な時期と位置づけ、これからも毎回の稽古の中で、子供達と指導者が共に学び励んで行くつもりです。





## スポーツ功労賞

### 「徳島県スポーツ協会功労者」

#### 表彰を受けて

丹生谷支部 富田 正

令和四年二月十一日、徳島県剣道連盟の推薦を受け、徳島県スポーツ協会功労者賞を受賞しました。



十二月中旬、県剣道連盟事務局長から、「先生の剣道指導歴を教えてほしい」という旨の連絡がありました。ちょうどその時期は、某中学校の剣道授業協力者として参加していた後だったので、そのことと関連していることだと思い、あまり確認もせずごく簡単な内容で返答してしまいました。実はしばらくして判明したのですが、「県スポーツ協会功労者の推薦について」というメールが先に届いていたのを見落としていたのです。もっとしっかり確認をして、丁寧な返答すべきであったと大変申し訳なく思っています。それに加えて、これまで剣道に関わってきた県下の多くの先生方は、献身的に剣道に取り組み、多大な功績を残されています。そんな中において、私のような者がこのような賞を受けたことに大変恐縮して

います。

さて、私は徳島県公立学校教員として約三十八年間勤め、平成二十六年三月に定年退職しました。在職中は主に中学校に勤務し、剣道授業はもちろん部活動（剣道部）顧問として、多くの子どもたちと関わってきました。また、同時に学校剣道連盟や県剣道連盟の一会員としてお世話になり、多くの先生方からご指導を受け年齢を重ねる中で、私なりにお手伝いさせていただきました。その間、多くのどもたちや同僚、剣道の先生方との出会いがあり、一言では語り尽くせないほど多くの貴重な経験をさせて頂きました。これら全てが、私にとってその後の人生の指針となり宝となっています。

現在は、県剣道連盟審議員及び驚敷振武館長として、剣道に関わっています。特に地域の驚敷振武館道場では、週二回ほど子どもたちへの指導のお手伝いと、一般の先生方との稽古に取り組んでいます。この二年間は、新型コロナウイルス感染拡大のため施設や活動等に制約がかかり、県内外を問わず各種大会や講習会等が相次いで中止になるなど、大変な事態となりました。このことは、剣道人口の減少に拍車をかけるばかりでなく、技術力向上にも大きな痛手となっています。本道場におきましても、例外ではなく、その影響を少なからず受けています。しかし、「ピンチはチャンス」と捉え、この機会に指導者自身の反省も含め、子どもたちへの日頃の稽古のあり方を見直し、これまで以上に基本重視の稽古に切り替え取り組むようにしました。大会が少なくなっ

たことで、基本重視の落ち着いた指導や稽古ができていたことは確かです。また、従来より次世代のことを考え、「若い指導者の育成」を重要な課題としても取り組んでいます。その為にも、自分自身が健康に留意し自己研鑽に努めながら、剣道に関わっていただくことが大切だと考えています。

最後になりましたが、今回の県スポーツ功労者賞を受賞するにあたり、県剣道連盟を始め、これまでご指導とご助言等を頂きました皆様に心より感謝するとともに、今後更に剣道の普及発展のために精進していく覚悟です。感謝！



## 生涯スポーツ賞

生涯スポーツ賞をいただき

板野東支部 川 田 武 志

ありがとうございます



私は、本年二月十一日、徳島市のグラ  
ンヴェリオホールにおいて、徳島県スポー  
ツ協会より令和三年度 生涯スポーツ賞  
の栄に浴しました。図らずも思いがけない受賞で、ただただ有り  
難い気持ちで一杯です。この受賞は、長年にわたって息の長い剣  
道をともした剣友の皆さんからのご指導と激励の賜と思えます。  
また、徳島県剣道連盟の藤川会長はじめ役員の先生方よりのご支  
援のお陰であり、ここに厚くお礼申し上げますと共に感謝いたし  
ます。

### 私の剣道修行

私は六十歳になった時に、当時の徳島県高齢剣友会の会長であつ  
た勝浦守先生より本県高齢剣友会および全国高齢剣友会に入会を  
勧められ、生涯剣道を目指すようになり、現在に至っております。

現在、徳島県高齢剣友会は月二回の稽古会を実施し、更に年一  
回のねりんピック剣道交流大会、四国四県の持ち回り剣道交流  
大会を開催し、交剣知愛で剣友と親交を深めています。さらに、  
徳島県スポーツ振興公団主催の高齢者剣道教室へ徳島中央武道館  
において週一回の稽古会に参加し、心技体の剣道の工夫を試みて  
います。そのほか、毎年六月上旬に、日本武道館にて行われる全  
国高齢者武道大会と全国健康福祉祭ねりんピック剣道交流大会  
にも参加しています。

### 少年剣道との関わり

昭和三十七年から地元松茂町において、始めた少年剣道クラブ  
の剣道指導は、当初は週三回でしたが、平成に入って週二回にな  
りました。子供が減少し、さらに指導者の仕事が多忙になったた  
めです。

少年の入部月は毎年、四・五月ごろで、スポーツ好きの少年は、  
ほとんど野球・サッカー部等に走り、剣道部に入部する子供は一  
名か二名ぐらいで殆ど親に勧められて入ったものです。十月ぐら  
いになると他の部を退部した少年達は、剣道を習いたいと父母に  
付き添われ入部する傾向がなぜか多く見受けられました。

昭和五十年代にはテレビマンガ『赤胴鈴之助』が放映され、少  
年剣士の活躍する動画で、少年剣道ブームになりました。この頃  
から女性も剣道を習う者が多くなり、各教室とも生徒は七・八十  
人おり、うれしい悲鳴を上げていた時期もありました。

平成中頃からは少子化社会になり、剣道人口も減少し、今日では我が教室でも生徒は十名たらずとなっています。このような状態であるがゆえに私たち指導者は、情熱・愛情を持って指導にあたり、少年達が一生にわたって剣道が続けてもらうことを願って楽しく剣道が出来る取り組みに励んでいます。

## 生涯剣道

多くのスポーツ競技は、その選手寿命は極めて短いものであると思われます。特に、筋肉量や酸素摂取量が勝ち負けを大きく左右する競技においては、おおよそ三十歳前半がほぼ限界であるようです。一方、剣道は理合いを重んじて修練することにより怪我也も少なく、競技年齢も長く、生涯スポーツして楽しむことができます。

八十代の諸先生に、ガンガン打ち込んでいっても全く竹刀が当たらず、それどころか間合を徐々につめられ、出鼻をバッシと打ち込まれることがあります。若い選手に、スピード・パワーではないませんが、熟練年配者から学ぶものは多くあります。それがまた魅力です。

本年一月で白寿を迎えられた茨城の高崎慶夫先生（剣道範士八段）・全国高齡剣友会会長の岩立三郎先生（剣道範士八段）・全国高齡剣友会副会長長岩尾征夫先生（剣道範士八段）に四年前ですが、稽古を付けて頂く機会に恵まれました。各先生に挑んで行ったのですが、いくら打ち込んでも当たらず、ここをこう打たれた

かと感動するような一本をいただきました。各先生から真剣なご指導を賜り、感謝にたえません。

## 人間形成と年輪の美

稽古が終われば、他の道場で、割り箸片手で剣道談議に花が咲き、やり取りするのもまた剣道の楽しみです。誰でも取り組める生涯剣道を普及発展させるためには、健康や交友の広がりなどを大切にし、剣道における修行鍛錬や技法を求め、さらに、少年剣道指導に携わりながら、自ら鍛錬することによって道を深め、剣道の魅力を感じながら、長く継続することが大事であると思えます。剣道では、技を構成する間・呼吸・気など、容易に会得したい要素が存在し、心身一如が強く求められています。

それゆえに、生涯修行の姿勢を維持することが大切となってきます。『剣道の理念』に掲げられている「人間形成の道」を追い求め、社会の活力を高めながら豊かな生命観を育み、文化としての剣道を実践していく、そこに、老いてもなお強い「年輪の美」を掲げたいと思います。

この受賞を機として、さらなる情熱を持って、生涯剣道に取り組みたいと思います。今後ともよろしく願います。

## 令和3年度 徳島県中学校剣道優秀選手

No.	男 子	学 校 名
1	片岡 恭二郎	徳島
2	藏本 望海	徳島
3	橋本 和馬	徳島
4	篠原 嵩也	徳島
5	三宅 遼	徳島
6	楠本 悠太	徳島
7	渡邊 大樹	徳島
8	橋本 葵	那賀川
9	和泉 皓大	那賀川
10	檜原 陽	小松島
11	桑田 隆希	小松島
12	熊澤 翔生	小松島
13	増尾 優輝	小松島
14	西村 翔	鳴門市第一
15	柳田 周作	鳴門市第一
16	福池 謙信	鳴門市第一
17	前田 優真	土成
18	北尾 唯人	土成
19	桑原 康輔	羽ノ浦
20	西岡 優太	木頭
21	山下 悠人	木頭
22	玉垣 一樹	鷺敷
23	佐藤 輝和	徳島文理
24	原 孝太郎	阿南
25	長池 正悟	阿南

No.	女 子	学 校 名
1	内田 美心	那賀川
2	古川 はる	徳島文理
3	森 長 未来	鳴門市第一
4	後藤 彩柀	鳴門市第一
5	横山 舞	石井
6	六條 美玖	石井
7	一宮 めい	石井
8	川野 桜	徳島
9	近藤 真桜	高浦
10	赤池 ひなた	高浦
11	小柏 美音	土成
12	平岡 栞	土成
13	浅野 花怜	土成
14	福岡 詩	木頭
15	國見 菜々	国府
16	香川 夕渚	国府



## 令和3年度 徳島県高等学校剣道優秀選手

No.	男 子	学 校 名
1	田 上 力	富 岡 西
2	松 田 宙 大	富 岡 西
3	栗 田 空 舞	富 岡 西
4	儀 宝 真 弥	富 岡 西
5	米 田 賢 司	鳴門渦潮
6	四 宮 翔 太	鳴門渦潮
7	西 谷 漸	鳴門渦潮
8	上 垣 千 尚	鳴門渦潮
9	松 本 尊 灯	城 北
10	小 山 田 亮 太	城 北
11	宮 田 滉 大	城 北
12	永 濱 幹 大	城 北
13	武 知 樹 生	城 北
14	谷 口 航	川 島
15	高 田 迅 人	川 島
16	古 川 真 一	徳島文理
17	佐 藤 廉之助	徳島文理
18	立 石 龍之介	阿 南 光

No.	女 子	学 校 名
1	岡 崎 理	富 岡 東
2	山 室 愛 子	富 岡 東
3	岩 本 楓 華	富 岡 東
4	藤 井 瞳	富 岡 東
5	塚 田 志 緒	富 岡 東
6	山 田 莉 子	富 岡 東
7	松 葉 佳 香	富 岡 西
8	藤 原 真 結	富 岡 西
9	小 川 莉 奈	富 岡 西
10	福 本 彩 乃	富 岡 西
11	中 山 知 華	富 岡 西
12	福 田 真結海	城 北
13	柳 田 藍	城 北
14	野 崎 まひろ	川 島
15	一 楽 萌 衣	徳島文理

## 先生を偲ぶ

「負けるものか」

## 西岡 侃 先生を偲んで

阿南支部 西 岡 直 彦

剣道の師匠であり、私の父である西岡侃は、令和二年九月二十五日、阿南医療センターで亡くなりました八十五歳でした。父は昭和十年八月二十七日に西岡家の九人兄妹の末っ子として一卵性双生児で東京で生まれました、名前を一番上の姉の旦那さん（東京大学出身で阿南市新野町出身の岩浅氏）が父を侃、弟は亨と名付けたと聞きました。その当時、私の祖父正一は新宿区の落合第三小学校の校長をしており五十歳、祖母は四十一歳と聞いています。昭和十九年に戦争疎開で祖父正一の出里である阿南市に疎開してきました。戦後、父は大変苦勞をした様です。祖父は教員を退職し、年金生活となっており、同じ年の弟を父が働いて高校を出したと聞きました。

父が剣道と出会ったのが昭和二十八年頃、大野の片田先生・清原先生・遠藤先生たちが剣道復活で剣道を始めておられ、父も地元の青年団として有賀先生や池田洋一先生のお父様らと共に剣道を始めました。その後、私が小学校四年生の時に大野小学校剣道

部を父が監督として、森口先生・清原先生・有賀先生らと共に立ち上げました。翌年には清原先生・有賀先生が阿南少年剣道教室を立ち上げて現在に至っています。

父は剣道の指導の中でよく「努力に勝る天才なし」と言っていました。また「負けるものか、と言う気持ちを持ちなさい」とも言っていました。私は小学校四年から三年間指導を受けましたが、叱られた記憶がありません。礼儀に対しては厳しい面はありましたが、練習中に厳しい事を言われた記憶がないのです。私が社会人になり父と一緒に剣道の指導をしている時でもほとんど子供を叱ることはなく、逆に「今の面うちが良かった」とか「掛け声は気迫があって良かった」と褒めて指導していました。父の剣道指導方法は、褒めて伸ばすことでした。「試合の時は勝とう、勝とうとせずに負けてたまるかと思ひ、試合をしなさい」とも言っていました。

一生懸命に剣道に打ち込んでいた父ですが、六十歳過ぎたあたりでパーキンソン病を患い、病と闘いながら、七十二歳頃まで防具を付けて剣道を指導していました。「孫が小学校を卒業するまでは、なにが何でもガンバル」が口癖でした。指導者の立場を降りても、父は亡くなる前日まで毎日リハビリと称して竹刀を振り続けていました。「今日は千本振った」とよく言って「病氣なんかに負けてたまるか」と気迫で振っていました。身体が思うように動かなくなった頃からは地元の俳句教室に母と一緒に通い、ボケないようにと頭をフル回転していました。父の自慢は孫でした。

曾孫を見るまでは、頭も体もしっかりとしていなければいけないとパーキンソン病が進行していく中、一生懸命に素振りと俳句に取り組んでいました。

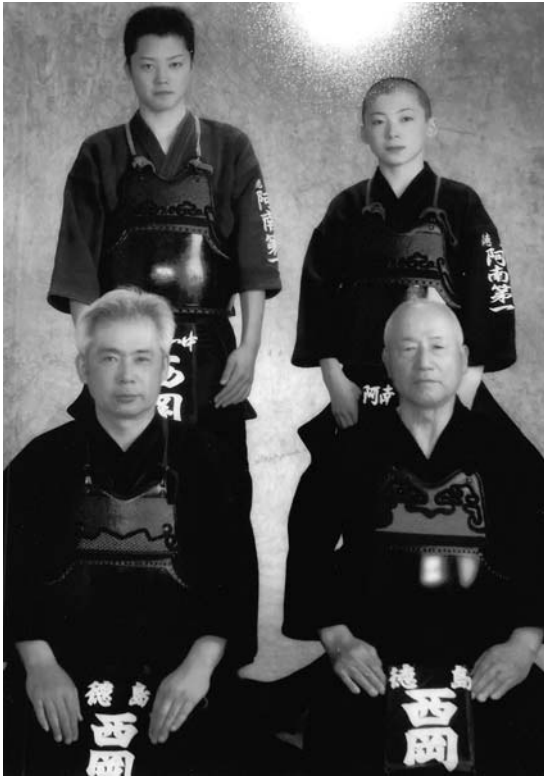
孫の次男の昌哉が中学校三年の時にスポーツ少年団の県代表に選ばれたときは大喜びでした。その後、昌哉は高専から長岡技術科学大学に進み剣道四段を取得しました。現在は東京の建設コンサルタントの会社に就職して今も剣道を続けています。

長男の大輝は中学校まで剣道をしましたが、進学した富岡東高校に男子の剣道部がなく、陸上部に入り、その後、同志社大学から航空大学校に進学し、現在は東京の航空会社に就職しています。長男の大輝が令和二年八月に結婚しました。コロナ禍の為に入籍と前撮りだけでしたが、前撮りの時は父も同行して前撮りの様子を見て大変喜んでいました。前撮りの時に家族で撮った笑顔の顔の写真が父の最後の写真でした。「次は曾孫を抱くのと、大輝の運転する飛行機に乗るのが夢じゃ」と言っておりましたが、その願いもかなわず、長男の大輝の結婚一か月後に他界しました。その翌年、令和三年十一月十二日曾孫の晴翔が誕生し、十一月十九日の徳島新聞のお誕生日おめでとうの欄に晴翔の名前が掲載されると同時に新聞の鳴潮の欄に父の名前と俳句が掲載されており、それを見たときに、すごい不思議な縁のようなものを感じました。

また、父は一卵性双生児の弟がいたので、東京と徳島と生活環境が違う中でもかかる病気は一緒でした。胃癌もパーキンソン病も同じ時期にかかり、父が他界して四か月後に双子の弟も追



後列左から 上原先生、有賀先生、西岡侃、池田先生  
前列左から 湯浅先生、清原先生、森口先生



いかけるように他界しました。この様なこともあり、本当に不思議なものを感じました。何か天上から私たちを見ているようなそんな感じです。これから、剣道でも私生活でも天上の父に褒められるように一生懸命、努力したいと思います。

最後になりましたが、お世話になりました徳島県剣道連盟・高齢剣友会・大野小学校剣道部の関係者の方々に父・西岡侃に代わり心よりお礼申し上げます。

「大変お世話になり、ありがとうございました」





左から二番目が西岡侃  
後列右から二番目が西岡亨





## 西岡 侃 先生を偲ぶ

大野小学校剣道部 池 田 洋 一



令和二年九月二十五日、西岡侃先生が八十五歳にして逝去されました。

西岡先生は、十八歳の時に大野地区の青年活動で、同学年の有賀秀敏先生ら十数名と共に剣道を始められました。元々

剣道が盛んな地域でもあり、片田勢一先生、清原栄先生、遠藤一美先生方に手ほどきを受け、修練を重ねられました。のち、青年活動から、片田先生を会長に大野武道同志会が発足し、増々剣道の活動も活発になりました。西岡先生は各試合にも出場され、好成績を収められていたと聞いております。

そして昭和四十六年に大野体育後援会が設立され、それを機に、清原先生・遠藤先生・有賀先生方と共に、大野小学校剣道部が創立されました。この時、小学五年生の私も剣道を始めました。

やがて、清原先生・遠藤先生・有賀先生方は、剣道発展の為、阿南市内にも新たに道場を作られました。大野小学校剣道部の道場主は西岡先生となり、剣道活動の大半を少年指導にあて、無我夢中で取り組み多くの少年剣士を育てました。

昭和五十六年には、県下大会で初優勝を勝ち取り、その後も各大会で数多く入賞し、実績を重ねました。また県代表として全国

大会に出場する選手も多数育てられました。

私の小学生の頃の思い出は、小学五年生の時に市の大会で優勝した事です。これも西岡先生の指導のおかげだと思っております。当初の先生の印象は、とにかく優しい人。私がなかなか出来なくても叱ることなく、いつも笑顔で気長に指導してくれました。おかげで剣道の楽しさを知り、中学・高校と続けることが出来ました。

平成三年より、私も少年剣道の手伝いで剣道部でお世話になり、長年竹刀を握っていませんでしたが、私自身も剣道を再開しました。

当初、少年指導では、分からない事も多く、悩んだり迷ったりしていると、いつも、ここぞと言うタイミングで助言を頂きました。

また、週に一度の一般練習でもいつも稽古をつけて頂き、昇段審査に挑戦する際には私が力を発揮出来るよう、いつも自信が持てるような言葉をかけて下さいました。

平成二十二年の七十五歳になる頃まで、半世紀に渡り少年指導に取り組み、私達に進む道を示してくれました。引退後も、私達にお心使いを頂き感謝につきます。

西岡先生の教えを守り、これからも道場を守り、少年剣士の育成に精進して行きたいと思えます。安心してお休み下さい。心よりご冥福をお祈りします。

合掌



平成6年 県下剣道大会にて  
後列右 西岡侃先生



昭和49年3月21日 第1回阿南市内少年剣道大会  
後列左から3人目より西岡侃先生、株木芳夫先生、遠藤一美先生、清原栄先生、有賀秀敏先生  
前列左から3人目が西岡直彦さん、七人目が池田洋一

## 西岡 侃 先生を偲ぶ

阿南支部長 村 井 正 志



剣道の指導で「打たせ上手」「誉め上手」は、剣道の上達と継続につながります。できる限り子供のよいところを見つけて、そこを誉めてあげるように、常に心がけています。

平成十三年六月、西岡侃先生が徳島県防犯協会表彰を受けた時のコメントの一部です。また、その五年後には、大野小学校剣道部が全日本剣道連盟より、少年剣道教室奨励賞を受賞することになりました。まさに「教える育てる」ということを常に意識した剣道指導が実を結んだ結果なのです。

ところで、現在大野小学校剣道部は、創立され約半世紀が過ぎました。この約半世紀における活躍は、阿南市のみならず、徳島県の剣道界に多大なる功績を残しました。先生は、大野小学校剣道部を通して、自らの剣道技術の向上は勿論、学校教育や地域社会の向上に努めてこられました。晩年は、徳島県剣道連盟阿南支部顧問として、後進の育成にもご尽力されました。現在、ほとんどの教え子たちも社会人となり、先生の意志を受け継ぎ、各方面において活躍しています。私自身、大野小学校剣道部の卒業生を、阿南第一中学校剣道部でお預かりするご縁に恵まれたこと、非常

に有難く感謝しております。私生活においてもお世話になることが多く、ご逝去される三年前には、体調が十分でないにも関わらず、私の退職の慰労と再就職を祝うお手紙を頂きました。海外（台湾）に赴任し、日本から届いた初めての手紙でもあり、非常に感激したことを今でも鮮明に覚えています。帰国後お会いし、ご挨拶をと思っていたのですが、その思いも叶わず、誠に残念でありません。

ところである日、徳島新聞一面、鳴潮欄を読んでいると、次のような一文が目にとまりました。『へ秋風や田舎のバスは昼間空』西岡侃、徳島俳壇でおめにかかった秀句である。』という文面です。先生は晩年、阿南市俳句連合会で俳句を詠んでおられ、この句は徳島新聞に投稿された句だということでした。この鳴潮欄の句を読み終わったとき、先生の優しく心豊かな人柄、ふるさとや自然を愛する気持ちが伝わってきました。また、そんな余韻に浸っているながら同じ新聞のページをめくっていると、なんと『お誕生おめでとうございます』欄から、曾孫さんのお名前と曾孫さんの両親のお名前を見つけたのです。その時の私には、先生が曾孫さんのお誕生を祝福しているのだと感じました。西岡侃先生は、ご逝去されましたが、今でも、青い空の上から、ご親族をはじめ、教え子たち、剣道関係者を見守ってくれているのではないかと思えます。

西岡侃先生のご冥福をお祈りいたします。

## 鳴潮

「撮り鉄」に「乗り鉄」。鉄道ファンに比べると少数派なのだろうがバスにも愛好者はいる。学生の頃、知人のI君は東京都内の多くの路線バスに乗ったことが自慢の種で、停留所名をそらんじる姿に驚かされた▼バスが国内で最初に京都で運行したのは1903年だった。それから120年近く。水素エネルギーを使う最新の燃料電池バスが12月から徳島駅―鳴門間で定期運行を始めることになった。中四国初の試みという。同じ四国出身のI君も乗車を楽しみにしているだろうか▼環境への優しさに利便性がプラスされれば、言うことなしだ。が、バスに寄せる多くの県民の思いは、まだこんな感じでは。〈秋風や田舎のバスは昼間空▼西岡侃▼以前、徳島俳壇でお目にかかった秀句である。ドアからドアへ、人やモノを運ぶ利便さでは、マイカーに勝る手段はない▼車のありがたさ、年をとるほど身に染みるが、大阪府内でペダルの踏み間違えにより3人が死傷した。運転していた89歳の男性は免許証の返納も考えていたようだ。でも、行動に移せなかった。認知機能に不安を覚えながらの運転者は少なくない▼環境に配慮した自動運転車が目的地まで安全に連れて行ってくれる。そんな時代が到来するのか。それまで同じような悲劇が繰り返されないように願うしかないのか。もどかしい。

2021.11.19

も 野 生 の も の を し り たい と し たい と し たい (敬称略)

西岡大輝・瑞貴 長男晴翔(はると) Ⅱ下大野町羽坂





## 平田照男先生を偲んで

山城町剣道修練クラブ 島尾眞且



山城町剣道修練クラブは昭和五十二年に、川崎少年剣道クラブは昭和五十七年に平田照男先生が小学生を中心に青少年の健全育成と剣道の発展を願い始められたものです。これまでに剣道を通じて多くの若者が創設者の願いどおり立派に成長しております。

平田先生は山城で月、木の週二回、川崎で水、土の週二回の稽古の他に、池田劍正堂、佐馬地少年剣道クラブの指導にも骨身を惜しまず駆け付け、現在の三好支部の根幹を成す人材を育てられ剣道発展に大きく貢献された人であります。

私が先生と出会うことになったのは、勤務先の近くの縫製会社々長で当時山城剣道修練クラブの保護者会長をしていた高田武さんから「平田先生は海上自衛隊で剣道の指導者になるまでの地位になつていたけれど、家庭の事情で帰郷し、山城小学校体育館で子供に剣道教えているので見学に行つて見たら」と誘われたことがきっかけです。妻と二人で見学に行つてみると、先生一人に必死で頑張つて大きな声を出し稽古している子供達の姿、そして厳しい中にも優しさにあふれた先生の指導に感激し、自分の子供も剣道を習わせることにしました。

そして、二年ほど経つた剣道クラブの鏡開きの時でした。親子で剣道をする機会があつたので、防具を着けて子供相手に試合に臨み、なにくそ負けるかとメーンと向かつて行つた所、前から消えていなくなり胴を抜かれてしまいました。二本目も同じ様に打たれて完敗、これでは普段子供に対して大きな事を言えたものは無いと深く反省したものでした。

その頃は、平田先生一人が元立ちとなり子供を十二人三人指導しておりましたが、稽古の効率が悪いので先生から「人形よりましなので、保護者の方で二三人元立ちになってやってくれないか」と言われ、保護者四人（私もその一人）が元立ちとなって子供と剣道を始めることとなりました。

しかし、しばらくして「棒立ちだけの元立ちだけでは、いかなしなあ？子供の稽古や先生の手助けに一つもならんわ！」という思いが強くなり、自分も昇級審査に挑戦、ハアハア言いながら辛掘り剣道で二級を受験したことは今でも鮮明に覚えております。しかし、私が三段を取つた頃には剣道の元立ちをしていた保護者は、一人減り二人減りで最後には結局私一人になってしまいました。

話は前後いたしますが、昭和六十二年、日頃から平田先生や保護者が山城町にも武道場をとその必要性を訴えていた山城中学校武道場が完成しました。それを契機に、山城は地理的に不便なので剣道教室を二手に分けて山城中学校武道場で平田先生が、下名小学校体育館で合田秀實先生（前三好支部支部長、教士七段）が



週二回指導し、さらに月に一回合同稽古の日を設け剣道教室の充実を図りました。それが二年程続いた時には子供達が三十名ほどに増え、中学生を含めると四十名を超え、合同稽古時は、道場が狭く感じられる位になりました。多くの子供達が熱心に取り組む中、平田先生や保護者が、「山城町での剣道だけでは子供達も飽きてくるので、どこかへ出かけて剣道の交流を図ろうか?」と、高知県夜須町や土佐町、徳島県木頭村（木頭錬心館）、香川県小豆島土庄町の各剣道教室にお邪魔して一泊二日かけて交流を図ったり、教育委員会の公民館活動の一環として、二年続けて大沢先生や坂下先生を山城にお迎えして稽古していただいたこともありました。この頃は平田先生を中心として、保護者と指導者が一体となり非常にまとまりのある充実したクラブ運営が出来ておりました。

一方、池田町の川崎剣道クラブも平田先生と共に山下敏雄先生（現剣道五段）が子供達に稽古をつけておりましたが、指導者が少ないのが悩みでした。昭和六十一年のことでしたが、平田先生から川崎の鏡開きに誘われ同行し、そこで「川崎剣道クラブの保護者にも剣道を一緒に勧めてほしい」と言われました。その時の川崎剣道クラブの鏡割後の懇親会で「山城の剣道クラブでも保護者の島尾さんが剣道を頑張っているのです、保護者も剣道をして欲しい」と平田先生が口説き落とされたのが、藤本常巳先生（現三好支部支部長、教士七段）そして喜多一幸先生（教士七段）、堀川修先生（現三好支部副支部長、錬士六段）です。その後、川崎剣

道クラブは合田秀實先生も加わり、優秀な剣士を数多く育て徳島県でも一目置かれる存在となりました。

多くの指導者と、熱心な子供達や保護者に恵まれましたが、平成二十五年川崎小学校閉校に伴い、伝統ある川崎剣道クラブは閉じる事になりました。現在、指導者と子供達は山城町剣道修錬クラブで一緒に稽古をしています。

平田先生は酒の席が大好きで、いつも最初から最後まで剣道談義に花を咲かせたものでした。ある時、先生が「家内も私が剣道の関係で出掛ける時は何にも言わんのよなあ。」と、いつもの顔一杯の笑顔で酒を嗜んでおりました。奥さんからも先生が出掛ける時は、「剣道の会でちょっと行って来るわ。すぐ帰ってくるわ。」は、いつもの口癖でいつも午前様、酒を飲む雰囲気がとても好きな人だったと伺っております。

一年毎の田尾城つつじ祭り、俳句の会、梅宮神社の社務所完成のそれぞれのアクションで、私は平田先生と剣道形を披露しました。梅宮神社では先生が真剣を持ち込んでの剣道形でした。又、四方ぼく祓いにその真剣を使ってやってくれと言われ、演武させていただきました。

先生はその後、怪我や持病の悪化が続いて体調をくずされ、療養されておりました。山城町剣道修錬クラブが結成四十周年を迎え、全日本剣道連盟から感謝状を頂き、少年剣道記念大会を開催した時には（故）東岡清文先生がご指導された抜刀術を剣道クラブの教え子達が披露したことを、笑顔で「よう抜刀術入れてくれ



「たなあ！ありがとうございます」と感謝の言葉を頂いたことを昨日の事のように覚えております。

そんな先生は、お孫さんで岡山の就実高校バレーボール部で頑張っている美菜さんのために、県外での対外試合に幾度も駆けつけ、応援されていました。令和三年一月、就実バレーボール部が



第37回 山城町剣道修練クラブ 剣道祭 平成25年1月12日

全国大会で悲願の優勝した知らせを療養中の枕元で聞かれた時の喜びようは如何ほどだった事でしょう。その後わずか一ヶ月足らず、先生は令和三年二月九日満七十七歳でご逝去されました。早すぎるとご逝去が残念でなりません。

先生ありがとうございました。

合掌



平田照男先生  
平成19年1月 鏡開き



田尾城つつじ祭り



梅宮神社での奉納（社務所落成）  
平成26年3月16日

## 平田照男先生を偲んで

三好支部長 藤 本 常 己



私が平田先生の訃報を知ったのは令和三年二月九日の事でした。先生は体調を崩されて入院されていましたが、私が先生のお見舞いに伺ったのは三加茂町の病院で快方にむかってリハビリをされていた時です。

その時は体調も随分良くなっており、先生と色々なお話をさせて頂きました。それも有り、退院が近いのではないかと、喜んでいました。そんな中、あまりにも突然の訃報に驚き信じられませんでした。新型コロナウイルスの影響で告別式は家族葬で行うとの事で、最後のお別れもできず、先生が亡くなった事が受け入れられない状況でした。

後日、平田先生を慕っていた先生方と一緒に、ご自宅にお悔みに伺いました。先生の仏壇には、先生がご愛用されていた防具、道着、木刀、竹刀等、多数飾られていました。先生の剣道に対する熱意と、奥様の深い愛情を感じました。その時、ようやく先生とお別れができたように思います。

先生の療養中、部屋にはお孫さんの写真が多数飾られています。お孫さんは高校バレーの中心選手として活躍されており、先

生もお孫さんのご活躍で元気をもらっていたのではないかと思います。

私は社会人になってから先生に御指導をいただいている為、私からそれ以前の先生の剣歴について語る事はできませんが、三好支部の第一人者として活躍され、山城修練クラブと川崎剣道教室の二つの道場で子供達の指導を週四日されていました。

先生と私との出会いは、私の子供を連れて川崎剣道教室に見学に行った時です。その時、先生の優しい指導と一所懸命に励む子供たちを見て、私の子供も剣道を習い始めることになりました。川崎剣道教室は平田先生と山下先生のお二人で指導されていた。平田先生は温厚な性格で、子供達の指導において褒める事はあっても、叱る事は無かった様に思います。

記憶にあるのは川崎剣道教室の忘年会で、平田先生と初めてお酒を酌み交わした時のことです。私も中学時代の時に剣道をしていたという話になり、その際、「是非、剣道をしないか」と勧められました。そのような縁もあり、私は三十六歳から子供と一緒に剣道のご指導をお願いする事になりました。私は負けず嫌いな性格の為、三好支部先輩の先生方に少しでも近づきたい思いで、週四日剣道に打ち込みました。先生にはその都度熱心にご指導頂きました。

私が剣道を始めてからしばらくして、堀川先生、喜多先生にも一緒に剣道をしないかとお誘いしました。お二人とも快く受けて頂き、剣道仲間が増え、道場が一層活気あふれた場になりました。



私の先生との一番の思い出は、同じチームで徳島県社会人大会に参加した事です。私は剣道を始めたばかりの頃で緊張していましたが、平常心な先生の姿を見て、安心して試合に臨むことができました。今思えばチーム一丸となって試合が出来た事は私にとって一生の宝物です。

現在は、川崎小学校が廃校になったことにより川崎剣道教室はなくなってしまいました。平田先生の意思を継ぎ、今でも山城修練クラブで頑張っています。一緒に稽古をしていた先生方も昇段という目標に向かって日々努力しています。

現在は過疎化が進み、剣道人口も減っている状況ですが、子供たちは楽しく剣道をしています。その様子を見ている親御さん方も、夫婦で剣道を始められ、かつての自分のように子供たちと一緒に稽古に勤しんでいます。平田先生が元気でおられたら、どれほど喜ばれたかと思えます。先生が築き上げた温かく優しい道場をこれからも引き継いでいきたいと思えます。

私も令和三年四月より合田先生の後、三好支部の支部長を引き受ける事になりました。微力ではありますが、平田先生の生前の意思を継ぎ残された支部員と協力して三好支部の発展に努めたいと思っています。

心より平田照男先生のご冥福をお祈り致します。





## 父を想う

徳島至誠館 中山 繁輝



令和三年二月二十七日、父中山啓男が九十歳の天寿を全うした。

二十四歳で中学校英語教師となったが、力不足を痛感し、生の英語を学びたいと三十二歳の時には、二年間のアメリカ語学留学を果たした。今から五十八年前の事であった。当時は「退職願」を提出しての渡米であったが、後に県教育委員会から「特別退職扱い」の配慮を頂いた。夢を突き進んで行くことが父の生き方であり、無謀とも思える事にも挑戦していくことが父の魅力であるかもしれない。

剣道との出会いは、日和佐中学校剣道部の顧問になった三十八歳の時であった。初心者であったが、毎日生徒たちと一緒に面をつけて稽古することを信条としていた。また、県制覇や日本一になるという高い目標を父自らが持ち、生徒たちに対する愛情や情熱は、誰にも負けまいと思っていたのではないだろうか。

四十三歳の時には、念願の第四回全国中学校剣道大会男子団体に出場し、見事ベスト八に入賞することができた。この陰には、地元教員の先生方のご協力を忘れることができないと感謝していた。先生方とは縁あって永きに亘りお付き合いをさせて頂いた。

その後転勤により日和佐中学校を離れ、宮浜中学校・平谷中学校教頭・榎瀨小学校校長の各学校に赴任した。剣道をしていたお陰でたくさん先生方と出会い、親交を深めることができたと思っていた。

五十八歳の時には、生まれ故郷であり、剣道部の顧問として剣道をスタートさせた日和佐中学校の校長として着任することができた。また、その年の十一月には剣道七段に昇段することができ、今までの努力が報われた時ではなかったかと思う。

六十一歳の時には、私との夢であった徳島至誠館を阿南市羽ノ浦町に開設する。六十四歳では、県剣道連盟の審議員という身に余る役職を務めさせて頂いた。七十一歳では、徳島県で開催された「ねりんピック徳島大会」において大将として出場することができ、幸運にも日本一の経験をさせて頂いた。

令和元年には、二年間閉館していた徳島至誠館を再スタートしたことを父に報告できたことは、私にとって何よりの救いであった。私の願いを叶えてくださった徳島至誠館の指導者の先生方に、心よりお礼を申し上げます。

父は晩年、剣道を始めたお陰で充実した人生を送ることができた。多くの先生方や教え子たちに出会うことができて幸せであった。人生に悔いなし。といつも申しておりました。

最後になりましたが、生前ご厚誼を頂きました皆様方に心よりお礼を申し上げますとともに、徳島県剣道連盟の益々のご発展をお祈り申し上げます。

## 中山先生を偲ぶ

海部支部 影山 美雄

### 出逢い

「人の世の幸、不幸は、人と人が出逢うことから始まる。よき出逢いを。」

相田みつをさんの言葉です。

私と中山先生の出逢いは、私が大学を卒業し、地元中学校に赴任してからのことでした。中山先生は、日和佐中学校で剣道部の顧問をされており、私も地元の中学校で剣道部の顧問をしていました。同じ町でもあり、お逢いすることが多くありました。私は中山先生の人柄に一目惚れをしていました。先生は常に情熱的で、ファイトマンでした。人情に厚く、熱血漢でした。何事にも親身になり、温かい人でした。中山先生に出逢えて私は本当に幸せでした。

私と先生が触れ合う機会の多くは、何と言っても剣道でした。私の勤務する地元の中学校が日和佐中学校と統合することになり、私も隣の町の小学校に人事異動することになりました。その時、先生から一緒にやらないか、とおっしゃってくださいました。光栄でした。勤務校からの帰り、日和佐中学校に立ち寄り外部指導者として剣道部と関わるようになりました。同時に先生と一層深

いつながりができるようになりました。

### 全国ベスト8

剣道部の稽古は熱が入りました。「人並みでは人並み」の Motto の元、並々ならぬ稽古でした。当時は全校生徒数も多かったのですが、剣道部員は格段に多く、四十八名の大人数でした。稽古はとても活気を帯びていました。体育館での稽古は他の部も使用するので狭いステージで工夫しながら稽古をしたり、ランニングや筋トレをして稽古を休むことは皆無でした。試合が近づくと決められた時間での稽古は終了するのですが、レギュラー部員は、先生が自費で買ってくれた軽食をとり、先生が確保してくれた別場所でも再び稽古をしていました。汽車通や遠路の部員は自家用車で家まで送っていました。稽古の成果が少しずつ表れ、試合で負けることが少なくなりました。そして、県代表として念願の全国大会に出場することができました。憧れの日本武道館でした。努力が功を奏し、どんどん勝ち上がって行き、結果ベスト8になりました。部員全員の忘れられない金字塔になっています。

そして、レギュラーだったほとんどの部員は、福井軍二先生のある水産高校に進学して行きました。他の部員たちも中学校で培った修行の成果を遺憾なく発起し、各々の高校で目覚ましい活躍をしました。

## アメリカ留学

先生は、自叙伝『啓ちゃんの生きた八十年』を残されています。それを読むと先生の生き方に感動するばかりです。先生は向学心に燃え、苦学をして英語の教師になりました。そして、何事にも熱中して止まない性分の先生は、自分の語学力に満足することなく、本場アメリカへ留学しました。先生三十三歳の時でした。

その当時の新聞記事は次のように記されています。

「県教委、異例の特休扱い

自費でアメリカ留学の中山教諭

県教委が中山教諭に対してこのような優遇措置をとったのは、教師として自分の語学力の不足を率直に反省し、教え子のために自費で留学に踏み切った中山教諭の熱情に打たれたためである。」とあります。その後、新しい県条例が制定され、留学制度が改訂されたと記されています。

アメリカに渡って二年間、先生は大変な苦勞をされたようです。県教委からは無給休職扱いだったので、家族の生活のこともあり、色々なアルバイトをして送金されていたようです。皿洗い、芝生刈り、庭木の手入れ、集金係、中でも冷凍マグロを扱う仕事は最もきつく、命拾いをした事故があったそうです。「苦勞は予想もし、覚悟もしていたが、それ以上に大変な現実があった。」と述懐されています。色々な体験や辛酸をなめながら二年間の留学を終えられ、待ちに待った帰国の日を迎えました。奥さんや子供た

ち家族に会える嬉しさで涙が込み上げ、男泣きしたそうです。

日和佐駅では、大勢の人たちが先生を迎えていました。「中山先生、お帰らないさい！」と書いた大きな横断幕が二年前の出発と同じように、ブラスバンド部による校歌の演奏がありました。教育委員会、学校関係のあいさつの後で、先生がお礼の言葉を述べ、盛大な歓迎の行事が終わったようです。「母親も曲がった腰を一杯のばして参加していた。嬉しそうであった。本当に・・・。」  
「この日は我家に帰り歓迎の宴を催してくれた。家族が一堂にそろうぬくもりは、又、格別の癒しを感じたのであった。」と自叙伝に記されています。

## 愛妻家

先生は、大変な愛妻家でした。熱烈な恋愛の末に結ばれました。先生から何度となく奥さんとのことを聞きました。奥さんとは、小学校からの同級生でした。青年期になり、奥さんへの思いを確信するようになりました。

奥さんも先生の熱い情熱に感動し、結婚を決心されたそうです。恋愛中、奥さんに会いたくて、そと家に立ち寄った時、連絡もしていなかったのに、なぜか奥さんも家から出て来たそうです。以心伝心と言うか、相思相愛の二人の間は真赤な赤い糸で結ばれていたようです。そして、その時に奥さんの履いていた赤い鼻緒の「カランコロン」という下駄の音が今でも耳の奥に残っていると先生からよく聞かされていました。先生はロマンチストでした。

中山先生と福井軍二先生と私は、稽古を終えてよく酒宴を催しました。そして、酔いがまわると自分の十八番の歌を歌っていました。中山先生は「誰よりも君を愛す」を熱唱しました。「君を愛す」の個所は奥さんの名前でした。美しい高音でした。ちなみに、福井先生は「母さんの歌」、私はせりふ入りの「岸壁の母」でした。実に楽しい思い出です。

奥さんが入院された時は、先生は昼夜を問わずずっと付き添われていました。人も羨む「おし鳥夫婦」でした。

### ぬくもり

婚期の遅い私のことを先生は随分心配してくれていました。ようやく中国の方と結婚することとなり、二人で先生にあいさつに行きました。先生は心から喜ばれ、彼女をととても可愛がってくれました。日本へ来てまだ月日の浅い頃、彼女とささいな喧嘩をしました。どこを捜しても彼女の姿が見当たりませんでした。中山先生の所へ行ってみました。すると、彼女がそこに居ました。まだ言葉は十分分からなかったのに中山先生のぬくもりのある人柄を感じとっていたのです。



日和佐中学時代の私（左）と中山先生

### 偲ぶ会

近々、「中山先生を偲ぶ会」を計画し、当時の日和佐中学校剣道部員に呼びかけたところ、多数の者の出席が確認できました。北海道からの参加者もいます。五十年近い再会となります。中山先生も喜んでいると思います。

### 感謝

私は、中山先生に出逢えて最高に幸せでした。中山先生、本当にありがとうございました。合掌

### 追伸

中山先生が愛用されていた剣道具を、「一心館道場」に飾っています。先生と居るようです。



中山先生愛用の木刀と防具

## 恩師 中山啓男先生を偲ぶ

丹生谷支部 井村 雅人

令和三年二月二十七日（土）恩師・中山啓男先生が逝去されました。

先生がご病気で入院する前に繁輝先輩から「もう会えないかも」と連絡があり、教え子三人（若松・水本・井村）で会わせていただきました。それが最後となり、覚悟はしていましたが、残念ですなりません。

二月二十七日、繁輝先輩から連絡があり、訃報に悲しむ半面「先生はやっと、最愛の奥様のもとへ旅立たれたんだなあ」とも思いました。先生との思い出を文章にするにはまだまだ不肖の弟ですが、先生の御供養になればと書かせていただきます。

当時、中山先生のご自宅は日和佐中学校から近く、私の家もその通り道にあり、ご子息の繁輝先輩とは小学四年生で出会いました。繁輝先輩が剣道をされていた影響で私も剣道を始めました。そして、先輩の父である中山啓男先生に初めてお目にかかりました。その後、先生宅の庭で剣道の指導を受けました。タイヤの打ち込み台の前に白線を引き、飛び込む位置を除々に離して遠くしました。あの遠間からの打ち込み稽古が私の原点となったと思います。

五十年前当時、中山先生率いる日和佐中学校剣道部はすでに県

下を征するチームでした。その剣道部に私達新人部員（井村・櫻井・若松・水本・杉原・岩田・香川・原・小島・十一）十名が入部しました。先生の稽古は厳しく体育館フロアーが使えない時は、体育館の舞台で掛かり稽古をし、舞台も使えない時はグラウンドもしくは大浜海岸で稽古が行われました。「稽古を一日休んだら一週間遅れる！」と言った先生は、まさに剣道の鬼でした。しかし、その情熱が生徒達を県下優勝に導いたのだと確信しています。

正月は初稽古（寒稽古（徳島武道館）夏は暑中稽古（木頭合宿・徳島武道館）休みはなかったと記憶しています。二年、三年と厳しい稽古が続き、部外からは影山美雄先生（一心館館長）や福井軍二先生（令和元年他界）率いる水産高校生、繁輝先輩には新田高校からの帰省時に稽古をつけていただきました。

私が三年生になった時に、赤松中学校と日和佐中学校が統合し、剣道部員が五十名近くになり先生も大変であったと思います。統合後、さらに稽古に励み、県下優勝を果たして、全国大会出場、ベスト八に進出しました。これも偏に先生の統率力の賜物だと思います。

先生は私達生徒に単に試合の勝ち方を教えるのではなく、生徒一人一人を叱咤激励し、生徒のやる気を引き出し、試合に勝たせる剣道指導だったと私は思います。また、礼儀作法にも厳しく取り組み、心の持ち方等、人としての生き方そのものを教えていただきました。

その後、私達同期四名は水産高校に進学し福井軍二先生に育て





第44回全国中学生選抜剣道優勝大会

られ、高校においても県下初優勝を成し遂げました。中学、高校と県下優勝できたのは中山先生の教えがあったからだと信じています。今振り返ると中学で中山先生に人として生きる根っこを鍛えてもらい、高校で福井軍二先生に成長させて頂きました。まさ



一心館アルバム  
平成21年～24年

に剣道による人間形成を実践して私達を育ててくれたのだと思っています。

私が四十五歳、七段審査前に先生にかかり稽古をお願いした時、快く引き受けてくださり、雑念が消え、無事七段に昇段できました。先生が雑念を打ち消してくれたと信じています。

それから先生とはずっと交流があり、お酒を飲む機会があると愛妻家の先生が「井村君、奥さんを大切にしてあげろよ！」との一言が先生から私への最後の教えでした。先生の最後の教えを守ります。「中山先生、ありがとうございました。」 合掌

## 至誠通天の生き様中山啓男先生

海部支部 富 浦 廣 志

本年二月二十七日、母校日和佐中学校での師、中山啓男先生が他界された。九十才の生涯をまっとうされた。

先生は、日和佐町に生を受け、三十歳を過ぎてから剣道を始めたと伝え聞いている。ご長男の繁輝先輩は、日和佐中学校の四つ上の先輩で、新田高校、日本体育大学へ進まれ、徳島文理中学校で勤務され、私と同じ教員の先輩としてもご指導を頂いた。また兵庫県で高校の先生をされていた高村克人八段は中山先生の下で剣道を始められた。大阪体育大学の寒稽古で初めてお会いし、自己紹介をさせていただいたが、中山先生の近況などを大変心配されていた。また、阿南第一中学校を何度も県代表として全国総体に導かれ、専門部長として長らく徳島県のために働かれた村井先生も中山先生のご指導を受けている。どの先生方も真摯に剣道に向き合われ、同じ教員の仲間としてもご尊敬している。

日和佐は風光明媚で人情も厚く素敵な町であるが、これほどの人材が育っていく土壌は、中山先生がそこで教鞭を取られたということであるように思う。私は同級生二十二人の中からキャプテンに選ばれた。責任感?からか毎日一番に先生に掛かっていった。先生が面を着けるまでの待っている間、怖さから足が震えたのを思い出す。一見は勝利至上主義、徹底的に勝つことを求められた。

一つ上の先輩は全中ベスト八を果たし全盛期を迎えた。先生は身長が一六〇センチメートルなかったと思う。その先生が、毎日毎日育ち盛りの生徒の掛かり稽古の元たちに立たれた。先生こそ苦しかっただろうと今ならわかる。無尽蔵のバイタリティ、目標達成のためのファイトとメンタリティ。これらを確かに子ども達は学んでいったと思う。

先生は退職後、繁輝先輩が働く徳島文理中学校と日和佐町の間に位置する羽ノ浦町で徳島至誠館道場を開館された。先生の人柄か、多くの剣道家が集まり、稽古場所となり、また、多くの子ども達も剣道を学ぶようになっていた。道場に通う小学生達は県下の大会を総なめにする活躍を見せた。そして、その進路先でも活躍している。ここでも先生は、ゼロから始めて多大なる成果へと繋げている。

ご自身もねりんピック徳島大会、徳島県大将として日本一となられた。三十歳過ぎから剣道を始め、七段となり年輪ピックで団体優勝。このことは先生ご自身が剣道にいかに向き合ってきたかということを物語っていると思う。

八段審査の道すがら、至誠館道場の前を通る。「八段受かりましたら、ご報告に参ります。」疎遠になっている言い訳をしながら、九年間前の道を通った。

平成二十八年五月二日、八段合格。すぐに先生にお会いしに行きました。病床に伏せられる先生にお会いする事ができた。先生はパーキンソン病を患っておられた。先生に「八段に昇段することがで

きました。」とお伝えしたところ、「おめでとう。」と言っていた  
だいた後、「ところで、富浦は元気にしておるか？」とお尋ねに  
なった。私は先生が老いられることや、病に伏せられることが不  
思議だった。そんなことは起こらないと思っていた。それほど屈  
強なイメージが私には刷り込まれていたのかもしれない。勘違い  
されたことも、病床にあっても私のことを忘れずに心にかけてい  
ただいことが嬉しかった。

二月二十八日、海部郡昇段祝賀剣道大会の朝、先生の悲報を知っ  
た。時節柄家族葬でという知らせだったが、先生に私の人生その  
ものを支えてくれたお礼を言いたい、また、最後の姿を目に焼き  
付けておきたいという思いに駆られ、会葬をお願いした。葬儀の  
日、改めて一人で生きていけないこと、剣道を通してお互いの人生  
が重なり合って深い思いに繋がっていること、関わっていただい  
たことへの感謝を改めて感じた。

四月に繁輝先輩から、至誠館道場へ呼んで頂き、遺品をいただ  
く事ができた。達磨大師の掛け軸。これは、先生のお宅に飲み  
行った時に、酔った勢いで欲しいと言ったのを覚えていてくださ  
たとのこと。あと、素振り用の木剣と「至誠通天」と書かれた扇  
子。

至誠館道場という名も、至誠通天に由来するのだろうか。生前繁  
輝先輩に「我が人生に悔いなし。」と語られていたそうだ。私利  
私欲を排して、教師として、また修行者として、誠を貫いて生き  
てきたことに悔いがないのだろうかと推察している。

中学校から剣道を始めた私が県チャンピオンを目指したり、八  
段審査に九年かかっても挑戦し続けることができたのも、強烈な  
先生の生き方を見て育ったからかもしれない。

今年三月末で、私も三十三年の教員生活を定年退職した。現在  
は初任者指導員として、週三日、三校に勤務している。各校の生  
徒の皆さんとも楽しく稽古をさせていただいている。昨今は武道  
においても、「コンプライアンス」は皆が心得なければならぬ課  
題として定義されている。一見勝利至上主義と前記したが、中山  
先生は勝利至上主義ではない。子どもの成長を一番に願い、また  
自分にも課したように、周りからはちょっと無理に見えることも、  
誠心誠意向き合えば叶うという充実した人生を定義したかったの  
ではないかと思う。

私は先生から抱えきれない愛を頂いて育った。また、夢や目標  
を持って生きることが充実した人生になることも知った。学んだ  
ことが切先を通して相手に伝わるように、「目の前にいる稽古の  
相手を大切に」をこれからの修行の目標として、もうひと頑張り  
しようと思う。

注…剣道時代十一月号に掲載されたものを一部修正し、再掲して  
います。



中山先生と私（右端上段）影山美雄先生所蔵





## 中山啓男先生を偲んで

元全国高体連剣道副部长 高村 克人



ご息、繁輝先生からの中山啓男先生がお亡くなりになられていたことの知らせを受け、一度徳島を訪れておくべきだったという後悔の念と、五十年前の日和佐での日々が頭の中を走馬燈のように駆け巡りました。中山啓男先生のご薫陶を賜れたのはたった一年間だけのことでしたが、それまでの私の生活にはなかった楽しく濃密な一年であり、その後の私の人生を明確に方向付けていただいた一年間でした。

私は徳島市内の中学校に入学をしましたが、その中学校では全員が必ずどこかの部活動に入部しなければならないとのことで剣道部に入部しました。テレビドラマの影響もあったのかもしれませんが、一番の理由は練習日が最も少ない部活動だったからです。練習は水曜日と土曜日の朝練習のみ、放課後や日曜の練習は無し。放課後は仲の良い友達と学校の中庭にある鉄棒で競い合ったり、当時はやっていたボウリングにいたり楽しい時間を謳歌していました。その年の九月の異動で父は日和佐に転勤となり先ずは単身で赴任しました。そこで父は中山啓男先生と出会い「息子は剣道をやっている。翌年四月には日和佐に移ってくるので剣道部に

入れる。」と約束をしたそうです。中学二年になる四月、日和佐中学校に転校すると同時に剣道部に入部することとなりました。

日和佐中学校では前の中学校とは異なり毎日が練習でした。休みはおそらく一年間で十日もなかったのではないかと思います。

近くの大浜海岸でのランニングやウサギ跳びなどは辛かった記憶があるものの、剣道具を付けて稽古で辛かった、剣道の稽古が厭だったという記憶はありません。通常行っていた体育館での稽古だけではなく、水産高校への出稽古、薄暗い小学校講堂での稽古や校舎屋上での稽古など、色々工夫をされていくにかく毎日新鮮で楽しかったと記憶しています。

また、打ち方や技のことは繁輝先生など一学年上の先輩からの指導はありましたが、不思議なことに先生から技のご指導や型にはまった打ち方のご指導をいただいた記憶がありません。稽古の時、先生はただ面金の向こうでニコニコされながら「頑張とーか？おー、そうか。いいぞ。」と声を掛けていただきながら稽古をつけていただいていたように思います。細かなご指導をいただいた記憶があるのは剣道形です。初めて習ったものということもあるのですが、強く印象に残っています。卓球部が体育館のフロアーを利用して時のステージ上で一緒にテキスト（昭和四十七年でしたから大日本帝国剣道形のテキストであったと思います）を見ながらかなりの日数を掛け、第一本から第七本まで教わりました。また先生のユニークなご指導、他の先生方も巻き込んだの活動も印象に残っています。陸上部や野球部の生徒を呼んでこられ、



私たちと一緒に稽古をさせられました。運動神経の良い陸上部の生徒に齒が立たなかったことをよく覚えています。また、理科の大橋先生や英語の岡本先生、担任で体育の太田先生なども時々稽古にお見えになり一緒に稽古をさせていただきました。大橋先生には全く敵いませんでした。担任の太田先生を時々打てたことが楽しかったという思い出もあります。剣道の稽古の後、先生方とソフトボールをして遊んだり一緒にスイカを頬張ったり、とにかく楽しかった思い出ばかりです。

中山啓男先生は、希望する生徒を週に一、二度ご自宅に呼ばれ英語の勉強会をされておりました。私のクラスの英語担当は岡本先生でしたが、私も中山啓男先生の勉強会に参加させていただいていました。とにかく、一年三六五日、公私をたがわず私たち生徒に接してくださいました。太い黒縁のメガネを額の上に上げ、いつもエネルギーでそして笑顔で私たち生徒に接してください、いつもに徹しいお顔をされた時にも瞳の奥は笑っていました。中山啓男先生、日和佐中学校、そして剣道部で過ごした十三、十四才の一年間は間違いなくその後の私の人生の方向付けとなりました。

先生を通じて剣道が好きになり、中山啓男先生のように学校で剣道を教えるような大人になりたいという思いが芽生えていたと思います。父の勤務の関係で一年で日和佐を後にして父母の本籍地である尼崎に転居することになりましたが、転校先の中学校には剣道部がありませんでした。何とか剣道が続けたいという思い

から剣道経験者一名を探し出し、三名で職員室に行って剣道部を作ってもらいました。当然体育館は使用できずグラウンド片隅一面の石を拾い、面を付ける時のために簀すゑを一枚置いただけの道場でした。

高校は市立尼崎高校に入学しましたが、合格発表の日に剣道部への入部を決め、入学式前から練習に参加させていただきました。後に分かったことでしたが、この時の市立尼崎高校剣道部顧問の伊澤章先生は徳島県脇町のご出身でした。大学は教員として剣道を教えたいとの思いから進学先を筑波大学に決めました。中山啓男先生の勉強会にも参加させていただいていたのですが、どうも英語は苦手で体育教師の道を選びました。

三十一年間、兵庫県高校剣道部顧問として高校生と接してきました。中山啓男先生のようにすべてを包み込むような愛情で生徒と接することを理想としながら、どれだけのが出来たのかわからないままに三十八年間の教員生活を終えてしまいました。先生のようにはなれませんでした。先生にご指導いただいた日和佐での一年がその後の私の人生の方向付けとなり、剣道に関わり多くの剣友を得、今でも剣道が続けられることに感謝しかありません。先生のご冥福を心よりお祈りいたします。

# 全国講習会報告

## 令和三年度（第五十六回）

### 「剣道中央講習会」報告

教士七段 藤川和秋

令和三年四月三日（土）～四月四日

（日）の二日間、兵庫県神戸市立中央体育館において、全日本剣道連盟主催の令和三年度（第五十六回）剣道中央講習会が開催され、徳島県を代表し本講習会に

参加した内容を報告させていただきます。

#### 一 ガバナンス・コンプライアンス（～全剣連の取組み～）

【中谷専務理事】

○ ガバナンス

- ① 「統治・支配・管理」
- ② 適切な組織運営（スポーツ庁）
- ③ スポーツ団体として社会的責任を果たす方策
- ④ 組織の権限・責任・相互牽制関係の明確化、情報公開等による説明責任

○ コンプライアンス

- ① 法令遵守、社会常識、良識
- ② コンプライアンスを維持するための管理体制「ガバナンス」
- ③ ガバナンスの強化がコンプライアンスの強化に

#### 二 全日本剣道連盟における倫理に関するガイドライン

【中谷専務理事】

○ 「一般財団法人全日本剣道連盟における倫理に関するガイドライン」（全日本剣道連盟ホームページ掲載を参照）

#### 三 新型コロナウイルス感染症対策【宮坂昌之講師】

○ 新型コロナとは一～二年は付き合っていかなざるを得ない！

- ① 人混みを避けること。（対人距離を一、五～二メートル＋送風・換気）
- ② 手洗い、消毒、マスク着用を励行すること。
- ③ ワクチン接種を受けること。
- ④ 生活リズムをなるべく崩さないこと。体内時計の維持が、食事、睡眠、免疫力の維持に大事。
- ⑤ 体を動かすこと。
- ⑥ 正しい知識を得て、道筋を立てて考える習慣をつけること。正しい知識を得れば、自分自身にアラートを出せるようになる。「自分の身は自分で守る」ことが大事。

#### 四 女子委員会の活動と役割【佐藤厚子常任理事】

- 魅力ある女子大会の改善を図るため全日本都道府県對抗女子剣道優勝大会出場枠増への実施を計画する。(令和四年度で計画)

- 子育て中の女性剣道の普及を図るため、大会時に保育室を設置する。

令和三年七月十日(土)に奈良県で行われる全日本都道府県對抗女子剣道優勝大会において選手・監督の子(乳幼児)を保育する「保育ルーム」を開設し、保育士を設置する。

- 剣道人口減少を食い止めるには、女性特有の母性や優しさは幼年指導に適しており、女性剣士の活用が必要との提言。
- 女性役員の配置。(すでに二十五都道府県において女性理事を配置)

## 五 剣道の稽古法及び指導の在り方【中田琇士講師】

- 「全剣連ガイドラインを踏まえた剣道の稽古法及び指導の在り方」について指導(全日本剣道連盟ホームページ掲載を参照)

## 六 ガイドラインを踏まえた試合・審判の留意点【香田郡秀講師】

- 「新型コロナウイルス感染症が収束するまでの暫定的な試合審判法」について指導(全日本剣道連盟ホームページ掲載を参照)

- 地元大学生が試合を行い、受講生三名一組により試合審判

法の実技を行った。

## 七 日本剣道形の指導【中田琇士講師】

- 「日本剣道形」を受講生が太刀七本、小太刀三本を指導を受けながら実技

- ① 日本剣道形解説書・講習会資料を熟読、精通する。
- ② 日本剣道形の修練を通じて、剣道の原点である剣の理法を学び、剣道の正しい普及発展に役立てることが目的。
- ③ 我が国の伝統文化として次代に正しく継承しなければならない。その為に平素から日本剣道形の修練に努める必要がある。

## 八 質疑応答

- 面マスク着用方法の統一

### 【質疑】

稽古中の面マスクの着用については、鼻を出して稽古を行うことも可とあるが、暫定的な試合・審判法ではマスクは口鼻を隠し、正しく装着するとなっており、稽古と試合で一貫性に欠け現場では混乱している。

### 【応答】(中谷専務理事)

稽古時及び試合時における面マスクの着用方法は、全剣連として口鼻を隠し正しく装着することに統一します。

- 全国大会への選手の参加について

【質疑】

大阪市で開催される全日本都道府県対抗剣道優勝大会ですが、新型コロナウイルス感染が急増している中、各都道府県の参加選手はいろんな職種、環境で生活しており、大阪市への大会に派遣すれば、帰県後、感染対策の一環として数々の行動制限があり、参加できない選手が出てきています。全剣連は大会開催を予定通り行うのですか。

【応答】（中谷専務理事）

全剣連は、面マスクを着用し、感染対策を行いながら、審査会および全日本剣道選手権大会も行いました。その中でコロナの新規感染やクラスターは発生していません。その検証の上に立ち予定通り開催致します。参加できない選手がいれば監督会議での選手変更も認めていますので、何卒ご理解の程お願い致します。

※ 令和三年四月二十九日の全日本都道府県対抗剣道優勝大会は結果として延期され、十二月二十六日に和歌山県において開催されました。

以上



## 第四十八回居合道 中央・地区講習に参加して

居合道部 坂本 憲 一

本年度の講習会は中央講習会・地区講習会を合併した形で開催されました。西日本地区は、六月二十六・二十七日の二日間、大分県の昭和電工武道スポーツセンターを会場に、参加総数は一五五名（六段以上）、本県からは私一名が参加致しました。

一日目、十時から始まった開講式では、真砂会長のコロナ禍での開催に対する激励の言葉、地元大分県連会長からは歓迎と激励の挨拶。続いて中谷専務理事からは、全剣連新体制役員の発表、配布資料に基づくガバナンスの強化とコンプライアンスの徹底によって不祥事を防止し、社会から信頼される居合道界を作っていく旨の報告がありました。

続いて十一時三十分から始まった「全剣連居合」の講習では、作法及び一本目から十二本目までを草間純一講師が解説、佐藤四十一講師が演武し、最初の作法では、礼式での安易な立ち居振る舞いを戒め、再度の演武に解説を交えて作法の重要性を強調されました。

一本目から十二本目までの技前では、仮想敵の想定を重視し、技の目的、動きの状況を詳細に説明、重要ヶ所に付いては理解し易くするため説明と演武が繰り返されました。午後からは、居合

道委員による班別での実技講習となり、一班は小倉範士（八段三十名）、二班は小田原範士（七段三十名）、三班は横田範士（七段三十名）、四班は佐藤範士（七段二十九名）、五班は範士中村正人先生（六段三十二名）、六班は草間範士（六段三十名）の編成で、私は一班に所属し、小倉先生より、各技前に置ける基本的な動作、抜き付け時の手と足の使い方や、切り下ろしにおける体全体の動き、間の取り方など実に詳細な指導を受けました。特に、仮想敵を自分の中にしっかりと想定し、対応できるように技を練り込む必要があることを強調されました。

二日目の午前中は審判講習となり、最初、中村講師が第五十六回全日本居合道大会審判要領について試合中の負傷における審判員、選手、時計係等々対応動作についての説明があり、その後、八段を審判要員とし、三人一組で三班に編成、私は三班での参加でした。講習内容は六段の受講者を模擬試合者として、判定後、何故勝者としたかの判定理由を班長がそれぞれの審判員に質問するという形で行われました。

午後からの古流研究は、地元の関口流をはじめ、神伝流・英信流・伯耆流・重信流・田宮流・無外流の六流派から代表者が選ばれそれぞれ特色ある技前が披露されました。中でも地元大分に継承されている関口流の技前は、本県東西の武田家には数多くの関口流関係文書が伝えられているものの技前は途絶えており、実に興味深く拝見することができました。

閉講式にあたっては、草間委員長より、今回学んだことを正し



く伝達して貰いたいの挨拶があり、本県においては、十一月七日、松茂町第二体育館に於いて伝達講習会が開催され、講師は不肖ながら私が務め、参加者は二十三名。午前中に全剣連居合を午後には審判講習を行い、午後四時伝達講習会を終了致しました。



## 令和三年度 全日本剣道連盟

### 授業協力者養成講習会

#### (オンライン会議) を受講して

教士七段 藤 川 和 秋



スポーツ庁委託事業「令和三年度武道等指導充実・資質向上支援事業」の一環として例年全日本剣道連盟が実施している日本武道館研修センター（千葉県勝浦市）における授業協力者講師中央オリエンテーションは、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点からオンライン会議として今年度は令和三年九月十日実施されました。その内容は次のとおりです。

#### 一 開会の挨拶（網代副会長）

#### 二 コンプライアンス及び新型コロナウイルス感染症予防について

（中谷専務理事）

- ガバナンス・コンプライアンスの全剣連の取組みの説明
- ガイドラインに対する違反行為があった場合
  - ・ 全剣連綱紀委員会規則による処分
  - ・ 都道府県に懲罰規程整備を依頼

#### 三 令和二年度武道等指導充実・脂質向上支援事業の成果報告と

##### 令和三年度の実施概要（百鬼委員）

- 授業協力者登録数 三・九八五名（全国）
- 中学校における剣道授業実施の動向
  - ・ 平成三十年 三四・四％（全国）が令和元年度 十三・一％
  - ・ 令和二年度 八・五％とコロナ禍のため外部者の入校自粛等により減少
- 配当時間
  - ・ 八時間が最も多い。
- 授業協力者の参加者は、男性が八七・五％ 女性が十二・五％
- 年齢層は六十代が五一・七％ 七十代が二三・八％ 六十歳以上の参加者が多い。
- 段位は六段以上の高段者が八四・四％を占めた。
- 授業協力者活用実践校からの回答
  - ・ 保健体育科教員、管理職全てが安全に展開できたと強く思っている。
  - ・ 生徒からの回答
    - 剣道に興味や親しみを持つことができた。八六・八％で前年より減少した。問題点を分析・検討する必要がある。また九二・七％が授業協力者を肯定的に捉えている。
- まとめ

・授業協力者の指導への意識レベルは極めて高く意欲的である。

・生徒、保健体育科教員、校長等の評価は極めて高く学習効果は高い。

・授業協力者活用校での公開授業実施校をさらに増やす。

○ 令和三年度事業計画

・各都道府県での授業協力者養成講習会の開催（十月～十二月）

・公開授業の実施（十八県、十月～令和四年一月）

・学習効果の分析・検証（十月～令和四年二月）

四 令和三年度からの新学習指導要領全面实施のための重点事項の理解（山田委員）

○ 「剣道授業の展開」ダイジェスト版第四版参照

・発達の段階に応じた指導内容の理解

①知識及び技能 ②思考力、判断力、表現力等 ③学びに向かう力、人間性等

・基本となる技

①応じ技（面抜き胴）――二年生 ②応じ技（小手抜き

面）三年生 ③しかけ技（出ばな面）三年生 等

○ 礼を重視する指導

・伝統的な行動の仕方を学ぶ

・日常生活における礼について

・授業での礼―あいてを尊重する、自己を律する礼  
・三つの礼

①場に対する礼 ②先生に対する礼 ③相互の礼 等

五 新型コロナウイルス感染症予防に留意した中学校における剣道授業の展開（手引き）と学習指導計画（軽米委員長）

○ 全剣連は「新型コロナウイルス感染症予防に留意した中学校における剣道授業の展開（手引き）」を参考にして

・学習内容は新型コロナウイルス感染症予防の観点から安全なフィジカルディスタンスの保持及び方向などに留意して基本動作から対人稽古へ発展し行わせる。

・剣道器具を用いて授業をする場合には、剣道用具を共有することが多いことから感染の収束までは剣道器具や剣道着の着用は出来るだけ控えることとし、学習内容の一つである「木刀による剣道基本技稽古法」等を活用し、指導者や相手と安全な距離を保ち剣道の技の学習を中心とした授業を全剣連として推奨する。

六 公開授業、コロナ禍での授業実践発表

○ 大分県―公開授業（剣道具着装での授業例）

○ 富山県―「いたく竹刀」を制作し「木刀による剣道基本技稽古法」を用いてコロナ禍でも可能な剣道授業を提案する

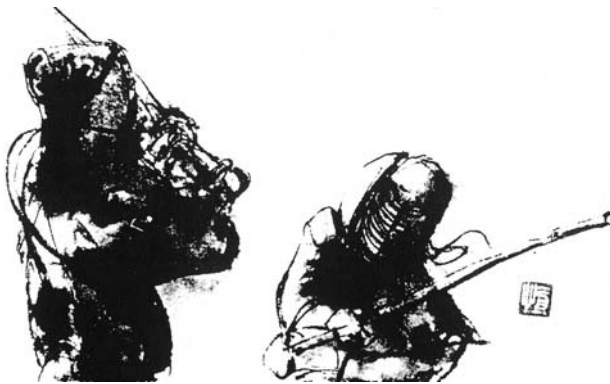
DVDを作成した。

七 公開授業の実施計画調整・アンケート調査依頼

- 全国で公開授業十八箇所予定。
- アンケート調査は調査用紙でなく新たに回答者本人のスマートフォンやタブレットそしてパソコン等を用いて質問に答える形式とする。

八 閉会の言葉（網代副会長）

※ 以上講習内容を基に徳島県剣道連盟は令和三年十月二日（土）に松茂町第二体育館に県下中学校十校に派遣する授業協力者十九名を招致し、県下の授業協力者養成講習会を開催した。その結果、県下の方針として全剣連が推奨する剣道具がない授業（竹刀による剣道基本技稽古法）を展開することで意思統一を図った。



## 中学校武道必修化としての 剣道授業の展開（一年生～二年生）

授業協力者 高島 稔之

### 徳島市城西中学校での授業実践

令和三年十月十八日（月）～十一月十六日（火）

#### 一、徳島県剣道連盟派遣の指導者

剣道教士 七段 高島 稔之

剣道教士 七段 中村 稔裕

剣道 七段 乾 清孝

受講生徒 一年生（六学級男女）二〇二名

二年生（六学級男女）一九〇名

#### 二、各学年（指導日時）

下記の指導日程で、一年生・二年生共に、男女合同で、それぞれ四時間ずつの指導を行うことになった。

今の二年生は、コロナウイルスの関係で、剣道の授業を受けていないので、一年生と同じ内容で指導した。

その指導案は下記の通りである。なお、指導案中に出てくる剣道用語については、ラミネートしたカードを作成し、ホワイトボードに掲示し活用している。『左座右起』・『帯刀』・『構え刀』など。

#### 三、各学年（指導日時）

##### 【二年生（男女）】

1・2組 男女共修	10月18日(月)	1校時
	22日(金)	2校時
	25日(月)	1校時
	28日(木)	5校時
3・4組 男女共修	10月18日(月)	2校時
	19日(火)	6校時
	22日(金)	1校時
	25日(月)	2校時
5・6組 男女共修	10月19日(火)	5校時
	22日(金)	3校時
	26日(火)	5校時
	28日(木)	4校時

##### 【二年生（男女）】

1・6組 男女共修	11月4日(木)	6校時
	9日(火)	3校時
	11日(木)	6校時
	15日(月)	3校時
2・3組 男女共修	11月4日(木)	4校時
	11日(木)	4校時
	15日(月)	4校時
	16日(火)	2校時
4・5組 男女共修	11月4日(木)	5校時
	9日(火)	4校時
	11日(木)	5校時
	16日(火)	1校時



## ＜ 指 導 案 ＞

中学校武道必修化としての剣道授業の指導（1年生）

城西中学校（第1次）令和3年10月18日（月）～

段階	学習内容・活動	指導上の留意点	
		担当教師（T1・T2）	指導協力者（T3・T4・T5）
導入 10分	1 必修剣道の実施について知る。 （・自己紹介 ・準備運動）	①本時の授業説明と指導協力者の自己紹介。 ③準備運動（剣道場内） * 左右交互後のスキップ →右足前の踏み込み足	②自己紹介をする。 （T3 高島→T4 中村→T5 乾）
展開 35分	2 剣道実技を見学し、今後の学習の意識付けと、イメージ化を図る。 （15分）	* 協力者に剣道実技を依頼する。 ①見たことのない生徒のために ②意識付け・今後の指導の基礎づくりのために	* T3が指示・説明を行う。 T4・T5の防具着装の合間を活用し、T3が学習活動2～4の概説を行う。 * T4・5が剣道実技を見せる。 ①互角稽古を行う。 ②打突部位と基本打突を見せる。 ・面 ・小手 ・胴 ・突き （2回ずつ、基本打突を行う。）
	3 剣道の歴史や特性について知る。 （10分）	* 協力者に主たる指導を依頼すると共に支援を行う。	* T3が説明（T4・T5が支援） ①剣道の歴史 ・剣・刀の起こりと変遷（刀→木刀） ・剣術から剣道へ（木刀→竹刀） （竹刀と防具、稽古着・袴） ②剣道の特性 ・特に「礼儀」を大切に （正座「左座右起」・座礼・立礼）
	4 竹刀各部の名称と竹刀の操作について知る。 （10分）	* 協力者に主たる指導を依頼すると共に支援を行う。	* T4が説明、T5が師範。 ①竹刀の説明『各部の名称を』 ②竹刀操作上の言葉と師範（実演） ・提刀・帯刀・構え刀・納め刀 （抜き方・納め方）
整理 5分	5 本時の学習の反省と、次時の学習について確認する。 （5分）	* 本時の反省・評価。 * 次時の学習について。 * 入館・退館の立礼について。	* 入館・退館時の立礼を師範し、本時の退出時から実施することを指示する。（T3・T4・T5）

\*指導案については、(第1次)〜(第4次)の中から、紙面の関係で(第1次)のみを掲載した。

(第2次)は、武道館の南面で、男子が防具(垂れ・胴)を着ける練習を、北面で女子が竹刀を使った練習を行った。

(第3次)は、男子・女子が(第2次)の逆の練習を行った。

(第4次)は、男女が南面・北面で、それぞれが、竹刀を使った練習を行った。

\*左の資料は、(第4次)授業の終了後、私たち3名の指導者それぞれに、届けてくれた礼状。

## 高島先生

この度は、お忙しい中 私たちのために  
お時間を作っていただき、ありがとうございます。  
私は初めて剣道に挑戦し、慣れないことで  
苦労も多かったです。また、普段の動きでは  
あまりしない動きもあり、体のあらゆるところが  
悲鳴をあげていました...

たった4時間という

短時間にもかかわらず、

丁寧にご指導

してくださり、

感謝でいっぱい  
です。

先生方に学んだ

こと、をこれから

様々な場面で活用

していきたいです。短い間でしたが、ありがとうございます。  
2021.11.16



城西中2年 宮本 絵美

# 徳島の剣道史

阿波の新々刀工 吉川祐芳

居合道部 坂本憲一

## 新々刀期の時代背景と刀鍛冶

幕末から明治の廃刀令（明治九年＝一八七六）までの間に造られた刀を新々刀と呼ぶ。阿波では、新々刀期の歴史的動向は概ね二期に分けることができる。

第一期は十代藩主蜂須賀重喜（一七三八～一八〇一）の途方もない力が刀剣界に影響したとされる宝暦・文政年間の動きである。

重喜は、元文三年（一七三八）、秋田の新田領佐竹壱岐守義通の四男として生まれ、宝暦四年（一七五四）、阿波二十五万七千石の藩主の座につく。聡明な青年藩主は、藩の逼迫財政を建て直すための国政改革（宝歴の御建直し）を性急に断行するが、それを不服とする重臣達と真っ向から対立する。改革は挫折し、明和六年（一七六九）、「国政平ならず士民艱困」の理由で、幕府から隠居を命ぜられる。以後大谷邸に籠もり、質素儉約とは裏腹に贅沢三昧の日々を過ごす。周辺には文人墨客、種々の職人衆が繁く



写真1 十代藩主蜂須賀重喜の墓  
万年山墓地にある儒葬墓



写真2 十代藩主蜂須賀齋裕の墓  
万年山墓地にある儒葬墓

往来し、趣味の世界に没頭する。

刀剣界では、すでに大坂の尾崎助隆門で名のあった安芸佐之を佐名河内村より召し出し、御殿のある大谷村に鍛造地を与え士分格として出仕させる。これが重喜が保護した刀工の嚆矢で、以後この一門は四代の継承をみる。重喜はさらに士分格の刀鍛冶、石川正守・同正直・笠井尊輝・近藤宗利四名を選び江戸の名工水心子正秀のもとへ作刀修行のため派遣する。これが世にいう「重喜の派遣刀工」である。彼らは大いにその技量を発揮し阿波における新々刀期の中心的刀工へと成長する。

第二期は天保年間から慶応年間に至る動きである。十三代藩主齋裕（一八一二〜一八〇一）の兵制改革の影響を受けて鉄砲重視の思想が蔓延、多くの刀鍛冶が鉄砲鍛冶に転向するなど一時は衰退するものの、藩工に列する笠井一門、石川一門では、刀鍛冶、鉄砲鍛冶の両輪で活躍するものが現れる。また、藩工とは別に市井における刀工の活躍が見られるのも第二期の大きな特徴である。藩の庇護を受けず在野にあって自己の技量のみを頼りに活躍した刀工たちには、刀劍子正宗、山口国親、吉川祐芳、柴田正包（祐芳の弟）等がいる。なかでも吉川祐芳は他の刀工に比して抜きん出た活躍ぶりを見せる。

### 吉川祐芳の人物像

吉川祐芳は、本名を六郎、諱は源六、天保四年一月三日、父庄藏の長男として徳島県那賀郡下大野村（現羽ノ浦町明見）に生ま





写真3 吉川祐芳の師匠 安芸佐重の墓  
戒名「廓道良意居士」  
香炉台には海部氏吉（益平）の名がある

れる。明治三十年十月九日、六十八歳で没するが、阿波の新々刀工中、第一の多作家で知られる。実子徳太郎（安政元年九月五日生、二代目祐芳Ⅱ吉川大明）の口述書によれば、本来は「吉川」を「きっかわ」（阿波ではよしかわ）と読み、周防の毛利一族吉川家の末裔で阿波に来て代々源六を襲名して医を業とした。祐芳に至っては医師を嫌い刀工を志し、先の藩工に列している安芸佐重に入門して師匠の一字を貰い「佐芳」を名乗り良工の評判を得た。

師匠の佐重は、娘婿にと臨んで手放さなかったが、名門吉川家の嫡男の身であるため、修業十年にして意を決し無断で佐重の門を出た。そのため帰郷独立しても「佐芳」と名乗ることをはばかり、読みが同じ「祐芳」銘を用いたという。その証左となる袋槍

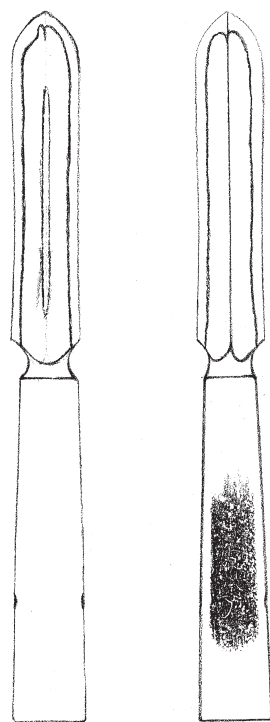


写真4 祐芳の初期銘「佐芳銘」の袋槍

が現存する。なお、弟の吉川一平も兄同様刀鍛冶となり、中之島村岡の柴田家に入り、柴田正包を名乗り作刀、維新後は、接木包丁、金突などを造る野鍛冶に転じている。

### 祐芳の作風

作風は、地鉄が杓目・板目のよく詰んだ無地鉄様のものと「古鉄鍛え」と称した肌たつものの二種類が有り、希には柎流れ肌のものもある。刃文は、匂出来の互の目乱か直刃が多い。互の目は、直ぐ焼きだしから大少の互の目が数個連なり一つのパターンを構成する。刃縁は締めり心となり、足は少ない。短刀は、直ぐ焼きだしから小互の目を連続して焼き、物打辺から切っ先にかけて直刃になり、返りが極めて深いのがこの工の特徴である。幕末期に





写真5 祐芳の銘二様  
草書銘と楷書銘

は攘夷刀もしくは勤王刀と呼ばれる長寸ものが出現するが、これに影響を受けたものか、文久年間から慶應年間のものに反り浅く長寸（二尺六寸から八寸）ものを多く見る。これらは市井で活躍しただけに敏感に当時の流行を取り入れてのことだろう。銘

はいろいろ切るが、初期銘は「佐芳」、独立してからは「祐芳」「阿州吉川六郎源祐芳」。稀に冒頭に「南海」を冠したものがある。

銘の書体は楷書・草書体の二様があり、草書体のは慶応末年から明治初年のものに集中している。茎鏝は化粧鏝、筋違い、勝手下り、切鏝もある。特に祐芳が好んで用いた化粧鏝は香包鏝と呼称され、草書銘にこの鏝を施したものには入念作が多い。銘を刀でありながら太刀銘に切るのもこの刀工の特徴である。

## 祐芳の代表的作品

祐芳は新々刀工中、多作家で知られるだけに数々の逸話を世に伝える。徳島藩の近世史上最大の事件「庚午事変」は、明治三年に興る。この事変の思想的指導者として斬罪の刑に処せられたのが藩儒「新居水竹」である。刑の執行は切腹の形で行われたが、その際の介錯刀が祐芳の刀であったことは、介錯に携わった藩校長久館の愛弟子原金吾の手記に詳しい。この切腹は、日本刑法史上最後の切腹として世に知れる。

新選組局長近藤勇の愛刀は中曾禰入道虎徹の作として有名だが、祐芳の刀も愛刀の一振であった。この祐芳刀は、刃長七五・七咫。「阿州吉川六郎源祐芳 慶應元丑年八月日」の銘がある傑作刀の一つで、伝来覚書には「近藤所持阿州吉川六郎源祐芳 幕臣新選組隊長近藤勇捕イラレ斬首ノ上獄門トナル一夜下僕首ヲ盗ミ生前ノ愛刀ナリシ此ノ刀持チテ會津ニ走り密カニ葬ル 余郷土ノ歴史ニ関心アリ諸々ノ寺社佛閣ヲ尋ネシ所コノ史実ヲ知り首級ノ碑ヲ建テ此ノ刀ヲ受ク 陸軍少将 若松市長松江豊寿」とある。

覚書の主、陸軍将校松江豊寿少将は、第一次世界大戦には陸軍中佐（一九一七年以後大佐）で臨み、敵国ドイツの捕虜を収容した徳島県鳴門市の板東俘虜収容所の所長を務めた。大戦後の大正十一年、郷里の人々に推され会津若松市長に就任、当時の世相にも怯まず白虎隊墓地広場の拡大等、会津戦争の旧跡を顕彰整備していったのもこの人物である。刀工の出身地と、覚書の筆者の経

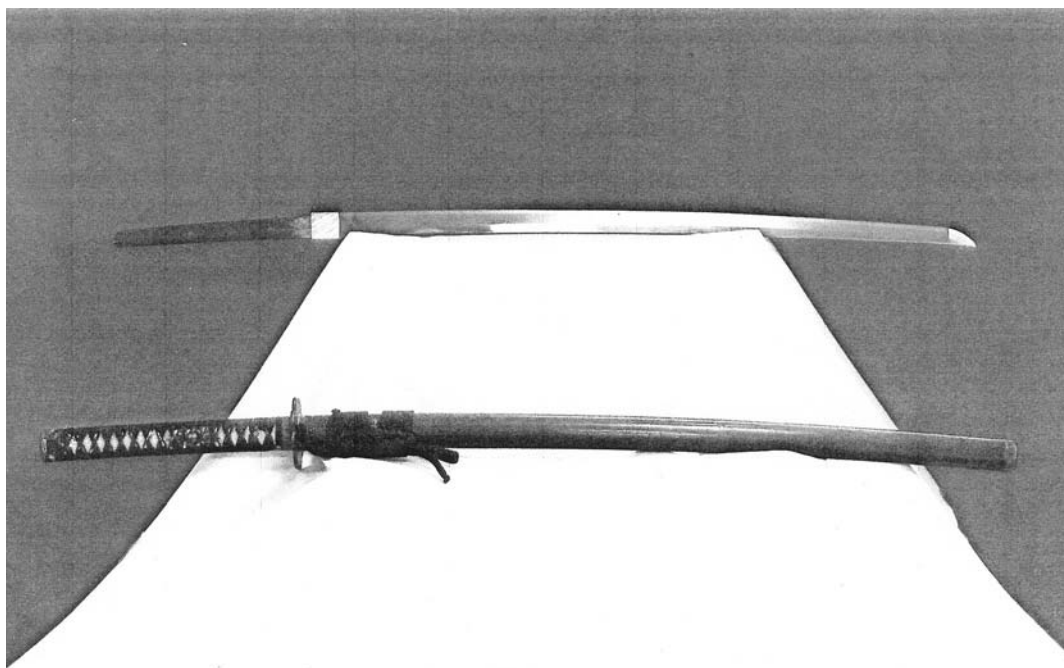


写真6 新選組局長 近藤勇の所持刀  
銘「阿州吉川源祐芳 慶應二年丑年八月日」  
霊山歴史資料館提供

歴とが阿波の徳島で繋がる。これも縁と言うべきか。

明治天皇は、正倉院の宝刀や公議御様御用の山田浅右衛門吉利献上の小龍影光を自らの軍刀にしつらえるなど刀をこよなく愛された。

天皇は、慶応四年、即位礼を上げるや、王政復古の御奉告と奥州平定の御祈願のため、全国諸刀工の中から十名の刀工を選び、伊勢神宮への奉納刀の作刀を命じられた。祐芳は受命刀工の一人として一振の奉納刀を鍛えている。この時の製作刀は、刃長七三寸、反り〇・九寸、銘は「南海六郎源祐芳 慶応四年二月日」と切る。特別な意味を込めたのか銘の冒頭に珍しく「南海」を冠している。この刀は平成十九年度の企画展「神宮の刀第四回御奉納刀―聖上の御心を拝して―」で初公開され、斯界の反響を呼んだ。

### 二代目吉川祐芳（吉川大明）の人物像

本名吉川徳太郎、父六郎の長男として安政三年（一八五六）九月五日に生まれる。明治四十二年（一九〇九）九月二十二日没、享年五十四。父六郎のもとで鍛冶修業、業成り、明治十五年二十七歳で独立、しばらくは父と同じ祐芳銘で作刀、後、住居を徳島から名西郡石井町の浦庄（浦庄村大字下浦村百四十二番屋敷）に移す。名西郡神山町神領の大栗臥竜翁の庇護を受けて明治三十六年の第五回内国勸業博覧会に吉川祐芳銘で出品し、全国六十余人中ただ二人の受賞者として、大阪住月山貞一（後の帝室技芸員）とともに褒状を受けた。

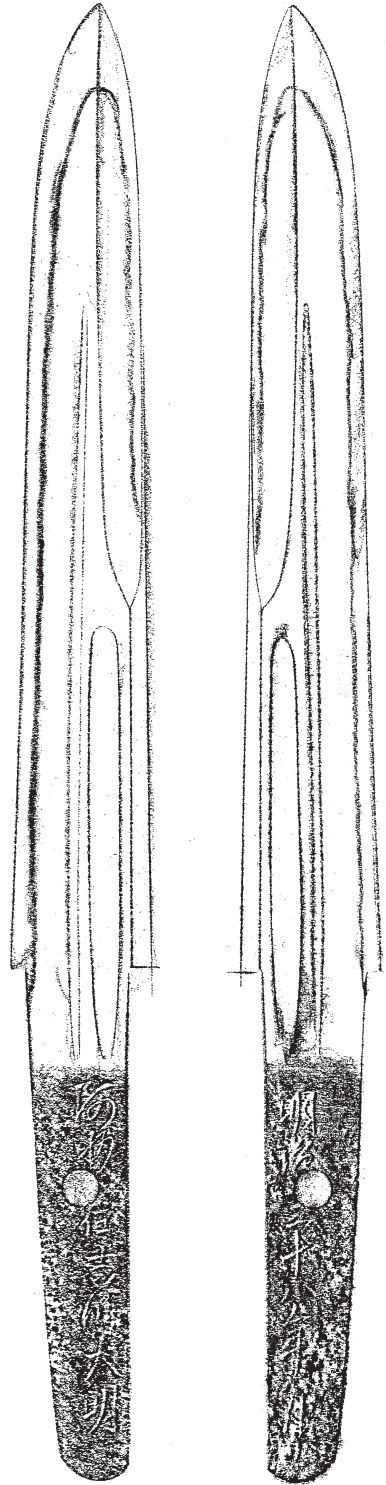


写真7 大明と改名した明治三十八年紀の短刀  
銘「阿州住吉川大明 明治三十八年八月日」

明治三十八年に「大明」と改名、刀匠銘として吉川大明を名乗る。大明の名は出生地「大野村明見」に由来するという。

### 吉川大明の作風と代表的作品

二代目祐芳は、磨刀令以後独立した刀鍛冶で刀剣の作品は極めて少なく、まれに短刀を見かけるほかに内国勸業博覧会への出品刀、臥竜翁のために鍛えた小烏丸写しの刀が現存する。これらから大明の作風を見ると、父の技術を忠実に継承していると見てよく、地鉄、刃文はまさに父譲りで、初期作は吉川祐芳銘を用いているため父の作品と混同されがちである。大明と改名してからの作風には当時阿波で流行した稲妻鍛（異鉄鍛）を取り入れ、

柰目、板目に交じり長い柰肌が数条、大肌になって表われるものがあり、初代との相違はこの点といえるだろう。

内国勸業博覧会の出品刀は、刃長六七・八寸、反り〇・八寸。

姿優美、地鉄は小柰目肌が見事に詰み、刃文は直刃、みじんの小沸がつく、銘は、父と同じ祐芳銘を用いており、山城伝を彷彿とさせる傑作刀である。惜しむらくは、戦後の混乱期に三区分されしまった。本刀には当時の白鞘が残されており、受賞の記念銘が刻されている。

小烏丸写しの刀は、刃長六七・六寸、反り〇・八寸、切っ先諸刃造りで刀身中程より七星剣、裏に不動明王の梵字と素剣がある。銘は大明と切る。よき理解者であった大栗臥竜翁に報恩の意を込

めて鍛えた一刀で銘文に「臥竜閣下」を用い最大の敬意を表している。

### 吉川一門の終焉

新々刀第二期に位置付けた天保年間から慶応年間に至る流れは、物情騒然とした世相にもかかわらず、徳島藩の日和見的政策が功を奏し、国情は穏やかな時代であった。この時期やがて訪れるであろう動乱期を予測した十三代藩主蜂須賀斎裕の兵制改革は多くの鉄砲鍛冶を生んだ。しかし、鉄砲鍛冶に身を委ねながらも刀鍛冶として槌音を絶やさなかった者、また市井にあって藩の保護に

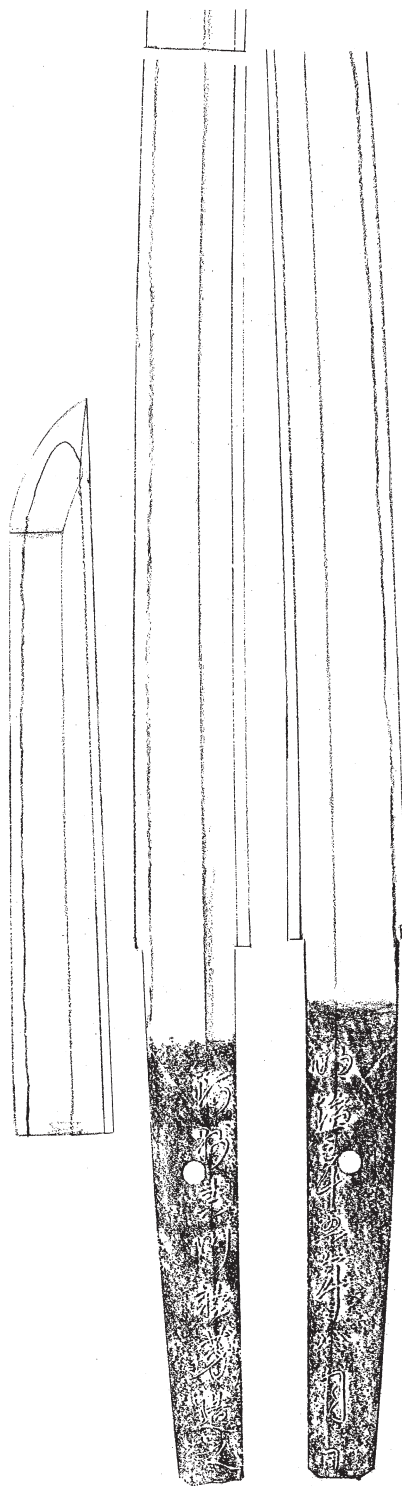


写真8 第5回内国勲業博覧会の出品刀  
銘「阿州吉川祐芳造之 明治二十五年八月日」  
戦後の混乱期に三区分別されて現存

も頼らずひたすら斯道を歩んだ者として、その代表格ともいえる吉川祐芳は明治九年の廃刀令後もひたすら作刀を続け、幾多の名作を遺し、明治三十年にこの世を去る。この人物こそ、新々刀界にあって有終の美を飾った刀工と言って過言でない。そして、祐芳の門流は、長男の吉川大明（二代目祐芳）一八五六〜一九〇九、祐芳の弟柴田正包に受け継がれる。

大明の活躍期は、廃刀令以後、刀剣界が衰退の一途をたどる明治後半である。そのため、晩年は野鍛冶に転じるなど不遇の日々を過ごす。世が世であれば、その技量は高く評価され世に名工と謳われたに違いない。



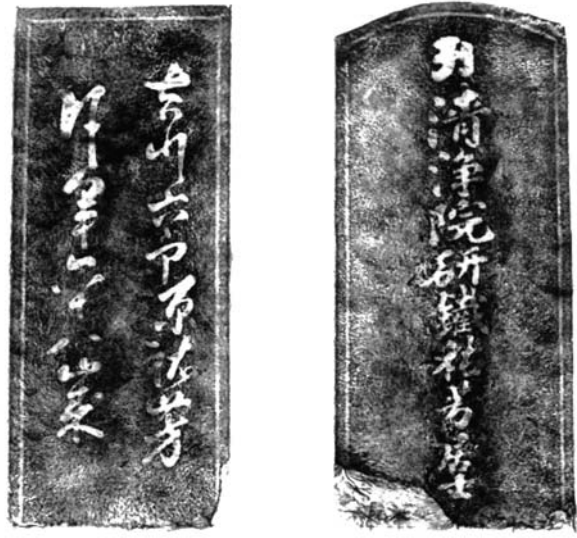


写真9 初代吉川祐芳墓の拓本  
 正面「清浄院研鐵祐芳居士」  
 左側面「吉川六郎源祐芳 行年六十八歳」  
 墓は羽ノ浦町明見の共葬墓地にある

大栗臥竜翁の記述には「明治四十二年乙酉年九月十二日没 旧曆八月八日年五十四 法諡静徳院智芳明善居士 遺言に依り原籍地那賀郡上大野村大字下大野村字明見共葬墓地ニ葬ル」とある。しかしながら、妙見の墓地からは、大明の墓は確認できなかつた。墓の発見は今後の課題である。

今回の調査では、吉川祐芳二代にわたる、多くの資料を拝見することができた。子孫の吉川博氏から提供された資料の一つに新陰流の伝書がある。

記された年号から初代祐芳のものと断定でき、装丁は卷子本仕立てで、文末には「吉川源六 安政七年申年二月吉日」とある。源六の名は吉川家歴代の嫡男が襲名する諱で、安政七年申年二月吉日の年紀からは、この目録が二十七歳（祐芳は天保四年生まれ）の時に伝授されたことが判る。

武家の末裔という誇りからか、作刀稼業の傍ら剣術修行に明け暮れた若き日の祐芳の姿が垣間見えて興味深い。

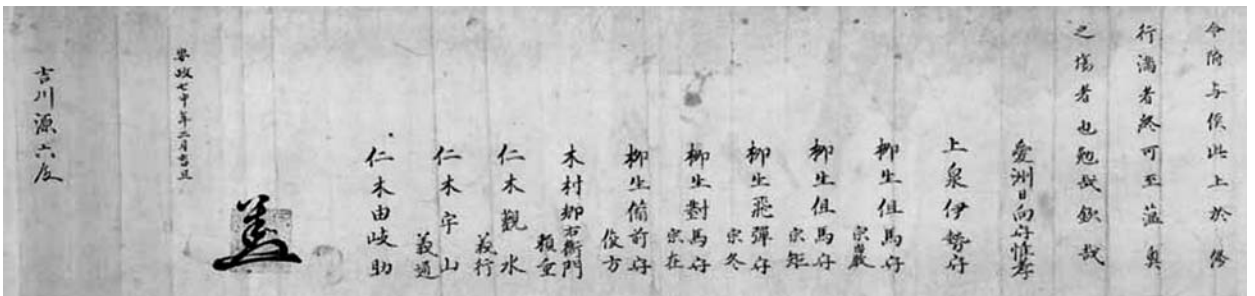


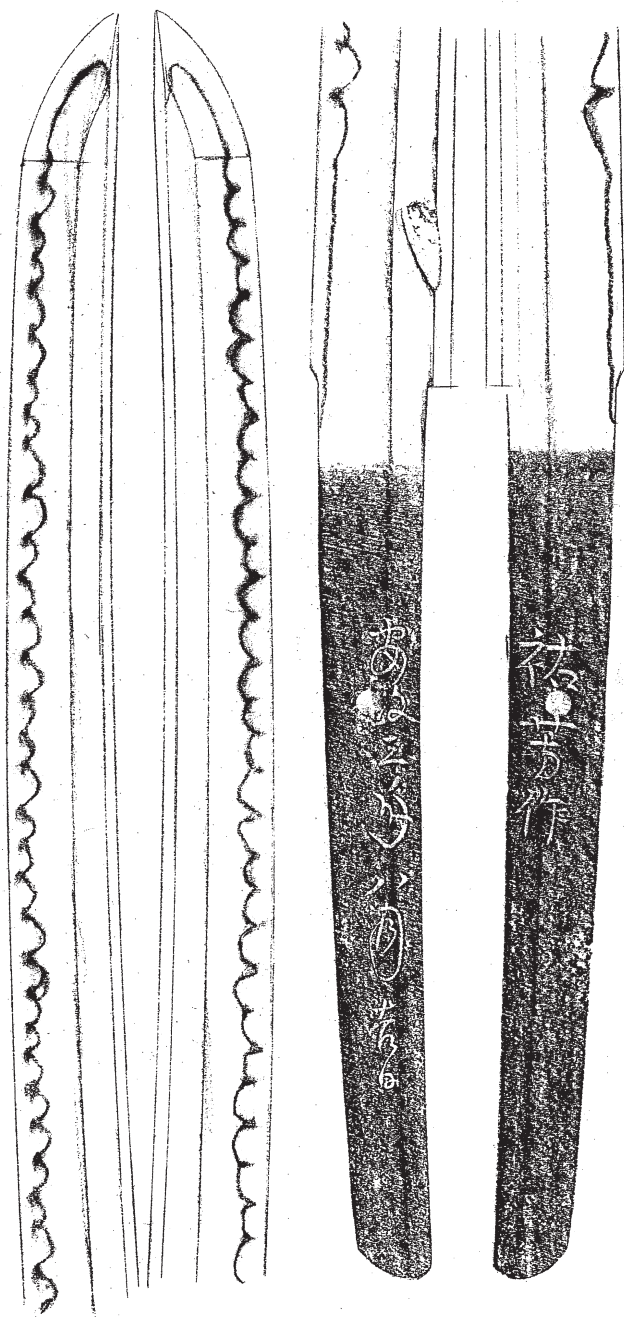
写真10 吉川祐芳の柳生新陰流伝書



図版1 刀銘 (表) 安政三年八月吉日 (裏) 祐芳作

法量 刃長六九・三<sub>チシ</sub>、反り一・九<sub>セシ</sub>、鋒長三・五<sub>セシ</sub>、元幅二・九<sub>チシ</sub>、先幅二・〇<sub>チシ</sub>、元重〇・七<sub>チシ</sub>、先重〇・五<sub>チシ</sub>、茎長二一・二<sub>チシ</sub>。

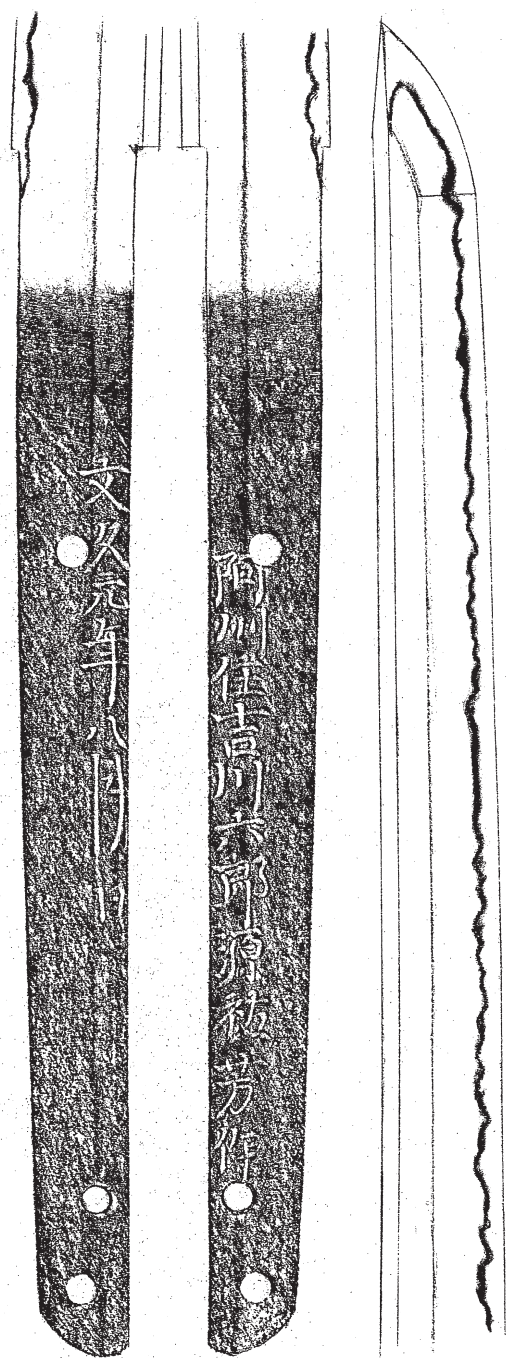
解説 形状は、庵棟、鑄造、身幅やや広く、重ねやや厚く、反り高く鳥居反り、幕末刀にしては尋常な体配。地鉄は、柰目に流れごころの板目がからみ肌立つ。地よく沸える。刃文は互の目乱れ、高低の違う三つの山が連続して連なり、匂口は締まりごころ、足わずかに入る。帽子は、表裏共わずかに乱れ込んで直ぐに小丸、返りはやや長い。茎は生ぶ。鑢目は勝手下り、目釘孔一個、茎尻は刃上がり栗尻。銘は太刀銘にて「安政三年八月吉日 祐芳作」の銘がある。祐芳の若打ちの一振りで、銘の書体が右下りになるのが特徴。なお、本刀には、指表鑢元近く鑢地に機銃弾による痕跡があり、弾頭の真鍮片が食い込んでいるのが確認できる。鞘書に曰く「此ノ祐芳刀ハ太平洋戦争中空カラ機銃ヲ受ケ鑢元鑢地ニ剥抉ト銅ノ熔着ヲ残ス 防盾トナツテ持主ヲ護リタルニヨリ名付ク 防盾祐芳 青峯」とある。



図版2 刀 銘 (表) 文久元年八月日 (裏) 阿州住吉川六郎源祐芳作

法量 刃長七九・三セ、反り一・三セ、鋒長四・二セ、元幅三・一セ、先幅二・一セ、元重〇・八セ、先重〇・七セ、茎長二八・五セ。

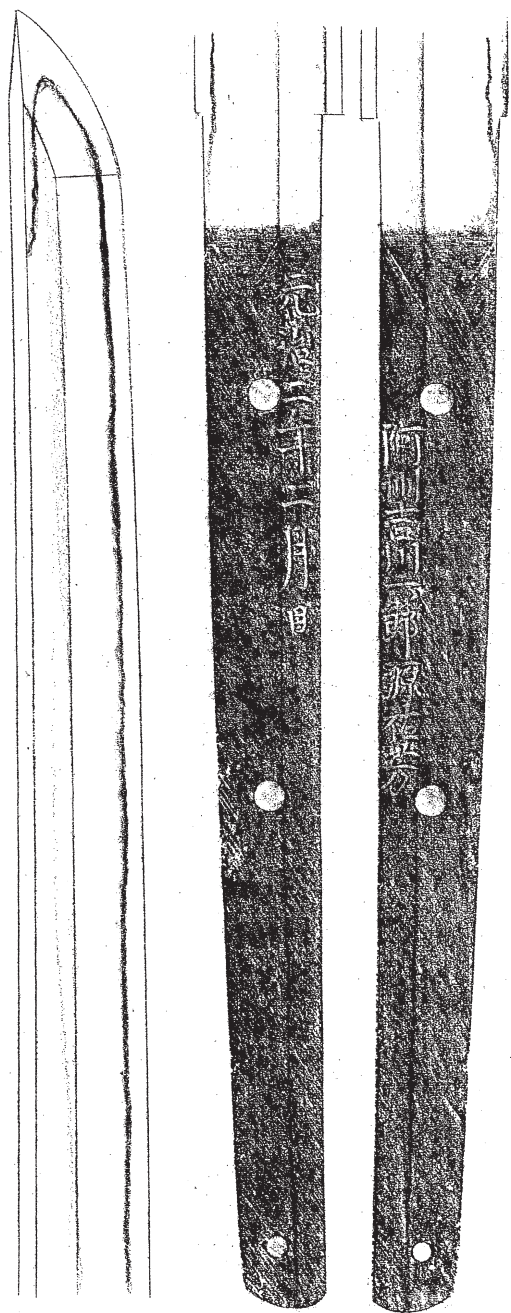
解説 形状は庵棟、鑄造、反り浅く長寸で重ね厚く身幅は尋常。一寸ばかり区送りされており、元は二尺七寸に余る豪刀で、攘夷刀の影響が著しい。地鉄は、本目に小板目が交じりよく詰み地沸つく。刃文は、高低のある小互の目、匂口締まりごころ。帽子は、表裏とも乱れ込んで小丸に返る。茎は生ぶ。目釘孔三個(内一個は忍び孔)。鑢目は化粧鑢以下筋違い、銘は、表に文久元年八月日、裏に阿州住吉川六郎源祐芳作と大ぶりに切る。茎尻は刃上がり栗尻である。本刀には、実戦的な拵が添えられているが、頭・縁・鯉口・栗形・鑢のすべてが鉄製で特に鑢は鯉口より武張ってみせる造りになっている。祐芳は、稀に鑢などの小道具類を手がけているが、この金具は他に存在する祐芳の在銘金具に酷似しており、無銘ながら祐芳の自身作と見てよいだろう。



図版3 刀銘 (表) 元治二年二月日 (裏) 阿州吉川六郎源祐芳

法量 刃長七七・二セ、反り一・三セ、鋒長三・九セ、元幅三・一セ、先幅二・三セ、元重〇・八セ、先重〇・六セ、茎長二七・四セ。

解説 形状は、庵棟、鑄造、長寸ながら身幅は尋常、反り浅く、中鋒が延びる幕末体配。地鉄は、板目肌に杓目肌が交じりよく詰み、地沸厚くつく。刃文は、中直刃、鼠足入り、匂い口柔らかく明るく冴える。帽子は、直ぐに小丸で返りは深い。茎は生ぶ。通常の刀に比して非常に長い、目釘孔は生ぶながら三個、内一つは忍び孔、茎先近くに小さく穿つ。鑢目は化粧鑢以下筋違い、銘は、表裏に作者銘と年紀銘を太刀銘に切る。表の年紀銘のうち「月」の字の一面目と二面目を長く伸ばす書体はこの工の特徴である。文久から元治にかけての作品には特に茎の長い長寸ものが多い。市井に生きた刀工だけに、当時流行の攘夷刀の影響を敏感に取り入れたのだろう。



図版4 刀銘 (表) 慶應元丑年八月日 (裏) 阿州吉川六郎源祐芳

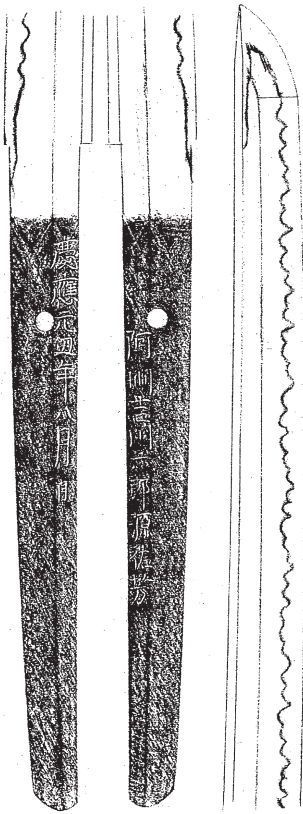
法量 刃長七一・二センチ、反り一・五センチ、鋒長三・五センチ、元幅二・八センチ、先幅二・一センチ、元重〇・七センチ、先重〇・六センチ、茎長二四・八センチ。

図版5 脇指銘 (表) 阿州住吉川祐芳 (裏) 慶應元丑年八月日

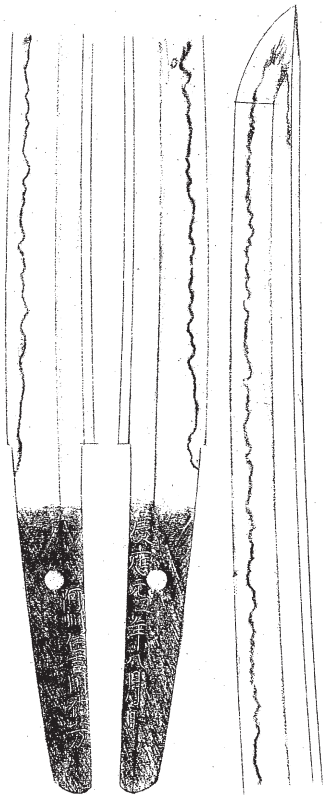
法量 刃長四二・五センチ、反り一・〇センチ、鋒長三・六センチ、元幅三・八センチ、先幅二・〇センチ、元重〇・八センチ、先重〇・六センチ、茎長一一・五センチ。

解説 大小共に同じ作風である。形状は庵棟、鑄造、身幅重ね共に尋常。地鉄は、柰目に小板目肌が交じりよく詰む。鑄地には柱目が現れる。刃文は、高低の異なる三つの山が連続して連なる互の目、匂口明るく冴えてよく締まる。茎は生ぶ。目釘孔は一個、鑢目は化粧鑢(香包鑢)を入念にかける。茎尻は刃上がり栗尻。銘は大刀には「阿州吉川六郎源祐芳 慶應元丑年八月日」、小刀には「阿州住吉川祐芳 慶應元丑年八月日」とあるが、大刀は太刀銘に脇指は刀銘に切られている。付属の拵は、大小共に同金具の半太刀拵である。依頼主の好みに応じて造られたものである。

図版4



図版5

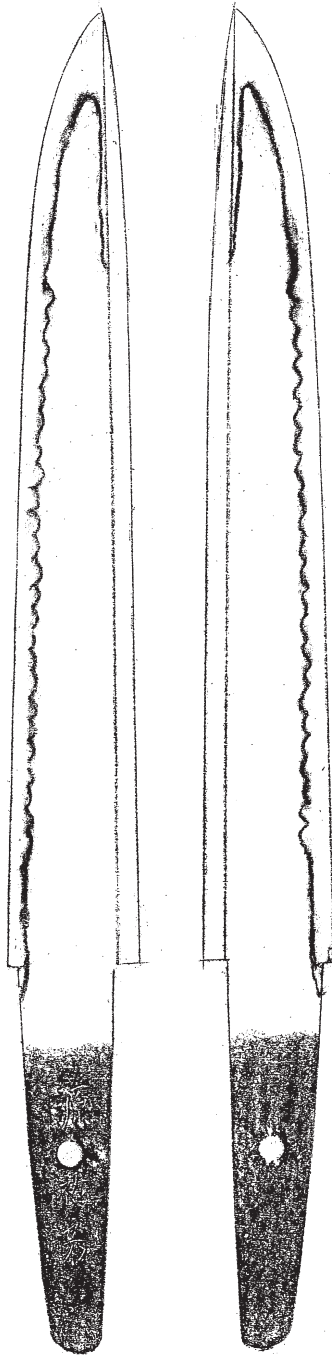




# 図版6 短刀 銘 源祐芳

法量 刃長二〇・〇センチ、反り〇・二センチ、元幅二・三センチ、元重〇・八センチ、茎長八・〇センチ。

解説 形状は、庵棟、平造、反りなく、身幅尋常、重ね厚く、踏ん張りが付くどっしりとした体配。地鉄は、柰目にわずかに板目が交じりよく詰み、無地風を呈する。刃文は、直ぐの焼き出しから小互の目を物打辺まで連ねるが、切先に向けては長い直刃となり、先は小丸で三寸ほど焼き下げる。この手法は祐芳得意の刃文構成である。茎は生ぶ。鑓目は切り、銘は表に「源祐芳」と切る。茎の棟方には化粧鑓を施す。幕末になると一般武士の刀装に対する考え方にも変化が現れる。大小揃いの刀を差す者は少なくなり、各自好みの拵を付けた大刀に好みの腰刀拵や合口拵を付けた短刀を帯びることが流行する。本刀には、丸に卍紋、桐紋、柏紋を象眼した赤銅地の金具と鞘は笛巻塗の腰刀拵が付けられている。

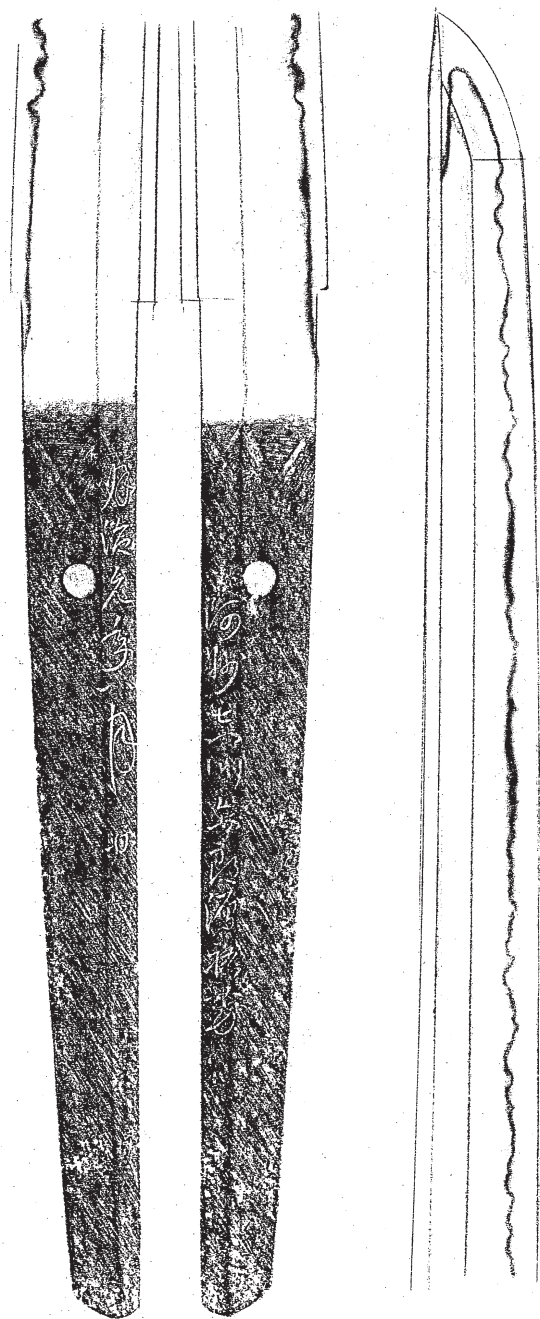




図版7 刀銘 (表) 明治元年八月日 (裏) 阿州吉川六郎源祐芳

法量 刃長七〇・九<sup>テ</sup>、反り一・三<sup>テ</sup>、鋒長三・三<sup>テ</sup>、元幅二・八<sup>テ</sup>、先幅一・九<sup>テ</sup>、元重〇・七<sup>テ</sup>、先重〇・六<sup>テ</sup>、茎長二三・〇<sup>テ</sup>。

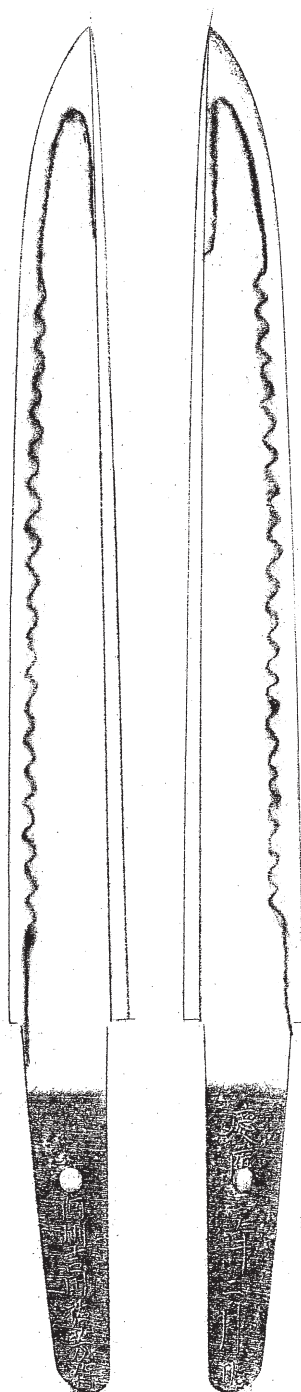
解説 形状は、庵棟、鑄造、反り浅く鎬地広め、刃長、身幅、重ね共に尋常。茎は長め。地鉄は、板目に柰目肌が交じりよく詰む。刃文は、直ぐ焼き出しに互の目乱れ。互の目乱れは、三つ山に二つの山が規則的に連なるこの工独特のもの。匂い口がよく締まるものと締まらないものがあるが、この刀の刃文は後者に属する。足の変化は認められない。帽子は、表裏共に小丸、返りは深い。指表の帽子には二重刃風の変化がある。茎は生ぶ。鑢目は、化粧鑢(香包鑢)を施し以下筋違い。刃方、棟方は平、茎尻は刃上がり栗尻。銘は、指裏、目釘孔下鎬地に草書体で作者銘、指表は、目釘孔上、鎬地化粧鑢付近から同じく草書体で年紀銘を切る。草書体の銘は慶応から明治初年の作品に集中している。



図版8 短刀 銘 (表) 阿州吉川祐芳作 (裏) 慶應□年二月日

法量 刃長二三・二セシ、反りわずかに内反り、元幅二・三セシ、元重〇・九セシ、茎長八・八セシ。

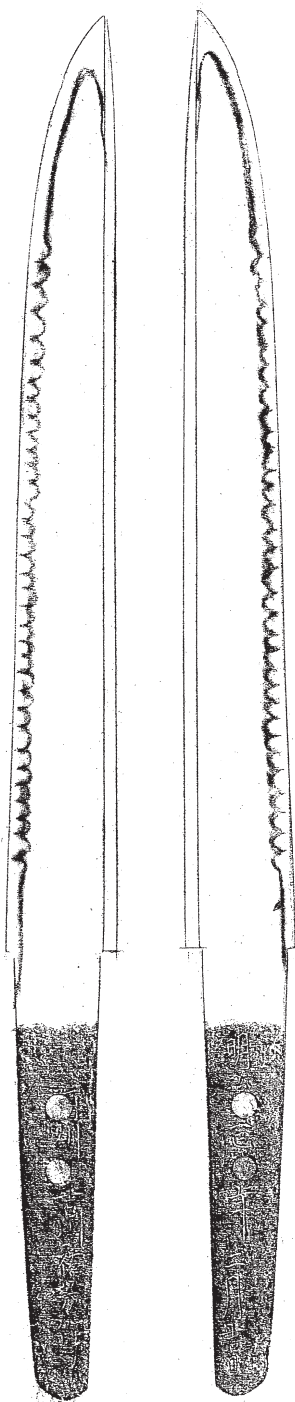
解説 形状は、庵棟、平造、身幅、重ね共に尋常、幕末期の典型的な短刀体配。地鉄は、板目に杢目交じり、所々肌立ち地沸つく。刃文は、直ぐの焼き出しから小互の目が物打ち辺まで連なり、切先に向けては直刃となり、帽子は小丸で長い返りをみせる。茎は生ぶ。錆がまばらに付き所々底光りが見える。鑓目は勝手下り、茎棟方には化粧鑓がかかる。目釘孔一個、指表目釘孔下中央に細鑿で作者銘、指裏目釘孔上中央に同じく細鑿で年紀銘を切る。慶應の年紀銘は目釘孔を穿ったため一字が欠字となり製作年度は不明であるが、残存する鑿痕から「慶應三年」とするのが妥当であろう。本刀に見る刃文の構成は、祐芳の得意とするところで、一見して祐芳作を彷彿させる。



図版9 短刀 銘 (表) 阿州吉川祐芳作 (裏) 明治二巳年二月吉日

法量 刃長二三・四センチ、反りわずかに内反り、元幅二・四センチ、元重〇・七センチ、茎長十一・二センチ。

解説 形状は、庵棟、平造、わずかに内反り、身幅重ね共に尋常、幕末期の典型的な短刀体配。地鉄は、板目に杢目肌が交じり、所々肌立ち地沸よく付く。刃文は、直ぐ焼き出しから小互の目を焼き物打ち辺から直刃となり、帽子は小丸で返りを長く焼き下げるのは祐芳の典型的な刃文。茎は生ぶ。鑢目は勝手下り、鑢まばらに付き、目釘孔二個、指表に「阿州吉川祐芳作」、指裏に「明治二巳年二月吉日」の銘がある。作者銘では阿州の阿の字が目釘孔によって大半が欠失している。かたや年記銘では明治二巳の二の字が欠失している。従って最初の目釘孔は、拵の製作時に穿たれたことを物語っている。本刀は合口拵に納められているが、頭、合口金具は共に角製で、鞘は印籠刻みで朱塗、鐺部分を武張って見せる。明治期の短刀にはこの種の拵が多い。

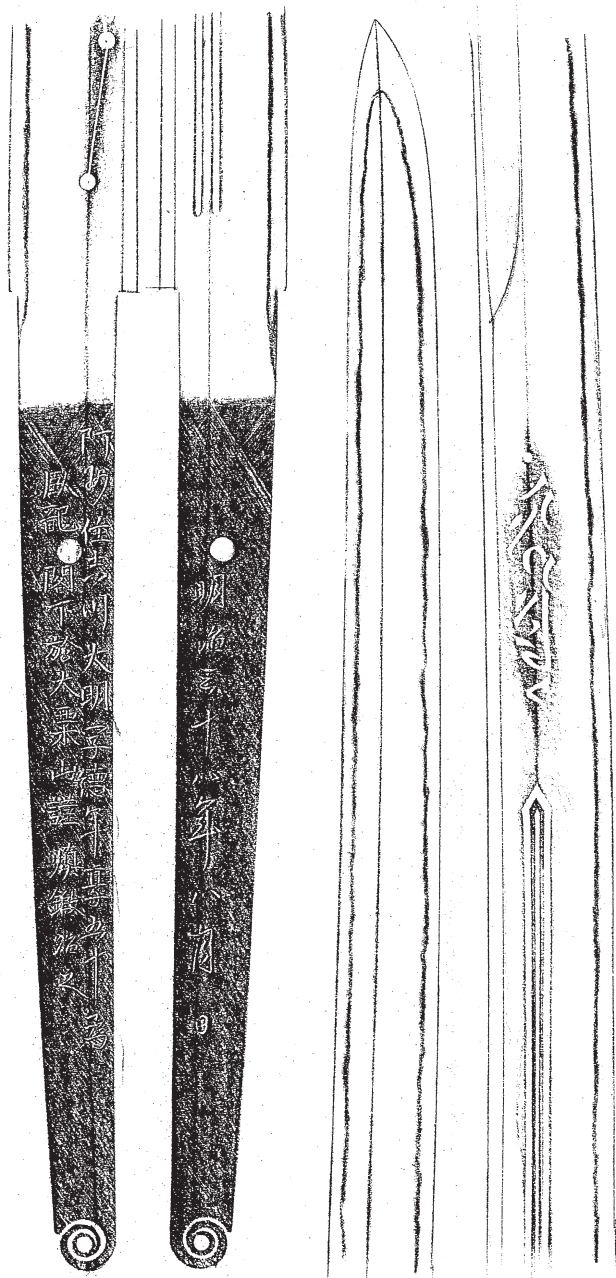


図版10 刀銘 (表) 阿州住吉川大明字徳年享五十為臥龍閣下於大粟山謹慎鍛冶之

(裏) 明治三十八年八月日

法量 刃長六七・六センチ、反り〇・八センチ、元幅二・七センチ、先幅二・〇センチ、元重〇・六センチ、先重〇・五センチ、茎長二四・五センチ。

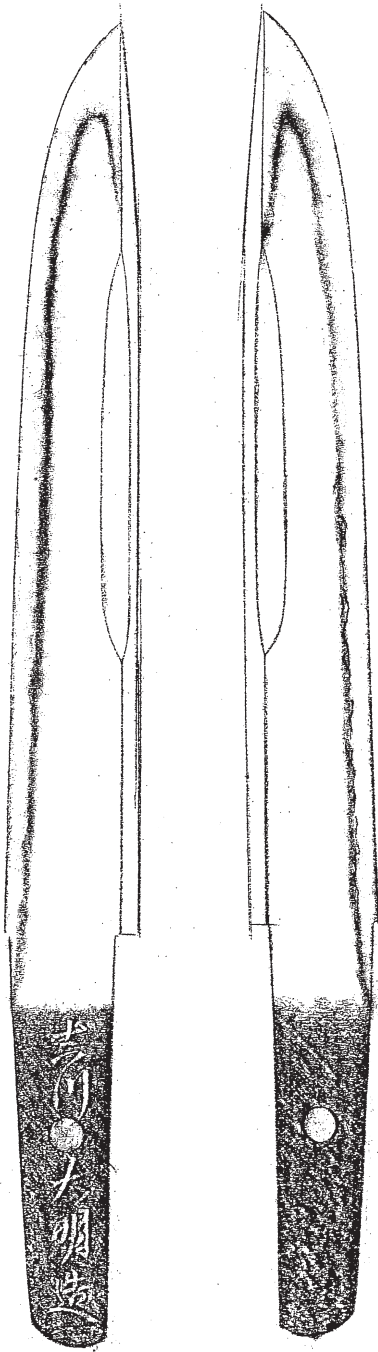
解説 形状は、小鳥丸造。地鉄は、杵目に板目が交じり、刃文寄りに長い柃目の大肌が表れる。刃文は、直刃、小沸つき、匂口は冴える。帽子は直ぐに小丸で諸刃造り特有の長い返りを見せる。彫刻は、表に七星剣、裏に不動明王の種子と素剣がある。茎は生ぶ。化粧鍔かき以下筋違い、目釘孔二個、内一つは、茎尻を兼ねたゼンマイ形の中心部に忍び孔として穿つ。この刀は、二代目吉川祐芳（吉川大明）が良き理解者であった大栗太郎兵衛（号臥龍）に最大の敬意を表して鍛えたものである。そのため銘文には「臥龍閣下」の文字を用いている。本刀は、明治以降先の太平洋戦争まで、日本陸海軍で元帥号の大将に下賜された「元帥刀」（平家重代の小鳥丸写し）を意識しての製作である。形状は同じだが、表裏に梵字、七星剣、素剣の彫刻を施すなどは大明の獨創性が窺える作品である。大明五十歳の作。



# 図版11 短刀 銘 (表) 吉川大明造

法量 刃長一五四<sup>セシ</sup>、反り内反り、元幅一・九<sup>セシ</sup>、元重〇・七<sup>セシ</sup>、茎長七・〇<sup>セシ</sup>。

解説 形状は、庵棟、薙刀樋のない冠落とし造、反りは内反り、極めて小振りな短刀。地鉄は、板目肌流れてわずかに杢目交じる。刃縁よりに杢目肌著しく表われる。刃文は、広直刃で小沸出来、刃縁に無数の砂流し長く入り変化に富む。帽子は、表裏共に小丸で返りは長い。茎は生ぶ。化粧鑢かかり以下筋違い。棟方刃方共に平、目釘孔一個、茎尻は刃上がり栗尻。銘は目釘孔上、研溜め近くから大ぶりに作者銘を切る。大明の活躍期は廢刀令(明治九年「一八七六」)以後である。父の代作では脇指も手がけたと思えるが大明銘の脇指は未だ経眼しない。今のところ大明銘の作品は大刀とこうした短刀に限られる。父の初代祐芳を阿波における新々刀界最後の刀匠とするならば、この大明は阿波における現代刀工の祖に位置付けられる人物である。





## 本部武徳会と徳島支部

剣道連盟名誉会長 三木 毅

はじめに



徳島の剣道の歩み（剣道史）を顧みる時、大きく二つに分ち研究することで進められてきた。すなわち藩政時代と明治以降である。

現在私どもが学び修練している剣道に關しては明治以降の先人剣士が築いてくれた修練の歴史に大いに關係している。中でも、明治二十八年四月二十七日に発足した「大日本武徳会」（以下「武徳会」という）の存在は誠に大きく、その発足経緯や組織の役割・発展過程・運営の中身などの万般については、全剣連発行の「剣道の歴史」に詳述されている。

「徳島の剣道の歩み」を表すに当たり、明治二十八年から昭和二十一年十一月九日の解散命令まで存在した武徳会徳島支部の内容の研究を進めることとしたが、いざ取り掛かったものの余りにも資料の乏しさに苦慮している。その理由の一つは、先の大戦で敗戦しその後武徳会は解散させられ、万般の資料が散逸したこと、さらには一つは、武徳会の運営の主力が警察組織によるところが大きく、細部が公表されておらず、今もって実証的な資料が残されて

いないことを挙げるができる。

武徳会の実態を研究するには、京都で創設された「武徳会」（以下「本部武徳会」と呼称する）と各県で創設された「支部武徳会」に分ち研究することとしたい。

本部武徳会についての研究者は多く存在し、各種論文が公表されており、支部武徳会について研究するための大きな手がかりになっている。

本部武徳会の著名な研究者を挙げると、中村民雄先生、坂上康博先生、秦芳江先生、渡辺一郎先生などである。

この度、武徳会について研究された諸先生の論文を参考に、その内容を整理して述べたい。

關係する先人剣士の諸先生には大いなる敬意を表しなければならぬが、文面上敬称略とさせていただきます。

### 大日本武徳会発足前夜からの年表

本部武徳会が創設された経緯には、当時の世相との関連が強いと思われるので、歴史年表を念頭において読み解いていくことが大切だと考え、列挙することとした。

正徳二年（一七二二年）防具剣術始まる

嘉永六年（一八五三年）ペリー来航

慶応三年（一八六七年）坂本竜馬 暗殺される

明治元年（一八六八年）近藤 勇 刑死

江戸城無血開城

明治三年（一八七〇年）邏卒（巡查）に剣術・柔術を課す  
明治四年（一八七一年）脱刀令公布  
明治六年（一八七三年）徴兵令公布

榊原健吉剣術興行

明治七年（一八七四年）警視庁設置

明治十年（一八七七年）西南戦争起こる・警視庁抜刀隊活躍

明治十二年（一八七九年）川路大警視「剣術再興論」著す

明治十五年（一八八二年）嘉納治五郎講道館・山岡鉄舟春風

館開設

明治十六年（一八八三年）鹿鳴館落成

明治十八年（一八八五年）内閣制度発足・伊藤博文初代総理

大臣となる

明治二十二年（一八八九年）大日本帝国憲法発布

明治二十三年（一八九〇年）教育勅語発布

明治二十七年（一八九四年）日清戦争勃発（戦勝）

明治二十八年（一八九五年）平安神宮創建・大日本武徳会設

立

第一回演武大会開催

明治三十二年（一八九九年）京都武徳殿竣工

明治三十三年（一九〇〇年）新渡戸稲造・英文武士道刊行

明治三十七年（一九〇四年）日露戦争勃発（戦勝）

明治四十一年（一九〇八年）武士道日本語版発刊

大正三年（一九一四年）武術家優遇例で剣道・柔道に改称

昭和二十年（一九四五年）終戦

昭和二十一年（一九四六年）武徳会解散命令受ける

## 本部武徳会の創設前夜

明治二十八年（一八九五年）は、平安遷都千百年にあたり、これを記念して明治二十八年三月十五日に平安神宮が創建された。武徳会はこの年に発足している。

武徳会設立にあたって先ず声を挙げてのは、京都府収税長であった「鳥海弘毅」、中立売警察署長「佐々熊太郎」、絵画専門学校理事「丹羽圭介」の三人の意見一致からであるとされる。

中でも、鳥海弘毅は相当な力添えがあったことが理解できる。

同人の呼び方は「トリノウミ コウキ」であるが、この名は改名された名で、旧姓は「加藤 於菟弥<sup>おとや</sup>」で、秋田県出身である。

同人は友二人と共に東京帝大の前進である南校に入学し、大蔵省の役人となる。

明治六年二十五歳のとき大蔵省租税寮租税少属に出仕し、間もなくのこと、こよなく愛していた郷土の鳥海山の雄大さにちなみ、「鳥海弘毅」に改名した。

その後、秋田県、栃木県、岩手県、京都府に意向した。

この間、日本は文明開化の風が吹き、欧米型の文明国にせねばと「鹿鳴館」を建設し、舞踏会を開き、国語改良や演劇改良などして欧米政策をとった。一方、欧米化への憂いを持つ世相も存在していた。

明治二十七年、日清戦争で戦勝し、世間は戦勝気分には浮かれていた。奇しくもその翌年の明治二十八年は、奈良から京都に遷都してから一一〇〇年の節目に当たり、記念行事が企画されていた。目玉事業は「平安神宮」建設であった。

鳥海弘毅は、京都府収税長に席を置いていた。考えの根底には「日本人が日本を忘れて何ができるか」という持論の持ち主で、文明開化の波に影をひそめつつある日本精神の鼓吹を決意することとなった。すなわち、日本古来の武道を奨励し、武徳を涵養することによって国民の士気を振作しようとしたのである。

明治二八年二月十日、鳥海弘毅は中立売警察署長・佐々熊太郎、絵画専門学校理事・丹羽圭介の三名の間で「全国の著名な武道家を京都に招待して、演武大会を開催し、「武士道の頽廃を恢復」し「武道の再興」をはかるという大目標をたてて意見の一致をみた。

翌二月十一日には、京都府知事・渡辺千秋を訪ね、計画支持を求め、数日後には渡辺知事を発起人総代とし、渡辺知事の提案で平安神宮宮司・丹生基修、京都府警部長・田中貴道を発起人総代に加え、約二ヶ月の間に京都府官吏と議員四十六名、その他学校長など十四名、計六十名の発起人を組織した。

発会賛同者には、山県有朋・伊藤総理大臣・大山陸軍大臣・土方宮内大臣・榎本農商大臣・野村内務大臣などが名を連ねていた。

四月三日、第一回の発起人会を開催し「武徳会結成と演武大会の開催」を決め、日清講和条約調印日である四月十七日に武徳会

を発会させている。

この時あらたな目標を二つ掲げた。

第一は、武徳殿の設立である。桓武天皇は奈良長岡京から京都平安京に遷都した天皇であり、「武徳殿」とはかつて武術奨励のために設立した演武場の名称であったからである。平安神宮の傍らに武徳殿を設立した。

第二は演武大会は、毎年一回、祭典と演武大会を開催することとし、天覧演武大会とすることであった。

### 武徳会の体制

明治二十八年四月二十日、武徳会幹事会を開き、京都府下の各郡長及び各府県知事及び全国尚武会へ勧誘依頼を発する決議をおこなった。

次いで、五月二十八日には、武徳会々長・京都府知事の渡辺千秋は日清戦争開戦時の陸軍大将であった皇族軍人の「小松宮彰仁親王」を武徳会総裁に推戴することに成功している。小松宮彰仁親王は、日清戦争戦勝により国民的英雄となり、武徳会組織の頂点に配置することで絶大な社会的権威を獲得した。(小松宮彰仁親王はこの時、日本赤十字社総裁・偕行社社長・日本体育会名誉賛成員であった)

ついで、六月三日には会員募集を強化するための会議で、各大臣・将官・府県知事を饗応する決議をし、その後、西郷海軍大臣・渡辺通信大臣・東久世枢密院議長・海江田枢密院顧問(日本体育

会副会長) 川上陸軍中将・三浦東京府知事などの賛同を獲得した。

さらに、七月二日には、知事を地方委員長に、府県高等官を幹事に、町村長を委員に囑託することとなった。これを各地方新聞社に依頼して武徳会会則や会の趣意書を希望者に配布することを報じた。入会申込書は各郡役所・警察署に配置された。この時会員は一七八九名であった。

七月三日、京都市内の学務委員を招待し、武徳を涵養するため、会員募集に尽力するよう訴えた。

七月八日となり、武徳会は規則改正を行い、これまでの大目標である武徳殿の造営、武徳祭の開催、演武大会の開催に加え、演武場の設立と武術講習の実施、古武術の保存、武庫の設立、戦史・武芸史・武器史の編纂発行、武徳誌の発行、支部の設置をかけた。た。

八月十二日には、幹事の尾越蕃輔を東京に派遣、その後十月、十一月には各県担当者を決定し、大阪・三河・遠江・滋賀・尾張・石川・福井・富山・三重・鹿児島・大分・宮崎・愛媛など巡回した。

## 京都日出新聞の報道

明治二十八年八月十四日の京都日出新聞は、武徳会の組織拡大について次のように報じている。

先ず全国戸数の十五分の一以上を会員に募り、十分の二を正会員、十分の八を賛助会員たらしめ、募集金額な十八万円

(現在価値で七億二千万円)、そのうち警察官及び軍人・軍属などは標準外に増収する金を見込み、その金額は三万三千五百円(現在価値では一億三千四百円)としている。

すなわち会員の大半を警察官・軍人軍属として組織化しようとするのが窺われる。

## 本部武徳会の歴代総裁

本部武徳会の総裁は次の通り

初代 小松宮彰仁親王(こまつのみや あきひとしんのう)

明治二十八年五月〜明治三十六年十月

二代目 伏見宮貞愛新王(ふしみのみや さだなるしんのう)

三代目 久邇宮邦彦王(くにのみや くによしおう)

四代目 梨本宮守正王(なしのみや もりまさおう)

## 本部武徳会の歴代会長

渡辺 千秋 明治二十八年四月〜

山田 信道

内海 忠勝

北垣 国道 明治三十一年二月〜

青木 周蔵

大浦 兼武 明治三十九年四月〜大正七年

東條 英機 昭和十七年三月二十一日〜昭和十九年

## 第一回 武徳祭

明治二十八年は遷都千百年の記念すべき年であり、念願の平安神宮が三月十五日に創建され、十月二十五日には武徳祭が平安神宮で開催され、第一回演武大会は明治二十八年十月二十六日から行われた。

十月二十六日 剣術・競馬

十月二十七日 柔術・弓術・射的

十月二十八日 薙刀・槍術・棒術

であった。

## 武徳会の発展

武徳会は皇族を総裁とし、内務官僚や知事・警察組織により会員獲得に当たったことから、発足二年で全国会員十万人を超え、十年後には百万人を、大正十年には二百万人超え、更に昭和十三年には三百万人を超える武道人口に発展した。

昭和十七年三月には、大日本武徳会は、陸軍・海軍・内務・厚生・文部の五省共管となり、会長には内閣総理大臣の東條英機就任した。

## 武徳会の解散命令

昭和二十年八月、終戦となり、武徳会は直ちに、銃剣道と射撃道部会を廃止し、柔道・剣道・弓道を奨励する民間団体への改組

を行った。

しかし、昭和二十一年十一月九日、連合軍最高司令部の指令より強制解散となり、財産は接収され、約一三〇〇名が公職追放となった。

## 武徳会支部の設置

前述したように、武徳会は警察組織を始め地方行政機関さらに武術家などに働きかけ、会員募集を勧め、各府県で会員の組織化を図っていた。

発足から一年後の明治二十九年三月には会員数が四万二千人、第二回演武大会の明治二十九年十月二十七日の会員は六万八一九三名となった。

武徳会は地方支部規則を制定し、全国的組織の体裁を整えた。明治二十九年（一八九六年）十二月四日富山支部の発足を機として地方支部を設立させていった。例示すると

明治三十年（一八九七年）宮崎・熊本

明治三十一年（一八九八年）奈良・佐賀・徳島

明治三十二年（一八九九年）茨城・宮城・山梨・群馬・高知  
・栃木・愛知

明治三十三年（一九九〇年）大分・福岡・静岡・長野・福井  
・長崎

明治三十四年（一九〇一年）愛媛・滋賀・和歌山・島根・広島  
島・秋田・三重・福島



などとなっている。

## 武徳会徳島支部の発足

武徳会徳島支部の発足についての資料は乏しく、坂本裕二が研究した「剣豪 大島半作」『徳島の剣道』第九号（八頁）によると大島半作は現川島町善入島の人で市場町善入島の心形刀流佐藤道場の次男として生まれた。後に江戸に出て伊庭道場で印可を許された。さらに心形刀流最高の表徳号「常雄子」の称号を許された。徳島市伊賀町に居を移し、武徳会徳島支部の設立に専心した。

支部設立は県知事を長とすることであったが、難題は基本財産作りであった。半作は自己の莫大な資産を投じ、同志と共に財源を確保し、発会式及び演武大会を開催することが出来た。

徳島支部の成立こそが近世徳島県剣道の基盤構築であり、この基盤は大島家の財力と半作の努力、また佐藤道場一門の剣技、物心両面の支援により築かれたものと言える。

武徳会徳島支部の発足は、明治三十一年十二月六日であり、全国第六番目という早い段階で発足している。

発足式については、本誌編集長・木原資裕の研究で、明治三十二年二月二十八日付け「徳島日日新聞」掲載記事の発掘で詳細が明らかとなっている。記事によると発会式は旧城址「滴翠閣」で挙行され、祭壇が設けられ、午前七時から式典が実施され、徳島

支部会長・山縣伊三郎が、令旨を代読している。次いで「浦警部長」が発会式までの事務を報告し、その中で「徳島会員が三千有余人、熊本県会員が六万有余人あり、話にならない。会員は会員の募集に力を致し御令旨に奉答すべき」としている。午前八時に式典が終わり、演武に移行している。

## 徳島支部設立時の会員人口と義金

明治三十一年十二月六日の設立時の徳島支部会員は約三千有余人であったらしい。

義金は本部武徳会に寄せられ武徳殿建設に向けられた。京都武徳殿は明治三十二年三月竣工している。

明治三十五年四月の武徳会府県別状況表によると、徳島県は一万〇七八名で義金は一万〇六六一円（現在価格では約四千二百六十四万円）となっている。

## 武徳会徳島支部の歴代支部長

武徳会支部の支部長は、府県知事とされていた。したがって徳島県の初代支部長は山縣伊三郎であり、徳島県知事であった。

## 武徳会徳島支部の活動

武徳会徳島支部の詳細な活動内容については、研究資料が極めて少なく、これを明らかにするには、全国の武徳会活動史を紐解く時間が必要である。

会員諸氏には、解明の一助となる、資料が存在すれば是非提供されるようお願いする次第である。

参考文献

坂本裕二「剣豪大島半作」

木原資裕「明治期の徳島県における剣道の普及状況について」

渡辺一郎「明治武道史」

坂上康博「大日本武徳会の成立過程と構造」

中村民雄「大日本武徳会の研究」

秦芳江「大日本武徳会及び武専の成立とその変遷について」

魚住考至「武道の歴史とその精神」

その他 武道に関するインターネット記事



# 武徳殿炎上

東 條 浩 士

(徳島市在住)



昭和時代の前半期(昭和三年十一月～二十年) 徳島公園内に存在し、剣道錬磨の重要な拠点としての任を背負っていた徳島武徳殿は、昭和二十年七月四日未明の徳島大空襲によって焼失されました。が、その焼失の現場に、奇しくも私は立ち合うことになりました。

私が生まれましたのは、昭和十一年九月十五日のことです。当時、私の生家は徳島公園内で料亭を営んでいました。昭和十二年九月三日に発刊された徳島日日新報(徳島新聞の前身)の付録に「大徳島市勢大観」という徳島市を東方から眺めた鳥瞰図がありました。その城山東山麓に「武徳殿」と並んで「第二喜楽」と記されているのが、私の生家です。

徳島城の東隅櫓の跡に料亭は建っていました。数寄屋橋を城内へ渡ればすぐの右手です。一階は入口と厨房、二階が客室、三階が宴会場でした。二階と三階は、お堀の石垣の上であり、西側のゆったりとした石階段を上れば、二階の客室へ直結する玄関に通じていました。

「第二喜楽」とあるのは、伯父(父の兄) が横土手(現富田

橋七丁目)に経営していた「喜楽」が先にあったからです。

少年時代は、徳島城公園内が私の遊び場所でした。北の方には小さいながらも動物園がありましたし、ぶらんこ、滑り台、ジャングルジムなどの遊具も揃っていました。入園料なども要らない、市民にとっての、手軽な憩いの場所として賑わっていました。

食事処も、第二喜楽(日本料理)のほかには太陽軒(洋食)や徳島花壇(大衆食堂) 藤の屋(茶店) などもありましたし、千秋閣(美術展などの催し会場) や光慶図書館、そして武道錬磨場としての武徳殿がありました。

武徳殿は、生家と堀ひとつ隔てた場所に聳えていました。公園の中でもひととき大きな入母屋の深々とした屋根が厳めしく、子ども心にも、その周辺は遊ぶ所ではないと、近寄りたいたい印象を持っていました。

入り口は東側の徳島本町に面しており、すぐ前に峯川という剣道具等を商う武具店がありましたから、防具や竹刀を持った青年たちが、その辺りを往来していました。武徳殿の建物の中については、覚えていません。

昭和十六年十二月八日に始まった太平洋戦争は、初めのうちこそ勝った勝ったと浮かれていましたが、しだいに戦局は厳しくなり、食糧管理法による統制から食べ物物の商売は難しくなり、徳島工業専門学校の寮生のための賄いなどをしていましたが、やがて、生家の建物自体が海軍の寮となり兵隊さんが出入りするようになりました。松茂にあった海軍の基地を分散する策であったように

す。

昭和十九年の暮あたりから、一気に戦時色は深まり、二十年になりますと本土空襲の噂などもしきりに囁かれるようになってきました。それでも父親はいたって楽天的で、うちは大丈夫だ、護国神社のあるお城の内だし、海軍の兵隊さんがいらっしゃるし、などと私たち子どもに言い聞かせていました。級友たちが一人二人と山村へ疎開を始め出している頃でしたが、我が家では、貴重品なども疎開に出すわけでもなく、むしろ親戚の荷物をなど預かって保管しているくらいでした。

六月二十二日、秋田町に爆弾が投下され、ついで二十六日、助任町が爆撃され、多数の死傷者も出て、これはただごとではないと、このころから子どもたちは防空壕の中で夜を過ごすことになりました。

父親は町内で結成した防空警備団の一員でしたから、警報が発令されるといつも外へ出かけて家にはいませんでした。七月三日の夜も母親と子ども五人、それに祖母（父の母）と伯母（父の姉）の八人で壕の中にいました。

空襲が始まったのは、七月四日となった一時過ぎからのようです。眠っていた私たち子どもは、突然、壕の戸を叩く音で目が覚めました。戸を開けると数名の人がどやどたと入ってきました。徳島駅前や新町橋を中心とした商店街は、既に火の海になっていて、一方は眉山へ、一方は徳島公園へと逃れてきたようです。ところが、安全と思われた公園の中へも、波状的に焼夷弾が落とさ

れるようになり、たまりかねた避難者が壕の戸を叩いたのでした。

私たちは寝ていられず、起き上がって詰め合わせて座りました。母は抱いていた赤ん坊を預け、燃え始めた家を消しにいきました。家に落ちた焼夷弾を、まず消さなければならぬと思ったからです。

やがて、家屋の燃える煙が、地下通路を通過して壕へ入ってくるようになりました。

このままでは焼け死んでしまうということで、壕を出ることにまりました。私と姉は薄い掛け布団を頭から被って外へでました。

千秋園は土塀の向こうに既に燃え上がっていましたし、我が家も炎が上がっていました。第三貝塚跡の前を通り、武徳殿の裏側の池に身を沈めました。公園の外は炎でした。

爆撃機は旋回を繰り返し、焼夷弾を落としては去り、また舞い戻っては爆撃を繰り返すという有様でした。

できるだけ山際に寄り添う、それが焼夷弾を避ける最良の方法でした。城山東山麓の小さな池―そこに十四五人もいたでしょうか。できるだけ山際に身を寄せ、時折迷ったかのように落ちる弾の水しぶきを避けながら、ただ早く爆撃が終わりますようにと祈るばかりでした。

武徳殿に火が付いたのは、最後の最後だったように思います。私たちが池に入った時は、大きな建物が黒々とした遮蔽しやへいとなっていて、炎を防いでくれていましたが、その最後の砦も無傷であることを許されず、次第に炎が大きくなり、池にいる者も、その輻射熱ふくしゃねつの

熱さにたびたび頭から水を被らなくてはなりませんでした。私と姉は、持って来た布団を水で濡らしては頭から被り、熱さを逃れました。ところが、池の水自体が熱せられ、だんだん湯のように温度を増してくるではありませんか。

建物から吹き上がる炎は、渦を巻くように燃えさかります。そのころから、風がごうごうと唸りだしました。中心街のあたりは、燃えるものを失い、煙と風が入り混じって吹き荒れていました。その黒煙のなかに、武徳殿は最後の呻きに輝きながら崩れ落ちてゆきました。

私たちは、この状態がもう少し続けば、池の中で熱さのために骸と化していたかも知れません。

夜は明け始めてゆきましたが、風と煙の渦は止むことなく、その黒煙の彼方に、張り付いたような紫の太陽が昇りました。





# 剣道に役立つ医学知識

## 剣道人は誤嚥性肺炎にならないか？

歯科医師 安田 勝裕

口腔機能の問題で亡くなる方は、窒息と誤嚥性肺炎があります。実は窒息で亡くなる方（平成二十年九・四一九人）は、交通事故で亡くなる方（同年七・四九九人）より多いのです。誤嚥性肺炎は七十歳以上の肺炎の七十%を占めており、令和二年のデータでは、全国で三八・四六二人が死亡しています。

### 喉頭(こうとう)について



### 喉頭の役割

- 「発声」声帯を使い発声する。
- 「誤嚥防止」呼吸をするための通路に異物が入らないようにする。
- 「気道の確保」呼吸をするための空気を通す。

どちらも喉頭といって、飲みこむ気道と食道の交差点の筋力が衰えてくることに原因があります。昨今、オーラルフレイル（口腔周囲機能の低下）という言葉が出てきました。これは口腔周囲の様々な機能が低下し、いわゆる虚弱状態になっている状態をいいます。

加齢とともに、オーラルフレイルと言って口腔周囲筋が虚弱になり、嚥下機能（飲み込む力）が低下します。物を飲み込む動作は、普段は意識せずに行っていますが、舌やのどなどが巧みに連動して食道から胃へと送り込んでいます。嚥下障害になると栄養を十分摂取できずに栄養失調になったり「誤嚥性肺炎」などの病気になることがあります。そのため健康維持のため、嚥下機能の低下を防ぐ必要があります。

次のような自覚症状があるときには、要注意です。


1. 奥歯でしっかりと噛めない
2. 噛むと痛んだり不快感がある
3. 食べこぼしがある
4. むせやすい
5. 口が乾燥しやすい
6. 滑舌が悪くなっている

嚥下機能が低下する原因には

- ① 歯が弱り、噛む力が低下する
  - ② 唾液の量が減る
  - ③ 顎、頬、のどなどの筋力低下
  - ④ 粘膜の知覚や味覚の低下
  - ⑤ 注意力、集中力の低下
  - ⑥ 脳卒中や認知症による障害
- などがあります。

## のどトレで「飲み込み力」を鍛えよう

### 準備

食事中にのどの動きを確認する 



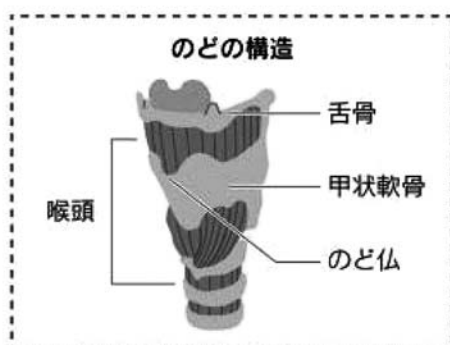
のど仏を意識



顎の下を意識

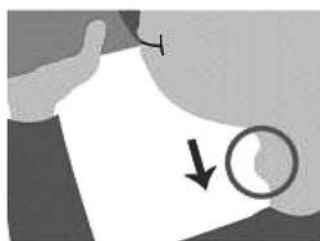
### 飲み込み力低下のサインは

- 食事にむせやすくなる
- のどが詰まるような感じがする
- せき払いが増える
- 唾液がのどにたまる



### ステップ 1

空嚥下をマスターする



水なしでも「ごっくん」ができるまで練習する

### ステップ 2

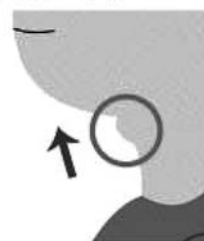
のど仏を上下に動かす



動かす幅を少しずつ広げていく

### ステップ 3

のど仏を上げてキープ  
(1日2~3回)



10秒キープ後に息を吐く

## 「さしすせそ」で滑舌チェック

「滑舌」とは、文字通り、言葉を滑らかに発生するための舌や口の動きのことです。言葉をよく「噛む」ようになった、発音しづらくなったなど、滑舌が悪くなったと感じる時には、舌の筋力の衰えが原因として考えられます。舌の筋力も年とともに低下しますが、筋力が衰えると、滑舌が悪くなるだけでなく、舌を噛みやすくなったり、口呼吸になったりします。

舌の筋力の衰えは、「さしすせそ」の発音から読み取ることができます。口を閉じて小さな声で話している時には「さしすせそ」と発音できていても、筋力が衰えている場合、大きく口を開けて話すと、「しゃいしゅしゅしょ」という発音になりがちです。「さしすせそ」の発音が苦手になってきたら、「パタカラ体操」や「あいうべ体操」などのお口の体操や、舌を出したり引っ込めたり、上下左右に動かしたり舌のストレッチを行うなど、舌のトレーニングをしましょう。

## 嚥下のリハビリ

ふだん私たちは、食べ物を飲み込む瞬間は、気管に入らないよう無意識に息を止めています。

しかし、呼吸のコントロールがうまくいかないと、息を止めることができずに吸い込みながら食べてしまい、誤嚥が起こるので

誤嚥は窒息や肺炎の原因になります。安全に食べるためには、呼吸のコントロールが重要です。

### ■飲み込みのリハビリ

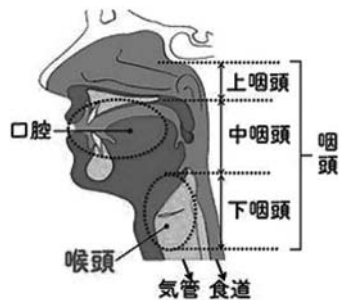
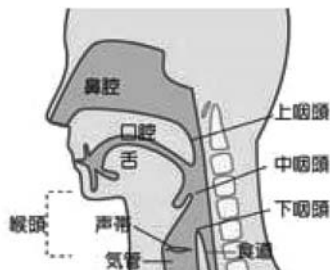
誤嚥しそうになっても、むせて吐き出すことができれば大丈夫。むせることは反射的に食べ物を吐き出すとする防御反応なのです。正しくむせるには、お腹に息をため込んで、思い切り吐き出します。

### ●深呼吸とせきの練習

深呼吸をして、いったん息をとめた後、エッヘンとせきをして息を吐き出します。これを何度か繰り返します。

### ●腹式呼吸の練習

我々剣道人は、日ごろから、のどトレ、嚥下トレ、オーラルフレイル（口腔機能の虚弱）予防を行っていると思いませんか？というところで、剣道人は、普通の方より、窒息、誤嚥が少ないと思われませんが、だれも研究（疫学調査）していないのでわかりませんが、喉周囲のインナーマッスを鍛える剣道は、オーラルフレイル（口腔周囲の虚弱）を防止するアンチエイジングな武道なのかもしれません。



# 大会・行事所感

## 第二十四回寺西杯争奪剣道大会

### 実施にあたってのコロナ対策

鳴門支部 寺西明弘

コロナの影響により、令和二年二月二十三日近県少年剣道錬成久米大会の出場を最後に、鳴門市光武館道場が出場を予定していた全ての試合が中止となりました。その後、稽古も制限され、活躍の場を失った子供たちは糸の切れた凧のように全く稽古が身に入らない状態が続きました。

そんな子供たちに何とか試合をさせてやりたい、大会を開催することで元気で明るい気持ちを取り戻してやりたいの思いから、何とか寺西杯を開催することは出来なしかと考えました。

当然、光武館保護者の協力が無ければ大会は開催できません。そこで開催の有無について保護者に確認したところ「コロナ感

染拡大している時期に大会を開催するのは「どうかな」との反対意見も寄せられました。多くのことから「子供たちに試合をさせてやりたい。」とのことから、

一、コロナ感染拡大予防対策を十分取る。  
二、大会参加チームは県内のみとする。  
などを話し合いで決定し、大会を開催することにしたのです。

開催にあたっては、絶対にコロナ感染者を出してはいけない、もしコロナ感染者が一人でも発生すれば、今後、全ての剣道大会開催が危ぶまれることから慎重にコロナ対策について検討した結果、次のとおり対策を実施することとなりました。

大会でのコロナ感染拡大防止対策

- 一、入場制限、選手五名、選手一名につき保護者一名(補員は認めない)
- 二、参加者健康表(チェックシート)の記載確認及び提出

三、大会の分散開催

小学生の部(低学年、高学年) 午前  
中学生の部(男女) 午後

四、会場入場

各チーム市町村ごとに整列し、会場入口で検温、手の消毒を行い入場させる。

五、観客席は全て指定、入場後、全員指しがあるまで観客席にて待機

六、ウォーミングアップは一斉に行う。

七、試合場には来賓、審判、役員、監督、選手以外は入場禁止を徹底する。

八、マスクの着用の徹底(鼻だし禁止)

九、開会式は行わない(審判長注意のみ)

閉会式は入賞チームだけで行う。

以上のことを徹底し大会を開催した結果、一人の感染者を出すこと無く光武館一同、安堵したものです。

この度、大会を開催するにあたり、多くの先生方から「小学生の大会が無かったのよかった。本当にありがとう。」とお言葉をいただき大変嬉しく思っております。

寺西杯は多くの人に支えられ、第二十四回を開催することが出来ました。本当にありがとうございました。また、保護者、OB等関係者のみなさんには大変ご苦労をお掛けし誠に申し訳ございませんでした。皆

様のご協力支援あってこそ大会が開催できるものです。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

今後、部員数の減少により、大会開催がどうなるか、わかりませんが、できる限り継続できますよう頑張っていく所存でございます。

## 有賀杯剣道大会の発足と

### コロナ感染対策

阿南支部 中西 実

有賀秀敏先生が、平成二十七年一月二日にご逝去されて、早七年という月日がたちます。自分自身も、阿南少年剣道教室の指導者として、平成十五年一月から二十年という歳月がたち、あつという間の二十年間だったと思います。小学校四年生に、阿南少年剣道教室に入部して、その時に有賀秀敏先生に出会い、今日の自分自身の剣道人生があります。

この有賀杯剣道大会の始まりは、有賀先生がお亡くなりになり、すぐに私は有賀先生を偲んで、追悼剣道大会を開催しました。

この大会は今道場（阿南武道館）で行い、来賓には徳島県剣道連盟会長（現名誉会長）、三木毅先生をはじめ、たくさんの先生方ならびに、たくさんの徳島県の剣道教室の子供達に、参加していただきました。素晴らしい大会だったと、今でも思い浮かびます。

そして来年から、有賀先生を偲んで有賀杯剣道大会を、阿南少年剣道教室主催の大会を末永く継続させていただこうと、心に決意しました。

その旨を、有賀先生の奥様と娘さんにお伝えすると、涙を流してありがとうございます。お父さんも天国で喜んでいると思いますと言われ、「よし」という気持ちでスタートしたのが、有賀杯剣道大会の発足です。

昨年十一月二十三日に第四回が無事に終了し、今年（令和四年度）第五回も、那賀川スポーツセンター予約完了しました。ちなみに、日時は、十一月二十三日（水曜日）祝日ですのでよろしくお願いいたします。

今思えば、自分がやろうと思いましたが、自分一人の力では、どうしようもありません。特に何から何までお世話になりっぱなしの須藤恭宏先生、同級生で同じ阿南少年剣道教室の益山紹生先生、そして保護者会の皆様には大変お世話になり、感謝でいっぱいです。事務担当（阿南少年剣道教室〇



B)でもある田上裕之先生、いつも気にか  
け、二回も大会に日本剣道形を披露してい  
ただいた同級生である教士八段・玉田晋作  
先生には大変お世話になりました。本当に  
この大会はいろいろな人達のおかげで成り  
立っています。この場をお借りして、御礼  
申し上げます。ありがとうございます。

この時代、コロナという感染症から二年  
の月日が流れ、未だ終息が見えません。大  
会も全剣連により制定された「主催大会実

施にあたっての感染拡大予防ガイドライン」  
に基づき、選手には、面マスクを着用して  
試合をしていただいています。それに大会  
全参加者は、マスクを常時着用していただ  
いています。大会中大きな声で会話、応援  
等もしないでいただいています。それに、  
大会朝には健康チェックシートの提出及び、  
大会参加者は、入場時に検温を行っていま  
す。三七・五度以上の方は、入場はしてい  
ません。まだまだ換気など大変ですが、阿  
南少年剣道教室保護者会、阿南少年剣道教  
室OB・OGなど、準備協力のもと大会が  
運営されています。

これからも、たいへんですがみんなで協  
力していきたいと思えます。

最後になりますが、この有賀杯剣道大会  
が、十回、二十回と末永く継続できますよ  
う、今後とも、私達は有賀先生のご冥福を  
お祈りするとともに、ご意思を受け継いで、  
剣道の持つ素晴らしさを後世に引き継いで  
いかなければと強く思っておりますので、  
今後とも、阿南少年剣道教室をご指導ご鞭  
撻のほどよろしくお願いいたします。





阿南少年剣道教室 平成20年 2月22日



平成21年稽古初め 1月12日 徳島県剣道連盟 阿南支部

# 高齢剣友会「有志の会」 初の新潟・富山県遠征

徳島県高齢剣友事務局長

乾 清 孝

昨年七月の稽古再開初日には、「えっと振りじゃな。元気にしようで。」  
「ほんまじゃなー。おまはんこそ元気にしよったで。」

との出会い頭の一声が道場のあちこちで聞こえてきて、ほんわかとした中にも久し振りに稽古ができるという浮き浮きとした高揚感と剣道仲間の元気な姿を見ることができたという連帯感に溢れる一コマの風景がありました。

しかし、その後は、四月の四国四県剣道交流大会、六月の全日本高齢者武道大会、さらには一〇月の全国ねりんピックと各大会が二年続けて中止となり、加えて西・南部稽古会も中止せざるを得なくなっていました。

こうした状況の中で九月下旬ころに、今

回世話役の松村先生から「新潟・富山両県の高齢剣から合同稽古会の案内がきています。」との話があり、急遽、高島会長了解のもと参加者を募ったところ、早速十四名の会員から「是非、参加したい。」との返信を受け、最終、美馬理事長以下十二名が徳島県高齢剣友会「有志の会」として参加することとなりました。

日程は、  
十一月十九日（金）

午前七時 松茂第二体育館集合・出発

午後三時 新潟三条市内ホテル着

午後七時 山田道場での稽古

（館長・山田義雄教士八段・全国高齢

剣副会長）

午後九時 ホテルでの懇親会

十一月二十日（土）

午前九時 ホテル出発

午後一時 富山県壘部市朝日町サンリーナ

新潟・富山両県高齢剣との

交流会（試合・合同稽古）

午後四時 富山出発

十一月十二日（日）

午前〇時三〇分 帰県

と、相当な強行軍でしたが、松村先生（運転）、寒川先生（助手）の両先生のお陰をもちまして、無事、帰県することができました。

〈山田道場での稽古〉

何年か振りの月食を仰ぎ観ながら道場に向いました。同道場には六十名弱の先生方が登録されているほか、県外からの参加者もおられるなど非常に活発な活動をされていることが窺われました。

稽古は、元立ちに徳島から四名が立つように案内されていたものの、実際には徳島からの参加者十二名全員が元立ちとなってしまう、道場狭しとの稽古となりました。

山田道場の剣道は、とにかく「真直ぐな面打ち」に尽きます。起こりを見せずに、じっくりと観察し、打ち込もうとするところを出会い頭に真直ぐな面を打たれておられました。

また、木原先生の大学の先輩方や長崎先生の後輩の方もおられた他、今年六月にも山田道場で稽古された会員も参加していた

ことから、初めての道場とも思えないアットホームな雰囲気の中での非常に激しい稽古となったほか、こうした稽古内容に加えて少年剣士の節度ある礼儀正しい丁寧な御接待にも心打たれ、山田先生の厳しさの中にも温かみのあるご指導の一端が垣間見られました。

さて、引き続き第二道場では、新潟から山田先生をはじめ七名の先生方が参加され、稽古のお返しとばかりに出頭面を狙ったのですが、地元先生のおすすめの地酒「張鶴」を心行くまで堪能したのが仇となり敢え無く返討ちと相成りました。

#### 〈新潟県・富山県・徳島県交流会〉

交流会は、富山県剣道連盟顧問山本重美範士八段の挨拶の後、試合及び合同稽古の順で行われ、新潟県高齡剣からは三〇名、富山県高齡剣からは同じく三〇名の本県と合わせて総勢七二名が参加するなど、この三県で全日本高齡者武道大会参加者のほぼ一割を占める規模となりました。

#### 試合は、

Aチーム（福井ねんりんピック参加メンバー

主体）

兵頭、東、藤本（辰）、吉田

（昌）、武田（俊）

Bチーム（秋田ねんりんピック参加メンバー

主体）

美馬、六條、大貝、寒川、松村、

乾、長崎

の二チームを編成して臨み、Aチームは三試合、Bチームは二試合をして、ほぼ全試合が引き分けとなるなど三県が均衡する結果となりましたが、初太刀での武田先生の「出頭面」や寒川先生の「小手抜き面」のほか、六條先生の前へ前へと先を懸ける試合ぶりが印象に残りました。

合同稽古は、時間内に多くの先生方と稽古ができるよう時間を二分と取り決めて行い、前半六回の後、一〇分の休憩を取り、後半に四回の稽古ができました。

こうした合同稽古では、他県特有の剣風を知ることができ、初めて対峙するお相手との稽古が非常に新鮮なものとなり、全国で剣道を愛する高齡者がこれほどおられるのかと大いに刺激を受けることができ、真

にあの人とはもう一度稽古や試合をしてみたいという「交剣知愛の輪」が広がり、今後もこうした機会があれば高齡剣としての取り組みがあつて然るべきとの感想を持つことができました。

最後に、今回、この有意義な機会を得ることができ、山田先生をはじめ新潟県・富山県高齡剣友会の皆様及び労を取っていただきました松村先生に感謝申し上げます。







# 各種大会に参加して

## 全日本都道府県対抗

### 剣道優勝大会

次鋒 山 室 和 士

令和三年十二月二十六日、和歌山ビッグホエールにて全日本都道府県対抗剣道優勝大会が行われました。本大会は、新型コロナウイルスの影響により延期となっておりましたが、たくさんの方々のご尽力で開催されたことに本当に感謝しております。

都道府県大会は、年齢別、職業別の代表者による大会で、私は次鋒（大学生枠）で出場しました。コロナ禍でたくさんさんの試合が中止になり、久しぶりの公式戦ということもあり、緊張感でいっぱいでした。しかし、大会前日から出発した移動中の車内では楽しい会話で盛り上がり、和歌山に到着するころには、とてもリラックスしていました。

大会当日には、かなり厳しいといわれていた竹刀検量があり、何よりこれが一番緊張しましたが、皆の竹刀が合格したとき、私は「今日はいけるぞ。」となんとなく確信しました。

初戦は、青森県と沖縄県の勝者でした。両チームの試合を見てからアップを始めたので、できるだけ実戦に近づけるように意識しました。初戦の相手は沖縄県でした。

試合が近づくとともに、楽しい気持ちと緊張感で心臓の鼓動が早くなっているのが分かりました。そんな時、チームのメンバーから「前やけん思い切っていけよ。」と言ってももらったので、チームを盛り上げて少しでも貢献するぞ！と心に決めて試合に臨みました。私の相手は、小手が上手い選手だったので、ここで面を打てなくなっては自分の試合ができなくなるので、相手をしっかりとらえて得意の面を決めていこうと思いました。先鋒の松本も良い動きで撃いてくれ、とても試合に臨みやすかったです。結果、私も面をとらえることができ、チームは四一二で勝利することができました。ま

ずはチームで一勝し、次に進めたことでも気合が入りました。

次の対戦相手は開催県である和歌山県でした。結果は、三〇で敗退してしまいましたが、最後まで手に汗握る試合で、どうにか次に繋がりたいと、祈る気持ちでした。

結果、ベスト16でしたが、何より大会が開催され、このメンバーと試合ができたことに感謝の気持ちでいっぱいです。コロナ禍で、目標を失いモチベーションの維持などに苦労している人はたくさんいると思います。しかし、このような状況下でも大会が開催されたことにより、たくさんさんの剣友と再会し剣を交えることで、とても前向きな気持ちになることができます。普段の生活も大きく変化し、さまざまな制限がありますが、「今、自分にできることは何か」と考え、出来ることから取り組んでいくことが大切だと思います。

最後に、大会を開催してくれたこと、たくさんの方々が応援してくれたことに「感謝」の気持ちがあふれた大会でした。これからも日々精進していきます。



## 全国高等学校

### 剣道選抜大会に出場して

城北高等学校 松本尊灯



私たちは令和三年三月二十六日から二十八日に、愛知県春日井市で開催された第三十回

全国高等学校剣道選抜大会に出場しました。全国大会に出場し、ベスト四以上を目標としていたので、この大会への出場が決まったときは本当に嬉しく思いました。

私たちは今回の全国大会に出場するため強い思いがありました。それは昨年の選抜大会出場を逃したことで、新型コロナウイルス感染症の影響により、夏のインターハイが開催されなかったことです。この経験から、「先輩方の悔しい思いも背負って、自分たちは絶対に全国に行く。」と決意し、日々の稽古に取り組んできました。それだけではなく、制限のかかる状況の中で、自

分たちにできることを常に考え、練習試合の一試合を大切にしたり、自主的に早朝練習に取り組んできました。また、城北高校剣道部の「文武両道」の教えをモットーとし、限られた時間の中で先輩方の胸を借りながら自分たちの剣道を磨いてきました。

日常生活の中でも文武両道を心がけることで精神的にも成長することができました。その成果として選抜大会県予選では、自分たちの剣道で粘り強く戦い、チームで優勝を勝ち取ることができました。

そして全国大会当日、会場には今までにない独特の雰囲気がありました。一回戦で佐賀県の三養基高校と対戦しました。いつも通り粘り強く、自分たちの剣道をしようという気持ちで試合に臨みました。しかし、〇―四で敗れ、初戦敗退という結果になりました。全国大会という舞台で、一勝もすることができなかったという悔しさと、自分たちの剣道をすることの難しさを痛感しました。もう一度全国の舞台に戻ってきて勝ちたいという思いが一層強くなりました。選抜大会に出場したことで、自分たちの実

力を再認識し、新たな課題を見つけ出すことができ、夏のインターハイに向けて良い経験がすることができました。

私たちがこのように剣道を続けられているのも大石先生をはじめ、福多先生、竹内先生の熱心なご指導や、保護者からの応援があったからだと思えます。先生方からは剣道の技術面だけではなく生活面についてもご指導していただきました。また、自分たちの代は特に先輩方に支えられました。新型コロナウイルス感染症の影響で大学に通えない中で、毎日のように稽古に来ていただき、自分たちだけではできないような充実した稽古をすることができました。この恵まれた環境を当たり前だと思わず、感謝をしなくてはならないと改めて実感しました。これらの経験を大切にし、これから剣道を続け、苦しくなったときは厳しい練習の中で互いに励まし合い、助け合い、仲間と乗り越えた努力の日々を思い出し頑張っていきたいです。本当にありがとうございます。

# 第30回全国高等学校剣道選抜大会

## 男子団体トーナメント1回戦

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	結果
三養基 (佐賀)	岩村	武田	川尻	江頭	江口	○
		メ	メツ	メ	メ	$\frac{5}{4}$
城 北 (徳島)						$\frac{0}{0}$
	添木	谷川	小山田	永瀆	松本	△



## 選抜大会に出場して

富岡東高校 塚 田 志 緒



令和三年三月二  
十六日(二十八日  
にかけて第三十回  
全国高等学校剣道  
選抜大会が愛知県

春日井市総合体育館にて開催されました。  
新型コロナウイルスの感染予防のため、無  
観客かつ、試合時間が三分に縮小されまし  
た。そのような中今大会運営にあたり、ご  
尽力下さった関係者の皆様にこのような素  
晴らしい大会を開催してくださいましたこ  
とを厚くお礼申し上げます。

富岡東は一月にあった徳島県予選で七年  
連続三十二度目の優勝を果たし、全国大会  
への切符を手にすることができました。昨  
年、新型コロナウイルスの影響で全国大会  
が中止になった分、久々の全国大会とい  
うこともあり、チーム全員今回の大会に懸け  
る思いは今までよりも強かったと思います。

愛知県代表、桜丘高校との一回戦。幸先  
良く次鋒・中堅で一本ずつリードするもま  
だまだ勝負の行方が分からない状況で、相  
手も負けじと果敢に攻めてき、副将・大将と  
続けて一本負けで追いつかれ、代表戦にも  
つれ込みました。代表に選ばれた私は絶対  
ここで終わらせないという強い思いで挑み、  
会心の面で勝利に導くことができました。

二回戦の相手は愛媛県代表の帝京第五高  
校。この試合も次鋒が一本先取しましたが、  
副将で一本取られ、同数のまま決着がつか  
ず代表戦となりました。大将の岡崎が渾身  
の飛び込み面を放ったのが一本となり、大  
将としての意地を見せてくれました。

三回戦の相手は、九州の名門、長崎県代  
表の島原高校。前回大会で準優勝を収めて  
いる強豪校ですが、恐れずに持ち味を最大  
限に發揮して自分たちらしく戦えばチャン  
スは幾度も訪れ、きつと勝てる、仲間全員  
そう信じて試合に臨みました。先鋒から副  
将まで両者一步も譲らず、引き分けに終わ  
り、大将戦。試合の前半で飛び込み面が一  
本となりリードする展開に。相手は取り返

さないといけない状況になり、焦りが見え  
ていました。そんな中、大将の岡崎は落ち  
着いていて試合終了間際、相手の焦りを利  
用して飛び込んできた所の返し胴を決め、  
二本勝ちでチームの勝利に貢献してくれま  
した。この時点でベスト八進出が決まり、  
最終日に駒を進めることができました。

最終日、準々決勝の相手は、今大会優勝  
した福岡県代表の中村学園女子高校。昨日  
の良い流れのまま勝利を掴もうと懸命に戦  
うも、〇―一で惜敗しました。果敢に攻め  
るも、あと一步及ばず、念願の全国制覇の  
目標は遂げられませんでした。それでも、  
十二年ぶりのベスト八を収めることができ  
ました。また、本大会の優秀選手(計八名)  
に、岡崎理が選出されました。

常に私たちに親身になり、熱く丁寧にご  
指導くださった顧問の長井先生をはじめと  
する私たちにお力添えしてくださいました先  
生方。いつも応援し、今日まで支えてくれた  
保護者の方々。そんな人たちに少しでも恩  
返ししたいと思い、強い気持ちでチーム全  
員が全力を尽くしました。最高の晴れ舞台



で輝かしい成績を残すことができたのは間違いなく皆様のおかげです。ありがとうございます。そして、ここまで一緒に切磋琢磨してきた仲間たち。全員が同じ目標に向かって工夫を凝らし、チーム一丸となつてがむしゃらに頑張ったからこそその結果だと思えます。皆には感謝の気持ちでいっぱいです。

最後になりましたが、私たちにとってこの選抜大会は非常に良い刺激となり、チームにとっても大きな財産となりました。結果に満足せず、今大会を通して得た経験や課題を今後に生かし、さらに努力し、まだまだ精進していきたいと思っております。本当にありがとうございます。



## 学校別試合結果女子（富岡東）

### 1回戦 第三試合場 第7試合

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	対戦結果	代表
富岡東 (徳島)	藤井	山田	塚田	岩本	岡崎	$\frac{3}{2}$	塚田
		引き分け メ		一本勝ち メ			一本勝ち メ
桜丘 (愛知)						$\frac{3}{2}$	
	外山	杉原	右田	森谷	市川		森谷
試合時間	3分0秒	1分36秒	3分0秒	3分0秒	3分0秒		1分34秒

### 2回戦 第二試合場 第11試合

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	対戦結果	代表
富岡東 (徳島)	嶋田	山田	塚田	岩本	岡崎	$\frac{1}{1}$	岡崎
		引き分け メ	一本勝ち	引き分け メ	一本勝ち		引き分け
帝京第五 (愛媛)						$\frac{1}{1}$	
	岡田	白石	小田	荒木	乾		乾
試合時間	3分0秒	3分0秒	3分0秒	3分0秒	3分0秒		3分15秒

### 3回戦 第一試合場 第12試合

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	対戦結果
島原 (長崎)	永井	福園	竹本	井上	生出	$\frac{0}{0}$
		引き分け	引き分け	引き分け ▲	引き分け メ	
富岡東 (徳島)						$\frac{2}{1}$
	藤井	山田	塚田	岩本	岡崎	
試合時間	3分0秒	3分0秒	3分0秒	3分0秒	2分9秒	

### 準々決勝 第三試合場

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	対戦結果
富岡東 (徳島)	谷村	山田	塚田	岩本	岡崎	$\frac{0}{0}$
		引き分け	引き分け	引き分け メ	一本勝ち	
中村学園女子 (福岡)	▲				▲	$\frac{1}{1}$
	御堂	寺坂	鈴木	池田	松永	
試合時間	3分0秒	3分0秒	3分0秒	3分0秒	3分0秒	

## 女子優秀選手

福岡県	筑紫台高等学校	猪原 悠月
京都府	日吉ヶ丘高等学校	矢野ひかる
栃木県	小山高等学校	屋代 悠
福井県	敦賀高等学校	松本 佳子
徳島県	富岡東高等学校	岡崎 理
福岡県	中村学園女子高等学校	松永 樹音
青森県	東奥義塾高等学校	山田 夏
熊本県	八代白百合学園高等学校	松山 若樹

## インターハイに出場して

城北高等学校 永 濱 幹 大



令和三年八月九日  
日から十二日、石川県いしかわ総合スポーツセンターで第六十八回全国

高等学校剣道大会（インターハイ）が開催された。前年度、新型コロナウイルス感染症の影響でインターハイや県総体が中止となり、悔しい思いを残して引退していった先輩方の気持ちや、三月の全国選抜大会で味わった悔しさを胸に、もう一度全国の舞台で戦いたいという強い気持ちをもってこの大会に臨んだ。

六月に開催された県総体では危ない試合もあったが、なんとか団体戦で優勝することができ、インターハイの切符を掴むことができた。目標を成し遂げた後の達成感や、苦楽を共にした仲間と喜びを分かち合ったあの瞬間は本当に最高だった。しかし、ま

だ気を抜くわけにはいかない。この県総体優勝は中間地点に過ぎない。私たちの一番大きな目標はインターハイにあるんだと、そこからの二ヶ月間、今まで以上にお互いに刺激し合いながら厳しい練習に励んだ。

そして、ついに迎えたインターハイ、私たちはもう一度全国の舞台で試合ができるというワクワク感と少しの緊張感を噛みしめながら試合に臨んだ。予選リーグ一試合目の相手は山口県代表の野田学園高校だった。まず先鋒の添木が落ち着いて出ばな小手を決め一本勝ち。チームに良い流れを作ってくれた。その後、次鋒の宮田、中堅の小山田が引き分けて良い流れのまま副将の私に繋いでくれた。私もその流れを崩すまいと落ち着いて試合に臨み、出ばな小手、相面を決め二本勝ちし、チームの勝利を決定させた。続く二試合目は宮城県代表の仙台育英高校だった。先鋒、次鋒、中堅と引き分けて初戦の流れを崩さないまま私に繋いでくれた。試合に入る前、相手の大将が個人戦で準優勝の強者だったので自分に「一本」と言い聞かせて試合に臨んだ。出ばな

小手と相面を決めて二本勝ちし、大将の松本が引き分け、予選リーグを二勝で見事に突破することができた。

翌日の決勝トーナメントの相手は静岡県代表の磐田東高校だった。先鋒が出ばな面を取られ一本負け、続く次鋒、中堅、副将と引き分けで、大将の松本に全てを託した。惜しい技は何本もあったが守りを崩せず、相手のうまい試合運びに引き分けとなりチームの敗北が決定した。結果はベスト一六であったが、城北高校の最高成績を残すことができた。何よりこの大会が今までの中で全員が一番良い試合をすることができたと感じている。

このメンバーで試合をするのは最後だった。私はこのチームで一つでも多く勝って一緒に戦いたいという一心だった。嬉しさも悔しさも共に味わった仲間は私にとって唯一無二の存在だ。また、私たちをこころで指導してくれた大石先生、上田先生、前任の福多先生、白木先生、竹内先生、外部の先生方やOBの先輩方、またどんな時でも応援してくれていた保護者の皆様、そし

## 第68回全国高等学校剣道大会 (R3石川インターハイ)

ていつも支えてくれた両親に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

### 【男子・団体戦・リーグ 第二試合場】Hリーグ

都道府県	学校名	城北	野田学園	仙台育英	勝数	勝者数	取得本数	順位
徳島	城北		③ ③	② ①	2	3	5	1
山口	野田学園	① ①		① ①	0	1	1	3
宮城	仙台育英	① ①	② ②		1	2	2	2

### ■予選リーグ結果・男子団体

#### 【Hリーグ】第二試合場・8試合目

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	結果	代表	主審
城北	添木	宮田	小山田	永瀆	松本	③ ②		吉本 剣志郎
	コ	一本勝		コ	メ			
野田学園					メ	① ①		副審 松井
	佐伯	佐々木	村澤	齊藤	藤井			副審 瀬尾
時間	04:00	04:00	04:00	02:48	04:00		00:00	副審 匡範

【Hリーグ】第二試合場・12試合目

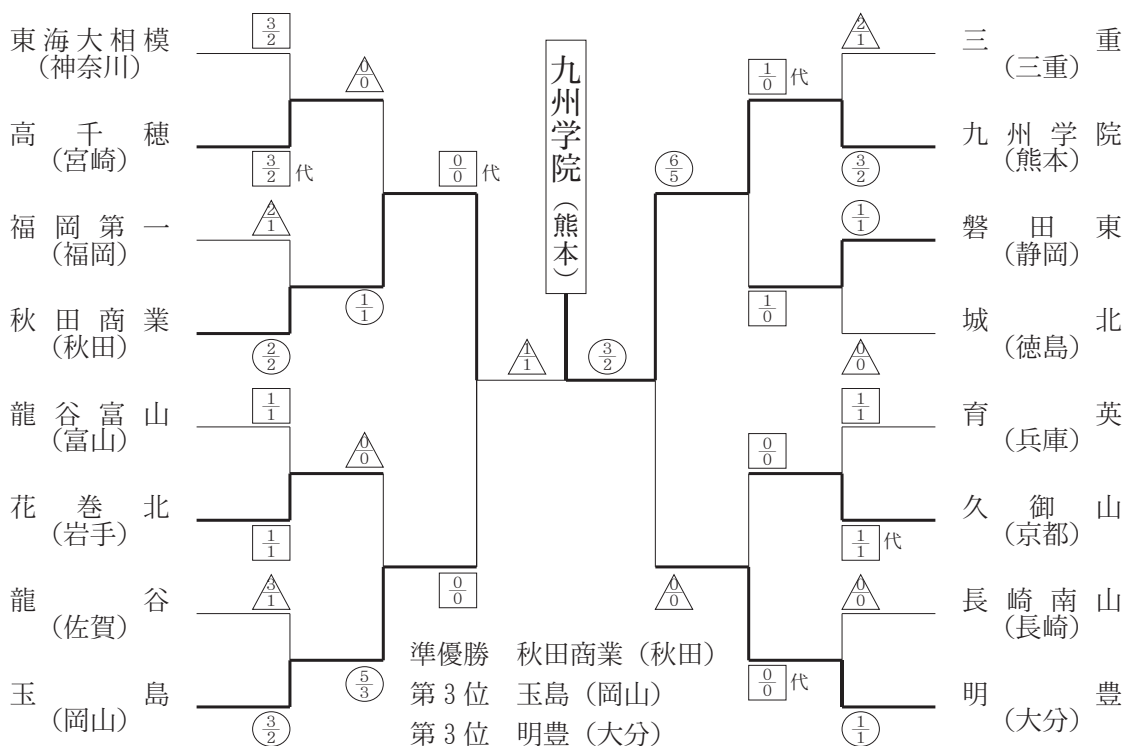
学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	結果	代表	主審
城北	添木	宮田	小山田	永瀆	松本	2 1		瀬尾 匡範
	▲			ココ				
仙台育英	長南	北湯口	遠藤	伊深	渡會	0 0		副審 増田 篤志
時間	04:00	04:00	04:00	00:53	04:00		00:00	副審 吉本 剣志郎

■決勝トーナメント結果・男子団体

【男子・団体戦・トーナメント1回戦】第三試合場・2試合

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	結果	代表	主審
磐田東	中西	川島	桑田	岡野	柴田	1 1		松井 宏文
	メ	一本勝			▲			
城北	添木	宮田	小山田	永瀆	松本	0 0		副審 有賀 久芳
時間	04:00	04:00	04:00	04:00	04:00		00:00	副審 大野 誠

決勝トーナメント・男子







令和3年度全国高等学校総合体育大会  
輝け君の汗と涙 北信越総体2021

2021

走れ北信越の大地をよ北信越の天雲

第68回  
全国高等学校  
剣道大会

令和3年  
8月9日(月)  
8月12日(木)

会場/いしかわ総合スポーツセンター

【主催】(公財)全国高等学校体育連盟・(公財)全国高等学校体育連盟・石川県・石川県教育委員会・金沢市・金沢市教育委員会  
【共催】読売新聞社  
【後援】スポーツ庁・(公財)日本スポーツ協会・NPO法(公財)石川県体育協会・金沢市スポーツ協会  
【協賛】(公財)全国高等学校体育連盟新潟県本部・石川県高等学校体育連盟・(一財)石川県剣道連盟  
【特別協賛】大塚製薬 (協賛)JTB・マキノ・RODDI・カシヨ・C&M

監修 柳田心琴 石川県立工業高等学校

# 全国高等学校

## 総合体育大会に出場して

富岡東高校 岡 崎 理



令和三年八月九  
日から十二日に、  
石川県で第六十八  
回全国高等学校総  
合体育大会が開催

されました。新型コロナウイルス感染症が  
全国で蔓延する異例な状況の中、大会開催  
のためにご尽力いただいた関係者の皆さま  
に、この場をお借りして厚くお礼申し上げ  
ます。

出場にあたり、私たちが掲げた目標は、  
「優勝」でした。本年春に行われた全国選  
抜大会でのベスト八という結果に満足せず、  
「全国でさらに上の景色が見てみたい」と、  
部員一丸となり毎日必死に練習しました。

迎えた大会当日。初日の個人戦には、本  
校から塚田と山田が出場しました。山田は、  
一回戦、延長の末に相手に面を決められて

敗退。二回戦から登場した塚田は、面を奪  
い一本勝ち。続く三回戦では、面を先取さ  
れるも、相手が返し胴に出たところを面で  
乗り、勝負に。その後、小手を捉えられて  
敗戦となりました。上位進出とはなりません  
でしたが、大舞台でも怯まずに攻めを貫  
く二人の姿に、大いに勇気づけられました。

二日目から始まった団体戦予選リーグの  
初戦の相手は、大阪府・四天王寺高校でし  
た。初対戦でしたが、先鋒・岩本は面と反  
則の二本勝ち。次鋒・中堅は引き分け。副  
将は一本負け。大将は引き分けで、一一一  
の本数勝ちで一勝をあげました。二試合目  
の相手は、静岡県・磐田西高校でした。東  
海大会王者で、得点力の高いチームでした  
が、逆に「やってやろうじゃないか」と、  
予選リーグ突破のために腹を決めて試合に  
臨みました。試合が始まると、先鋒・岩本  
が面と小手を決める二本勝ちで大きく流れ  
を引き寄せてくれました。次鋒戦では、こ  
の試合から出場した三年生の藤井が流れに  
乗り、面を奪い一本勝ち。中堅は相手の反  
撃にあい二本負け。副将は引き分けで大将

戦に。緊迫した場面でしたが、仲間が繋い  
でくれた果敢に攻める気持ちと、「中心を  
崩さなければ負けない」という長井先生の  
教えを胸に戦い、得意の面で一本勝ちを取  
められました。チームも三対一で勝利し、  
決勝トーナメントに進出できました。先鋒  
の岩本は、二試合連続で二本勝ちする大活  
躍で、人一倍悔しい思いをした選抜大会で  
の借りを見事に返したと思います。

三日目の決勝トーナメントは、抽選の結  
果、熊本県・八代白百合学園高校との対戦  
が決まりました。徳島県出身の選手が在籍  
するチームで、縁を感じました。先鋒は引  
き分け。次鋒・藤井は上段の相手に対して、  
試合で一本にするのは初めてだという突き  
を決める執念の一本勝ち。中堅・副将は引  
き分けで、大将戦に。大将として一本を守  
りきりたいところでしたが、相手の猛攻の  
前に自分の剣道ができず、中途半端に打っ  
て出たところに面を乗られて一本負け。代  
表戦になり、中堅・塚田がチームの思いを  
一身に背負ってくれましたが、相手チーム  
の面が決まり、準々決勝へ駒を進めること

はできませんでした。試合が終わると、「まだこの仲間と上を目指して戦いたかった」という思いから涙が溢れてきました。しかし、小学校の頃から鎧を削ってきた戦友と全国の舞台上で剣を交えられたことを誇りに思うと同時に、「打たれて感謝」の言葉の通り、一瞬で勝負が決まる剣道の怖さを改めて勉強できました。

「Appreciate the moment.」この言葉は、インターハイのためにチームで作ったTシャツに書かれていて、「この瞬間に感謝せよ」という意味です。今の私があるのは、決して一人の力ではありません。剣道の基礎を磨いた少年剣道時代、全国で戦う厳しさを知った中学校時代。「お前たちなら日本一になれる」と私たちを信じ、導き続けてくださった長井先生や常に寄り添ってくれた家族。最後に、苦楽を共にした仲間たち。私にとって、どんな時でも背中を押してくれる掛けがえのない存在です。沢山の人の出会い、支えられたからこそある今、この瞬間に感謝したいと思います。そして、富岡東で培ったことを糧に、卒業後

も精進します。本当にありがとうございました。



# 第68回全国高等学校剣道大会

## ■予選リーグ結果・女子団体

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	結果	代表	主審
四天王寺東	渡邊	坂本	沖原	碓山	篠原	△ 1 1		有賀 芳久
	反メ			一本勝				
富岡東	岩本	平田	塚田	山田	岡崎	○ 2 1		副審 吉本 上野 志郎 弘
時間	03:58	04:00	04:00	04:00	04:00		00:00	

## 【女子・団体戦・リーグD】第一試合場・10試合

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	結果	代表	主審
富岡東	岩本	藤井	塚田	山田	岡崎	○ 4 3		増田 篤志
	▲ メコ	一本勝	コメ		一本勝			
磐田西	丸山	鈴木紅	鈴木莉	松下	松田	△ 2 1		副審 小脇 前川 友洋 勝
時間	03:39	04:00	00:29	04:00	04:00		00:00	

## ■決勝トーナメント結果・女子団体

## 【女子・団体戦・トーナメント1回戦】第一試合場・1試合

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	結果	代表	主審
富岡東	岩本	藤井	塚田	山田	岡崎	□ 1 1	塚田	本名 和彦
		一本勝			一本勝			
八代 白百合	赤池	古閑	竹町	松山	岩原	□ 1 1	岩原	副審 中村 三沢 憲之 訓康 介
時間	04:00	04:00	04:00	04:00	04:00		02:10	



# 全国中学校剣道大会に

## 出場して

徳島中学校 蔵 本 望 海



「全国制覇」これが僕たち徳島中学校男子剣道部の目標でした。新型コロナウイルスの

流行でたくさんさんの大会が中止となりましたが、この目標は揺らぐことなく日々厳しい稽古に取り組みました。そして、中学校最後の県総体で優勝し、全国大会に出場できることが決まりました。県総体を終えて、その後の稽古ではよりいっそう気合いが入り、メンバー一人一人が自分の課題と向き合って一生懸命に練習しました。

今回の全国大会は、神奈川県で開催されました。試合当日は、今までやってきたことを信じて、落ち着いて臨もうとみんななで心がけました。試合はトーナメント制で行われました。一回戦は宮城県代表の東豊中

学校との対戦でした。先鋒が二本勝ちをし、良い流れができました。

そして、次鋒から大将まで、自分の役割を果たし、スコアは二対一でしたが、本数差で勝つことができました。二回戦は、三連覇中の熊本県代表の九州学院中学校との対戦でした。試合前、自分たちから攻めていき、気持ちで負けないということを決めて試合に臨みました。試合は、自分たちから攻めていくことはできましたが、攻め返され、思うように試合を進められず、三対〇で負けてしまいました。

自分たちの目標を達成できず、とても悔しかったです。このメンバーで全国大会を戦えたことが良い経験になり、一生の思い出になりました。全国制覇という壁の高さを改めて知ることができ、今よりもっと頑張っていこうと思いました。





この大会を通して、試合は個人の力だけでは戦えないのだなと実感しました。コロナウイルスが流行している中で、運営してくださった方々、日々指導してくださった先生方、僕たちを支え、応援して頂いた保護者の方々、共に戦った仲間がいたからこそ、ここまで来られたのだと思います。

また、目標を達成させる難しさも学びました。頑張って稽古をしても目標を達成することができず、悔しい思いもしました。しかし、これまで頑張ってきたことは、自信につながると思い、前向きに捉えられるようになり、より頑張れるようになりました。これからの剣道を続けていくうえで、これまでの学びを生かし、より良い剣道にしていき、良い成績を収めたいです。

最後になりましたが、これまで指導してくださった先生方、サポートしてくださった保護者の方々への感謝の気持ちを忘れず、今後もよりいっそう頑張ります。剣道を学び、そして、剣道に学んだことを大切にしながら、高校に行っても全国大会に出場できるようにしたいです。

苦楽を共にした仲間を代表にして、お世話になったすべての方々への感謝を改めて示したいと思います。本当にありがとうございます。

第五十一全国中学校剣道大会

会場：川崎市とどろきアリーナ

令和三年八月二十一日

男子団体

グループトーナメントH

リーグ第一試合

徳島中 対 東豊中(宮城県)

先鋒 橋本 メー 渡邊

次鋒 三宅 × 清野

中堅 藏本 × 早坂

副将 篠原 × 小笠原

大将 片岡 ーメ 秋葉

徳島中 対 九州学院中

(熊本県)

先鋒 橋本 × 竹本

次鋒 楠本 ーメ 光来出

中堅 藏本 × 本田

副将 篠原 ー反 山元  
大将 片岡 ーメド 河野

令和三年八月二十二日

男子個人

二回戦 延

片岡恭二郎(徳島中) メー

星改汰(玉穂中：山梨県)

三回戦 延

片岡恭二郎(徳島中) メーメ

庄子拓磨(坂井輪中：新潟県)

四回戦 延

片岡恭二郎(徳島中) ーメ

土田剛士(矢島中：秋田県)

## 全国中学校剣道大会に

### 参加して

那賀川中学校 内 田 美 心



私は部活動紹介で剣道部に興味を持ち入部しました。中学校で始めたので最初は右も左もわかりませんでした。また、最上級生になった時、同級生もいなかったため、身近な相談相手もなく、不安でとても寂しかったです。しかし、先生方や先輩方、後輩のみんなに助けられ、どうにか最後までキャプテンの仕事をすることができました。

キャプテンとして苦労したのは、まず「チームの団結」を作ることでした。はじめのうち、自信がない私は「声が出なかつたり」、「チーム内での盛り上げや、アドバイスができなかつたり」とキャプテンとしての務めを果たすことができませんでした。しかし、自分の中で「この仲間ですべて

く」という目標を立てることで乗り切ることができました。お世話になった昨年の先輩方はプレ全中でベスト十六に入ったのに、コロナのため全中が中止になり、参加することができませんでした。「全中出場」は先輩方への恩返しになるとも思いました。

私は、四国総体に大将として出場しました。「大将として出す。」と先生から聞いた時は、嬉しさ半分、プレッシャー半分という気持ちでした。しかし、選んでくださった先生の気持ちに応えるために私なりに全力の試合をしようと心に決めました。

四国総体当日、私はチームの仲間が繋いでくれたバトンを受け取り、全力の試合をしました。チームは負けてしまいましたが、大将として出場し、最高の仲間と全力の試合ができてとても嬉しかったです。

四国総体の悔しさを全中へ繋げようと思いい、日々の稽古に取り組みました。全中では出場機会はありませんでしたが、「キャプテン」として全国大会へ参加することができました。試合には出たかったけど、出場する先輩の緊張をほぐしたり、声を掛け

合い盛り上げたり、キャプテンとしての役割を果たせるように全力を尽くしました。試合はトーナメント戦となり、二回戦で宇ノ気中学校に負けてしまいました。コロナの影響で、様々な制約があり、本当に苦勞しましたが、キャプテンとしてチームをまとめ、ここまでこられたことは一番の思い出となりました。

私は、「徳島県中学校優秀選手」としても表彰していただきました。三年間辛いこともあったけど、諦めずに続けて良かったと思います。新人戦の時に代表として表彰をいただいたことは私にとって最高のご褒美になりました。

私の目標は「最高の仲間と共に全中へ行く。」でした。この目標は素晴らしい環境の元、叶えることができました。また、自分やチームを支えてくれる多くの方々への感謝の気持ちを学ぶことができました。私がかこまで夢中になり、頑張ることができたのも齋先生や長地先生、濱田先生から厳しく丁寧なご指導をいただいたおかげです。また、ここまで支えてくださった保護者の

## 全日本女子剣道選手権大会

富岡東高校 山田 莉子

皆さんや先輩方にも心から感謝しています。遠征や試合の度に毎回送り迎えしてくれた両親にはとても感謝しています。そして、全中まで一緒に行き、様々なことを乗り越えてきたチームの仲間は一生の宝物です。

私はこれからも剣道を続けます。中学校で剣道に出会い、様々な経験をする事ができました。支えてくださる方々への感謝の気持ちを忘れずに、日々成長していきたいです。



令和三年九月十日、ジェイテクトアリーナ奈良で開催された全日本女子剣道選手権大会に初めて出場することが出来ました。高校生活最後にこのような立派な大会に参加させて頂き、とても貴重な体験となりました。

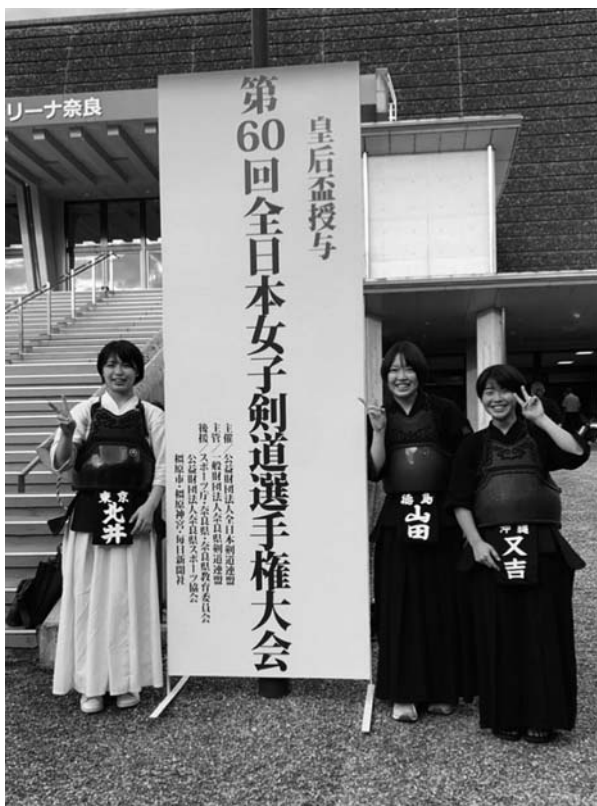
【試合結果】  
一回戦 シード  
二回戦  
宇ノ気中学校（石川） 四対一で敗戦

長井先生に本大会の徳島県予選に出ないかとお話を頂いた際に、自分の実力に自信が無く迷っていました。しかし、「もし、全日本大会に出場出来ればトップの選手方と試合をすることが出来る。必ず自分にとって良い経験になる。」という長井先生の言葉で挑戦してみようと決めました。そして、予定では焦ることなく落ち着いて試合をすることを意識し、自分らしく攻めることが出来た結果、優勝して本大会の出場を決め

ることが出来ました。初めは、全く実感が湧かなかったのですが、周りの方々から祝福のお言葉を頂くにつれ、素晴らしい大会に参加させて頂くのだと感じ、皆様の期待に応えられるような試合をしたいと強く思いました。

対戦相手が東京都代表の富永選手に決まった時、私の苦手とする上段の選手というところもあり、緊張がさらに高まりました。また、富永選手は世界選手権女子団体で優勝しており、そのような選手と試合が出来ることは私にとってとても大切な経験になるとも感じました。それからは、上段に対する稽古を強化をし、長井先生からはたくさんのアドバイスを頂きました。

大会前日に打ち合わせでは、世界選手権女子団体で優勝をしている福岡県代表の妹尾選手が私の後ろにおり、今までに感じたことのない会場の雰囲気でも緊張しました。本大会に出場していた高校生は三名であり、大会前日からコミュニケーションを取ることができ、短い間でしが絆を深めることが出来たように思います。このよ



うに同世代の選手がいてくれたおかげでも心強く、リラックスすることが出来ました。そして、遠征でお世話になった東奥義塾高校の先生である青森県代表の小松選手も出場しており、改めて大会のスケールの大きさを実感しました。

大会当日、とても緊張はしましたが、試合中はずっと楽しく、稽古では長く感じていた五分間でも本番ではとても短く感じました。強化していた突きや小手がなかなか

出せず、一本負けという悔しい結果に終わってしまいました。試合が終わった後は、とても清々しい気持ちでした。そして憧れの選手や偉大な選手の試合を目の前で見るのが出来たこと、試合後に選手同士が互いに称え合っている様子や大会終了後、選手同士で記念撮影をしたり楽しく会話をしたりしていて、試合で見える姿とまた違う姿を見たこと、すべての体験が自分にとって素晴らしい経験となりました。

本大会に出場する機会を与えてくださった長井先生、最後まで私の稽古に付き合ってくれた仲間達、支えてくださった皆様にも感謝しています。

剣道を通じて学んできたたくさんの方をこれからの人生にしっかりと活かし、新たな自分の目標に向かって頑張っていきたいと思います。今まで御指導してくださった先生方、いつも応援してくださった保護者の皆様、そして一緒に切磋琢磨してきた仲間達、本当にありがとうございました。

# 全日本居合道大会に

## 参加して

居合道部 山田 師正



令和三年十月九日、東京武道館において第五十六回全国居合道大会二〇二一が開催され

ました。昨年は新型コロナウイルスの影響によって全国的に多くの行事が中止になり、今年の全国大会も中止になるかもしれないという懸念の中ではありませんでしたが、範士八段の原田先生を筆頭に道場長の吉岡先生、監督の一村先生他高段者の諸先生方のご指導の下、強化稽古に励んで参りました。五段の部で私が、六段の部で居合道部部長の満寿先生が、そして七段の部では六段の西本先生が出場しました。私はこれまで徳島の県大会以外への出場経験がなく、初めての大会が全国大会の大舞台ということになりました。

当日稽古場に入ると、各県代表の選手の方々がすでに稽古されていました。私もその中に混じり稽古を始めたのですが、そのとき一村監督から十一本目の改善点を指摘していただきました。それは普段の練習から気になっていた点でありました。

そして一回戦目を迎えました。指定技は古流二本（自由）と制定居合の六、九、十一本目でした。私は緊張の中、先ほど一村監督からご指導いただいた点を念頭に置きながら一回戦を終えました。三本の旗が上がった時は信じられませんでしたが、一村監督から「十一本目で決まったな」とのお言葉を頂き、感謝と同時に嬉しく思いました。二回戦目の相手は岩手の選手で、挨拶の時にかなり緊張されているのがわかり、少し心に余裕を持って試合に臨むことができました。しかし、三回戦目の京都の選手との試合は実力差が歴然で、完敗に終わってしまいました。

六段の部では、満寿先生は二回戦でこの大会で準優勝された新潟の草間選手と対戦し、惜しくも敗れました。七段の部では西

本先生が二回戦を突破され、六段にもかかわらず見事な成績を収められました。

試合が終わりしばらくしてから、お世話になっていた高知の亀井先生より大会の様子がYouTubeに上がっている旨の連絡を受け、確認してみると大会の試合が投稿されていました。自分の試合を含めた全試合を映像として残していただけたことにこの場を借りて感謝の意を申し上げたいと思います。また今大会を支えてくださった方々にも本当に感謝しております。そして何より、剣道連盟と居合道部の皆様、貴重な経験をさせていただき有難うございました。私は今大会に参加したことで「継続は力なり」という金言を実感することができたと感じております。大会での経験をこれからの練習に活かしより精神的に成長していく所存です。最後になりますが、SNSを通してさらに居合道が広まり、盛んになることを祈っています。



# 全日本剣道選手権大会に

## 出場して

名西支部 白 木 恒二郎



令和三年十一月三日、日本武道館において第六十九回全日本剣道選手権大会が開催され

ました。今大会は前回大会とは違い、警察官も出場しての大会となりましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、予選の時期によっては、警察官が出場できないという県もありました。徳島県も警察官が不在の中での予選となりましたが、何とか勝ち進み、二大会連続の出場となりました。これより先は、前回の全日本選手権大会から今回の全日本選手権までのことを振り返りながら書かせていただきます。

三月十四日に行われた前回大会では、ベスト八という結果を残すことができ、内容的にも納得のいく試合ができました。その

後の稽古でも、自分の中で手応えを感じていました。そんな中で臨んだ六月十三日の国体予選で、徳島支部の森選手に敗退しました。森選手は教員仲間として、よく一緒に稽古をしていることもあり、互いに手の内を知っている間柄ではありますが、この日は完全に森選手のペースに吞まれていました。私は試合の時、いつも自分を挑戦者だと思ひ、先をかけることを心掛けています。しかし、この時は「打たれたくない」という気持ちから守りに入ってしまった。試合後はとにかく悔しいという思いでしたが、あの時に負けていなければ、今回の全日本選手権には出場できなかったかもしれません。この敗戦をきっかけに、意識を変えなければと思ひ、新たな気持ちで稽古に取り組むことができました。

そして、およそ一ヶ月後の七月二十三日に選手権大会の予選が行われました。決勝戦の相手は、国体予選と同じく森選手でした。前回の反省を踏まえ、挑戦者のつもりで自分から積極的に攻めていきました。そ

の結果、何とか勝利を収め、全日本選手権大会への出場権を獲得しました。翌日から本戦に向けての準備を始めました。十月下旬には組み合わせが発表され、山口県代表の柴田選手と対戦することになりました。柴田選手は警察官で、過去に二度対戦しており、対戦成績は一勝一敗でした。この日から更に気合いが入り、大会に向けて多くの方に協力していただき、充実した稽古を行うことができました。

試合当日、ほどよい緊張感をもちながら会場に入りました。アップでもよく身体が動き、それなりに良い状態で試合前の調整を終えることができました。開会式が終わ

り、私は三試合目だったため、試合場の側で身体をほぐしながら試合を待ちました。そして、ついに私の出番となりました。試合が始まり、先をかけて自分のペースを掴むつもりで攻めていきましたが、柴田選手も仕掛けが速く、なかなか攻め崩すことができせん。次第に柴田選手の攻めに対して私の方が崩れ始めました。このままではいけないと思ひ立て直そうとしましたが、

相手の攻めに対して居ついたところに面を打ち込まれ、それが一本となりました。取り返そうと果敢に攻めていきましたが、そのまま時間切れとなりました。今大会は一回戦負けに終わり、内容的にも不完全燃焼に終わりました。

この大会に向け、自分のできることを精一杯やってきたつもりでしたが、まだまだ足りない部分が多かったと反省しました。今回の悔しさをバネに、もう一度自分をよく見つめなおし、コツコツ地道に取り組んでいきます。そう簡単に出場できる大会ではありませんが、来年こそは全日本の舞台で自分の力を存分に発揮し、納得のいく成績を残せるようにしたいです。

最後になりましたが、今大会に出場するにあたり温かいご支援・ご声援を頂きました皆様方に心からお礼を申し上げます。



## 杖道との出会い

### 第八回広島杖道大会に出場して

杖道部会 筒井 勇



私は高校入学時に剣道を始め、就職後に一時中断した時期がありました。が、当時従事していた郵政事業においても職域の大会があることを知り、ほぼ同時期に母校の先輩が地域の青少年育成にと小学校体育館を借りての剣道教室（私の所属道場となる坂出加茂剣道会）を立ち上げたことが重なり再開し、平成二十四年八月の岡山審査会にて六段拝受、翌年十一月に錬士号を拝受、平成三十年三月に全日本剣道連盟社会体育指導員上級を取得、令和三年五月に上級更新し現在に至っています。

剣道の七段審査には平成三十年八月の福岡審査会から令和元年秋の名古屋審査会まで五回挑戦しましたが結果が出ていません

ん。

七段審査に挑戦しただい頃から稀に右膝痛が出ることはありましたが、痛みは一时的なものにすぎないと自分に言い聞かせて稽古を続けていました。が、右膝靭帯損傷と変形性膝関節症を患い、おまけに胡座をかくことができないという生まれつき持つ右股関節機能の悪化に伴い、一時は車椅子生活を余儀なくされ、医師からは剣道厳禁のお達しまで出され、剣道以外にはこれといった趣味もなく、当たり前の如く毎日稽古をしていた私は希望を失い、鬱病を患うほどにまで落胆していました。

漸く車椅子生活から解放され、リハビリとして何かできないものかと模索していた矢先、徳島市在住の剣友が杖道を始めたといいことをSNSで発信しており、杖道とはどういふものか見学だけでもさせていただけないかと連絡し、令和二年八月十六日に当時杖道の稽古拠点となっていた徳島県剣道連盟副会長の米倉滋先生の養武館道場を訪ねました。

米倉先生とSNSで発信していた剣友く

らしいか面識のある方が居ないだろうし、敷居の高さもあるのではと不安を抱きつつ道場に一番乗りして待っていると、稽古に來られた方の半数以上が剣道稽古会等で面識のある先生方でしたし、指導される先生の一人が郵政職員時代から面識のある青木茂先生（徳島県剣道連盟常任理事・杖道部会長）だったこともあり、すんなりと場の雰囲気溶けこめましたし、「折角來たのだから見よう見真似で体験してみては」と杖をお借りした、これが杖道との出会いとなり即座に入会を決意することとなり、居住地は香川県ながら徳島県剣道連盟に鞍替えもしました。

さて、第八回広島杖道大会についてですが、令和三年十一月二十八日広島県立総合体育館武道場にて、近畿・中国・四国・吸収各地から百五十名程の参加のもと、三人制団体戦一部（三段以下）と二部（五段以下）、個人戦（段外の部から六段の部まで各段）、個人演武（小学生の部・全日本剣道連盟制定杖道の部、古流の部）の各部門で試合演武が行われました。



養武館での稽古  
筆者（左）と中尾幸雄先生（右）

た。

個人演武が終わり、いよいよ段別の個人戦にうつり、先ず初段の部の試合に臨みました。

全出場者のうち最も経験も浅い筈ですし、勝敗には拘らず稽古してきたことをそのまま出さろうと臨みましたが、三本目を演じている途中に左手が杖から離れてしまい持ち直すというミスを犯してしまい、ここが勝敗の大きな分かれ目になったかと思えます。

暫くしてから段外の部にうつりました。同じ失敗を繰り返さないようにと臨み、三本目までを無難に演じることができましたが、四本目で何を思ったか再度二本目を演じてしまい、間違いに気付いてやり直しという大失敗をしてしまいました。

判定の際に合議が諮られ「演武は良いが順番を間違えたのはやはり駄目だよな」と聞き取れ、案の定お相手の勝ちとなりました

私は個人戦段外の部でエントリーしましたが、段外の部には福岡県の八幡杖道会の方と私の二人のみしか居らず、演武する指定の杖が初段の部と同じ（全日本剣道連盟の制定形一本目から五本目まで）ということもあり、初段の部にも組み入れられまし

た。いかにも私らしい凡ミスだったかと思えます。

試合結果は恥ずかしいの一言でしたが、開会前のウォーミングアップ時に全く面識の無い先生から所作や技の緩急強弱など細かくご指導いただきましたし、多くの試合を間近で拝見させていただき大変勉強になりました。

私自身はそこまで考えてもいませんでしたが、大会審判長を務められた黒郷源慈範士から「徳島県に杖道部会が発足し、徳島県から初めて大会に挑んでくれたことが全日本剣道連盟杖道部会としても徳島県杖道部会としても歴史的な足跡を残し嬉しく思う」とお言葉を頂戴したのは光栄でした。

今回は新型コロナ感染防止策として行われませんでした。例年だと試合前日に合同稽古会が開催され、高段者の先生方からきめ細かな御指導を授かり、各地の先生方との交流も図られるとのことでした。

四国内だと愛媛県でも大会や講習会が開催されているようですし、八月には和歌山県で地区講習会が予定されています。これ

らの大会、講習会は段位  
に関係なく参加可能との  
ことなので、積極的に参  
加し自己研鑽に努めてい  
きたいものです。

杖道が私にとってリハ  
ビリとなり、剣道も防具  
を装着しての稽古ができ  
るまでに回復しています。  
剣道も杖道も基本に則し  
た稽古に徹し、楽しく稽  
古を積んでいきたいもの  
です。

最後に、拙文に目を通  
していただいた方の一人  
でも多くが杖道に興味関  
心を持たれ、徳島県剣道  
連盟杖道部会が更に発展  
すれば幸いですし、私も  
まだまだ初心者ながら杖  
道部会の一員として努め  
ていきたいものです。

# 杖

日時 令和3年11月28日(日)  
9時15分開会  
会場 広島県立総合体育館 武道場  
主催 一般財団法人 広島県剣道連盟  
後援 公益財団法人 広島県スポーツ協会





# 随 想

## 継 続

徳島支部 中 尾 正 輝



久し振りに、  
「徳島の剣道」編  
集委員会から三十  
八号への執筆依頼  
が届きました。

さて、今回は私の「座右の銘」である  
「継続は力なり」について記すこととしま  
す。

「何事も継続して行い三日坊主（物事に  
あきやすく、何をしても長つづきしない人）  
にならない、努力して初めて自分が目的と  
する結果が生まれるのです。」

今年（令和四年）元旦に親友から年賀状  
が届きました。令和三年十二月十日、大麻  
山に二九五八回登頂された記念写真が掲載  
されていました。なんと素晴らしい事か。

令和三年には、スポーツ界にも努力に努  
力を重ねて、野球殿堂入りが決まった元中  
日の投手・山本昌氏（五十八歳）がいます。

また、白血病から復活され夏の東京五輪で  
活躍された池江璃花子選手の精神力に感嘆  
したのは私だけではないでしょう。

現在、私が継続して行っていることは、  
徳島新聞「鳴潮」の書き写し（四十九冊目）  
と日記をつけることです。日記は三十年続  
けています。この二つだけは、生ある限り  
継続していく覚悟です。目標は小さいほど  
続きます。どうぞ剣友の皆様頑張って下さ  
い。

若い世代の皆様にも。私  
の愛読書「安岡正篤一日  
一言」の一月十三日「大  
努力」が掲載されていま  
す。


「秀れた者となるため  
には、人の数倍の努力と  
苦労をしなければならな  
い。人の寝るところは半  
分にし、人の食うところ

は半分くらいにしても、努力するところは  
人の十倍も二十倍もやるだけの元気がなけ  
ればならぬ。

二十歳前後や三十歳前後は、いくらか力  
めても疲労などするものではない。心身と  
もに旺盛な時です。まかり間違っても病氣  
になったり死んだりすれば、その時は天命  
と諦めるのである。学徒が学問のために死  
ぬのは本望ではないか。  
「徳島の剣道」が、益々発展する様祈念  
して終わりといたします。

**あけまして  
おめでとうございます**  
マスクの要らない日が待ち遠しい!!  
令和4年 元旦  
剣道、三十一歳で活躍  
2,958回とお祝いします

正直 継続は疲れますが



\*\*\* 応援しています \*\*\*

771-1251 徳島県板野郡藍住町矢上原28-1  
山 室 建 爾

本人の許可を得て掲載させていただきました。

## 「徳島の剣道」の創刊

徳島県剣道連盟 特別相談員  
前徳島市教育長 石井 博



徳島剣道連盟の  
機関誌も第三十八  
号を迎えることと  
なりました。これ  
まで多忙な中、編  
集を続けてこられた木原先生を始め、編集  
委員の方々に心からの敬意と感謝を申し上  
げます。本当に有難うございます。

四十年近く前のお話になりますが、私は、  
昭和五十九年五月、徳島県剣道連盟の機関  
誌を年一回発行する企画書を当時の故堀江  
幸夫理事長に提出しました。

それまでの剣道連盟は、大会行事の実践  
等には大変熱心に取り組んでいましたが、  
残念ながら大会記録やいろいろな積極的活  
動が継続的に資料として残っていない現  
状でした。

企画は承認され、昭和五十九年度の機関

誌を六十年三月に発刊することになりました。  
部数は千部。内容は立案者の私に全面的  
に任せられ、その責任の重さに身の引き締  
まる思いがしたのを、今でも覚えています。  
連盟は行事が多く、役員の仕事分担はそ  
れぞれ精一杯の量で、この上に機関誌の編  
集のお手伝いをお願いする余地は全く無く、  
結局、時間をかけて自分一人で編集、作成  
していくことにしました。

県下の剣道愛好家の方々に楽しんで読ん  
でいただけるものを、また、十年後、二十  
年後にも大切にしていただけるものを作り  
たいと思い、いろいろ研究しました。

徳島県柔道協会が機関誌を発行している  
との話を聞き、編集者の故中原祐一先生  
(当時徳島県教育委員会体育保健課指導主  
事)に直接お会いし、機関誌作りのノウハ  
ウを丁寧に教えていただきました。

昭和六十年三月三十一日創刊号のB5版  
六〇ページの千部が刷り上がりました。試  
行錯誤で慣れない中、途中で投げ出しそう  
になったこともありましたが、何とか無事  
に完成し、全力を尽くした満足感で感無量

でした。  
その時の思いを創刊号の最後のページに  
編集後記として、次のように書き綴りまし  
た。

機関誌創刊号は、不備も多いが、ま  
ず、このような冊子にまとめて世に出  
せたことを素直に喜びたい。

ここ数年。剣道部に入部してくる  
親と話をしているよく注文されること  
は、しっかり礼儀作法・社会的なルー  
ルを教えて下さいということだ。社会  
人としての基礎・基本を剣道を通して  
学んでほしいと願っている。

校内暴力・青少年の自殺等、今ほど  
教育現場や各家庭での子どもとの接し  
方が難しい時期は、ないのではないか。  
三十年後の日本の国は、現在の大人が  
青少年にどのように接しているかで決  
まると言っても過言ではない。目先の  
臨時的対応も必要だが、一方、長期的  
視野に立って、青少年に対して教える  
べき事をきちんと教えるという毅然と

した態度・基本姿勢が大人側に必要だ  
と思う。  
(途中省略)

この機関誌が、剣道を通しての人間  
形成の一助になれば幸いです。

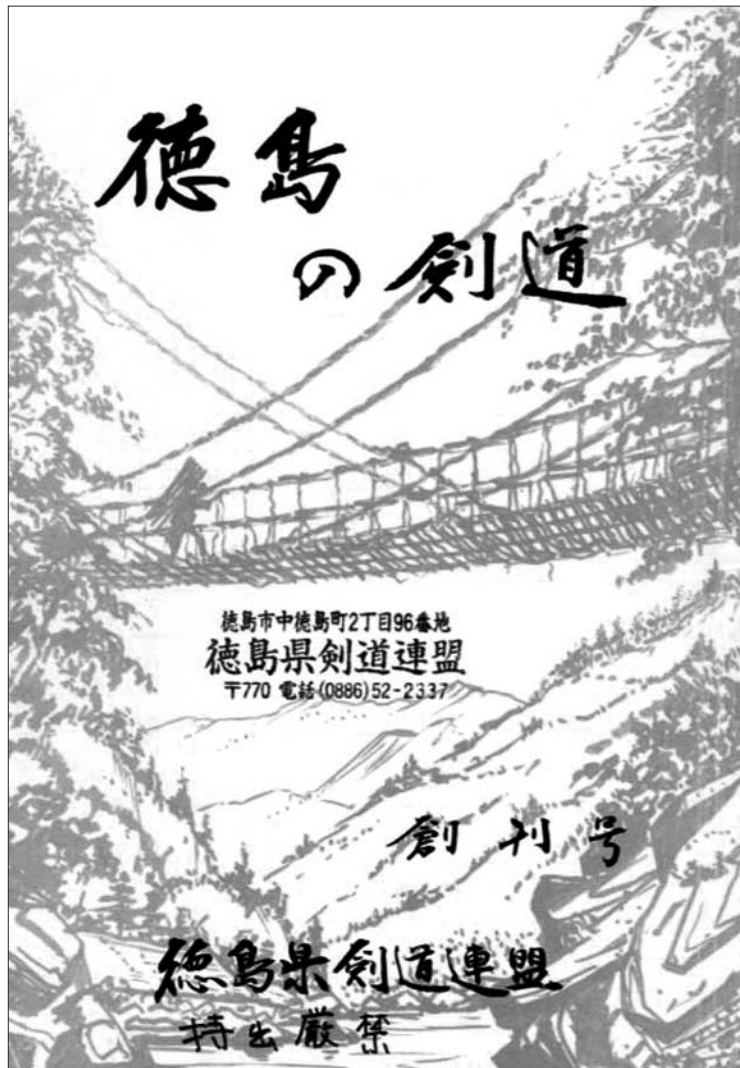
最後に、本誌発刊に際して、ご多忙  
中にもかかわらず原稿の執筆依頼を快  
くお引き受けいただいた方々にあらた  
めて感謝の意を表します。ご協力、本  
当に有難うございました。

昭和六十年三月三十一日

私は、四十年ほど前、創刊号から五年間、  
「徳島の剣道」の編集を担当させていただきました。  
徳島県内の剣道愛好家の方々が  
興味を持って読める本を、何か調べたいも  
のがあったときに近くにあったら便利な本  
を、大会の記録やいろいろな情報の掲載さ  
れた本を、そんな思いを胸に機関誌作りを  
続けてきました。

そんな思いでスタートしましたが、現在  
のように素晴らしい機関誌として充実発展  
されてきたことは、私にとってこの上もな  
い喜びです。今後もよろしくお願いいたし

ます。



# 我が村の剣道

少年部長 白木 崇



私は、旧木頭村で生まれ育ち、木頭の先生方から剣道の手ほどきを受けました。その道

場は今尚多くの剣士を育てている「木頭錬心館」です。

昨年、父の遺品を整理していると、昭和四十五年に発行された「九州地方 武者修行日記 木頭村錬心館」と書かれた一冊の本が出てきました。当時、役場に勤めていた父に、筆者である大沢善二郎先生から送られたものでした。

前文には「看板の錬心館」「我が村の剣道」について書かれており、続いて本文の九州遠征報告が書かれている。武者修行歴は、昭和二十九年に第一回徳島県内に始まり、第二回四国一周、そして第三回九州地方への遠征だったらしい。今回は、その前文の

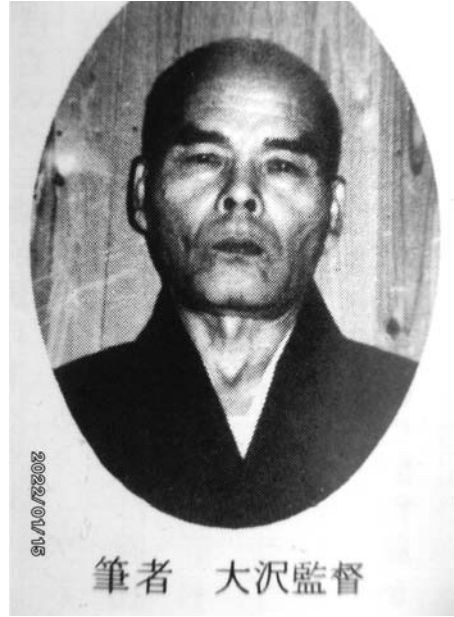
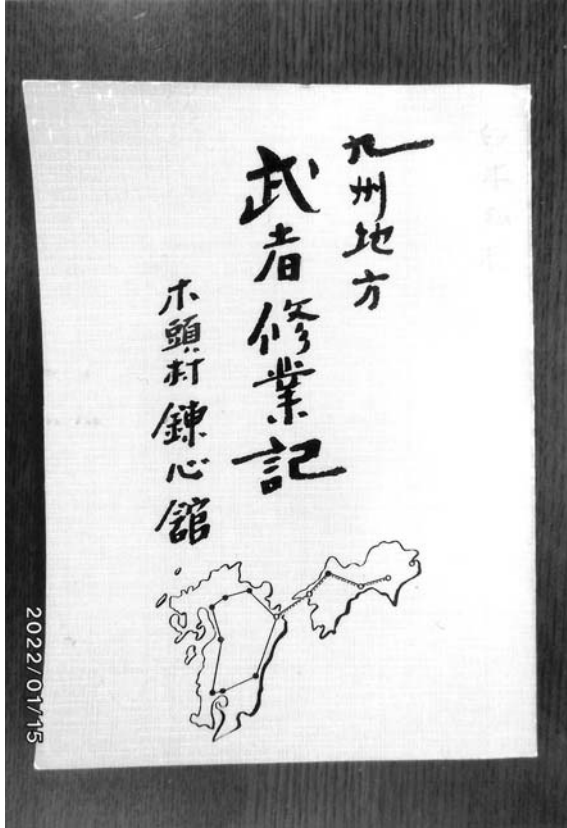
一つを原文のままご紹介したいと思います。  
《原文》

## 一、看板の錬心館

昭和三十一年専用道場が出来ると、会員一同でこの名称について、子供の名つけのようになんか出して計り、剣道の目標は体位の向上には勿論であるが、会員の殆どが農林業その他労働者が主体であるから、これを従に精神面を主としてとの意見で、戦前大沢の個人道場大和の心を平常の生活の上に、運営諸行事の上に一貫した軸とし、規約とか規定など条文化したものは作らない。人は経済生活のかたわら趣味を以て生活を豊かにすること、一生を通じて無邪気に若返り法として何か一と稽古、つまり勉強すること、勉強とは勉学の本を読むことのみではない。剣道の如き実践行ずる事を主にした修行も大きな勉強である。剣道を修行する者は線香花火式にならず常住剣道で絶えず日常の生活の中に入れるべきで、技を磨き、理合いを研究し、稽古にも強くなり、立派な試合の出来るようになること、また

階級をあげるよう努力することも大切であるが、これ等は修行の手段であり、方法であり、過程であると思う。昔国内に戦乱の絶えない時代に於いても一流一派を案出した剣聖と言われる武人は、如何に剣技に抜群な弟子でも心の悪い者、行ないの悪い者には極意とか奥義の秘伝は譲らなかつたと言う。これが剣道の本質で最後のものは職業の如何にもかかわらず個人的には、持久、忍耐、沈着、機敏、果敢、注意力、判断力、自主性、実践力、自制心、質素、反射運動等、道義的には協同、礼讓、誠実、寛容、明朗、犠牲、羞恥、責任、自他の安全等一つ一つの徳目を自己の長短所を反省して身につけて行くことであって、昔の名剣士が殆ど弟子と生活を共にし、師弟同行で心まで観て免状なり、秘伝を譲ったのに対して、今日の試験で指導の立場にある高段や称号を渡している制度にいささか疑問を持つものである。そこで錬心館では、自己判断と反省によって心を練る錬心館とすることを、会員雄西氏の強い推進で決めたが時代にふさわしいよい看板であったと確信している。







## 常に居て急に合わす

居合道部会 満 壽 良 史

居合を説明する時によく使われる言葉のひとつに「常に居て急に合わす」という言葉があり、一説には「居合」の語源だともいわれています。

分かりやすく言うと「日常生活のなかで急な事態に遭遇すれば、これに対応する」ということでしょうか。急な事態に対応するためには、日頃の備えが必要となります。

現代と違い、武士であれば帯刀して堂々と往来を歩けた時代、突然切り付けられることも可能性としてはあるわけですから、武士は、自分の身を守るために武芸に励む必要があったのかもしれない。江戸時代に武芸十八般と呼ばれていた武術のほとんどは戦場での戦闘技術を体系化したものです。弓矢や槍は、元々は狩猟のために作られたものでしょうが、弓矢は、離れた場所から敵を攻撃する場合は非常に有効ですし、白兵戦になると、敵と距離を取って戦うこ

とができ、鎧も貫通できる槍が非常に有効な武器であったと思われれます。

ただ、弓矢や槍は、基本的に戦時に使われるものであり、普段から持ち歩くことはあまりなかったと思いますので、「常に居て急に合わす」ときの武器は、平時から腰に差している刀ということになります。居合の技には、甲冑を着けている状態だろうと思われる技もありますので、元々は他の武術と同様、戦場で槍が折れたり、落としたりした場合に、素早く刀を抜いて対応するため体系化したのかもしれない。

しかし、私達が学んでいる「無双直伝英信流」は、江戸時代に、刃が上向きで帯刀した状態で抜く技に変革されています。これらの技は、座しているとき、歩いているとき、室内の狭い空間、闇夜の戸外など、様々な状態のときの様々な攻撃を想定した四十種類以上の対応法である「形」のほか、「太刀打之位」や「詰合之位」といった対人で直接打ち合う形もあります。これらの技を繰り返し修練することにより、急な襲撃にも素早く対応できるようにしたのでろ

うと推察いたします。

余談ですが、空手のように打撃を中心とする武術が日本本土では体系化されなかったのは、鎧の上から殴ったり蹴ったりしても敵に大きなダメージを与えることができなかったからではないでしょうか。一方、投げ技や寝技が中心となる柔術が伝わっているのは、槍や刀が折れたり、落としたりした時は、敵を組み伏せて「鎧通し」と呼ばれた鋭利な小刀で敵ののどを突くためだったからと勝手に思っています。

さて、「常に居て急に合わす」という言葉から思い出すことがあります。それは、鳴門市消防本部の職員として二年間過ごしたときのことです。

消防署では、毎朝、署員が、消防車両や救急車、各種機材・機器の点検整備を行います。武士が武器の手入れを行うのと同じです。また、火事や事故の発生に備えて日々の訓練を欠かしません。

武士が、日々武芸に励むのと同じです。こうした訓練を行ってきたある消防職員の行動に感服させられたことがあります。

休日であれ、夜間であれ、家屋火災や大きな事故が発生すれば、にわか消防職員の私にも連絡が入りました。

十月初旬の夜、小鳴門海峡で水難事故が発生との連絡があり、消防本部へ駆け付けました。すぐに状況を確認すると、「大型バイクに乗った男性がバイクごと海に転落したとの通報があり、潜水隊が救助に向かっている」とのことでした。

暫くして戻ってきた潜水隊に現場の状況を聞くと「海に落ちた男性は予防課長が救助した」ということでした。

なぜ、予防課長が事故現場に？

予防課長はどうなったのか聞くと、そのまま自宅に帰ったと言うのです。

翌日、通報者や予防課長の話をまとめると次のようなことがわかりました。

夜間、小鳴門海峡の岸壁で数人が釣りをしていると、大型バイクが猛スピードで海に向かって走ってきて、そのまま海に飛び込んだ。釣り人のひとり、すぐに一九九番通報をし、近くで荷物を積み込んでいたトラックに助けを求めて走った。トラック

に積み込んでいたのはレース鳩で、訓練のために夜間関西方面に運ぶ予定だったが、積み込みを手伝っていた人のなかに、鳴門市消防本部の予防課長がいた。事故を知った予防課長が事故現場に駆け付けると、大柄な男性がぐったりしたまま小鳴門海峡の早い潮流に流されながら沈んでいくのが見えた。予防課長は、すぐに救助しないと男性は助からないと思ったが、数年前に心臓疾患が見つかったからは現場を離れていた。また、ひとりで助けに行くことが如何に危険なことか、十分わかっていた。

しかし、迷っている間はない。予防課長は意を決し、男性に抱きつかれても離れられるよう服を脱ぎ、財布と携帯電話を置いて、真っ暗な海に飛び込んだ。沈んでいく男性の髪をつかんで引き上げようとしたが、男性は体重が百キロはあるのかという巨漢で思うように動かない。そうしているうちにも、二人は紀伊水道の方に流されていく。ようやく岸壁にたどり着くことができたが、岸壁が高くて上がれない。釣り人が釣竿を伸ばしてくれたが、そんなもので引き

上げられるとは思えない。予防課長は、レース鳩を積み込んでいたトラックに脚立があったことを思い出し、釣り人に頼んで取ってきてもらった。

脚立を伸ばして、岸壁の上にある係船柱とロープで結ぶよう指示し、脚立を下ろしてもらった。男性の脇の下にもロープを通して、岸壁の上から引き上げてもらいながら、ぐったりしたままの男性を肩に乗せて持ち上げようとしたが、重くてなかなか上がらない。やっとの思いで男性を岸壁の上に助け上げたところに、救急車が到着したとのことでした。

男性は、予防課長の活躍で、無事一命を取り留めることができました。予防課長の胆力と行動力、冷静な判断には驚くばかりですが、その人は、趣味のレース鳩の積み込みをしている最中に緊急事態に遭遇し、自らの危険を顧みない行動力で尊い人命を救った後、何事もなかったかのように、自宅に戻ったのです。

「常に居て急に合わせて常に居る」

## 部活動としての剣道

中体連部長 木下 臣 仁

中学校の部活動では、教員が専門外の競技を指導することは珍しくありません。私も中学校教員として十八年間部活動の指導を行ってきましたが、剣道の指導に携わった期間は短く、他競技の指導経験の方が長い現実があります。その分、現在の勤務校で剣道部の顧問として子供たちと関わることができていることに感謝し、本当にありがたく感じています。

昨今の教育現場では、部活動も変革期を迎え、スポーツ庁から、令和五年度以降を目指し、「休日の部活動の段階的な地域移行を図る」という方向性が示されています。さまざまな側面から考え、今の流れがあることは理解できますが、中学校の剣道は、これまで多くの先生方が指導されてきた歴史や伝統があります。それらを受け継いでいく役割が私たち学校現場にいる指導者の責務ではないかと考えることがあります。

剣道の技能を高め強い選手を育てることが大切であると同時に、思春期の子供たちに正しい剣道と正しい心を身に付けさせる指導が大切だと考えます。中学校での部活動は、少し大げさになるかもしれませんが、「人としての生き方」を伝える機会として捉えることができます。剣道では、普段の稽古や試合経験を通して、公明正大で正々堂々と振る舞うことの意味と具体的な言動を子供に伝えることが大切だと考えます。これらのことは私たち指導者も子どもの頃から多くの先生方に教えていただきました。また、指導者の立場に立つてからは、先輩の先生方から中学校の剣道が目指す方向についてご指導いただきました。少子化の中、中学校の剣道人口も減少傾向にあります。そのような中でも剣道が好きで毎日の稽古に熱心に励む中学生はたくさんいます。また、中学校から剣道を始め、上達した技で試合に臨み、「一本」を取れた時の喜びからどんどん前向きになる姿も見られます。中学校で剣道を学び、その先も剣道を通じていきたいと思えるような指導を常に心に止めておくようにしたいと考えます。

時には厳しくあるべきですが、剣道が嫌

いにならないよう丁寧に良さを伝えていく努力を惜しまない。また、試合中の攻防は、心の状態が大きく影響することを踏まえ、子供たちには、剣道以外の部分が自分の剣道を形成していることに気付くよう指導していかなければなりません。

今年度より、中体連部長として大会運営をさせていただきました。コロナ禍の中、大会によっては中止や入場制限等があり、選手の皆さんや保護者の方々の中には悔しい思いをされた方も多かったと思います。しかしながら、神奈川全中が開催されるなど、全国的にも感染対策を講じて大会が開催できるようになってきています。県内においても今後は、感染対策を徹底し、できる限り大会が実施できるように中体連全体で準備を進めていきたいと思えます。そして、中学生の剣道経験がその後の「人間形成」に大きく影響することを忘れることなく、丁寧に指導者でありたいと思えます。今後も中学生が正しい剣道と正しい心を培える環境作りを目指し努力していきます。関係者の方々には一年間ご協力をいただき、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

## 近況報告

徳島市立高校教諭

山本 雅 裕



教員生活も二十年目となり、節目の時に「徳島の剣道」の執筆依頼をいただいたが、これまででの人生を回顧するほどの年月でもないと思うので、近況報告をしたい。

三年間の県庁勤務を経て、今年から徳島市立高校でお世話になっている。三年間の県庁勤務では、スポーツ振興課という部署で、四十を超える競技団体とのやりとり（主に国体順位向上のための強化事業の助成）を行ってきた。競技ごとに課題は異なり、また連盟や協会の実情もさまざまである。県としては、都道府県順位が示される国体を重要視しているが、競技団体にとってはそれが一番だとは限らない。例えば、高校生なら十月の国体よりも八月のインター

ハイに照準をあてるだろう。そういったズレを感じながらも、行政の「しくみ」や「しきたり」を学ばせていただいた。朝から晩まで事務仕事となり、体重増加・血圧上昇・倍増残業の三年間であった。

徳島市立高校では、剣道部三年生二名、二年生〇名でスタートしたが、新入生が九名人部となり、活気ある練習ができています。私自身、県庁勤務の三年間は竹刀を握ることもなく、また「ふくよか」になったため、現在もリハビリのような気持ちで、無理なく体を動かしている。楽しみの一つである食事は一切制限せず、四月から八ヶ月で体重五キロ減は予定通りだ。三十代後半からあらゆる怪我の治りが遅くなってきたと感じていたので、とにかく怪我だけはしないようにと注意し、大きな怪我なくここまできたのが大きかったと思う。

リハビリ後の目標として、平成十六年に五段を取得してから、かれこれ十八年ほど放置している六段審査を受験することである。五段取得後、最短で六段審査が受験できる時に、ともに受験をしようと切磋琢磨

していた友人の突然の訃報。それ以来、審査への一歩が踏み出せないで今に至るが、それを言い訳のように言うのはやめようと思う。生徒には、「困難なことや辛いことがあっても、逃げずに立ち向かおう」と言いながら、これでは説得力がない。

この文章を書きながら、改めて考えてみた。生徒によく言っていることを自分は体現できているのか。「ただやるのではなく、目的や意義を考えてやる」、「いま持っている力をすべて出し切る」、「普段の生活を正すこと」、「ONとOFFの切りかえが大事」・・・当たり前のように言っているが、当たり前にやるのは、・・・そんなに簡単ではない。



市高剣道部練習風景



市高剣道部員



## 剣道を通じて

阿南支部事務局長

金 久 博



私は小学生の頃は少年剣道が無く、少年野球をしており中学校野球部に入学しましたが、

父の勧めで中学校一年生の秋に剣道部に入部しました。私の中学校は剣道部に町内三つの小学校から通う生徒が集まる中学で当時剣道部にも初めて出会う先輩や同級生もいて、小さな教室が剣道部活動の場でしたし、廊下も使って稽古がされていました。

当時の剣道部顧問の先生は株木芳夫教頭先生（のちの阿南支部長）でした。私は体がさほど大きくなかったのですが、株木先生や小林主将（当時三年生）はじめ先輩方に教えをいただき、中学一年生の時、阿南市秋季大会個人戦準優勝となり、皆さんからよく頑張ったと笑顔でお声かけをされた

ことを憶えています。その後、三年生まで剣道部で剣道を続けることができ、阿南市内の大会は桑野中学校体育館（現在、桑野中学校は統合により無い）、県下剣道大会は阿南工業高校体育館（現在、阿南光高等学校）などで、市内外の剣道部の皆さんと知り合いにもなりました。

高校は当時の新野高等学校に西谷肇一先生が赴任してこられており、周りからの勧めもあり新野高校に進み、剣道部に入部しました。剣道部では松葉君（木頭中学校）、久保野君（宮浜中）、泰地君（那賀川中）、鈴木君（阿南第一中）、山脇君（新野中）などが同級生で、後輩に仁木君（阿南第一中）などが入り、一年生から毎日朝夕に西谷先生の優しくも厳しい稽古を積み重ねたものでした。中でも千本切り返しと打ち込みかき稽古が大半で自分たちの基礎体力づくりトレーニングも兼ね備えた基本稽古が主だったと強く憶えています。高校二年生から三年生時には、県下剣道大会はもちろんでしたが、県南剣道大会、山家旗争奪など「県南を制する者は県下を制す。」と

の合言葉で、とにかく県南剣道大会の優勝が大きな目標であったと思います。また高校では木頭合宿、那賀町（鷺敷）合宿、四国（丸亀）遠征、琴平大会参加、近隣高校等の合同稽古、先輩の国体選抜チームとの合同稽古、山家旗争奪大会での事前合同稽古（宿泊含む）など中学校では無かった取組があり、私は県内の多くの諸先生方や先輩方、同年代の皆さんとの剣交ができたことは、今でも大変大きな財産となっております。

三年生時に河田清実先生が赴任され、西谷先生と河田先生のお二人の先生から熱心なご指導をいただき高校総体に臨みましたが、全国大会出場は叶いませんでした。この年、国体予選も従来の高校選抜でなく高校単位で県代表を選出する形式が取られ、阿南工業高校に一勝一敗でしたが、阿南工業高校が国体へ。阿南工業は国体少年男子で見事に第三位となり、私は佐々木君、大津君、池田君、竹治君、小野君の活躍に心躍る思いでした。

卒業後、私は公務員として社会人生活を

スタートした後も、清原栄先生、遠藤一美先生、尾崎先生、濱田先生、西岡先生、有賀先生などのご指導を受け、阿南少年剣道教室や阿南支部、阿南警察署道場で早朝稽古など、阿南支部の先生方や先輩方と稽古を続け、特に大津裕哉君、西岡直彦君、仁木香君などと、市内の少年剣道教室の指導と先生方との稽古に励み、全国青年大会出場を果たし、愛知県に敗れましたが、全国第四位まで進みました。

一方、地元新野では、新野少年剣道教室の開設をお手伝いさせていただきました。昭和五十八年十月一日に馬原文彦先生（後援会長）、遠藤一美先生（剣道教室室長）、新野哲朗先輩（監督）、磯田尚文先輩、田中昭次先輩らとともに開設し、私も指導者として剣道教室の活動をスタートしました。数年後には、教室生も五十人を超える状態となり、地域の少年剣士とそのご家族で笑顔と元気のある活発な剣道教室となって、昭和五十九年十二月には第一回新野少年剣道錬成大会を開催しました。

新野少年剣道錬成大会は「各学年で全員

が参加でき、少年剣士の医学的なストレッチ体操や高段者の先生方はじめ指導されている先生方との錬成、先生方同士による相互錬成などを取り入れながら、昨年（令和三年）十二月十九日には馬見和秀先生（監督）のもと第三十九回大会が新野中学校体育館で開催しました。海部、木頭、鳴門、徳島、吉野川、小松島など県下各地から参加を得て、コロナ禍でも、少年剣士が元気に楽しく、剣道を通じた健やかな成長をしている姿と子供たちを育て見守るご家族の笑顔と交流が見られたことは大変良かったと感じています。

平成十六年に阿南市で全国高齢者福祉大会が開催されました。当時私は市役所での「ねりんピック徳島」の剣道大会担当でありました。ご来賓には徳島県剣道連盟三木会長はじめ多くの皆様のご臨席を得て、大会審判長は大澤先生、県剣道連盟の諸先生方の審判及び競技係員など多大なご支援ご協力により大会運営ができました。大会では徳島県チームは優勝と第三位となり、高島先生、中尾先生、松村先生、坂下先生、

先生はじめ徳島県選手のご活躍に歓喜したものでした。

大会に参加されました北海道から九州まで全国の百戦錬磨の剣豪が阿南の地で見せた雄姿と白熱した試合で、会場の興奮と全国の剣士との交流、試合後の和やかな対話は、とても良い雰囲気だったと今でも強く印象に残っております。まさに剣道を通じた剣士の和が広がっていたように感じています。さらに宮様のご訪問が決まり、当時徳島県議会議長でありました遠藤一美先生のご案内等のもとに、剣道大会をご観覧されたことも心に刻まれております。

私は、剣道を通じて礼節を学び、また剣道の教えとともに多くの先生方に人の道を示していただきました。私の同年代には、佐々木和人君（阿南工業高校）、大津裕哉君（阿南工業高校）、池田洋一君（阿南工業高校）、鈴木啓三君（新野高校）、斎浩市君（富岡西高校）、高木壽史君（旧徳島農業高校）、片山尊史君（川島高校）、青木博志君（城北高校）、山田博史君（徳島市立高校）、福多志郎君（小松島高校）、吉坂渉

君（旧日和佐高校）など、学校は違っても同じ剣道で知り合った仲間は、私にとりまして大事な皆様であります。この出会いを大切にしていけるように努めていきたいと思っております。

剣道で深く学んだことに、堀江幸夫先生や西谷肇一先生から教えたいただいた言葉で「心」と「和」があります。剣道をされる方々の自分を大切に心・人に優しく己に厳しくする心・人生の先輩を敬う心を大切にすること。剣道をしていく中での、みんなの「和」をもって成すこと。私の人生においてもこの「心」「和」をもって皆様方と力を合わせて、笑顔と元気のある剣道の推進と支部活動の一役を担っていただけらと思っております。

剣道に出会い四十数年、剣道を通じて多くの先生方、先輩方、そして同年代の先生方さらに若い先生方、剣道関係者やご協力いただいた方など、それぞれ各層角界で活躍されている方々との出会いと交流により私は導いていただいているものと常に強く思っております、本当に感謝の念が堪えませ

ん。剣道に携わって来れたことを心から良かったと思います。

これからも可能な限り剣道の稽古や活動指導にも励み、あわせて剣道連盟の活動にも少年剣道の振興発展にも誠に微力ではございますが貢献できるように努めて参りたいと思えます。



## 五十歳になっても・・・

丹生谷支部 小川 大造

日頃からペンを持つこともなく、ましてや文章などいつから書いていないだろうかと思いつながら、ペンも動かさず。「うーん」と考えながら、今の近況を書かせてもらいます。

大学卒業後、那賀町（旧木頭村）の木頭中学校寮監として七年間勤めさせてもらいました。その後、山に入って木を切り、木を植え、林業を二十年（現在進行中）。早いもので木頭で二十七年。今、伝統ある木頭錬心館の指導をさせてもらっています。

部員と練習日は、

小学三年 一人 月・火・金

小学六年 一人 (二時間)

中学一年 一人 水・木

中学二年 一人 (一時間)

中学三年 三人

指導するにあたっていろいろと悩むことがあります。

今一番の悩みは、「剣道をする子どもおらんかなあ」です。それはさておき、子どもたちに小学三年生から中学三年生までの幅があります。身長差もあるし技術の習熟度にも差があるので練習内容をどうしようかと悩みます。

また、中学三年生以外は同級生もない中で日々の練習になります。競争相手もない、同級の仲間もない、そんな中、子どもたちをどうやる気にさせるか、メンタル的な部分をどうしようか悩みます。

また、山あいの小学校十六人、中学校十三人の小さな学校の子どもたちです。自分としてはいろんな人と剣を交え、いろんな人と交流をさせてやりたいので、今度はどこに練習をお願いしようか悩みます。(今はコロナでいけません。残念！)

そして三月にはこの一年間、剣道指導のこと生活指導のこと、これで良かったんだろうか、もっと違う指導方法があったんじゃないだろうか、と悩みます。

五十歳になってもまだまだ答えは見つかりそうにありません。

また今年度から木頭中学校の外部講師として部活動に参加させてもらうことになりました。幸せなことにまた悩みが増えます。

最後に、木頭錬心館に子どもがいる限り情熱を持って子どもたちと一緒に成長していけたらと思っています。

初心忘るべからず

これまでお世話になってきた先生方、先輩、同級生、後輩また地域の方々に感謝。ありがとうございます。またこれからもよろしく願います。

## 剣道との出会いを通じて

板野西支部 米 崎 信 弥



私が剣道を始めたのは、昭和六十年五月に地元板野町少年剣道クラブ（現在はスポーツ少年団・剣道板野道場）が創立した小学校四年生の頃でした。剣道に興味を持って

いた私は、生徒募集のチラシを見てすぐさま入門を決意しました。親も運動が苦手な弱気な私が少しでも積極的になればと始めさせてくれました。当時は毎週日曜日のみの稽古でしたが、小学校卒業までに一級まで取得できました。また、当時は他教室との交流試合や剣道大会への試合がなく団内試合がメインだったと思います。

結果的に中学校・高校まで剣道が続けることができましたが、高校卒業からしばらくの間、遠ざかってしまいました。当時を振り返ると動きや打突を速くすることばか

り鍛錬し、仕掛け技や連続技で崩して打つ事ばかりで、理合や機会を捉えて打つのではなく、体力まかせの稚拙な剣道ばかりしていたと深く反省する処です。（これが剣道を再開した際もしばらく続いてしまうのですが：）

剣道を再開するきっかけになったのが、平成二十一年の夏（三十一歳の頃）でした。同じ出身道場の同級生が子供に剣道を習わせ始めたなら、自身も剣道を再開したい気持ち湧きあがり、稽古仲間として呼びかけに応じました。

すぐに、剣道具一式を友人らと購入し、毎週日曜日に少年剣道の稽古に参加しました。当初は、みな初段で指導する立場ではなく、生徒としてお互いに練習したり、子供達の打ち込み台となって汗を流し、徐々に体を鍛えて行きました。

再入門して驚いたのが、剣道教室の創立当初からご指導頂いた岡田良人先生が七十七歳で少年剣道や板野中学校で指導や稽古を続けられていたことでした。生涯剣道を実践していたことに今でも感服しています。

入門してから一年経過していない頃に岡田先生から「指導者を引き受けてくれないか」との申し出に、私自身まだまだ未熟であることや、少年指導の責任の重さに拒んでいましたが、断り切れず現在に至ります。

指導者として紹介されると、不相应にも指導者の先生方や保護者、生徒の皆様から「先生」と呼んで頂くようになり、自身の修練はもとより少年指導を学ぶ為、昇段審査や講習会に参加できるよう、板野西支部へ加入しました。現在に至るまで、剣道板野道場で指導頂いている北島少年剣道教室の先生方や板野西支部、板野東支部の先生方には、稽古会や少年強化の合同稽古会等を通じて大変お世話になり、たくさんの先生方から学ばせて頂いております。また、本年度（令和三年九月）に九十一歳で引退を決意された岡田良人先生には本当に長い期間お世話になり、ありがとうございます。岡田先生の剣道の基本を大切に、何事も一所懸命する事をモットーに指導していきたいです。

自身の稽古においても、まだまだ取組む



べき課題がたくさんありますが、ひとつひとつを意識して普段の稽古を取組むことが本当に大切だと痛感しております。まずは、次の段位取得に向けて、稽古に取り組んでまいります。

## 十六歳の私へ

名西支部 富 永 ますみ

橋の欄干に手をかけ見下ろせば魚が見え、草色の匂いがかかるかの様な空気と、深い緑の山々に囲まれた小さな村、旧木頭村。コンビニやゲームセンターなどありませんでしたが、十二歳まで何の不自由も無くこの村で育ちました。木頭小学校四年生の時、母親が剣道部員募集に申し込み、気がつけば大和錬心館へ通う事になっており、あれよあれよという間に防具をつけ、試合にも出場するようになっていました。

しかしながら、冬の寒さ、夏の暑さが嫌で、中学生になったら、「剣道は辞め、バレー部に入ろう!!」と密かに企んでいたのですが、他の選択肢が無い事を知り、腹をくくり、三年間男子と団体を組み試合に出場しました。

その後、富岡東高等学校へ入学、親元を離れ阿南寮での共同生活が始まり、仕送り四万円の中から、寮費一万六千円と遠征費

や竹刀の購入、防具の修理、学校教材を支払った残りの金額が私の大切なお小遣いでした。竹刀は職人さんをお願いする為、部活が終わった後、自転車にくくりつけ、制服のまま山頂まで立ちこぎ。同じ竹刀が欲しかった(使いやすかった)ので、無理しなくてもその都度、山頂まで取りに来る事を約束し、一本だけ預けました。山頂へ何十回と足を運んだ事だろう。しかし楽しい時間ほど早く感じる物で、高校生活もあっという間に卒業。一社会人となり、剣道漬けの学生時代から解放され、もう二度と竹刀を握ることは無いだろうと思いました。

数年後、私も人並みに結婚をし、二人の子供にも恵まれ、平々凡々と毎日を過ごしていたのですが、「蛙の子は蛙」なのでしょうか。突然、子供達が剣道をしたいと言出し、長男は七歳から次男は四歳から剣道を始める事になりました。最初は保護者として付き添っていたのですが、どうせ道場に来るのなら、じっと座って見ているのも時間が物凄く勿体無く感じ、再開する事を決心しました。最初は身体のアちこちが筋



## 杖道について

徳島支部 綾部 文 明



新型コロナウイルス感染症の世界  
的流行により新しい生活様式が実践  
され我慢も多し中、

「徳島の剣道」電子版公開のお蔭でお家時間を有効に活用し、過去の誌面を簡単に振り返る事が可能になりました。改めて本誌第三八号の発刊にあたり、徳島県剣道連盟（県剣連）で活動されている皆様の御尽力に敬意を表します。

平成三十一年四月に養武館剣道場にて米倉滋先生、青木茂生先生、木原資裕先生、米倉武志先生で開始した杖道部会も現在三十名を越える会員数に増え、令和三年度より県剣連加盟団体の一つとして正式に承認されました。杖道は、剣道・居合道と合わせて剣道等（或いは三道）と総称され、有段者数を参考にすると競技人口はおおよそ

剣道の八十分の一、居合道の四分の一と概算されます。日本の伝統文化に培われた杖道を継承するためには、普及活動による競技人口の増加が望まれます。

杖道は武器を用いた武道の一つで、長さ一二八センチメートル、直径二・四センチメートルの白樫丸棒の杖を用います。武器にしては珍しく刃はありません。全日本剣道連盟（全剣連）は、杖を用いて太刀（木刀）を持つ相手の攻撃に応じて変化し制圧するための基本十二本と形十二本を制定しています。基本十二本は杖のみで行う単独動作と太刀と共に行う相対動作があり、基本動作を踏まえて仕杖打太刀の形十二本が構成されます。

現在、県剣連杖道部会では原則月に二、三回の頻度で、基本と形に取り組む稽古会を開催しています。試合では二名一組で定められた形を演舞し、審判員の判定により勝敗を決定します。判定の基準について、剣道と異なり有効打突に近い技はありませんが、礼法、作法、氣勢や姿勢、技前や心構えを総合的に評価する点は剣道と共通し

ます。

形の基本となる各動作は単純で簡単であり、老若男女問わず武道経験が無くても考え方を理解し気軽に稽古に励むことが可能です。数多い古流組形の中から厳選された基本十二本と形十二本が全てであり、覚えるべき動作は数に限りがあります。また競技人口の増加が目下の課題ですので武士道精神の伝承は自己鍛錬に求め、稽古会の和やかな雰囲気も取り組みやすい特徴の一つと感じます。一方で所作を裏付ける思想は知れば知るほど奥が深く、個々の理解度に応じて着装や立ち振舞い、残心などが雰囲気として表れるため、思想の表現習得には時間を要します。風格品位のある形稽古の理合を竹刀打稽古に応用できるよう、私は毎回新鮮な気持ちで剣道及び杖道の稽古に取り組んでいます。

三道はそれぞれに魅力があり、各稽古に目的と効果があるため独立して楽しめる武道です。しかし、全剣連が三道を基本的に剣道等と総称する理由は、単に剣道・柔道・弓道の三武道と分かりやすく区別するため

だけではないと考えています。明治期の日清日露戦時下には撃剣・柔術の推進が行われ、大日本武徳会は設立十年で百万人を越える会員数に増員しました。昭和期、剣道・柔道に改称後も国家総動員法が公布された同年に武道振興に関する決議案が帝国議員衆議院で可決されています。当時の事実から個人の武道鍛錬は直接国力に結びつき、戦時下における撃剣は竹刀打稽古による身体強壮と国家主義軍国主義精神の育成が主な目的になっていたと示唆されます。

剣道の理念を制定し、厳しい稽古による心身鍛錬を手段とし目的を人間形成へと昇華させた剣道が日本の伝統文化の代表の一つであることは言うまでもありません。居合道は日本刀の操法に由来し、心気力一致と刀の取扱い習得を目的としており剣道とは表裏一体と位置付けられています。一方、杖道は精神修養を目的とし杖道の修練だけでなくその効果は数多く明記されていますが、それに加えて、剣道人が杖道を学ぶ意義があるのではないかと考えます。

杖道は、約四〇〇年前に剣豪宮本武蔵を唯

一破ったとされる夢想権之助勝吉（平野権兵衛）によって創始された神道夢想流杖術が起源と言われます。左右どちらも等しく鍛えることができ、刃のない丸い棒を両手の内で滑らせることにより、表裏遠近など様々な間合いにおける刀への対策が練られています。つまり、杖を知る事は剣の弱点を知り剣の技量を磨く事に繋がるため、杖道もまた居合道と同じく剣道とは表裏一体と位置付けられるのではないかと考えています。

杖道は剣対策に特化した形稽古であり、福岡県の竈門神社で発祥以来黒田の杖と恐れられ、明治期まで長年門外不出の武術として受け継がれてきましたが、昭和期より警視庁捕手術訓練法に採用され、また令和の徳島でも気軽に学ぶことが可能になりました。ご興味のある方はぜひ杖道部会までお声掛けいただければと思います。



## 称号・段位合格者

### 剣道七段に合格して

刑務所支部 江口 大祐



令和三年十一月十三日の愛知審査において剣道七段昇段のお許しをいただきました。

れもひとえに日頃より熱心に御指導頂いております諸先生方、共に研鑽に努めている徳島刑務所、鳴門教育大学剣道部の先生方のお陰です。

ちょうど六年前の同じ会場で三度目の挑戦で剣道六段に昇段し、次の七段は少ない受審回数で合格したいと六段合格直後から七段審査を意識した稽古を続けていました。審査を受審するにあたっては単なる有効打突ではなく、審査において評価される打突がどういったものであり、打突に至るまで

のプロセスはどうあるべきであるか研究しました。また、改めて礼法及び着装等、高段者として実践できて当然と思われることがおざなりになっていないか確認しました。普段の稽古においては自分から先をとって攻防のきっかけとなる攻めを主体的に仕掛けていくということと、普段の稽古は審査のように、審査を想定した稽古については普段の稽古のようになると意識しました。また八月の新型コロナウイルス感染症第五波の最中には、職場での武道訓練も制限され、防具をつけての稽古ができません期間がありました。その期間については、足腰や体幹の筋力アップを意識したトレーニングを行い、基礎体力では同世代の受審者に遅れは取らないようにと心掛けました。

審査では前日の夜に名古屋に入りました。新規感染者数が落ち着いた時期ではありませんが、コロナ禍ということもあり、食事は前もって調べてあった宅配サービスで宿泊所に注文し、感染防止に努めました。愛知審査は面をつけてのウォーミングアップ

や会場外での素振り等が禁止であったため、審査当日の朝は早めに起床し、朝食を済ませ、ストレッチと十五分ほどの軽めのジョギングを行いました。その後、受付開始時間ちょうどに到着するように会場に向かうとコロナ禍以前では行われていなかった、検温や消毒を行うために長蛇の列ができていました。私自身が愛知県の大学の出身であったため、会場には同じ大学の卒業生が十人近く来ており、情報交換をするなどリラックスした状態で会場入りすることができました。審査においては、第二会場の七組目で自分自身としては、待ち時間が長すぎず短すぎず、他の受審者の立会を見たり、会場の雰囲気慣れるのにはちょうどいい順番でした。

一人目の立会は初太刀で飛び込み面に打って出ると、打突部位を捉えてなかったため有効打突ではなかったものの、交刃の間合いから十分攻め入った上で相手が避けようとするところの首付近を打つことができたため、その後も主導権をとって立会が進行でき、出頭を捉えた相面と終盤に攻め入っ



たところで相手をささせての面返し胴を打つことができました。二人目の立会も有効打突にはならなかったものの、初太刀から積極的に面に出ることができ、中盤に面擦り上げ面、終盤に相面を決めることができました。

審査終了後に大学時代の同級生から「いい立会だったぞ。」との言葉をかけてもらい、やることはやった、人事は尽くしたので、あとは天命を待っただけだという気持ちで結果発表を待ちました。結果が発表されると、そこには私の受験番号がありました。実技審査合格の喜びに浸る間も無く、形審査のために別会場に移動しました。形審査では、審査であることを意識しすぎず、目の前の相手に集中して行うことを心掛けました。最終合格の発表を受け、御指導いただいた方々にこれでいい報告ができると安心しました。

今後は、自己の研鑽に努めるとともに、徳島刑務所及び鳴門教育大学における活動等を通じて、後世に日本の伝統的文化である剣道の魅力を伝えていければと思います。

このことが徳島県剣道連盟の発展のため、微力ながら貢献することにつながればと思います。ありがとうございました。



## 七段の合格で思うこと

徳島支部 玉田 真理

令和三年十一月十三日・愛知県会場におきまして、七段の合格を頂くことができました。

私は令和二年春の京都審査から七段審査のチャレンジを目標に稽古を続けていきましたが、新型コロナウイルスで世の中が一変し、剣道も自粛。出鼻をくじかれた気持ちから、三ヶ月以上運動をせず過ごし、体を甘やかした結果、腰・股関節の筋肉が弱り普通に歩くだけでも痛みが生じることとなり、治療とリハビリに思った以上の時間を費やしました。

また、職場での健康診断での再検査の通知に不安にもなった時でした。私の母は五十六歳で他界しており、膵臓癌でした。その病気がわかった年齢が今の私の年齢でした。もし再検査で何か見つかる剣道どころではないのだなと、ぼんやり考えてしまいました。幸いにも再検査では悪いところ

もなく、ほっと安心することができました。

いつでもどこでも剣道が出来ていたのに、新型コロナウイルスの流行で、想像もしないことが、突然降りかかることがあること。稽古の場所・相手も今までのようには行かないこと。体への不安も増えてくる年齢になったことなどをこの期間に学びました。

自分が元気でなければ、剣道も好きなことと思うようにできなくなることも再認識しました。話が前後しますが、再検査の日程を決める時、医師に「審査の後に検査をしましょう。検査後は場合によれば少し剣道はお休みをしてもらいます。」との言葉で目が覚めた思いでした。母のことを思うと、もしかすると次の審査はないかも知れないという気持ちにもなりました。

剣道をする上で私は自分の気持ち以外に何の弊害もなく自由に剣道ができます。そんな環境を本当に大切にしなければいけないのだとつくづく感じました。

私のこれまでの七段審査のチャレンジは、

夏に福岡審査。秋に兵庫で。どちらももしかしたら！との気持ちも少しはありました。が共に撃沈。福岡審査はコロナ感染が増えるなか挑戦しましたが、暑さとコロナ感染への不安と結果が不合格だったこともあり、受けるべきではなかったのかなと落ち込みつつ、剣道に対しての考え方を何も変えることなく兵庫で二回目の挑戦をしました。が不合格でした。その後は、股関節・腰の痛みを取り除いてから再チャレンジしようと心のリセットをしながら、体の痛みが軽減される取り組みに時間をかけました。

一方、年齢からくる体の衰えを考えると、体力維持も大切ですが、それよりも剣道をするのが現在の日々の励みとなるように精神的な面の強化も大切だと思おうようになりました。

剣道と出会えたことを幸せに思うと真面目に剣道に取り組むべきであり、剣道ができる環境を大切にして気長に頑張ろう。時間がかかっても体がグブアップ！と言うまではコツコツ・淡々と取り組んで行こうとも思いました。そんな心の変化が合格のへ

導いてくれたように思います。

令和三年十一月、審査当日はほぼ体の痛みも取れていましたが、新型コロナウイルス感染症対応の運営で会場内での放送が聞こえにくく、六段審査から含めてこれほど不安で緊張をしたことは人生でも初めてでは、と思うほど緊張した審査でした。しかし、本番受験番号をもらってからの緊張は薄れていたように思います。後で思えば良い緊張感だったのでしょう。どのような相手でも初太刀

思います。

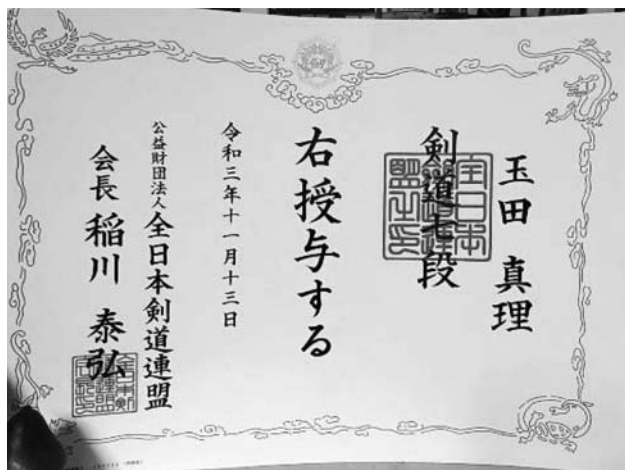
新型コロナウイルス感染症で世の中が一変した中で、稽古の機会を見つけることに苦労しました。そんな時に稽古の相手をしてくださった先生方に本当に感謝をします。この場をお借りして関わってくださった先生方にお礼を言わせていただきます。

「本当に有難うございました。これからも、淡々とコツコツ精進していきます。引き続きよろしくお願い致します」

川島高校で初めて竹刀を握り、剣道を始

めたことで、たくさんの出会い、そして絆を得ることができました。すべてが私の財産になっています。なかなか届かないと思っただ七段合格も私を色々な面で磨いて下さったみなさんのお陰です。感謝の気持ちを大切にこれからも体が許す限り、剣道に力を注いでいけるよう頑張っていきたいと思

は、真っ向から面を作ろう！と決めて挑戦しました。稽古でもそのイメージを大切にしながら取り組んで来ました。思っていた剣道ができ、手応えも感じられた実技でした。運が味方してくれた。そんな審査だったと



## 七段に合格して

鳴門支部 近 藤 敏 晴



令和三年十一月  
十三日、名古屋に  
て行われた剣道七  
段審査に合格する  
ことができました。

これもひとえに地元大麻錬成館の先生方をはじめ、多くの先生方に御指導頂いたおかげと厚く御礼申し上げます。

私の七段挑戦は、六段合格から十年以上経って周りの方々に促される形で始まりました。初めは何回か受けければ合格するだろうと甘い考えを持っていましたが、不合格が続き実力不足を実感しました。自分が目指す剣道について真剣に考えるようになり、先生方から教えて頂いた課題をメモ帳に書き止めて見直しながら稽古を続けました。腕の力を抜いて胸を開き左足に体重をかけた構えから上体が突っ込まないように下半身始動で打つ。そんな当たり前のことを意識

して続けた結果、自分の剣道が少しずつマシになってきたと感じられるようになりました。しかし、審査では結果を求めすぎて固くなり、機会をとらえた打ちがなかなか出せません。このままではダメだと考え、今回は先生方に審査形式の稽古を何回かお願いしました。自分の欠点が次々と出て苦しい稽古でしたが、最後には腕の力が抜けて良い感じになってきたとお話を頂きました。

当日の審査内容について憶えていることを書いてみます。Aの自分は一人目のBの方との立ち合いでやはり固くなり、相手に先手の面を許してしまいました。軽い面でしたが取り返そうと自分が打った面も不十分でした。その後も合気になれずお互い有効打突を出せないまま終了。良い出来ではありませんでした。次の立ち合いまで間があったので気持ちの持ち直しに努め、Dの方との立ち合いに臨みました。ここでは積極的に出て初太刀の面を打つことができ、返し胴も決まりました。終了直前には前へ出た自分に対して相手が打った小手へのす

りあげ面がきれいに決まりました。一人目の出来が良くなかったので結果を心配しながら発表を見に行ったところ、なんと自分の番号を発見。落語「高津の富」ではありませんが、何度も番号を確認した後によく合格の喜びが湧いてきました。

今回合格できたとはいえ、自分の剣道にはまだまだ足りないものが多くあります。もうすぐ高齢者と呼ばれる年齢となり、足の痛みが出始めましたが、剣道ができることに感謝して少しでも上達できるよう稽古を続けるつもりです。

また、自分の稽古とともに大麻錬成館での指導を通して地元の剣道発展のため微力ながら尽力する所存ですので、引き続き御指導頂きますようお願い申し上げます。

## 七段審査に合格して

阿波支部 出口 正 春



令和三年十一月  
十三日、早朝高速  
バスで、久しぶり  
に、名古屋を目指  
す。新神戸駅から

新幹線に乗る。十時過ぎ名古屋駅に到着し、  
タクシーで審査会場へ向かう。枇杷島スポー  
ツセンターを久しぶりに目の当たりに見る。

手足の消毒と検温を済ませ、二階に上が  
り、稽古着に着替えて、隣の公園や階段の  
辺りに出て体をほぐす。十二時半から受付  
が始まり、受付番号をもらって会場に入っ  
ていく。暫くして名前が次々と呼ばれて、  
各自の受番号が貼られ準備が整ってきた。  
私は五五七Dで七組目、三十数分後の開始  
と考えて、気持ちを整理する。一年余り地  
元の稽古会と他にも二カ所で、指導を受け  
稽古を重ねてきた。しかし、自信は殆ど無  
く、当分受け続けることを心の中で覚悟し

ていた。ただ、次の審査は約半年も先にな  
ることが頭の中をよぎった時、三人の地元  
の歴代支部長に受けた指導内容をこの機会  
に、是非とも試しておくべきだと思った。

各組ごとに整列を指示され、座って順番  
を待つ。やがて出番が来てAとBの立ち会  
いが始まった。双方共にはっきりした打突  
はなく、審査の難しさを実感する。次にB  
とCの人の立ち会いが始まった。Cに注目  
すると、体格は私と似たような感じであっ  
た。ところが剣先が鋭く相手の竹刀を寄せ  
付けない激しさがあり、これは、難しい相  
手に当たることになったと内心思った。さ  
て自分の番になり、Cの人と立礼する。先  
ずかけ声を出して、息を吸い少しづつ間を  
詰めていく。剣先が数センチ重なったこ  
ろで、僅かに相手の竹刀を左側へ押さえ気  
味にして様子を見る。反応が無いので更に  
中心を取りながら間を詰め面を狙い進もう  
としたら、にわかに関手の竹刀の先がこち  
らの鰐元の手前まで入り込み、大きく抑え  
られてしまった。予想通り容易ならぬ相手  
だと感じ、間合を取り直して、姿勢を新た

にし構え直す。今度は始めから面を狙い間  
が詰んできたとき、右足を少しだし大きく  
面に打ち込んでいくが、僅かに決まらず不  
十分な打ちになる。そのままの姿勢で抜け  
て、教え通り残心し、少し間を詰め相手に  
向かっていく。どうにも打開出来そうに無  
いので、背筋を伸ばし相手の出方を見てみ  
る。相手が動きかけたので、夢中で思い切  
り横に払う。胴に当たった感じがし、斜め  
前に出ると共に竹刀を抜く。また再度構え  
直し相手に対峙する。まだかなり残り時間  
があり、何度か打ち合った気がする。だが、  
緊張が続いたせいかわりに、すこく呼吸が苦しく、  
構えているのもやっとの状態で、とにかく  
早く終わってほしいの一心だった。

ようやく一人目が済み、立礼すると、休  
む間があるはずも無く、荒い呼吸のままA  
の人に対峙する。間合いを詰めすぎないよ  
う気をつけて、氣息を調える。余り仕掛け  
てくる様子はなさそうなので、少し助かる。  
なおも間合いに注意しながら、氣の満るの  
を待ち、今と感じた時、小手面の二段打ち  
に出た。深めではあったが、竹刀が相手の



## 剣道七段に合格しました

阿南支部 栗野 佳明



令和四年二月十日に、山梨県小瀬スポーツ公園の武道館で剣道七段審査に合格しました。

二月十八日は私の七十一歳の誕生日でしたので、誕生祝いだと思っています。

ようやく二人目が終わりに立礼して、審査場を出る。面をはずしてから、相手の二人に礼を言い道具を持って、急いで二階に上がり氣息を静める。暫くして実技審査の発表があり、幸いにも実技合格していた。形審査では、立ち会いたしたCの人が打太刀、私が仕太刀で形を行い、小太刀の三本目で多少まずい点もあったがそのまま終了する。全員の形審査が終わり、全員合格が告げられてほっとする。以上ですが、この場を借りお世話になった先生方に、深く感謝申し上げます。

足巾とか、色々気付きがありました。

私の試合相手のBがAとしていたのを見て、攻めて打っているのですが、足巾は広がったです。私はBに対して、下がらない・受けない・近間から攻めて打ち込むと決めて戦いました。Bが間合をつめてきたので、私から打ち間に入り、さらに攻めて面を打ちました。Bは受ける事ができず、私はそのまま打ち抜けて残心をとりました。身体が崩れず、打突後も竹刀をあまり上げないように意識して行ないました。面はあと二本打ち込みました。

小手も二本打ちました。一本目は、小手に行くのと、Bは出頭の面を打ってきました。面が決まる前に小手をとらえ、さらに残心をとりました。これは、藤川先生や玉田先生に、小手が当たったらすぐに残心を示さないで指導をされた事があったからです。二本目の小手は打ち抜けました。

審査は第五審査上の午後の部で五五一から始まり、私は五五五のCでした。他の人の試合を見て、竹刀の振る早さ、足の動き、

終り間際に、私の竹刀が中心からはずれ、みごとな面を打たれました。頭を振ってよける事ができたと思いましたが、見苦しいと思い打たれる事を選びました。打たれた

あとで、ほえんでしまいました。相手は気分が良くなかったかもしれません。

二人目Dにも面を二本取り、その後竹刀を下げてからまっすぐ上から小手を打ちました。当たったのですが、相手からの小手がはずれていたの、すぐ面を打ちました。さらに、再び竹刀を下げ、下からすりあげるように振り上げそのまま振り下ろし、面を打ち抜き、すぐに身構える事ができました。「止め！それまで！」の立合からの合図のあと、終わりましたね!!という気持ちをほほえみで伝え、納刀いたしました。試合が終わって、私は合格したと思いません。今までになく身体が動き、姿勢が崩れず、打突できたと思います。

前回名古屋で十一月に出口先生が七段に合格されました。先生が審査を終えられてすぐに、合格されましたね!!と言いました。その時と同じ感覚を私自身で感じました。出口先生と帰りをいっしょにさせてもらい、その時いろいろと御指導していただきました。それが大きな気付きとなり、今回の私の合格につながったと思います。深く御礼

いたします。

多くの先生方に指導いただきましたが、直接的には、臼木先生、高島先生、磯部先生、土川先生、長崎先生に多大なお世話になりました。ありがとうございます。

審査前、最後の木曜稽古が雪で中止となりました。私は一人稽古で私の課題、竹刀のコンパクトで振り巾のある鋭い振り、打ち抜けと残心を意識して練習しました。案外これが合格への転機になったかもしれません。

最後に稽古したのは、審査一週間前の松村先生の松紀和会道場での十一人で二回りの稽古でした。色々な剣風の先生方と稽古ができ良かったと感謝しています。その時、東先生より構えた時右手が開いていると指摘されました。審査で出なく

てよかったです。所で、合格時の面手ぬぐいは、初めてつけた西谷先生の八段の記念品でした。今後とも、諸先生方の御指導よろしくお願い申し上げます。



令和4年2月18日 舞鶴城址より富士山を望む  
来た、見た、勝った ユリウス・カエサル  
山梨に来た、富士山を見た、七段に合格した

## 剣道六段に挑戦して

板野西支部 明 口 豊



今回、五度目の六段審査挑戦になります。思えば剣道を始めたきっかけは両親に無理やり剣道クラブに入部させられた事から始まり(笑)：六段審査に挑戦する事になるとは、当時小学四年生の自分には想像できていなかったと思います。

入部していた応神少年剣道教室では、(故)高松実先生が主となり剣道を指導して下さっていました。両親の話す会話の節々にはよく六段というワードが出てきていた事を今でも鮮明に覚えています。子供ながらに凄いんだなぁと感じる傍ら自分には縁のないものだと思っていました。

時は経ち剣道に縁があったのか先生方・仲間・周りの人達・教える子に支えられ、今まで剣道を辞める事なく続ける事ができま

した。さらにあの縁のないものと思っていた六段審査に挑戦する事になりました。

特に、審査一回目にあたって特別な稽古をする事なく臨みました。自分から先をかけて打突し、相手の動きに関係なく不合格でした。相手と合気になっていない状態で自分勝手に打突しているただ当てあいをしていただけでした。

審査二回目・三回目は合気になろうとするのはいいのですが、気持ちが悪まってしまい、待ちの形になり相手に出ばなを打たれてしまいました。また、形にこだわり過ぎ、動きの面でもぎこちなくなり、迷いが生じた瞬間にも相手に打たれるという最悪な結果で終わりました。ここまでくるともう自分の剣道が段々とわからなくなってきました。

ある時思いました：基本をもう一度考えよう。まずは素振りから今の素振りは本当に先が振れているのか？左手を本当に最後の打突の時まで使えているのか？等諸々考えながら素振りに取り組み、下半身も打突に応じた動きできちんと動作してい

るのか？等々、考えながら稽古に励みました。

先生方との稽古では常に合気を意識し、構えを崩さず対峙する事を心掛けながら稽古をする事で今まで感じる事のなかったものを感じる事ができました。「楽しい」と心から思いました。おかしいもので迷っているにもかかわらず「楽しい」と今の状況を楽しんでいる自分がいました。

審査四回目も試練が：自分の出番直前審査を急に止められました。この時、新型コロナウイルスがまだ猛威をふるっている中の審査でしたので、今では当たり前であるマスク・シールドが必須での審査でした。後でわかった事ですが、前の人が審査中にマスクがずれていた事を注意する為に一時止めたようでした。この止まった事で冷静さをかき、自分らしく剣道をする事ができず：審査終了：当然不合格。

一回目から四回目を終えて感じた事がありませんでした。受かった人の立ち合いとそうでない人の立ち合いが、今まではよくわかりませんが、今回はっきりわかりまし

た。ただ違いには気づく事はできましたが、自分の剣道がそこに近付いているかどうかは：まだ迷いの中でした。そんなある日金野さんの奥さんと稽古をする事ができ、ある一言を貰ったおかげで頭の中で全てが繋がりました。「自分らしく審査を受けてきなさい」と・・・。

審査五回目、会場に行くと気持ちはいつも以上に落ち着いていました。「自分らしく」を胸に一礼から蹲踞・発声からの右足での攻めを生かし自自主導権の元、自分らしく立ち合いをする事が出来ました。結果見事に合格。喜びを通り越して安堵の息が出たのを今も覚えています。今回、六段に合格し、本当に剣道だけではなく、色々な事を学ぶ事ができました。

剣道での技術等の錬磨は当然の事ですが、稽古場所にも恵まれました。また、そこにおられる高段者の先生方・自分磨きを続ける為に稽古に来られている先生方からも、熱い指導と不合格の時には心暖かい言葉を頂き：何も無い自分を暖かく支え、迎えてくれた事で挫ける事なく四年間ずっと強い

気持ちでいられたと思います。

あの時は、本当にありがとうございました。次は七段合格を目指し、支えてくれた人達とたくさん稽古し自分を高めていきたいと思えます。



# 教士号頂いて

板野西支部 月 岡 陽 市

本来なら教士号とは如何なるものかを知ってから受審するべきものであるかと思いますが、成り行きと思いつきで受審しましたので改めて【教士号とは・・・】について調べました。

規定では、

次の資格を具備する者に審査を経て剣道の教士号を授与している。

・教士は、剣理に熟達し、識見優秀なる者

・錬士七段受有者で、七段受有後二年を経過し、加盟団体の選考を経て加盟団体会長より推薦された者  
これに加え

一、剣道実技の修練を続けている者

二、錬士以下を指導する立場にある者として、社会的識見に富み健全な社会生活を営む者

三、全剣連または加盟団体が行う講習を受け、教士として必要とされる日本剣道形、審判法、指導法等の知識、実技について能力認定を受け、且つ、剣道指導及び審判の経験を有する者

と規定されています。

自らを振り返りますと、剣道実技の修練を続けている者には当てはまりますが、剣理に熟達し、識見優秀には程遠いように思います。まだまだ剣道について知らないことばかりで、とても人様にどうこう言える立場ではありません。

私が思う教士像としては・・・

私が五段位受審前、仕事が忙しく夜九時まで仕事で、それからあわてて武道館に行き、着替えを済ませて道場内に入った時は九時半を過ぎてました。稽古時間も終わりに近づき、面をはずされている先生もおいでました。今日は来るのが遅かったから稽古は無理かと思いました。そこへ先生がやってきて、【ほないっちょいくで】面をつけて稽古、御指導頂きました。稽古終わっ

た後、先生にお礼を言うのと先生は【おまはんが稽古したいならいつでも付き合おうですよ！】と笑顔で言われました。非常にうれしかった事をおぼえています。おかげをもって無事五段位に合格できました。三木毅先生ありがとうございました。

また、遅くに稽古に行って、稽古終了時間を延長してくださり稽古、御指導頂きました伊賀先生ありがとうございました。ほか稽古会の案内、招待を頂きました幾多の先生方に感謝いたします。

本題からはずれてしまいましたが、打つべき機会を教えてください先生もありがたいですが、やるべき機会を与えてくださる先生がもっとありがたいと思います。

自らの稽古に固執せず、求める人あらば、積極的に稽古する機会をつくり、共に切磋琢磨できれば幸いかと思います。指導にについては、難しいですが、動く打ち込み台、叩き台、囀ませ犬ぐらいにはなれるかと思えます（苦笑）

此度、教士号を頂きましたが、懸かる気持ち忘れず生涯剣道の一環として、



体がもつ限り稽古続けて行きたいと思いません。加齢と共に落ち続ける体力、鈍くなる反射神経を食い止める方法は、やはり稽古することしかないかと思っています。

今後皆様方にご迷惑をおかけするかと思いますが、何卒、稽古、御指導の程よろしくお願いいたします。末筆になりますが、早くコロナが終息して和気あいあいでお交剣ならびに交酒が出来ることを心待ちしております。

## 剣道教士に合格して

麻植支部 柳 谷 照 男

この度、教士に合格することができましたこと、紙面をお借りして、お世話になった方々に厚くお礼申し上げます。

教士称号合格したことによって、自分の何かが終わったような感覚を覚えました。このような事から、剣道に関する事で、思い浮かぶことを綴ってみることにします。

一九七一年（昭和四十六年）に山川中学校へ入学。その時に同級生が、部活で剣道の練習をしていたことを覚えているが、現在の武道館はなかった。

現在の武道館は、一九八二年（昭和五十七年）三月二日に建てられた。

麻植郡山川町で一九六八年（昭和四十三年）スポーツ少年団剣道部が発足。その後、山川スポーツ少年団修錬館として、子ども達と共に稽古が行われている。

一九七四年（昭和四十九年）徳島県立川島高等学校入学し、剣道を始めたが、剣道

部は、現在の武道館の位置にあったものの、木造の教室をそのまま利用しており、西側に入り口があり、剣道場通って奥側に柔道場があった。床は、昔の教室跡を練習場とした事がうかがえる板間であったことから、時々釘の頭が顔を出してきて足の裏を怪我したことを覚えている。

新入生の内、二名は中学校からの剣道経験者で、先輩は男子三年生七名のみ、女子三年生四人のみ二年生はいなかった。

初めの頃は、二十名を超えた新入生がいたことから、剣道場から外に出て、グラウンドでの送り足、素振り、発声練習が、九月頃まで約半年続いた。気が付けば、新入生は経験者二名を含め七名となっていた。

初めて、剣道具を付けた時の記憶は、感動したのか、痛かっただけだったのかの記憶はない。ただ、剣道の稽古は、夏は暑く、水を飲むとバテてしまうので、稽古途中で飲むことも許されず、今では考えられないような稽古であったことは、記憶している。

外部から、今は亡き井上健二先生、岡本健三先生が週に二、三回来られていた。一

九七五年（昭和五十年）から教員の乾寿夫先生も着任され、三人の指導者に恵まれた。

当時は、基本稽古等で、足の裏には水ぶくれの豆が癒えることもなく、何気なく稽古をしていたこと、今から思えば、指導者に恵まれたどんなに贅沢な稽古であったとか。

一九七六年（昭和五十一年）卒業後は、約二十年間剣道から離れていたが、娘が剣道を山川スポーツ少年団修錬館で自ら始め、その時に植田一夫館長から私もお誘いを受けたことが、剣道修行の再出発であった。

植田一夫先生は、徳島県庁剣道クラブの責任者でもあったことから、毎年、中国四国の九県持ちまわりで開催される県庁職員交流大会にも参加させていただいた。

この大会には、一五〇名程度の参加者が集まり、各県との対抗試合が盛大に行われていた。試合も楽しみであったが、それ以上に夜の懇親会には、各県が持ち寄った地酒が最高にうまかったこと、一年に一度しか会わない人とも、剣道話で盛り上がり、

非常に楽しかった。

剣道がここまで継続できたことは、改めて振り返ってみると、やっぱり剣道をしていて楽しいと思えることがあったことである。試合で勝ったら楽しいとは思いますが、それ以上にこのようなことが、剣道を継続するためには、大切なことと思う。

これからもいろんな人と出会って行くと思うが、その時には、単純に「剣道って楽しいよ、続けていると良いことあるよ」ということを伝えていきたい。



# 剣道教士称号審査を受審して

鳴門支部 松本 日出夫

令和三年二月十四日に、ソイジョイ武道館で教士号の予備審査を五名の先生方と受審しました。普段から稽古をお願いしている先生方なのでお互い手の内が分かっている為、多少やり難い気持ちでしたが気迫と緊張感のある立ち合いが出来たと思えました。後で審査部の先生から全員、良かったですよと言って頂き、安堵したのですが後日、立ち合いの動画を見てもらった某先生から幾つかの課題を頂きました。

(一)竹刀操作の正確性と柔らかさが必要。  
(二)待ちの立ち合いになっている。自分の機会で打突出来るような攻めが必要。等々次の稽古に進む為のアドバイスを頂きました。普段の稽古では自分の事を中々客観的に見る事は難しく出来ないので非常にありがたかったです。うす紙を積み重ねる様に少しずつでも上手になれたらと願ひ稽古を読みたいと思っています。

後は「教士」筆記試験に向けて「教士」試験実施要領の参考資料を集める事から始めようと思ひました。

## 一、指導法

「剣道の理念」

「剣道修練の心構え」

「剣道指導の心構え」

## 二、試合・審判

「有効打突」

「禁止行為」

「審判法講習における重点事項」

「審判員の心得」

## 三、日本剣道形

「日本剣道形講習における重点事項・日本剣道形の審査上の着眼点」

## 四、称号・段位

「審査員の責務」

「段位実技審査の着眼点」

## 五、健康・安全

「熱中症の種類、症状および予防対策」

「剣道用具の安全管理」



## 六、小論文(二問中一問を出題)

「剣道における指導のねらい」

「剣道指導者としてのあり方」

等、沢山の項目とそれに付随する参考資料を修武館道場の武田先生からお借りして一項目から目を通していったのですが、これは大変だと即座に思いました。会社を退職して三年が経ち、机の前に座る事がなくなっており、「教士」筆記試験実施要領の項目、参考資料等を集中して読み或は書いて覚える事が私にとっては非常に難しいと痛感し

ました。これまでに教士の筆記試験に合格して来た先生方は凄いと改めて思いました。

この度、コロナウィルス感染拡大防止や被害の減少に協力するため、神戸会場での筆記試験が中止となり、剣道の課題「剣道指導者としてのあり方」の小論文提出の形式で実施し、可否を決定するとの通達を事務局から頂きました。素直にラッキーと思いい、年甲斐もなく浮かれてしまいました。

又、武田先生からお借りした参考資料等は無駄にしないようコピーを取りファイリングして活用したいと思っています。

私も加齢と共に身体の切れが悪くなりましたが「一生稽古」を目標に体力にに応じて稽古を続けて私なりに頑張り微力ですが後進育成に尽力したいと考えています。

又、お世話になった先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。有難うございました。

## 教士号に合格して

丹生谷支部 岡 田 豊

令和三年二月十四日、剣道教士の称号審査を受審しました。今回の審査ですが、新型コロナウイルスの影響で講習会が実施できていないため、審査当日講習を一時間余り受けての実技・形審査となりました。そのあとは、今回も小論文の提出が要請されました。剣道教士の小論文課題は「剣道指導者のあり方」でした。講習会資料などを参考に指導者のあり方を勉強し、内容は十分ではなかったと思いますが、以下のように記述しました。

全日本剣道連盟による『剣道の理念』には、「剣道は剣の修練による人間形成の道である」とあり、常にこの理念を年頭においた指導を心掛けるべきです。また、『剣道修練による心構え』には、「剣道は正しく真剣に学び、心身を錬磨して旺盛なる気力を養い、剣道の特性を通じて礼節を尊び

信義を重んじ誠を尽くして、常に自己の修養に努め、以って、国家社会を愛して広く人類の平和繁栄に寄与せんとするものである。」とあり、指導を受ける者がこの心構えを持つように導くことが重要です。

そして、剣道指導者は、剣の理法に基づき竹刀の扱い方の指導、相手の人格を尊重し、心豊かな人間育成のために、礼法を重んじる指導、共に剣道を学び、安全、健康に留意しつつ生涯にわたる人間形成の道を見いだす指導を心構えとして持ち、指導にあたるように務めることが大切です。

上記のことをふまえて、剣道修養に於いて適切な指導がされるか否かは、指導を受ける者の技能の向上や人格形成に大きく影響が出てきます、よって指導者は、極めて重要な立場であることを自覚しなければなりません。同時に指導者は、人格的にも道徳的にも指導を受ける者から尊敬され目標となる人間でなくてはなりません。指導者の技能の程度が高ければ学習者に信頼感を与えますし、そればかりでなく、言動、礼法、所作、などを常に見られていることを

自覚しなければなりません。

技能向上や人格形成に大きな影響を及ぼしていることを理解し、「共に行なう」ことが、剣道の技術と精神を教える伝統的な指導法ですので、指導を受ける者と「共に」自身の修養に努めなくてはなりません。

又、剣道の教育的な効果は、人間形成にとって大変重要であるという確固たる信念を持ち、指導を受ける者に合わせた指導によって、新しい知識や正しい技能、望ましい態度を身につけて成長してくれることと思われまます。又、指導の行き過ぎにも配慮しながら、自主的な稽古の意欲を伸ばさせながら、長所を伸ばし短所を直す、バランスを留意しながら愛情をもって接して行きます。

以上のようなことを念頭においてこれからも指導に携わっていくと考えております。剣道は高齢になってもできるスポーツです。これからも体力の続く限り生涯現役で頑張ります。徳島県剣道連盟の諸先生方、今後共ご指導宜しくお願い致します。





# 剣道称号「錬士」をいただいて

徳島支部 東内 守

令和三年五月三日京都の審査会に於いてお陰様で剣道「錬士」の称号をいただきました。日頃ご指導いただきました先生方々のお陰と感謝で、この場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

称号審査の経緯は徳島剣連の講習会を受講し、剣道立ち合いと剣道形の審査、そして小論文提出です。しかし、コロナ禍の影響で称号審査以前の試合や講習会はすべて中止であり、講習会が受講できない状態でした。どうなるかと思いましたが、剣道実技・剣道形の審査日の当日午前中に臨時講習会をみっちり行っていただき、どうにか全てクリアすることができ、念願の剣道称号「錬士」をいただくことができました。

小論文についてですが、題目は「剣道指導の心構え」の要点を記し、それを踏まえた上でのあなたの剣道修行について述べなさいというものでした。小論文作成に当た

り「剣道指導の心構え」について（竹刀の本意）（礼法）（生涯剣道）の三つの要点に分けて自分の想いや考え、先生からの教え、数々の剣道資料から抜擢し、長時間の試行錯誤の末なんとか論文をまとめて書き上げることができました。論文作成の中で、もう一度自分の剣道を見つめ直す良い機会になったことと、改めて剣道の奥深さと「錬士」になる重み（責任）を感じ、剣道修行もまだまだ足りずこれでは恥ずかし過ぎると痛感致しました。今後はそれに見合う剣道ができるように更なる努力（稽古）と人間形成の道もしっかりと究め精進して参りますので引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

今回、剣道称号「錬士」を受審しようと思ったきっかけは父・東内勉（剣道七段教士）現在八十六歳の存在でした。東内家は親子三代に渡る剣道一家（現在、父兄弟孫十人で剣道二十八段）ですが、父の剣道に追いつき追いつき越せではありませんが、目標として今回「錬士」を受審させて頂きました。（東内家剣道三十段越えを目指します。

屋根瓦 工事一式  
職人魂  
見せてやる!!  
瓦屋根診断士 東内 まもる  
（一社）全日本瓦工事業連盟加盟店  
株式会社 東内つとむ商店  
徳島市南矢三町3丁目2-5 ☎(088)631-5718

瓦屋根診断士 東内 まもる  
屋根工事一式  
一生修行  
（一社）全日本瓦工事業連盟加盟店  
株式会社 東内つとむ商店  
徳島市南矢三町3丁目2-5 ☎(088)631-5718 東内つとむ商店 検索

東内さんがモデルとなっている徳島新聞の広告（編集者提供）

笑)

剣の理法の修練による人間形成の道を究め続ける「生涯剣道」の八十六歳にして健康で、誰からも尊敬される父を模範として、東内家が更に後世まで剣道を続けることも

日本剣道の発展とより良い社会づくりに貢献していくと思います。私も程遠いかと思います。「生涯剣道」で剣道七段教士を目指して頑張ります!!



令和三年度

称号・段位合格者一覽

— 剣道 —

【錬士】

【教士】

五月三日

岩本一彦

月岡陽市

柳谷照男

松本日出夫

岡田豊

敦賀晋平

福井勝

五月三日  
東内 守

【七段】

十二月十三日

江口大祐

玉田万里

近藤敏晴

出口正春

令和四年

二月十九日

栗野佳明

【六段】

十一月十四日

明口豊

【五段】

八月一日

山田泰弘

十一月二十八日

前田崇太郎

本田和将

福崎泰樹

梶原拓磨

近藤一志

花川智彦

徳重清久

令和四年

二月十三日

高木勝己

上田義弘

栗野安香音

【四段】

八月一日

松葉そら

横手悦子

十一月二十八日

兼近有海

芝崎良典

宮本和年

川田実央

坪井香歩

山下芽実

令和四年

二月十三日

岩本隆紀

山室和士

坂本亜海

矢野一輝

田村真尋

【三段】

八月一日

若松晃希

津山裕也

富田将太郎

玉垣柊芽

谷口星矢

近藤邑樹

撫養柝叶

勝間春輝

大前誠也

西井ゆい

金森純子

十一月二十八日

受川諒

小田鳳哉

三好健太

谷本英

亀井智成

上元佑太

千葉陸登

山 橋 小 佐 辻 住 米 西 令和四年  
本 本 原 川 村 友 田 林 二月十三日  
龍 本 將 申 優 晴 安 篤 三月  
之 青 輝 乃 人 帆 里 志 日  
介 空 暉 輔 人 帆 里 志 日

西 小 嶋 森 羽 兼 四 坂 中 山 玉 村 平 長 古 吳 鷺 四 佐 茨 谷 添 岩 原  
村 畠 田 川 坂 松 宮 東 尾 崎 瀨 田 田 尾 賀 上 池 宮 藤 木 川 木 谷 拓  
葵 理 優 風 愛 優 彩 星 旬 光 智 七 大 紗 元 力 宗 太 宙 樹 蓮 樹 斗

藤 福  
原 本  
真 彩  
結 乃

入 森 三 四 田 井 入 佐 十一月二十八日  
江 本 木 宮 代 上 江 藤 十二月二十八日  
亮 理 良 眞 朔 裕 空 優 二月二十八日  
太 希 織 一郎 也 貴 男 多 日

【二段】

篠 鈴 岸 山 藤 三 橋 株 面 石 椎 篠 渡 福 坂 和 中 增 鈴 富 瀬 吉 多  
原 木 下 川 川 橋 本 田 岡 川 橋 原 邊 池 東 泉 原 尾 木 增 戸 岡 田  
嵩 陽 悠 虹 拓 和 隆 元 榮 謙 皓 光 優 葉 奎 遥 隼 健  
也 人 人 太 真 馬 之 喜 斗 信 大 翼 輝 二 佑 人 隼 人

福 鹿 森 鈴 上 佐 原 小 湯 相 小 入 原 前 玉 加 橋 面 海 片 藏 三 楠  
岡 子 長 江 村 藤 井 島 川 原 西 江 原 田 垣 藤 本 岡 部 岡 本 宅 本  
詩 美 未 海 凌 千 大 拓 千 悠 陸 孝 優 一 雅 桂 恭 望 海 遼 本  
彌 来 音 香 晴 弥 景 汰 男 太郎 真 樹 葵 吾 健 朗 海 遼 太

黑 前 岩 尾 逢 原 辻 七 大 平 稻 米 佐 令和四年  
崎 山 本 畑 坂 原 村 條 和 松 田 藤 二月十三日  
蒼 陽 響 涼 那 村 鴻 優 政 田 有 圭 三月  
太 紀 輝 月 那 人 隼 星 樹 亮 輝 悟 日

遠藤 葵  
熊澤 翔生  
中野 璃玖  
鈴木 智裕  
中村 柑菜  
大西 結来  
柏原 あこ  
秋山 鈴奈  
山本 実加子  
谷本 真智子  
甘利 慧  
小田 有紗  
眞貝 幸音  
高嶋 桜子  
田窪 飛奈  
東内 菜々

【初段】

六月二十日

武田 脩斗  
中川 遥守  
橘 大晴  
津島 優生  
川人 陸  
渡川 零  
高松 宏樹  
安達 大輝  
益岡 佑斗  
福多 伊織  
佐藤 倅輔  
佐々木 清人  
吉良 聡祐  
谷 圭一郎  
米崎 湧哉  
吉原 司  
森川 凌太郎  
大石 一真  
村上 兵庫  
次原 玄

高田 翔朱  
安部 晴輝  
長池 正悟  
堀口 良太  
殿川 瀬里  
武田 朱里  
前田 優莉  
小柏 舞桜  
山崎 春花  
田岡 静佳  
一宮 めい  
喜多 美月  
山本 柚希  
浅野 花怜  
内田 美心  
東道 仁美  
蛭田 昭美  
令和四年  
一月二十三日  
天羽 龍慎  
原田 慎也  
奈良井 翼

山本 瑛太  
林 巧  
川原 楓瑛  
中村 颯亮  
原田 勇輝  
原田 和輝  
安友 良輔  
野田 宗佐  
澳津 瑛太  
藤川 創一郎  
松本 奏利  
北村 直路  
河地 颯斗  
三宅 海誠  
四宮 大地  
多田 煌  
東海 大地  
福本 竜也  
村瀬 絆  
小原 優翔  
森 一斗  
山子 翔馬  
後藤 拓実

—居合道—

【二段】

十一月七日

小川 春樹  
内田 ころこ  
江 西 瑞子  
岩谷 夢羽  
岡田 晃太  
吉岡 琴祢  
吉岡 未徠  
山本 洲  
高畑 隼人  
今田 悠介  
葭本 有優佳  
山 畠 光貴  
吉田 公俊  
江西 祐喜  
森 啓輔  
金住 信博  
綾部 杏花  
濱田 百合愛  
中野 朱音  
栗飯原 悠真  
江 西 瑞子  
岩谷 夢羽  
岡田 晃太  
吉岡 琴祢  
吉岡 未徠  
山本 洲  
高畑 隼人  
今田 悠介  
葭本 有優佳  
山 畠 光貴  
吉田 公俊  
江西 祐喜  
森 啓輔  
金住 信博  
綾部 杏花  
濱田 百合愛  
中野 朱音

【初段】

十一月七日

内田 ころこ  
江 西 瑞子  
岩谷 夢羽  
岡田 晃太  
吉岡 琴祢  
吉岡 未徠  
山本 洲  
高畑 隼人  
今田 悠介  
葭本 有優佳  
山 畠 光貴  
吉田 公俊  
江西 祐喜  
森 啓輔  
金住 信博  
綾部 杏花  
濱田 百合愛  
中野 朱音  
大岸 美心  
三谷 典史  
森本 理希  
大岸 美心

十一月七日  
大岸 娃心  
辻 孝

前号の合格者一覧の中で未掲載がありました。心よ  
りお詫びするとともにここに掲載することとします。

— 剣道 —

【四段】

令和二年十一月二十九日合格

村中 郁



# 書籍紹介

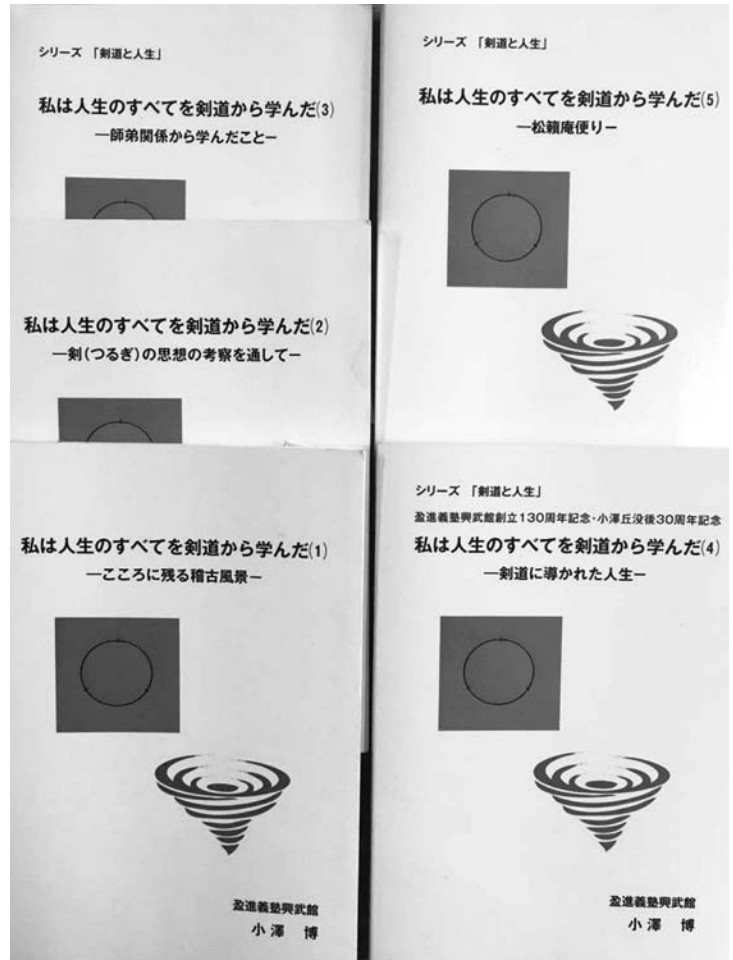
小澤博著

## 『私は人生のすべてを 剣道から学んだ』

編集委員 木原資裕

『徳島の剣道』第三十五号に執筆いただきました吉田博三先生（令和三年一月二十四日ご逝去）より、先生がお持ちであった『私は人生のすべてを剣道から学んだ』（1）～（4）をお送りいただきました。

私はこの本の筆者である小澤博先生（剣道教士八段）が八段に昇段される前の稽古会で範士八段の先生に向かって端正な構えから鋭い技を繰り出されながら、必死に稽古をお願いしている姿を拝見しています。その時は私から小澤先生に稽古もご挨拶もある機会がなかったのですが、吉田先生のお取り計らいで、昨年、親しく電話でお話をする機会を得ることができました。その中



で、私の恩師と親しい関係であること、この『徳島の剣道』の表紙・挿絵で使用されていたこと、村嶋恒徳先生の墨絵を愛蔵されていること等々、不思議な縁を感じました。また、小澤先生よりは最新版『私は人生のすべてを剣道から学んだ（5）』を送っていただきました。

写真にあるように各号には、それぞれのサブタイトルが付けられています。

- (1) ここに残る稽古風景
- (2) 剣（つるぎ）の思想の考察を通して
- (3) 師弟関係から学んだこと
- (4) 剣道に導かれた人生
- (5) 松籟庵便り

紙面の関係でこれらすべてを紹介することはできませんが、私の剣道修行で見習いたいと感じた箇所を参考までに転記させていただきます。

・師匠山内富雄範士は六十歳を過ぎて突然思い立ち、剣の理法に従って素振り百万回を二年半掛かって成就した。「三十万回位のとくに竹刀の握り方が分かり、七十〜八十万回位のとくに竹刀の振り方が分かった。百万回に達する頃、ようやく打った瞬間、突いた瞬間に何とも言えない感触が掌に残った」と・・・(中略)・・・そこまで徹底した結果、名声を得るわけでもなければ、金が儲かるわけではない、さらに高い地位が得られるわけでもない。何かを修行するということはそういう覚悟がなければならぬのだ。(1) p70

・門人の経済学者安藤英治氏のこと・・・道場で稽古するときも、剣道そのものを純粹に鍛錬すること、剣道の根本・原点を見つめながら自ら真摯に努力することにこそ意味があると考える一人だ。素振りでもいいし、懸かり稽古でもいい。その行為のう

ちに自分の存在理由を見出し、自分自身の存在を賭ける、という情熱家である。(1) p83

なお、「松籟庵便り」については、盈進義塾興武館のホームページ (<https://kobukan-kendo.com/>) に現在も掲載されており、いつでも閲覧可能です。また、このホームページの中に小澤先生の書籍『私は人生のすべてを剣道から学んだ』の購入方法も紹介されています。

このホームページから百三十一年前に道場を設立された初代館長・小澤愛次郎範士(衆議院議員として中学校武道正課編入への建議を行う)を初め、二代目館長・小澤丘範士九段(元警察大学校・日本体育大学教授)が剣道指導に心血を注がれ、現館長・小澤博教士八段へとその血脈が引き継がれていることがわかります。さらに、令和三年には盈進義塾興武館の一般社団法人化がなされています。その他、これからの道場運営のあり方等に参考になる多大な示唆を提供されていると思います。ぜひ、盈進義塾興武館のホームページをご覧ください。

また、ご存じの方も多いと思いますが、広島県の私立学校に剣道の強豪校でもある盈進中学高等学校があります。この学校名も興武館同様に孟子から採られています。

源泉混々として

昼夜をおかず 科に盈ちて

後に進み 四海にいたる

「水源のある水は、混々として夜昼となく休みなく流れて、行く先々に窪地があれば、それをいっぱい満たしてから先に進んでゆき、ついには四方の海に辿り着くのである。本源のあるものはすべてこのように決して尽きることがない。」

盈進義塾興武館ホームページより



盈進義塾興武館ホームページ



現館長・小澤 博先生

## 専門部報告

### 事業部より

事業部長 佐賀博史

事業部では、剣道連盟主催の大会及び講習会などの開催・運営を主な業務としており、各大会などが有意義で安全に実施されることを目的として活動しています。

昨年の役員の改選などにより、現在の事業部は二三名の理事及び委員で運営しています。

令和三年度の活動状況は、新型コロナウイルスの影響により、数多くの大会や講習会、稽古会が中止となりました。

その一方で、感染予防対策を万全に施した中、全国大会につながる予選会として

- ・六月には第七六回国民体育大会
- ・七月には全日本選手権大会
- ・十二月には

全国スポーツ少年団剣道交流大会

全日本都道府県対抗剣道優勝大会の各徳島県予選会が開催されました。

各予選会の結果については後記の大会記録をご確認下さい。

このように、令和三年度は、何とか全国大会につながる予選会は開催されたものの社会人大会や女子大会など剣友の皆さんが日頃の稽古の成果を試す多くの大会が中止となり、我々としても残念でなりません。

令和四年度は、コロナ感染症が収束し、剣道連盟主催の各大会等が盛大に開催されることを願うばかりです。

これらの大会等については、我々事業部員が中心となって運営していくところではありますが、到底、事業部員だけで実施できるものではありません。

先生方には、これまで以上のご協力をお願いするとともに、安心・安全の日常が戻りますことを願い、事業部からの報告とさせていただきます。



## 審査部より

審査部長 佐藤 佳宏

令和三年度の行事につきましては、新型

コロナウィルスの影響で居合道の部では、

五段以下審査会（二回）、剣道の部では、

初段以下審査会（三回）、二段以上審査会

（三回）、と当初予定より開催回数が少なく

なり、またコロナ対策のため審査要領も変

更となり、受審者の皆様には大変ご迷惑を

おかけしました。

地元役員、審査員、剣道連盟関係者の方々

にはコロナ禍の中、多大なるご協力を頂き

まして心よりお礼を申し上げます。

審査会の結果につきましては、

・居合道の部、受審者八名、合格者八名、

合格率一〇〇%

・剣道初段以下の部、受審者七八二名、合

格者七四四名、合格率九五%

・剣道二〜五段・称号の部、受審者二二四

名、合格者一九〇名、合格率八五%

となりました。

六段以上の高段位合格者につきましては、

剣道六段一名、剣道七段四名、剣道錬士二

名、剣道教士七名という結果でありました。

合格の先生方は下記のとおりです。

### 〈剣道六段〉

明口 豊（板野西支部）

### 〈剣道七段〉

江口 大祐（刑務所支部）

玉田 万里（徳島支部）

近藤 敏晴（鳴門支部）

出口 正春（阿波支部）

### 〈剣道錬士〉

東内 守（徳島支部）

### 〈剣道教士〉

岩本 一彦（板野東支部）

月岡 陽市（板野西支部）

柳谷 照男（麻植支部）

松本日出夫（鳴門支部）

岡田 豊（丹生谷支部）

敦賀 晋平（阿南支部）

福井 勝（阿南支部）





## 強化部より

強化部長 白 木 洋 一

### 【本年の強化状況】

本年は、新型コロナウイルス感染症対策の一環として、全剣連から令和三年八月四日に出されている「対人稽古に関する感染予防ガイドライン」に基づき、木曜日に実施にしている強化練習の参加者を、国体予選・都道府県大会・全日本選手権大会の出場者やその練習相手に制限している。

### 【強化練習参加人数】

期 間 令和三年三月二十三日～

令和三年十二月六日現在

実施回数 二十三回  
 延べ参加人数 二二三名  
 平均参加人数 (九名)

### 【令和三年の試合結果】

#### 第十三回全日本都道府県対抗

#### 女子剣道優勝大会

開催日：二〇二一年七月十日(土)

会場名：ジェイテクトアリーナ奈良女子

一回戦

徳島県 代表勝 0 | 0 栃木県

二回戦

徳島県 2 | 1 島根県

三回戦

徳島県 0 | 2 青森県

※ベスト一六進出

#### 国民体育大会第四十二回

#### 四国ブロック予選大会

(三重ことわか大会は中止)

開催日：二〇二一年八月二十二日(日)

会場名：吉野川市民プラザアリーナ

○少年男子 三位

徳島県 1 | 2 香川県

徳島県 1 | 0 高知県

徳島県 0 | 1 愛媛県

○少年女子 二位

徳島県 2 | 0 香川県

徳島県 1 | 2 高知県

徳島県 2 | 1 愛媛県

○青年女子 二位

徳島県 1 | 0 香川県

徳島県 1 | 0 高知県

徳島県 0 | 2 愛媛県

#### 全日本剣道選手権大会

開催日：二〇二二年十一月三日(水)

会場名：日本武道館

一回戦

白木 恒二郎 | メ ▲ 柴田 駿介

一回戦敗退

#### 第六十九回全日本都道府県対抗

#### 剣道優勝大会

開催日：二〇二二年十二月二十六日(日)

会場名：和歌山ビッグホール

対戦結果

二回戦 徳島県 4 | 2 沖縄

三回戦 徳島県 0 | 3 和歌山

※ベスト一六進出

○優勝は和歌山県でした。

## 【徳島県の強化について】

本年度は都道府県対抗剣道優勝大会において、男女ともベスト十六に進出することができました。強化に対して御協力頂きましたすべての方々にお礼申し上げます。

剣道の強化について、ひとつの側面として、試合での結果（上位進出）があります。大会に出場する以上は優勝を目指して取り組みわけですが、剣道の競技人口が大都市に比べ少ない本県において、結果のみを重視する強化では先細りになる可能性があります。

結果のみではなく、これからの時代を見据えた徳島スタイルと言うべき強化スタイルが必要であると考えます。基本に忠実に、しっかりと骨太な強化ができればと考えております。

## 少年部より

少年部長 白木 崇

### ○少年強化訓練

コロナ禍における指導・実践は極めて困難であり、生徒の安全を再優先とし中止しました。

### ○少年剣道教室指導者講習会

コロナ感染症対策を十分整えた上で、時間も短縮し実施しました。

### 令和三年度少年剣道教室指導者講習会

主旨 剣道理念にのっとり、剣道を通

じ子供たちの健全育成のため、

日々努力されている指導者の指

導力の向上と安全・安心な教室

運営について、徳島県剣道連盟

に加盟する少年剣道教室等の指

導者を対象にあらゆる見地から

の共通理解と情報共有を図るこ

とを目的とする。

主催 徳島県剣道連盟少年部

日時 令和三年四月十一日（日）

九時三十分～十二時

場所 ソイジョイ武道館

講師 米倉滋先生、佐々木克哉先生

内容 コロナ感染症対策と全剣連共有

事項

・Withコロナについて

（佐々木講師）

・全剣連コンプライアンス・審

判法等（米倉講師）

○第十六回全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会中止

## 女子部より

女子部長 竹 内 佳代子

### 〈大会の結果〉

#### ①全日本都道府県対抗女子剣道優勝大会

(七月十日)

会場 ジェイテクトアリーナ奈良

一回戦 徳島 0 - 0 栃木

(代表勝ち)

二回戦 徳島 2 - 1 島根

三回戦 徳島 0 - 2 青森

(ベスト十六)

#### ②国民体育大会第四十二回

四国ブロック大会(八月二十二日)

会場 吉野川市民プラザアリーナ

徳島 1 - 0 香川

徳島 1 - 0 高知

徳島 0 - 2 愛媛

(2勝1敗 第2位)

新型コロナウイルス感染症の関係で、残

念ながら今年度も県女子大会は実施すること

ができませんでした。県外との大会にお

いて選手の皆さんは活躍してくれました。

また、四国ブロックの前には、県外遠征が

できないため練習試合の相手にと何人も

女性の方が強化練習に参加してくださいま

### 〈都道府県剣道連盟の女子代表者による

#### 全国リモート連絡会議の報告〉

十二月十三日 実施

#### ①内容

一、全日本剣道連盟の女子委員会 令和

二年度事業報告活動報告及び令和三年

度事業計画の報告

二、各都道府県剣道連盟に依頼したアン

ケート調査結果報告

三、各都道府県剣道連盟の女子委員会設

置の現状と課題

四、幼少年女子講習会について

五、令和四年度七十周年記念全日本都道

府県対抗女子剣道優勝大会七人制につ

いて

#### 六、質疑応答

#### ②特に印象に残った内容

○全剣連は、剣道の普及に女性の果たす

役割が大きいと捉えている。そのため、

剣道連盟の理事に女性を起用し、女子

剣道指導者の育成や指導力の向上に力

を入れたり、審判員としての技能向上

を図ったり、女子大会のあり方や広報

活動の活性化に取り組んでいる。

○女子大会の魅力を高めるために、全日

本都道府県女子優勝剣道大会選手出場

枠を増やした。七人制で、三十才以上

を二人にした理由は、子育てなどで剣

道を離れる人が多い年代だけに、大会

参加の枠を増やすことで、剣道に取り

組む機会にしてほしいという願いがあ

るから。そのため会場には、保育室及

びキッズルームを設置し、保育士を常

時滞在する取り組みを令和三年度から

行っている。大将を五十代にした理由

は、試合の機会の少ない六十才以上の

人にも出てほしいから。(令和四年の監督会議の時にアンケートを提出してもらい、その意見を参考に今後については検討することです。)

○どの都道府県も女子稽古会をどう活性化させるかと、女子大会の参加人数をどう増やしていくかが共通した課題だった。

(対策例) 女性なら小学生も参加OKにした。

お母さんが参加しやすいように、親子なら小学生男子もOKにした。

### 〈令和四年度に向けて〉

今年度も、月一回を目安に実施してきた女子の稽古会を行うことができませんでしたが、昨年度同様白木先生のご配慮で、石井中学校の剣道場を毎週土曜日に借りてくださり、基本を中心とした稽古の指導をしてくださいました。ありがとうございました。

十一月に行われた名古屋での審査会に

おいて、玉田真理さんが見事七段に合格されました。本当におめでとうございませう。

まだまだ先の見えない厳しい状況が続いていますが、来年度はぜひ、女子稽古会と県下女子大会を再開したいと考えています。稽古会の持ち方や大会のあり方において、女子部の皆様から忌憚のないご意見をいただきたいと思います。そして、女性の方がそれぞれの目標に向かって、共に楽しく剣を交えることができるようにしていきたいと考えています。今後ともよろしく願います。



## 居合道部より

居合道部会 満 壽 良 史

令和三年度居合道行事のうち、五月開催予定だった居合道春季講習会、六月に本県で開催する予定だった四国四県合同稽古会、令和四年二月に開催予定だった居合道県下大会は、新型コロナウイルス感染症拡大により、やむなく中止いたしました。

なお、九月開催予定だった全日本剣道連盟居合伝達講習会は十一月に、秋季居合道講習会と併せて開催いたしました。

審査会についても、四回の審査会のうち、五月と九月に中止した講習会と同日に予定していた審査会が中止となりました。

これまで居合道部会の会員が参加していた近隣府県剣道連盟主催の居合道大会も高知居合道大会を除き、中止が相次ぐなか、居合道部会では、十月開催予定の都道府県対抗「全日本居合道大会」に向けて、六月から月二回程度の合同練習会を行いました。

新型コロナウイルス感染症拡大により、

参加者は多くありませんでしたが、延人数で七十一人の会員が汗を流しました。

開催が危ぶまれていた全日本居合道大会は予定通り開催されることになりましたが、新型コロナウイルス感染症拡大により、出場予定選手三名のうち二名が、職場の許可が出ない等の理由で出場できなくなり、急遽代役を立てて出場しました。

他県も同様で、選手一名しか参加していない県もありましたが、全都道府県が参加して行われ、本県は総合成績十一位でした。

現在、居合道部会の会員は三十人程しかいません。このため、居合道人口の増加が急務ですが、現会員が途中で止めてしまうことなく、生涯にわたって居合道とともに学び続けられる環境を整えることも重要だと思いますので、そうした観点から居合道の諸行事に取り組んでいきたいと考えています。





# 審判部活動報告

審判部部长 富 浦 廣 志

## 一 本年度の活動

- ① 二〇二〇年十二月十九日ブロック別審判講習会の内容である、新型コロナウイルス感染症が収束するまでの暫定的な試合審判法(以下、暫定的な審判法)を多くの人に理解してきていただくため、動画を作成 You Tube にアップした。

## ② 審判講習会の実施

日時・三月二十七日

コロナウイルス感染拡大のため中止

## ③ 各大会での審判研修の実施

- ・暫定的な審判法の理解を深めるための研修。

昼食時や団体戦第一試合終了後、審判研修を実施

- ・開会式前など時間を利用して、暫定的な審判法を選手に対しての講習を行った。

## ④ 審判依頼

剣道連盟主催大会において審判依頼を行っている。

## 二 来年度の活動について

○全剣連重点指導の徹底(昨年度に引き続き)

- (ア) 宣告、表示を正確、明確に行う。
- (イ) 「有効打突」及び「反則行為」の見極めをしっかり行う。

- ・適正公平に審判 私的な感情をなくし公平に(≡信頼性)
- 審判員も見られている評価されている意識をもつ。
- ・規則に載っていないことがおこつたら、

第一条に照らし合わせて判断する。

(剣道がより正しい方向に向かえるか判断する)

- ・成人は成人の、少年は少年のそれぞれの適正を見極める。

- ・鏢迫り合いの「空費」「不当」

「受けてから入って鏢迫り合いに」

は積極的にまた意識がなくても組み立てがそうになっているものも反則としていく。(不当な行為として判断する)

○コロナウイルス感染拡大防止ガイドラインに伴う、暫定的な試合・審判法の趣旨・方法の理解を深め、実践力を高められるよう、会員に対し啓発を行っていく。

「審判が良くなれば、試合が良くなる」という意識を高め、審判講習会や各種大会を通して、審判技能の向上や、審判員としての資質向上を図っていきたい。

# 中体連より

中体連部長 木下 臣 仁

○令和三年度県内各種大会団体戦成績表

性別	男 子			女 子		
	大会名	県総体	新人戦	強化錬成	県総体	新人戦
期日	3.7.22	3.11.23	4.1.22	3.7.22	3.11.23	4.1.22
会場	ソイジョイ 武道館	ソイジョイ 武道館	ソイジョイ 武道館	ソイジョイ 武道館	ソイジョイ 武道館	ソイジョイ 武道館
参加校	36校	27校	30校	26校	20校	24校
優勝	徳島	那賀川	那賀川	那賀川	那賀川	那賀川
準優勝	那賀川	徳島	徳島	徳島文理	徳島文理	小松島
第3位	小松島	鴨島第一	城ノ内	鳴門市第一	小松島	鳴門市第一
第3位	鳴門市第一	阿南	鳴教大附属	石井	鳴門市第一	徳島文理

## 県総体個人

令和三年七月二十三日(金)

ソイジョイ武道館

男子

優勝 片岡恭二郎(徳島)

準優勝 橋本 葵(那賀川)

第三位 藏本 望海(徳島)

第三位 楠本 悠太(徳島)

女子

優勝 鈴江 海音(木頭)

準優勝 高嶋 桜子(那賀川)

第三位 内田 ころ(那賀川)

第三位 秋山 鈴奈(徳島文理)

## 四国総体

令和三年八月一日(日)

アミノバリューホール

## 〈団体戦〉

男子

那賀川中学校 第三位

(那賀川 1-1(代) 龍雲)

徳島中学校 予選リーグ三位

(予選敗退)

女子

那賀川中学校 予選リーグ三位

(予選敗退)

徳島文理中学校 予選リーグ四位

(予選敗退)

## 〈個人戦〉

男子

片岡恭二郎(徳島) 優勝

藏本 望海(徳島) 第三位

前田 優真(土成) 二回戦

橋本 葵(那賀川) 一回戦

桑原 康輔(羽ノ浦) 一回戦

西岡 優太(木頭) 一回戦

檜原 陽(小松島) 一回戦

楠本 悠太(徳島) 一回戦

女子

鈴江 海音(木頭) 三回戦

秋山 鈴奈(徳島文理) 三回戦

内田 ころ(那賀川) 二回戦

甘利 慧(那賀川) 一回戦

高嶋 桜子(那賀川) 一回戦

川野 桜(徳島) 一回戦

檜原 空(小松島) 一回戦

横山 舞(石井)一回戦

第五十一回全国中学校剣道大会

令和三年八月二十(金)～二十二日(日)  
とどろきアリーナ(神奈川県川崎市)

〈団体戦〉

男子 徳島中学校 二回戦  
女子 那賀川中学校 二回戦

〈個人戦〉

片岡恭二朗(徳島) 四回戦敗退  
橋本 葵(那賀川) 二回戦敗退  
鈴江 海音(木頭) 二回戦敗退  
高嶋 桜子(那賀川) 一回戦敗退

県内行事

○徳島県中学校剣道一年生大会

十月三十日(土)実施

・男子団体 優勝 徳島中学校  
男子個人

優勝 松本 奏利(木頭中学校)  
・女子団体 優勝 那賀川中学校  
女子個人

優勝 前田 優莉(県立川島中学校)

優秀選手

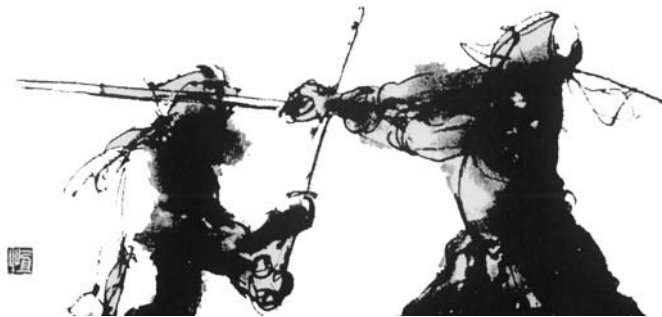
男子二十五名、女子十六名

(新聞発表済み)

令和三年度中学校剣道部員数

( ) は昨年度

	1年生	2年生	3年生	合計
男子	93人 (80人)	78人 (109人)	107人 (105人)	278人 (294人)
女子	69人 (61人)	67人 (53人)	49人 (63人)	185人 (177人)
合計	162人 (141人)	145人 (162人)	156人 (168人)	463人 (471人)



# 高体連より

高体連剣道専門部委員長

河野 寿仁

## 一、大会報告

### ○男子第六十五回・女子第五十五回徳島県

高等学校剣道新人大会兼全国選抜大会県

予選

・日時 令和三年一月十七日

・会場 ソイジョイ武道館

・男子 参加校数十二校 ①城北 ②富

岡西 ③鳴門渦潮・阿南光

・女子 参加校数 九校 ①富岡東 ②

徳島文理 ③富岡西・川島

### ○第二十一回四国高等学校剣道新人大会

・日時 令和三年二月六日～七日

・会場 高松市香川総合体育館

・男子団体 城北・富岡西・鳴門渦潮・阿

南光が会場

・女子団体 富岡東・徳島文理・富岡西・

川島が会場

・男子個人 八名出場

準優勝 松本尊灯(城北)

・女子個人 八名出場

第三位 塚田志緒(富岡東)

ベスト八 岡崎 理(富岡東)

### ○第三十一回全国高校剣道選抜大会

・日時 令和三年三月二十六日～二十八

日

・会場 愛知県春日井市総合体育館

・男子 城北が会場 一回戦敗退

・女子 富岡東が会場 準々決勝進出

(ベスト8)

### ○第四十六回徳島県剣道連盟会長杯争奪高

校剣道大会(中止)

・団体戦 男子 ①城北 ②鳴門渦潮

③富岡西 ④阿南光

女子 ①富岡東 ②富岡西 ③川島

④徳島文理

・個人戦 男子 ①立石(阿南光) ②富

田(阿南光) ③米田(鳴門渦潮) ・松

田(富岡西)

女子 ①塚田(富岡東) ②山田(富岡東)

③平田(富岡東) ・松葉(富岡西)

### ○第六十七回(男子)第五十五回(女子)

四国高等学校剣道選手権大会

・日時 令和三年六月十九日～二十日

・会場 高知県立春野総合運動公園体育

館

・男子団体 城北・鳴門渦潮・富岡西・

阿南光が会場

準優勝…富岡西、第三位…城北・鳴門

渦潮(※三校入賞は、徳島県勢男子初)

・女子団体 富岡東・富岡西・川島・徳

島文理が会場 準優勝…富岡東

・男子個人 八名出場 第三位 松本尊

灯(城北)

・女子個人 八名出場 ベスト八 塚田  
志緒・山田莉子(富岡東)・松葉佳香  
(富岡西)

・少年男子

監督 大石 真也

コーチ 岩原 靖人

選手 橋本 青空(富岡西)

添木 陽仁(城北)

立石龍之介(阿南光)

富田将太郎(阿南光)

松本 尊灯(城北)

西谷 漸(鳴門渦潮)

上元 佑太(鳴門渦潮)

結果 リーグ一勝二敗で第三位  
(国体本戦出場ならず)

・少年女子

監督 長井 薫

コーチ 西田 凌介

選手 谷村 七海(富岡東)

岩本 楓華(富岡東)

塚田 志緒(富岡東)

山田 莉子(富岡東)

岡崎 理(富岡東)

古川ちひろ(徳島文理)

山室 愛子(富岡東)

結果 リーグ二勝一敗で第二位

(国体本戦出場ならず)

○第五十五回徳島県高等学校剣道選手権大

会

・日時 令和三年十一月十四日

・会場 ソイジョイ武道館

・男子 出場者数九十三名

①尾畑 翔(阿南光)

②三好 健太(富岡西)

③橋本 青空(富岡西)

岩谷 愛夢(富岡西)

・女子 出場者数五十九名

①鳥澤 明未(富岡東)

②篠原 紗也(城北)

③嶋田 優月(富岡東)

平田 大和(富岡東)

二、強化事業

○令和二年度徳島県高体連春季強化錬成大

会(中止)

○令和三年度徳島県国体少年の部強化錬成

会

○令和三年度全国高等学校総合体育大会剣

道大会

・日時 令和三年八月九日～十二日

・会場 いしかわ総合スポーツセンター

・男子団体 城北が会場

決勝トーナメント進出(ベスト十六)

・女子団体 富岡東が会場

決勝トーナメント進出(ベスト十六)

・男子個人

立石龍之介(阿南光) 二回戦敗退

富田将太郎(阿南光) 二回戦敗退

・女子個人

山田 莉子(富岡東) 一回戦敗退

塚田 志緒(富岡東) 三回戦敗退

○第四十二回国体四国ブロック大会

・日時 令和三年八月二十二日

・会場 吉野川市民プラザアリーナ



令和元年度	平成28年度
242名	241名
令和2年度	平成29年度
219名	249名
令和3年度	平成30年度
230名	243名

三、人口調査  
○平成二十八年度～令和三年度の人口推移

- ・日時 令和三年十二月二十六日（二十七日）
- ・会場 鳴門渦潮高校
- ・招待校 磐田東高校（静岡県）
- ・県外参加校
- ・琴平（香川） ・東海大翔洋（静岡） ・高山西（岐阜） ・西京（山口）
- ・県内参加校
- 城北・阿南光・鳴門渦潮・富岡西・徳島文理・川島・徳島市立・徳島科技・城ノ内・徳島北・鳴門・脇町・海部・阿南高専

日頃は、高体連剣道専門部の活動にご理解とご協力をいただきありがとうございます。本年度も、コロナ禍で色々と制限のある中での活動となり、一部に中止行事などもありましたが、県剣道連盟をはじめ運営に関わってくださった全ての関係者の皆様、保護者の皆様、それぞれにご理解とお力添えをいただきました。各種大会等を実施することができましたことを、紙面をお借りしてお礼申し上げます。

その中で、本年度は、県内各種大会はもとより、全国・四国の大会において、徳島の高校生の皆さんの前向きな頑張りと健闘を拝見し、感銘を受けました。

未だ終息の見えないコロナ禍の中ですが、真摯に直向きに剣道に取り組んでいる高校生の皆さんのために、専門部一同力を合わせて活動していきたいと思えます。今後ともご理解とご協力をお願い致します。



# 大学連より

大学連部長 木原資裕

## 五、第六十八回中四国学生剣道優勝大会

昨年に引き続き、二年連続コロナ感染

拡大のため、中止。

森川由実子（鳴教）

三位 北林 葵（常三島）

## 一、第六十八回中四国学生剣道選手権大会

昨年に引き続き、二年連続コロナ感染

拡大のため、中止。

## 六、第四十八回中四国女子学生剣道優勝大会

昨年に引き続き、二年連続コロナ感染

拡大のため、中止。

男子 世木 雄大（蔵本） 三人抜き  
楠 雷斗（蔵本） 三人抜き

小原 潤蔵（蔵本） 三人抜き

森 拓郎（蔵本） 大将戦引分

高千穂泰介（文理） 大将戦引分

女子 村本歩美佳（常三島） 四人抜き

阿部由希子（文理） 一人抜き

田村 眞尋（四国） 大将引分

## 七、第三十七回眉山杯剣道大会（徳島県学生剣道選手権大会）ならびに第十三回徳島県学生剣道東西対抗試合の実施

日時…令和三年十一月二十三日（祝・火）

場所…徳島文理大学体育館

参加者数…五十名

（選手三十九名・役員審判十一名）

## 八、第四十一回中四国学生剣道新人大会（令和三年十月三十一日）への出場（広島）

男子

一回戦

徳島大 2

高知工科大 1

二回戦

徳島大 0 1 3 環太平洋大 A

女子

一回戦

徳島大 0 1 2 岡山大 B

## 三、第五十三回中四国女子学生剣道選手権大会

大会

昨年に引き続き、二年連続コロナ感染

拡大のため、中止。

## 四、第七十二回四国インカレ剣道競技

昨年に引き続き、二年連続コロナ感染

拡大のため、中止。

男子 優勝 田村 眞尋（四国）

二位 福山 花純（四国）

小山田慎介（常三島）

女子 優勝 田村 眞尋（四国）

二位 福山 花純（四国）

## 九、大学連講習会

本年度三月実施予定の大学連講習会は昨年引き続き、二年連続コロナ感染拡大のため、中止。

## 十、総括

昨年度の中四国および徳島県内の大学関連の大会はコロナ感染拡大のため、すべて中止となっていました。今年度もコロナ感染が収束した状況ではないものの、感染対策をしつつ、中四国学生新人大会（令和三年十月三十一日）と徳島県眉山杯大会（令和三年十一月二十三日）が実施できたことは剣道ができる喜びを実感できるものでありました。しかし、この令和四年二月・三月はオミクロン株の県内感染拡大があり、再度部活動が自粛となっております。このような状況であればこそ、自分自身の内面を充実させる取り組みに挑戦すべきかと考えています。

## 杖道部会より

杖道部会会長 青木茂生

令和三年四月一日から発足いたしました杖道部会は、多くの方々からのご賛同、ご支援をいただき活動が順調に始まりました。毎月二回から三回を別途に松茂第二体育館で三時間程度稽古を行っております。この場をお借りして皆様方に厚く御礼申し上げます。

令和三年度の杖道部活動を振り返ってみますと新型コロナウイルスの影響のため、当初予定しておりました発足式や審査会は中止となり、稽古会も感染拡大の影響を受け、一時は実施できない状態にもなりまして。そのような状況でもありましたが、令和三年四月十七日の杖道部会発足した最初の稽古会では、徳島新聞社様に取材をしていただき、同月二十一日の朝刊に掲載していただきました。また、十月十七日に再び取材をしていただき、十一月十一日の徳島新聞

【start】に掲載していただきました

た。お蔭様で「新聞の記事を見て始めてみたいと思った」との声をいただきました。その中には、「武道の経験が一度もない方が多く参加してくださり、今では三十二名の方が共に稽古に励んでおります。

新型コロナウイルスの先行きは見えませんが、昨年度実施できなかった発足式や審査会などの開催を目指し、準備を進めていかなければなりません。また、杖道の普及と発展のため、より多くの方々に杖道を知っていただき、参加をしていただけるように広報活動を行うと共に、ゆくゆくは杖道大会の参加、開催を目指して技量の向上に努めて参りたいと思います。

今後とも皆様方の変わらぬご支援、ご鞭撻の程を宜しくお願い申し上げます。

## 徳島県剣道稽古場所一覧（令和4年度版）

支部名	教室および道場名	代表者・連絡先	稽古場所	日時 (少年・一般の区別明記のこと)
徳島支部	徳島少年剣道教室	生田浩章 088-626-2470	徳島剣道教室剣道場	少年 (火・木) 17:00-20:00 (土) 16:00-
	蔵本少年剣道クラブ	福永 徳 088-631-0207	加茂名中学校武道場	少年 (火・金) 19:00-21:00 (日) 18:00-21:00
	加茂名少年剣道教室	鈴江俊和 088-631-4753	加茂名小(木) 加茂名中(土) 加茂名南小(日)	少年 (木・土) 18:00-19:45 (日) 17:20-19:30
	東内道場	東内 勉 088-631-3971	研修道場 東内会館	少年 (木・土) 18:00-20:00
	上八万剣道倶楽部	川人 護 088-668-1384	上八万小学校体育館	少年 (水・土) 17:00-19:00 一般 (水・土) 19:00-21:00
	宅宮(えのみや)剣道倶楽部	河野通宣 088-668-0167	えのみや睦会武道場	少年 (土) 19:00-21:00
	入田錬成会	佐藤佳宏 088-644-3124	入田中学校体育館	少年 (火・土) 19:30-21:30 一般 (火・土) 21:30-22:30
	北井上剣道教室	美馬勝行 088-642-3898	北井上中学校体育館	少年 (火・金) 19:00-21:00
	徳島清風館道場	久保隆司 088-633-0727	国府小学校体育館	少年 (土・日) 17:00-19:00
	養武館	米倉 滋 088-668-6650	八万中剣道場(火) 養武館道場(木・土)	少年 (火) 19:00-21:00 (木・土) 19:30-21:00
	徳島親道館剣道場	矢武秀生 088-644-5171	親道館道場	少年 (火・金) 19:00-20:30
	佐古剣道クラブ	谷本浩志 088-637-2204	佐古小学校体育館	少年 (火・木) 17:00-19:00 (日) 9:00-12:00
	渭東少年剣道教室	吉田昌彦 088-664-2153	城東中学校黎明館	少年 (火・木・金) 19:00-21:00
	徳島錬心館	大澤孝彰 088-654-6325	錬心館道場	一般 (火・木・土) 19:00-20:00
	松紀和会道場	松村和宏 090-8970-4863	松紀和会道場	少年 (火・水・木・金) 19:00-20:30
日亜錬心塾	山本泰史 090-3780-9813	大松小学校(月・土) セント歯科(木)	(月) 18:10-19:30 少年 (木) 18:30-20:30 (土) 13:00-15:00	
鳴門支部	鳴門市光武館	寺西明弘 088-685-0703	光武館剣道場	少年 (火・木) 18:30-20:30 (土) 17:30-19:30
	鳴門市少年剣道教室	石村行範 088-686-8923	鳴門ソイジョイ武道館	少年 (月・水) 18:00-20:00 (土) 9:00-11:00 一般 (月) 20:00-21:00
	大麻錬成館	近藤敏晴 088-689-0857	大麻中学校剣道場	少年 (火・土) 18:30-20:00
板野東支部	北島少年剣道教室	伊賀雅人 088-698-4528	北島北小学校体育館	少年 (月・木) 19:00-20:30 一般 (月) 20:45-22:00
	誠武館道場	井川理之 090-4976-4477	北島町立武道館	少年・一般 (木・金・土) 19:00-21:00
	松茂少年剣道教室	米田利彦 088-699-6176	松茂町第二体育館 (武道館)	少年・一般 (火・金) 19:00-22:00
	修武館道場	武田修典 080-5664-2686	修武館道場	少年 (月・水・木) 18:30-20:00 一般 (水) 18:30-20:00

徳島の剣道

板野西支部	板野西稽古場	久次米繁興 088-692-7198	藍住町武道館	一般（火・木・土）21:00-22:00
	藍住剣道スポーツ少年団	久次米繁興 088-692-7198	藍住町武道館	少年（火・木・土）19:00-20:30
	剣道板野道場	米崎信弥 090-4972-4177	板野町体育センター	少年（火・水）19:30-21:00 少年（日）9:00-11:00
	上板少年剣道教室	藤本辰夫 088-694-5031	神宅小学校体育館	少年・一般（月・木） 19:00-21:00
阿波支部	阿波少年剣道教室	桑原啓治 090-2789-1801	林小学校体育館（火） 阿波中学校体育館（木）	少年（火・木）19:00-21:00
	土成町剣道スポーツ少年団	出口正春 088-695-3606	土成農業者 トレーニングセンター	少年（火・金）19:30-21:00
	市場剣道教室	井内勝則 0883-36-2686	市場武道館	少年（火・木・土）19:30-21:00
	阿波支部稽古会	安田勝裕 0883-35-7111	市場武道館	少年・一般（月）20:00-21:00
美馬支部	脇町少年剣道教室	柴田宗忠 0883-53-2629	脇町小学校体育館	少年（火・金）19:00-21:00 一般は8:30-22:00
	徳島春風館道場	青木茂生 0883-53-7118	徳島春風館道場	少年・一般（月・木・土） 19:30-21:00
	半田剣道教室	大川 功 0883-64-2181	半田スポーツセンター	少年・一般（月・木） 19:00-21:00
	美馬市体協剣道部	中川 正 0883-53-0116	脇町中学校武道館	一般（月・水・土）19:00-22:00
三好支部	東みよし淳志館	増田和広 0883-79-3704	三好中学校体育館	少年・一般（月・木） 19:00-21:00
	佐馬地少年剣道クラブ	笠井憲次郎 0883-74-0036	馬路小学校体育館	少年・一般（水）19:30-21:30
	三野少年剣道クラブ	久保和雄 0883-77-3899	三野中学校体育館	少年（土）18:00-20:00
	山城町剣道修錬クラブ	島尾眞且 0883-86-1398	山城中学校武道館	少年・一般（水・土） 19:30-21:30
	奥祖谷剣道クラブ	中石 昭 0883-88-5802	旧 栃之瀬小学校 体育館	少年（火・金）19:30-21:00
	井川武道会	中川勝弘 0883-78-2115	三好市柔剣道場	少年（水）20:00-21:00
麻植支部	麻植支部稽古会	日野利之 090-2783-3416	川島中学校体育館	少年・一般（金）（20:00-21:30）
	上浦剣道教室	近久 寛 090-1329-7817	上浦小学校体育館	少年（水・土）18:30-20:00
	鴨島少年剣道教室	藤川和秋 090-2786-5975	鴨島第一中学校武道館	少年（火・木・土）19:15-21:00
	川島剣道スポーツ少年団	猪野和男 0883-25-6004	農村環境改善センター 市立川島中学校体育館	少年（火・木・土）19:00-21:00
	山川スポーツ少年団 修錬館	柳谷照男 0883-42-6936	山川中学校武道館	少年（水・土）19:00-21:00
	吉野川少年剣道教室	片山尊史 0883-25-6014	牛島小学校体育館 西麻植小学校体育館	少年（火・水・金・土） 20:00-22:00
	寶 壽 館	日和田慈海 0883-42-3605	醫 光 寺	随時利用可 ただし、事前確認のこと



阿南支部	阿南少年剣道教室	中西 実 088-664-4879	阿南市武道館	少年 (火・木・金) 19:00-21:00 一般 (火・金) 21:00-22:00
	新野少年剣道教室	馬見和秀 0884-36-2428	新野小学校体育館	少年 (火・木・土) 18:30-20:30
	大野小学校剣道部	西岡直彦 0884-22-6535	大野小学校体育館	少年 (月・水・木) 18:30-20:30 一般 (水) 21:00-22:00
	徳島至誠館	中山繁輝 090-1002-8976	徳島至誠館道場	少年 (月・水・金) 19:00-21:00
	那賀川少年剣道クラブ	二反田和則 0884-21-2207	今津小学校体育館 (火) 那賀川B&G体育館 (水・金)	少年 (火・水・金) 19:00-21:00
	那賀川剣道教室 わかあゆ会	山田耕司 0884-42-3381	平島小学校体育館	少年 (月・水・金) 19:00-21:00
	羽ノ浦少年剣道教室	森 眞一 0884-44-5415	羽ノ浦中学校武道館	少年 (火・金) 19:00-21:00 一般 (水) 19:30-21:00
	徳島剣清塾	河田 清実 090-1579-7001	阿南第一中学校剣道場	少年 (月・水・金) 19:00-21:00
丹生谷支部	振 武 館	奥田博志 0884-62-1134	那賀町B&G 海洋センター武道場	少年 (水・金) 19:00-21:00 一般 (水・金) 21:00-22:00
	相生龍虎館	山下勝也 0884-62-0834	相生小体育館	少年 (火・木・土) 16:00-18:00
	木頭錬心館	小川大造 0884-68-2242	木頭中柔剣道場	少年・一般 (月・水・金) 18:00-20:00
	北川小学校剣道クラブ	谷 次郎 0884-69-2430	那賀町北川体育館	少年 (月・水) 18:00-19:30 (金) 18:00-20:00
小松島支部	小松島支部稽古会	梅山寧史 0885-33-1251	小松島中学校武道場	一般 (木) 19:30-21:00
	小松島小剣クラブ	青木博志 0885-33-1251 (梅山)	北小松島小学校体育館 (月金) 小松島小学校体育館 (水)	少年 (月・水・金) 19:00-21:30
	和田島少年剣道クラブ	篠原誠一 0885-37-2030	和田島小学校体育館	少年 (火・金) 19:00-21:00
	立江剣道教室	原 知永 0885-38-2121	立江小学校体育館	少年 (火・土・日) 18:30-20:00
海部支部	海部川剣道教室	丸岡偉人 0884-73-3175	海部小学校体育館	少年・一般 (月・水・木) 19:00-20:45
	牟岐剣道クラブ	谷口順二 0884-72-0490	牟岐町民センター	少年・一般 (月・水) 19:00-21:00 少年・一般 (土) 18:30-20:00
	一心館道場	影山美雄 0884-79-3125	一心館剣道場	少年 (月・木) 16:30-18:00 一般 (水・第2金・第4金) 18:00-20:00
名西支部	石井少年剣道クラブ	近藤正章 088-674-5288	石井町立高浦中学校武道場	水・土 19:30-21:30
	久 武 館	瀬部克好	久武館道場	水・土 19:30-21:30
県剣道連盟	徳島県剣道連盟稽古会		中央武道館	一般 木 19:00-20:30
	女子部稽古会		中央武道館	一般 第1日曜 18:00-19:00
	高齢剣稽古会	乾 清孝 090-4974-0107	ソイジョイ武道館	一般 土 14:00~ 開催日は毎月変更 (要確認)

## 居合道 道場案内

日本古来の伝統武道である居合道。時代を超えて受け継がれてきた居合道をより多くの人に体験していただきたいと願っております。是非お問い合わせ下さい。 居合道部

道場名	代表者・連絡先	稽古場所	日時
大和錬心館	錬士六段・西本 忠司 自宅 0884-69-2120 携帯 090-7143-0160	木頭中学校柔剣道場 那賀町木頭和無田	火曜日 19:00～21:00 木曜日 19:00～21:00
徹心道場	代表者 教士七段・吉岡 修一 0883-24-5341	鴨島第一中学校武道場	月曜日 19:30～21:30 水曜日 19:30～21:30 金曜日 19:30～21:30 (少年)
大和養心館	範士八段・原田 勝 自宅 0885-33-0222 携帯 090-7141-8996	大和養心館 小松島市金磯町11番78号	月曜日 18:00～21:00 水曜日 18:00～21:00 金曜日 18:00～21:00
阿波洗心館	代表 岡山博之 088-669-1610	松茂町第二体育館	火曜日 20:00～22:00 (月曜祝日の週は休み)
		セント歯科体育館	土曜日 19:00～21:00
居合道錬成会	四段・鎌田 貴 携帯 080-5661-7133	徳島県立中央武道館	月曜日 19:00～21:00 金曜日 19:00～21:00
阿波居合道伝習会	教士八段・坂本 憲一 自宅 0883-36-3008 携帯 090-1576-4773	阿波市立八幡小学校体育館	火曜日 19:00～22:00
		徳島市農業環境改善センター	水曜日 19:00～21:00
		徳島県立中央武道館	月曜日 19:00～21:00 金曜日 19:00～21:00
大湊道場 (全日本剣道連盟)	教士七段・福井 勝 携帯 090-5143-3596	阿南市武道館	日曜日 10:00～12:00 (行事日を除く)
鳴門道場	錬士六段・満壽 良史 自宅 088-686-7115 携帯 090-9778-2350	鳴門市健康福祉交流センター 軽運動場	土曜日 9:30～12:00
徳島春風館道場	錬士六段・青木 茂生 自宅 0883-53-7118 携帯 090-8693-4935	徳島春風館道場 (穴吹町三島)	水曜日 19:30～21:00
剣道・板野道場	五段・川人 政利 自宅 088-698-2970	南公民館	水曜日 19:30～21:30
		板野町体育センター	日曜日 11:00～12:00
修武館道場	武田修典 携帯 080-5664-2686	修武館道場	水曜日 20:00～21:00

# 徳島県剣道道場連盟だより

徳島県剣道道場連盟

事務局長 谷 本 浩 志

年をまたいで猛威を振るっている新型コロナウイルスの脅威も、若干弱まったかと思わせる初夏、全国大会予選が小・中学生の道連剣士（延べ一〇五名）により全国の切符を掴むため元氣いっぱい開催されました。開会式では、徳島県剣道連盟の藤川和秋会長にもご祝辞をいただき、大会も最後まであたたかく見守っていただきました。全国大会は個人戦がいったんは中止となり、団体も危ぶまれましたが、年明けに中止となっていた個人戦もなんと同時に開催することが出来ました。関係のみなさまには大変お世話になり感謝致します。

予選の結果と全国大会の内容について報告いたします。また、全国剣道道場連盟主催の書道展や体験発表県予選の結果についても報告いたします。

徳島県剣道道場連盟全国道場少年剣道大会  
および全国道場少年剣道選手権大会予選

ソイジョイ武道館

令和三年五月二十三日（日）

全国道場少年剣道大会予選

小学生団体の部

優勝 佐古剣道クラブA

（全国大会出場）

準優勝 養武館A

中学生団体の部

優勝 鳴門市光武館道場B

（全国大会出場）

準優勝 松紀和会B

全国道場少年剣道選手権大会予選

小学生個人（男子）の部

優勝 大和 智哉（養武館）

準優勝 篠原 瑛騎（佐古）

第三位 谷本 遙（佐古）

第三位 柏原 健人（養武館）

小学生個人（女子）の部

優勝 眞貝ももの（佐古）

準優勝 橋本 実咲（光武館）

第三位 沖 弥生（光武館）

第三位 豊田 葉菜（光武館）

中学生個人（男子）の部

優勝 西村 翔（養武館）

準優勝 柳田 周作（養武館）

第三位 柏原 健人（養武館）

第三位 鈴木 葉司（松紀和会）

中学生個人（女子）の部

優勝 後藤 彩柊（光武館）

準優勝 森永 未来（光武館）

第三位 國見 菜々（佐古）

第三位 谷本真智子（佐古）

全国剣道道場連盟第五十五回全国道場少年

剣道大会全国道場少年剣道選手権大会

おおきにアリーナ舞洲（舞洲アリーナ）

令和四年一月五日（水）・六日（木）

【結果】

小学生団体

《一回戦》

佐古剣道クラブ(徳島) 2-0

南区少年剣和会(愛知)

岸田 敏晴      メー      畠中 陽向

眞貝ももの      ×      和田 悠

谷本 遙      コー      森山 桜里

《二回戦》

佐古剣道クラブ(徳島) 0-3

寺内剣友会(大阪)

岸田 敏晴      ーココ      一条 龍樹

眞貝ももの      ーココ      肘岡 七海

谷本 遙      ーココ      大谷 佳裕

中学生団体

《一回戦》

鳴門市光武館道場(徳島) 0-3

白壁少年剣道クラブ(愛知)

秋山 鈴奈      ドーメメ      白井 昭瑛

後藤 彩柎      ーメメ      富松 佑心

森長 未来      ード      高橋 駿太

小学生個人

《一回戦》

大和智哉(養武館/徳島)

ー コ・メ

宮里 兼心(加世田/鹿児島)

中学生男子個人

《二回戦》

西村 翔(光武館/徳島)

ー メ

大関 啓太(練兵館/栃木)

中学生女子個人

《一回戦》

後藤 彩柎(光武館/徳島)

判 ー

竹下 櫻咲(練武館/沖縄)

《二回戦》

後藤 彩柎(光武館/徳島)

ー コ・メ

石井 栞俐(東松館/東京)



第55回 全国道場少年剣道大会  
 全国道場少年剣道選手権大会  
(第45回小・中学生男子の部) (第38回小・中学生女子の部)





## 感想

小学生の部

## 全国大会と自分の剣道

佐古剣道クラブ

谷 本 遙

僕は稽古で「自分らしい剣道」をするのをいつも考えています。先生には「勝ち負けではなく、まっすぐな正しい剣道をしなさい」と教えてもらってきました。だから、全国大会でもまっすぐな「自分らしい剣道」をできるように意識した稽古をしてきました。「自分らしい剣道」とは、相手と合気になって先を打つ、面を打てる剣道と僕は考えています。

ところが、本番になると全国の代表選手が集まることに緊張してしまい、レベルの高い選手を相手に自分らしい剣道ができるのかという不安な気持ちでいっぱいになってしまいました。会場でも舞い上がってし

まい自分でも何をやっているかわからなくなっていました。一試合目は緊張と不安で思い通りにはいかず、勝てはしましたが散々な内容でした。試合の後のミーティングで先生の話聞いて少し普段の自分を取り戻すことができたように思い、気持ちを切り替えて二回戦に臨みました。結果は負けてしまったけれど、勝った一試合目より自分らしい剣道ができたように思います。

これからも自分はどうのような剣道を目指すのかを意識し、「打って反省、打たれて感謝」の気持ちを大切にして心も体も強くなりたいです。そう思うことのできた全国大会と共に戦った仲間感謝したいです。

## 全国大会の剣道

佐古剣道クラブ

岸 田 敏 春

僕は、試合前日すぐドキドキしていました。いざ当日になると緊張がなくなっていたので楽に試合ができました。

僕のポジションは先ぼうで、みんなの士気をあげなくてはいいなかった。大変でした。一試合目は、自分も勝ち、チームも勝ったのでうれしかったです。でも、二試合目は自分が負けてしまったので、士気が下がったのか負けてしまいました。試合の後、先生の話聞いて、言葉に納得しました。

「基本を捨てて、勝つことだけを考えた剣道をして、どうして勝てると思う。普段の基本を大切に稽古の延長に試合がある。」僕はこの言葉から、何事も基本が大事、ということを知りました。大阪まで行って負けたけれど、勝ち負けだけでなく、大会に臨むまでの食事や宿泊先での過ごし方、会場での立ち振る舞いなどたくさんのお話を学べたので、本当に良い経験になりました。またこの三人で、全国大会に行って満足いく剣道をしたいと思っています。

## 初めての全国大会

佐古剣道クラブ

眞 貝 ももの

私は、正直コロナ禍の中で全国大会が行われるのかとても不安でした。個人戦は一度中止が決定していて、団体戦も中止になってしまうのかとあきらめかけていました。でも、全国大会が個人戦も団体戦も開催されると聞いたとき、「仲間と一緒に全国大会に行ける」と本当に嬉しくて頑張ろうと思いました。

試合当日、会場に行くとき強そうに見える子がたくさんいて圧倒されました。団体戦に先立って行われた個人戦では、良い内容で試合することができました。結果は負けてしまいましたが、この悔しさを団体戦ではらそうと思いました。

団体戦の前、緊張に押しつぶされそうなおと、今までしてきたことや仲間を信じ試合に挑みました。「絶対に一回戦は勝つ」と思い、仲間と声を掛け合って突破するこ

とができ、私たち三人の自信となりました。二回戦は、自分なりに頑張って試した結果負けてしまいましたが、自分のやるべき課題を見つめることができたのでよかったです。

全国大会に出場したことで、これからの剣道に対する課題を見つけることができました。稽古のときに何をすべきか、ほんの小さなことでも試合に生かせるように意識を高くしてこれからも頑張りたいです。

## 全国大会に出場して

養武館道場 大 和 智 哉

五年生のとき、コロナ禍で全然稽古も試合もできなかった。そんななか、六年生に入ったすぐ全国大会の予選が行われ徳島県代表に選ばれました。優勝したことより試合ができたことが嬉しかったです。全国大会では、体の大きい人や剣先の早い人、本当にいろいろな人がいました。ぼくは、成績は振るわなかったけど小学生最後にその

場で試合ができたことは良い経験になりました。

中学生の部

## 全国大会に出場して

鳴門市光武館道場

森 永 未 来

中学生になってから、初めての全国大会。県内の予選で優勝し、自信を持って全国大会に挑みました。しかし、結果は一回戦敗退でした。自分の弱さやチームの弱さが出てしまいました。しっかりこの負けを認めて、次に進んでいきたいと思います。今まで、本当に辛いとき支えてくれた方々や、応援してくれた方々のおかげで、憧れの舞台上に立てたことに感想したいです。

全国大会で試合をして、自分にはまだまだ足りないところが沢山あると思いました。他県の人達と競い合う機会が少なくなっていたので、とても貴重な経験になりました。試合になると、緊張や不安で動きが硬くなっ

てしまうこと、後ろに下がってしまふことなど沢山あります。それを高校では、直してもっと大きな舞台でいい結果を残したいと思いました。

これからも日々の稽古を大切に頑張っていきたいと思います。

## 全国大会に出場して

鳴門市光武館道場

後藤 彩 祐

私は全国道場少年剣道選手権大会に出場したことが、とても良い思い出になりました。特に予選が印象的でした。

個人戦では、小学校六年生の時と中学校一年生の時に準優勝だったため、全国大会出場権を得ることが出来ず、中学校二年生の時は、新型コロナウイルスの流行で大会自体がなくなってしまいました。しかし、中学校三年生のラストチャンスで優勝することが出来ました。

団体戦では、小学校低学年から共に稽古

に励み切磋琢磨してきた女子三人チームで、男女混合の試合のなか、優勝することが出来ました。団体戦と個人戦の両方で全国大会への出場権を手に入れることが出来ました。やっと念願の全国大会に出場できると心待ちにしていた九月、島根での個人戦が中止、団体戦が延期との連絡が入りました。個人戦はなくなり、団体戦ももしかしたら出来なくなるんじゃないかと不安に思っていたところ、延期になった団体戦と共に個人戦も開催してくれるとのことをお話を聞きとても嬉しかったです。

大会では良い結果を残せませんでしたが大好きな仲間と全国大会という大きな舞台で共に戦えたことや、全国の剣道をする同年代の試合を間近で見られたことは私にとって大きな経験となりました。これからも、諦めず一生懸命稽古に励みたいです。

## 全国大会に出場して

鳴門市光武館道場

秋山 鈴 奈

県予選で優勝し、徳島県代表として全国大会に出場することができました。小さい時から一緒に稽古をしてきた女子三人のチームで全国大会への出場が決まった時はすごく嬉しかったです。

全国大会の一回戦目の相手は愛知県代表のチームでした。全員男子で身長も体格も全然違い不安でしたが、私は先鋒として一本でも取って後に繋げようという思いでその試合に挑みました。最初、返し胴で一本取ったが、二本取りかえされてしまい負けました。チームとしても一回戦で負けてしまい、悔しい思いをしました。しかし、全国の強い選手と試合することができ、すごく貴重な経験になりました。また、稽古をもっと頑張る全国に通用するような選手になるという新しい目標もできました。

このような経験ができたのは、いつも熱

心にご指導して下さる先生方、どんなときも応援してくれる家族のおかげです。この感謝の気持ちを忘れずこれからもがんばっていききたいです。

## 全国大会に出場して

鳴門市光武館道場

西村

翔

私は、小学校六年生の時に団体戦で出場し、中学三年生の今回、個人戦で出場することができました。全国大会ではコロナ禍ということもあり、ウォーミングアップも出来ず、思ったような試合が出来なかったのが残念でしたが、ほかの選手たちの剣道を見ることによって、とてもいい経験になったと思います。他の選手たちの技の種類や打ち方、攻め合いなどをよく学ぶことが出来ました。この度の経験で、多くのインスピレーションを受けたので、これからの稽古に活かしたいと思いました。

## 令和三年度

### 日本剣道少年団研修会 全国少年剣士書道展

銅賞（中学生の部）

谷本真智子（佐古剣道クラブ）

佳作（小学校三・四年生の部）

中山 結衣（佐古剣道クラブ）

佳作（中学生の部）

板場 鈴々（佐古剣道クラブ）

米田 有輝（松紀和会）

## 全国少年剣士体験発表

徳島審査

### キャプテンとして

鳴門市光武館道場

小学校六年 橋本 実 咲

私が剣道を始めたのは四年生の時でした。先に入部した下級生達はもうすでに防具をつけて練習をしていました。六年生になり私はキャプテンになりました。理由は六年生が私一人だけだったからです。私が入部した時は、たくさん先輩がいました。先輩達は剣道が強いだけでなく、あいさつもきちんと行い、入部したばかりの私や小さい子の面倒をととてもよく見てくれました。先輩達から学ぶことも多く、先輩達は私のおこがれでした。そんな先輩に私はなれるだろうか、キャプテンという大役をきちんと果たすことができるだろうかと不安でいっぱいになりました。

実際にやってみても大変なことばかりで

した。号令をかけた後、先生からの指示を聞きそれをみんなに伝えたり、まだ面を一人ですつてけることができない子の面倒をみたり。特に号令は、みんなに聞こえる大きな声で言わなければ伝わらないのに、私は大きな声を出すことが苦手で、何度も先生に叱られました。大きな声を出そうと意識して号令をかける中で、「あの子声がでないな。」「あの子今日はあまりやる気がないな。」など今まで気づかなかったことも気づくようになりました。でも私は、それを注意することができませんでした。それはきっと、私自身がキャプテンとしての自信を持っていなかったからだと思います。

そんな時、コロナ禍で多くの試合が中止になる中、久しぶりに大会が行われることになり、私が選手を代表して選手宣誓をすることになりました。もちろん初めての経験であり、大勢の人前で大きな声を出すのが苦手な私にとっては、かなりのプレッシャーでした。それから必死に宣言文を考え暗記し、毎日何度も声に出して練習しました。大会当日、コロナ禍の中で大会を開

催して下さった方々に感謝を伝えたいという思いで宣誓しました。とても緊張しましたが、後で先生方に「よかったよ。」とおほめの言葉を頂き、安心するとともに一つのことをやりとげることができたことは私の自信にもなりました。

しかし、私がキャプテンとして自信が持てない一番の理由は、試合に勝てないということでした。四年生から始めた私がようやく防具をつけ、試合に出られるようになった時に新型コロナウイルスのえいきょうで、ほとんどの大会が中止となり、練習も休みになってしまいました。そのため試合経験の少ない私は、ようやく試合が行われてもほとんど勝つことができませんでした。キャプテンは強いというイメージがあった私は、こんな私がキャプテンで恥ずかしいなと思っていました。

そんな時、父に「同じ負けでも攻めて負けるのと何もしないで負けるのでは全然違う。試合の勝ち負けよりも大事なことは、その時の自分のベストを尽くすことだ。」と言われました。その言葉を聞いて、勝つ

ことだけが大事だと思っていた自分の間違いに気づきました。コロナ禍で試合や練習が思うようにできないのはみんな同じこと、そんな中で一回一回の練習を大切に、集中して今自分がやれることを全力で取り組むことの方が大事なんだと思いました。そうすることで少しずつですが、試合でも勝てるようになってきました。また剣道は個人プレーでもありますが、チーム全体の力を合わせなければ勝利を手にすることはできません。私がキャプテンとしてできること、それはみんなより率先して行動し、声を出してみんなの手本になることです。そうすれば自然とみんなの行動も変わってくるのではないかと思います。

キャプテンとしてはまだまだ未熟な私ですが、キャプテンという貴重な経験をさせて頂けたことで、自分が前より成長できたことにとっても感謝しています。これからも自分のベストを尽くし、キャプテンとしての責任を果たす努力をしていこうと思います。そして、あこがれの先輩達に少しでも近づきたいです。



## 全国大会への出場が

### 私を強くしてくれた

佐古剣道クラブ

中学二年 谷 本 真智子

全国大会への出場が私を強くしてくれました。剣道道場連盟の全国大会予選が徳島県で開催されることになり、この団体予選を勝ち抜けば「佐古剣道クラブ」として全国大会に出場できる。五年生だった私は先輩と一緒に全国大会に行きたくて必死に頑張りましたが決勝で敗れ、思いは果たせませんでした。私は残る個人戦にかけ、「絶対に勝って私が全国大会に行く」と、諦めずに攻め続けました。そして優勝、個人ですが徳島県の代表として、「佐古剣道クラブ」で全国大会へ出場することができました。心が躍るようにうれしく、クラブの仲間や先生方、保護者のみなさんが本当に喜んでくれたことも、うれしさをより大きくしてくれました。

全国大会の相手は私と同じ五年生でした。

私は「勝つぞ」という気持ちで、試合に挑みました。相手は本当に上手で一回戦敗退でした。みんなこんなに強いんだ、と全国のレベルにとっても驚きました。初めての全国大会はあっけなく終わってしまいました。が、この経験でもっと強くなりたいと、心から思うようになりました。今まで以上に稽古に励み、もう一度あの舞台に立てるよう、そして次は勝つと、心に決めました。

六年生になっての県予選、団体で全国大会への出場が決まりました。いつも一緒に稽古に励んだ仲間と全国大会の舞台に立てることが本当に嬉しかったです。徳島県では、選抜チームでしか全国大会に出場することが出来ませんでしたので、不安や緊張感もありましたが、自分達の力がどこまで通用するのかと楽しみでわくわくしていました。それと、中学生の部で、兄が主将で大将のチームも全国大会への出場が決まり、二重の喜びでした。結果は、両チームとも二回戦敗退でしたが、ともに、全国でも有名な道場との対戦で自分の技が決まったり、しっかり攻めていけたりと、接戦で緊張感

のある内容の試合ができ、自信が持てました。四国にいても、全国大会を経験することで自分達が今までやってきたことを試し、間違いではなかったことに気づくことができました。また、チーム内での絆も深まり、中学生になって離ればなれになる仲間とも「佐古剣道クラブ」として勝負しに行くことができうれしさと、これからも一緒に剣道を出来る可能性を感じました。

新型コロナウイルスが流行し、日常生活の多くが新しい生活習慣として見直されました。ほとんどすべての大会、昇級・昇段審査も中止になってしまっ、剣道を通じて知り合った仲間に出会う機会も減ってしまいました。久しぶりに仲間と会うことで、成長を感じ刺激を受けることもたくさんあります。ライバルでもあり、互いを高め合う良い仲間です。いまの思うようにならない日々が、仲間達との出会いや私が剣道をする上での楽しみは何だったかを再認識させてくれる機会になりました。稽古できるときやうまくいかないときでも仲間達を思い出し、みんなも頑張っている。負けた

くないと踏ん張ることができたのも、いろいろなことを我慢してきたこの状況のおかげだと前向きにとらえています。

今年も、全国大会が再開されます。私達は、予選で敗退し、今大会には出場できません。来年は中学三年生、全国大会に向けた最後の挑戦です。小学生の後輩達も中学生チームの仲間に入り、メンバーは変わりますが、みんな思いは同じです。私は、このように繋がって来た「佐古剣道クラブ」で大変な状況でも、苦しいことでも前向きに挑戦していく心を学びました。後輩達には、それを感じてもらえるような勝負をしたいと思っています。先生方や保護者の方々に、最高の試合をすることで恩返しをしたい。そして、剣道道場連盟の大会があることで、中学校になっても同じチームで仲間とつながっていけることに感謝してこれからも、人として心身ともにより強く、より優しく、よりたくましくなっていきたいと思っています。

## ぼくの目指す剣道

佐古剣道クラブ

小学六年 谷 本

遙

「強くて、かっこいいなあ」

これが、小学校一年生のときに動画で剣道を見たぼくの感想だ。

ぼくもやってみたくないと両親に言っていて、剣道教室を探してもらった。最初は足さばきを一日何時間もしていて、防具をつけてけい古をしている人がうらやましくて、ぼくも早く防具をつけてけい古をしたいなあと思った。しかし、実際に防具をつけて稽古をすると頭は痛いし息がしづらくなってしまった。竹刀もまっすぐにふれず、しばらくするとだんだんといやになってきて、「やめたい」と両親に泣きながら言ったこともあった。けれど、両親はつらくてももう少しだけがんばってみようといってやめさせてもらえなかった。見ていた剣道と実際にする剣道は全然ちがっていた。

先生はいつも「試合に勝つことが全てで

はない。正しい、きれいな剣道をしなさい。」

と言う。最初の足さばきのけい古はそれだけ三ヶ月間続けた。早く次のことを教えてほしいと思ったこともあったけれど、いま思うと基本をしっかり理解してどんなときでも体が覚えているようにすることが正しい剣道をするために大切だとわかる。勝つことばかりを考えて竹刀をふり回すのではなく、自分が稽古してきたことを信じて剣道をすることで一本が決まるようになってくると、それが自信につながっていった。

ぼくは自分の限界を少しだけこえる稽古を大切にしている。素ぶりを千本するとき、本当に苦しい。最後までやり終えたとき、父は「あと五十本。その部分がお前の力となる。」と言う。厳しいけい古で泣きそうなどころから、家で素ぶりをして体が痛くて息が苦しくてもう限界だと思うところからもう少しだけががんばると、終わったあとにがんばった自分が自分の力になった気がした。試合にのぞむときは、相手が強そうに見えてすぐくきん張する。最初は負けてばかりで、また負けそうな気がすると思うと

全く動けずに負けるというくり返しだった。でも少しずつ自分の力がついてくると試合で緊張はするけれど相手を冷静に見られるようになってきた。

もうひとつぼくが大切にしていることがある。二人いる同じ学年の仲間のことだ。同じ時期から剣道を始めた。なかなか上達しない足さばきも、自分たちだけ出来ずにしかられてつらかったときも、いつも一緒だった。試合の内容が良くなって「何が足りないのか考えなさい。」と先生に言われたとき、仲間がぼくに手紙を書いてくれた。ぼくも二人に手紙を書いて、三人で話し合っていた。つらかったけい古も、気づくと五年過ぎていた。ぼくたちも六年生になって、三人が剣道教室の最上級生になった。ぼくはキャプテンになった。正直、みんなを引っ張っていくことは苦手だ。言いたいことは上手く伝えられないし、自分のことで手いっぱいになってしまっ、年下の子の世話まで手が回らないからだ。ぼくは一人では出来ないことばかりだ。そんな時は二人の仲間が助けてくれる。どうすれば良いか考え

てくれたり、周りの子たちのちゃくそうを手伝ったり、はげましてくれたりしている。いま、佐古剣道クラブには年下の子がたくさんいる。けい古は厳しく、始めて何ヶ月かするとぼくと同じようにみんなやめたくなるといふ。でものりこえてほしいと思う。仲間が少なくなってしまうと悲しい。ぼくは大切な仲間がいたからのりこえることが出来た。剣道を通して仲間の大切さを感じることが出来た。

これからも「佐古剣道クラブで学んだ」「正しくきれいな剣道」を大切にしながら、限界を少しだけ超えるけい古をし、仲間がいてくれることに感謝したい。そして「強く、かっこいい自分」を目指したい。

## 僕と剣道

松紀和会道場

中学二年 米田 有輝

僕が剣道を始めたきっかけは、二人の兄の存在でした。その頃、小さかった僕は、母に手をひかれ、四歳上の兄と二歳上の兄のけい古の迎えに週三回行っていました。

僕の二人の兄は、大きな声を出し、竹刀を振って先生から指導けい古をしてもらったり、友達と地げい古をしたりして、額に大粒の汗をかきながらけい古にひたむきに励んでいました。そんな二人の兄を見ているうちに、気がつく僕も二人の兄とけい古に参加するようになりました。

右も左も分らず兄の背中を追い始めたけい古では、左座右起をまず教えてもらいました。しかし、この時は小さかったため、作法のみ教えてもらい、中学生になってから、その意味が、臨戦態勢の状態で急な攻撃にすぐに対応できるということだと教えてもらいました。小さい頃は、すり足もま

まならず、竹刀を持って振ることの難しさを体で感じ、作法の一つ一つの意味までは、十分理解できていませんでした。年齢を重ねるにつれて、少しずつ少しずつその意味や理由を理解しながら古い古出来るようになってきました。

昇級昇段審査では、基本の形や日本剣道形を学ぶにつれ、その動作の一つ一つがいかに大切であるかを学びました。そして筆記試験では、三つの間合や有効打突などについて、母とともに何日もかけて一問一答で勉強しました。母は、いつもそばで応援してくれています。こうした試験勉強の積み重ねで、何か成長できた気がします。また、学ぶことの大切さにも気づかされました。

剣道は、文武両道の精神をきたえます。努力や忍耐力も、苦しい古い古を積み重ねることによって身につけていきます。集中力、判断力もつき、試合をする中で、自分なりに成長できているのではないかと感じています。相手を敬い礼儀を重んじる教えも、一人では十分に出来ません。受けてく

れる相手、打ってくれる相手、指導者の先生がいてくださり、それを支えてくれる人がいて、始めて自分が成長できると僕は思っています。

僕が住んでいる地域は、いわゆる過疎化が進んでいる地域であり、剣道人口も少なく、剣をいろいろな人と交え学んでいくことが難しい環境にあります。そんな中、少しでも僕や兄たちに学ぶ機会をと考えた母が、剣道連盟の強化けい古会に、自宅から六十キロも離れた武道館まで、週一回大雨が降っても、雪が舞っていても、連れて行ってくれるようになりまし。その中で、たくさんの先生方や同年代の剣士を見て、自分の甘えが見え、母への感謝の気持ちが強くなってきました。中学生になってからは、さらなるけい古の充実をと、兄の高校が主催の月一回のけい古会に参加したり、部活が終わってから週二〜三回五十キロ程離れた道場のけい古に参加するようになりまし。これらのけい古会にも、母の力添えがあつてこそ、自分はいけい古に打ち込め学べていると感謝しています。もし剣道をして

いなければ、きっと反抗期で心ない言葉を、母に投げかけていたかもしれない。今は何よりも上達して、両親や指導していただいている先生に喜んでもらえる試合をし、胸を張ってもらえるような大人になりたいです。

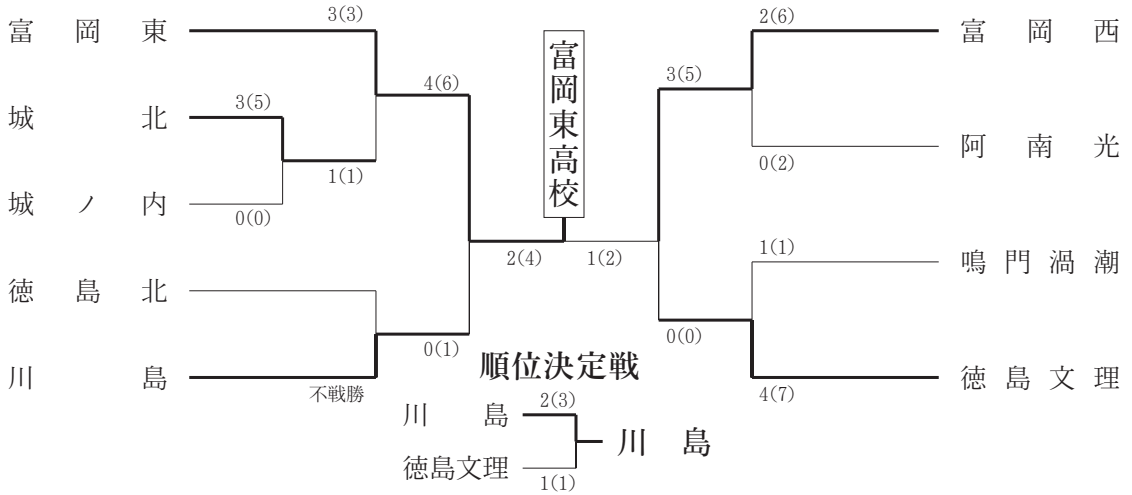
近年では、新型コロナウイルス感染拡大により、あたりまえのけい古もままならず、マスクやシールド使用により、なんとかけい古が出来ている状況です。ここで、自分にとって剣道がいかに大きな存在で、いかに多くのことを学ばせていただいているかを再認識することができました。マスクやシールドをつけてのけい古は思いの外苦しく、忍耐力をつけることにつながっていると思います。大変なことをなげいては前に進めません。だから、けい古ができることに感謝し、これからもくじけることなく、前を向いてけい古に精進していきたいです。

# 令和3年度大会記録

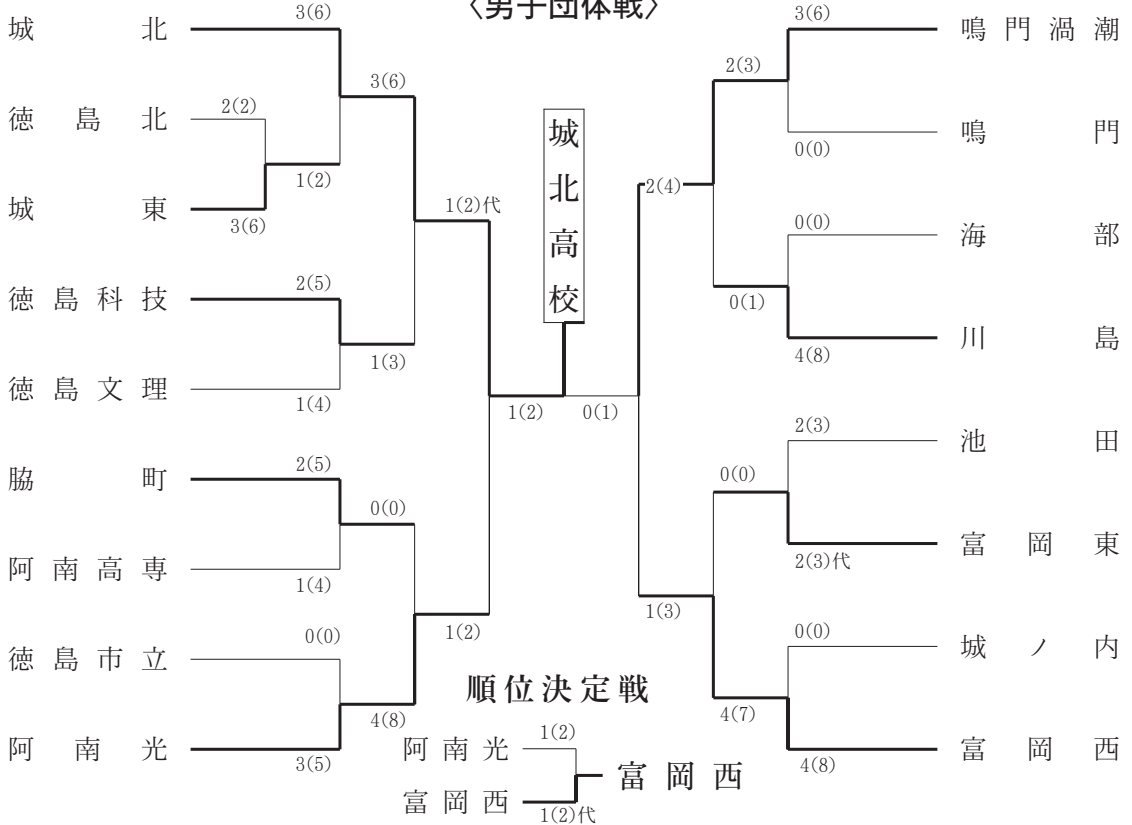
## 徳島県高校総体 団体戦

日時 令和3年6月5日(土)  
会場 藍住町体育館

### 〈女子団体戦〉



### 〈男子団体戦〉





〈男子団体戦〉

準 決 勝

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
城北	添木	宮田	小山田	永濱	松本	1	2	松本 ㊟
	⊗	⊗一本勝						
阿南光	尾畑	村橋	富田	玉垣	立石	1	2	立石
	⊗		一本勝 ⊗					

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
富岡東	四宮	米田	西谷	上垣	大谷本	2	4	
	⊗		一本勝 ⊗	⊖	⊖			
鳴門渦潮	田上	栗田	三好	橋本	松田	1	3	
	⊗			▲⊗	一本勝 ⊖			

順位決定戦

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
徳島文理	尾畑	次原	富田	玉垣	立石	1	2	富田
			一本勝 ⊗		Ⓛ			
富岡東	田上	儀宝	三好	橋本	松田	1	2	⊖松田
		一本勝 ⊗			Ⓛ			

決 勝

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
富岡西	添木	宮田	小山田	永濱	松本	1	2	
	⊗一本勝	▲		⊗				
鳴門渦潮	四宮	米田	西谷	上垣	大谷本	0	1	
				⊖				

〈女子団体戦〉

準 決 勝

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
富岡東	嶋田	山田	塚田	岩本	岡崎	4	6	
	⊗ ⊗	⊗ ⊖	⊗一本勝	⊖	▲			
川島	兼松	大塚	伊丹	田村	野崎	0	1	
	▲▲	⊗						

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
富岡西	藤原	小川	福本	中山	松葉	3	5	
	⊖一本勝		⊗ ⊖		⊗ ⊖			
徳島文理	古川	東道	金野	播磨	一楽	0	0	

順位決定戦

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
川島	兼松	大塚	伊丹	田村	野崎	2	3	
			⊖ ⊗		⊗一本勝			
徳島文理	古川	佐藤	金野	播磨	一楽	1	1	
	一本勝 ⊗							

決 勝

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
富岡東	嶋田	山田	塚田	岩本	岡崎	2	4	
		⊖	⊗一本勝		▲ ⊗ ⊖			
富岡西	藤原	小川	福本	中山	松葉	1	2	
	一本勝 ⊗	Ⓛ						

# 徳島県高校総体 個人戦

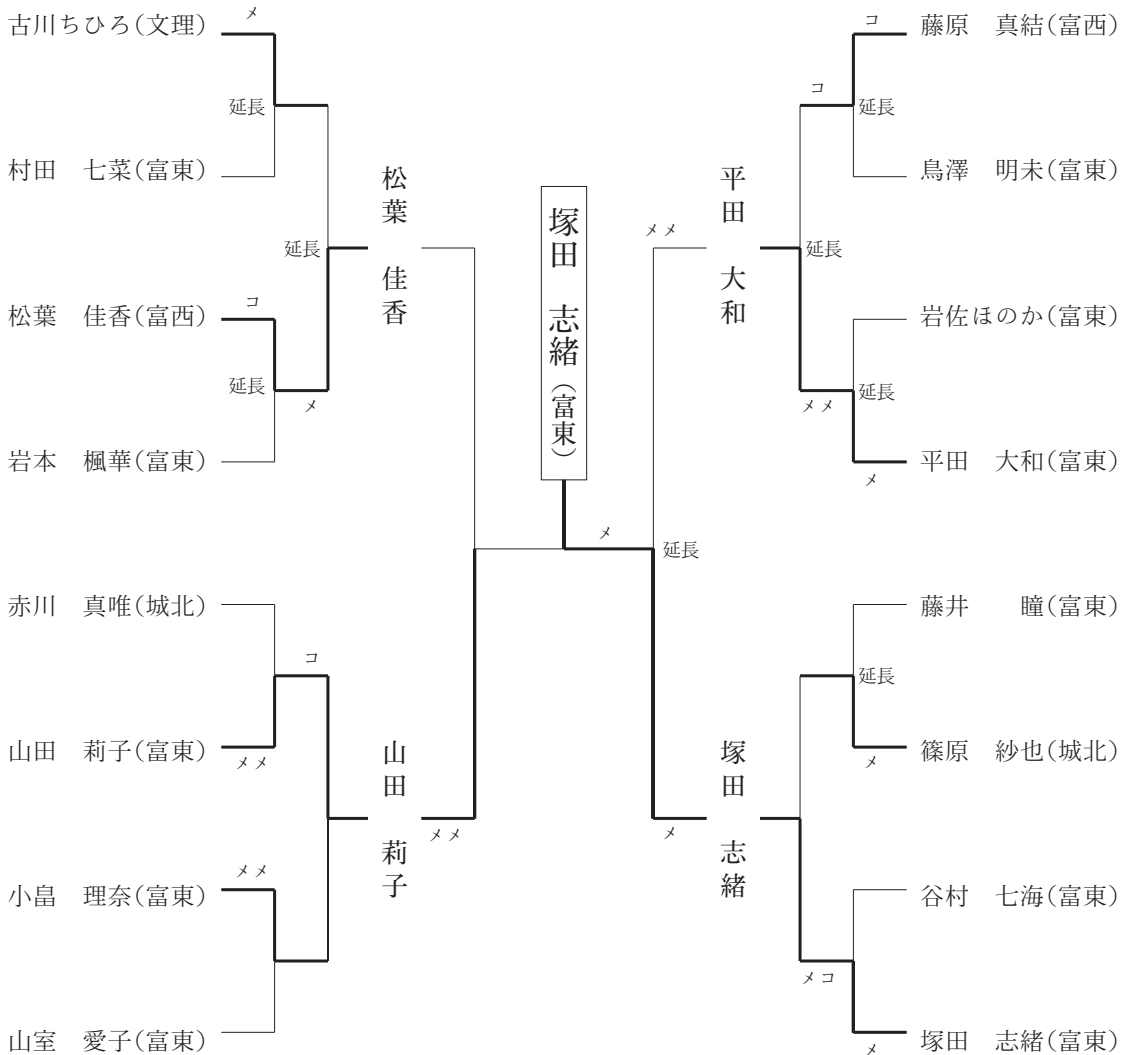
日 時 令和3年6月6日(日)  
会 場 藍住町体育館

## 女子個人の部

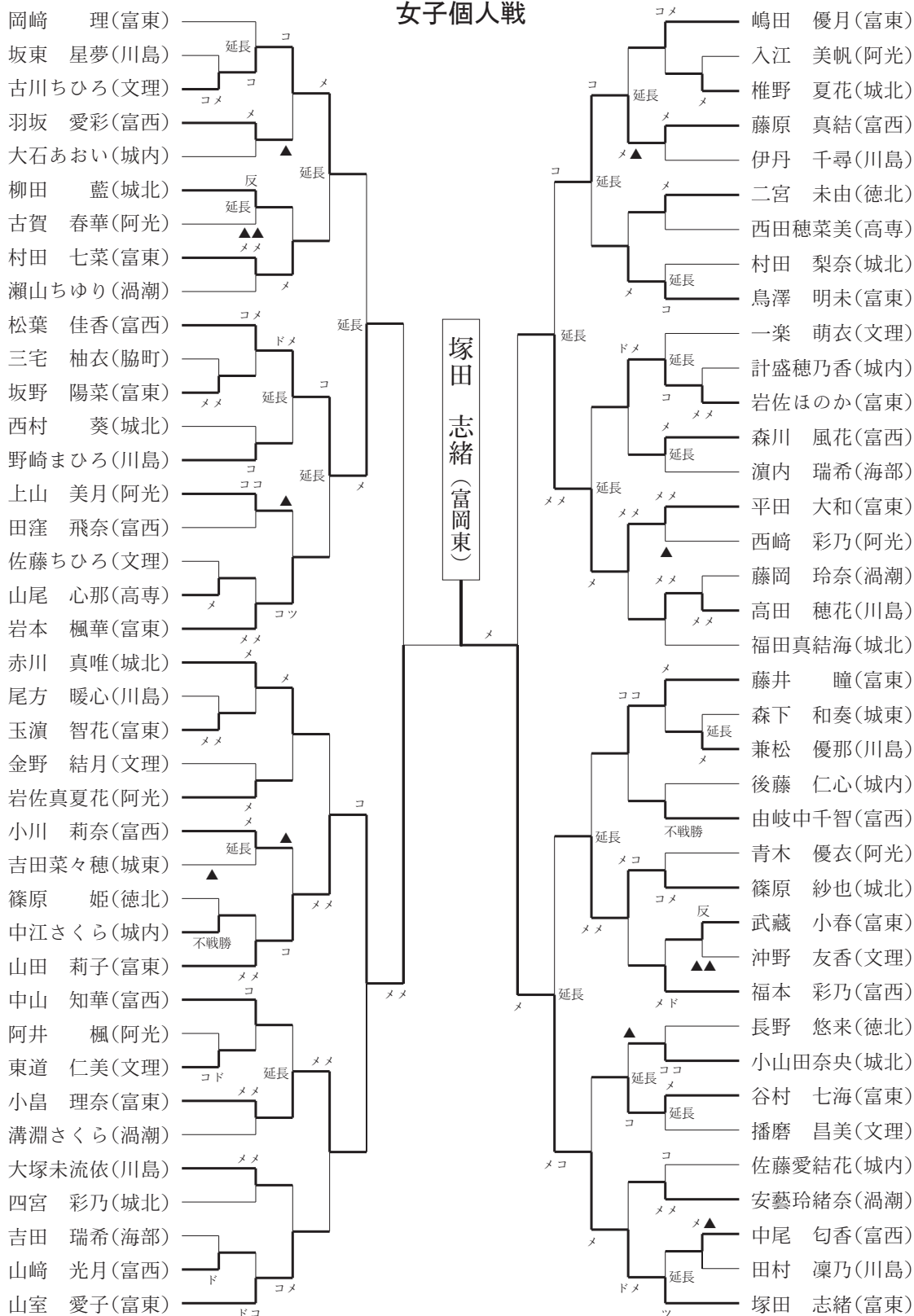
優勝 塚田 志緒 (富岡東)  
準優勝 山田 莉子 (富岡東)  
第3位 平田 大和 (富岡東)  
松葉 佳香 (富岡西)

優秀選手 塚田 志緒 (富岡東高校3年)

### 女子個人戦



女子個人戦











# 四国高等学校総合体育大会

日 時 令和3年6月19日～20日  
場 所 高知県春野総合運動公園武道場

## 〈女子団体〉

### 第1試合場

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表戦	勝数	本数
富岡西	藤原	小川	福本	中山	松葉		1	1
					◎一本勝			
高知小津			一本勝◎	一本勝◎			2	2
	森本	渡邊	藤原	高島	彦田			

### 第2試合場

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表戦	勝数	本数
岡豊	横山	古田	小松	田所	岡部		5	8
	コメ	メコ	メメ	◎一本勝	◎一本勝			
川島		メ					0	1
	伊丹	大塚	兼松	田村	野崎			

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表戦	勝数	本数
富岡西	藤原	小川	福本	中山	松葉		1	2
		メ			◎一本勝			
英明	一本勝◎	メ		▲			1	2
	小川	出井	高木	松井	林			

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表戦	勝数	本数
高松商業	森島	椎崎	玉井	赤澤	楠瀬		2	6
	メメ	メメ	メ		メ			
川島							0	2
	伊丹	大塚	兼松	田村	野崎			

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表戦	勝数	本数
帝京第五	岡田	白石	小田	荒木	乾		3	4
	◎一本勝		◎一本勝		ドメ			
富岡西	▲		▲		▲		0	0
	羽坂	小川	福本	中山	松葉			

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表戦	勝数	本数
川島	伊丹	大塚	兼松	田村	野崎		0	0
今治精華	一本勝◎	メメ	一本勝◎				3	4
	森	馬越	西田	高橋	竹田			

### 第3試合場

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表戦	勝数	本数
高知	間城	楠岡	中脇	大石	永野		2	4
		コメ			メメ			
徳島文理							0	0
	古川	沖野	播磨	東道	一楽			

### 第4試合場

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表戦	勝数	本数
富岡東	山室	岩本	山田	塚田	岡崎		4	8
	コメ	メメ	メメ	メメ				
明徳義塾							0	0
	山田峰	佐々木	松田	山田海	松岡			

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表戦	勝数	本数
琴平	武川	福田	多田羅	宮本	大西		4	6
		メメ	②一本勝	①一本勝	メメ			
徳島文理	一本勝②						1	1
	古川	沖野	播磨	東道	一楽			

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表戦	勝数	本数
富岡東	山室	岩本	山田	塚田	岡崎		3	5
	ドメ	メコ		①一本勝				
小豆島中央							0	0
	坂本	岡	山崎	宮本	笠松			

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表戦	勝数	本数
松山北	坂本	山田	山本	渡邊	山内		3	4
		③一本勝		メメ	①一本勝			
徳島文理	メメ▲						1	3
	古川	沖野	播磨	東道	一楽			

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表戦	勝数	本数
富岡東	山室	岩本	山田	塚田	岡崎		5	10
	●●	●●	●●	●●	●●			
済美							0	0
	橋本	川上	村上	矢野	井上			

〈女子団体予選リーグ〉

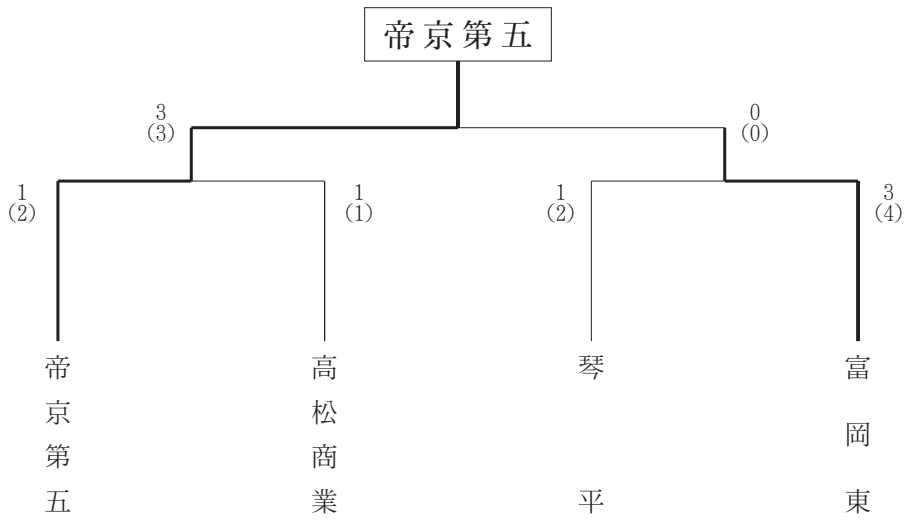
A	帝京第五	富岡西	高知小津	英明	勝点	勝者数	取得本数	順位
帝京第五		$\frac{4}{3}$	$\frac{4}{3}$	$\frac{5}{4}$	3	10	13	1
富岡西	$\frac{0}{0}$		$\frac{1}{1}$	$\frac{2}{1}$	0.5	2	3	4
高知小津	$\frac{0}{0}$	$\frac{2}{2}$		$\frac{1}{1}$	1.5	3	3	2
英明	$\frac{0}{0}$	$\frac{2}{1}$	$\frac{1}{1}$		1	2	3	3

B	高松商業	岡豊	川島	今治精華	勝点	勝者数	取得本数	順位
高松商業		$\frac{2}{1}$	$\frac{6}{2}$	$\frac{3}{2}$	3	5	11	1
岡豊	$\frac{1}{0}$		$\frac{8}{5}$	$\frac{1}{1}$	1.5	6	10	2
川島	$\frac{2}{0}$	$\frac{1}{0}$		$\frac{0}{0}$	0	0	3	4
今治精華	$\frac{2}{1}$	$\frac{1}{1}$	$\frac{4}{3}$		1.5	5	7	3

C	高知	琴平	松山北	徳島文理	勝点	勝者数	取得本数	順位
高知		$\frac{2}{1}$	$\frac{0}{0}$	$\frac{4}{2}$	1.5	3	6	3
琴平	$\frac{2}{1}$		$\frac{3}{2}$	$\frac{6}{4}$	2.5	7	11	1
松山北	$\frac{1}{1}$	$\frac{2}{2}$		$\frac{4}{3}$	2	6	7	2
徳島文理	$\frac{0}{0}$	$\frac{1}{1}$	$\frac{3}{1}$		0	2	4	4

D	富岡東	済美	小豆島中央	明德義塾	勝点	勝者数	取得本数	順位
富岡東		$\frac{10}{5}$	$\frac{5}{3}$	$\frac{8}{4}$	3	12	23	1
済美	$\frac{0}{0}$		$\frac{0}{0}$	$\frac{0}{0}$	0	0	0	4
小豆島中央	$\frac{0}{0}$	$\frac{10}{5}$		$\frac{2}{1}$	1	6	12	3
明德義塾	$\frac{0}{0}$	$\frac{10}{5}$	$\frac{2}{2}$		2	7	12	2

## 〈女子団体決勝トーナメント〉



### 準決勝

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	結果
帝京第五	岡田	梶岡	小田	荒木	乾	1
	▲	△	△	△	Ⓛ×	2
高松商業	▲Ⓧ	△	△	△	▲	1
	森島	椎崎	玉井	赤澤	楠瀬	1

### 準決勝

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	結果
琴平	武川	福田	多田	宮本	大西	1
	△	×		Ⓧ		2
富岡東	△	Ⓧ	Ⓧ		▲Ⓧ	4
	山室	岩本	山田	塚田	岡崎	3

### 決勝

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	結果
帝京第五	岡田	梶岡	小田	荒木	乾	3
	Ⓧ	Ⓧ	Ⓧ	△	△	3
富岡東				△	△	0
	山室	岩本	山田	塚田	岡崎	0



〈男子団体〉

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表戦	勝数	本数
鳴門渦潮	四宮	米田	西谷	谷本	上垣		2	2
	⊗一本勝	▲	▲		⊗一本勝			
明德義塾			メメ				1	2
	板倉	大野	松永	山下	柴田			

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表戦	勝数	本数
土佐塾	下村	植田	横山	山崎	亀田		1	1
			⊙一本勝					
富岡西	一本勝⊕	一本勝⊗	▲	メメ			3	4
	田上	岩谷	三好	橋本	松田			

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表戦	勝数	本数
鳴門渦潮	四宮	米田	西谷	谷本	上垣		2	4
		コ		⊗一本勝	▲メコ			
丸亀		メ		▲▲			0	1
	杭田	薄木	松本	町田	宮野			

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表戦	勝数	本数
琴平	井上康	吉田	松川	日裏	井上直		2	3
				メド	⊕一本勝			
富岡西	一本勝⊙		コメ	メ	▲		2	4
	田上	岩谷	三好	橋本	松田			

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表戦	勝数	本数
新田	村上	西山	波片	土居	片山		1	2
		⊗一本勝			メ			
鳴門渦潮			メメ				1	3
	上元	米田	西谷	谷本	村上			

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表戦	勝数	本数
富岡西	田上	岩谷	三好	橋本	松田		5	9
	メコ	⊗一本勝	ココ	メメ	コメ			
松山北							0	0
	小原	松本	桐田	太田	高宮			

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表戦	勝数	本数
城北	添木	宮田	小山田	永濱	松本		1	2
			▲	メメ				
高知学芸	河野	大西	内田	吉岡	宮川		0	0
		▲						

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表戦	勝数	本数
高知	寺村	宇賀	山崎	川田	弘田		2	3
		メメ			⊗一本勝			
阿南光	尾畑	津山	富田	玉垣	立石		1	1
	▲	▲		▲一本勝⊗				

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表戦	勝数	本数
城北	添木	宮田	小山田	永濱	松本		1	2
		⊗一本勝	メ					
今治精華	一本勝⊗ 織田	▲▲ 村上	メ 今井	▲ 西村	水元		1	2

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表戦	勝数	本数
帝京第五	児玉	松脇	川崎	島田	竹内		2	5
	▲メ	メメ		メメ				
阿南光	尾畑	中野	富田	玉垣	立石		0	1
	▲メ		▲					

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表戦	勝数	本数
城北	添木	宮田	小山田	永濱	松本		1	3
	▲			メメ	▲メ			
尽誠学園	一本勝⊗ 香川	須々木	西山	高原	コ 中野		1	2
	▲							

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表戦	勝数	本数
高松商業	福田	恒石	井手	藤澤	田村		3	4
		▲	⊗一本勝	コメ	▲⊖一本勝			
阿南光	一本勝⊖ 尾畑	村橋	富田	玉垣	立石		1	1
	▲							

〈男子団体予選リーグ〉

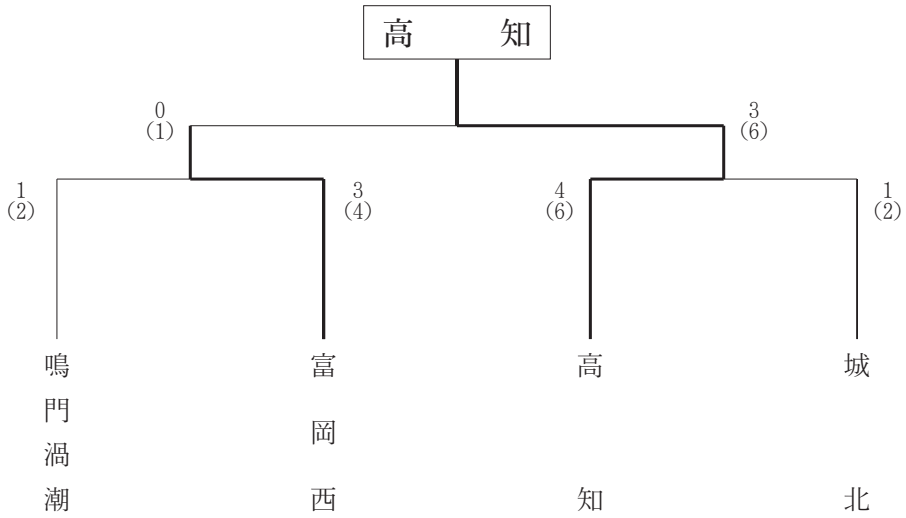
A	新 田	鳴門渦潮	明德義塾	丸 亀	勝 点	勝者数	取得本数	順 位
新 田		$\frac{2}{1}$	$\frac{6}{3}$	$\frac{6}{3}$	2	7	14	2
鳴門渦潮	$\frac{2}{1}$		$\frac{2}{2}$	$\frac{4}{2}$	3	5	9	1
明德義塾	$\frac{1}{1}$	$\frac{2}{1}$		$\frac{2}{1}$	1	3	5	3
丸 亀	$\frac{0}{0}$	$\frac{1}{0}$	$\frac{1}{0}$		0	0	2	4

B	琴 平	土佐塾	富岡西	松山北	勝 点	勝者数	取得本数	順 位
琴 平		$\frac{6}{3}$	$\frac{3}{2}$	$\frac{3}{2}$	2	7	12	2
土佐塾	$\frac{3}{1}$		$\frac{1}{1}$	$\frac{2}{1}$	0	3	6	4
富岡西	$\frac{4}{2}$	$\frac{4}{3}$		$\frac{9}{5}$	3	10	17	1
松山北	$\frac{1}{1}$	$\frac{5}{3}$	$\frac{0}{0}$		1	4	6	3

C	城 北	尽誠学園	今治精華	高知学芸	勝 点	勝者数	取得本数	順 位
城 北		$\frac{3}{1}$	$\frac{2}{1}$	$\frac{2}{1}$	2.5	3	7	1
尽誠学園	$\frac{2}{1}$		$\frac{0}{0}$	$\frac{5}{3}$	1.5	4	7	3
今治精華	$\frac{2}{1}$	$\frac{0}{0}$		$\frac{7}{4}$	2	5	9	2
高知学芸	$\frac{0}{0}$	$\frac{1}{1}$	$\frac{0}{0}$		0	1	1	4

D	高 知	帝京第五	高松商業	阿南光	勝 点	勝者数	取得本数	順 位
高 知		$\frac{3}{2}$	$\frac{2}{2}$	$\frac{3}{2}$	3	6	8	1
帝京第五	$\frac{2}{1}$		$\frac{3}{1}$	$\frac{5}{2}$	2	4	10	2
高松商業	$\frac{1}{1}$	$\frac{2}{0}$		$\frac{4}{3}$	1	4	7	3
阿南光	$\frac{1}{1}$	$\frac{1}{0}$	$\frac{1}{1}$		0	2	3	4

### 〈男子団体決勝トーナメント〉



#### 準決勝

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	結果
鳴門渦潮	上元	藤本	西谷	谷本	上垣	1
	X		⊗ コ			2
富岡西		⊗ 岩谷	三好	⊗ 橋本	メ ⊗ 松田	4
	⊗ 田上					3

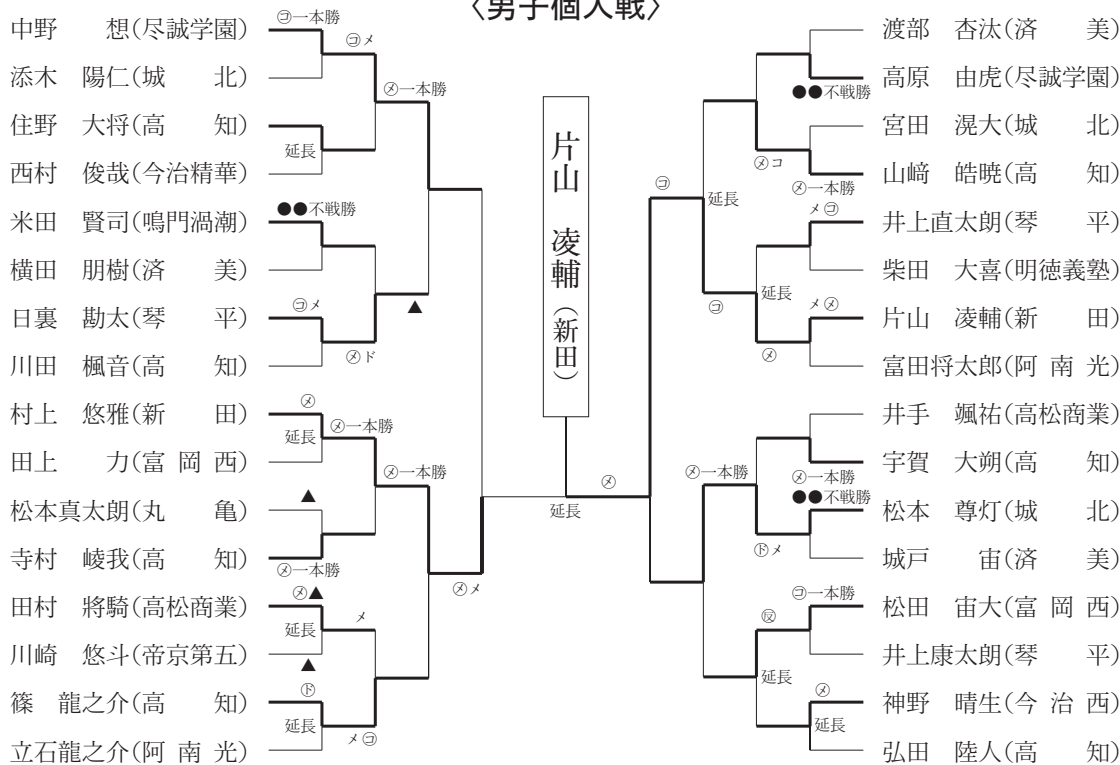
#### 準決勝

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	結果
城北	添木	宮田	小山田	永濱	松本	1
				▲ ⊖	⊖	2
高知	⊗ 寺村	メ ⊗ 宇賀	メ ⊗ 山崎	ココ 川田	弘田	6
						4

#### 決勝

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	結果
富岡西	田上	岩谷	三好	橋本	松田	0
	X	⊗				1
高知		メ	メ ⊗	コ ⊖	⊗ 弘田	6
	⊗ 寺村	メ ⊗ 宇賀				3

〈男子個人戦〉



〈女子個人戦〉





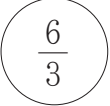
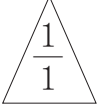
# 第75回 徳島県中学校総合体育大会 剣道競技

## 【 団 体 戦 】



日 時 令和3年7月22日(木)・23日(金)  
場 所 鳴門ソイジョイ武道館

順位	男 子	女 子
優 勝	徳 島 中 学 校	那 賀 川 中 学 校
準 優 勝	那 賀 川 中 学 校	徳 島 文 理 中 学 校
第 3 位	小 松 島 中 学 校	鳴 門 市 第 一 中 学 校
第 3 位	鳴 門 市 第 一 中 学 校	石 井 中 学 校

### [男子決勝]

学校名	先 鋒	次 鋒	中 堅	副 将	大 将	勝 敗	代表戦
徳 島 中	橋 本	三 宅	藏 本	篠 原	片 岡		
	メコ		メド		メド		
那賀川中				ド			
	岩 本	原	和 泉	平 松	橋 本		

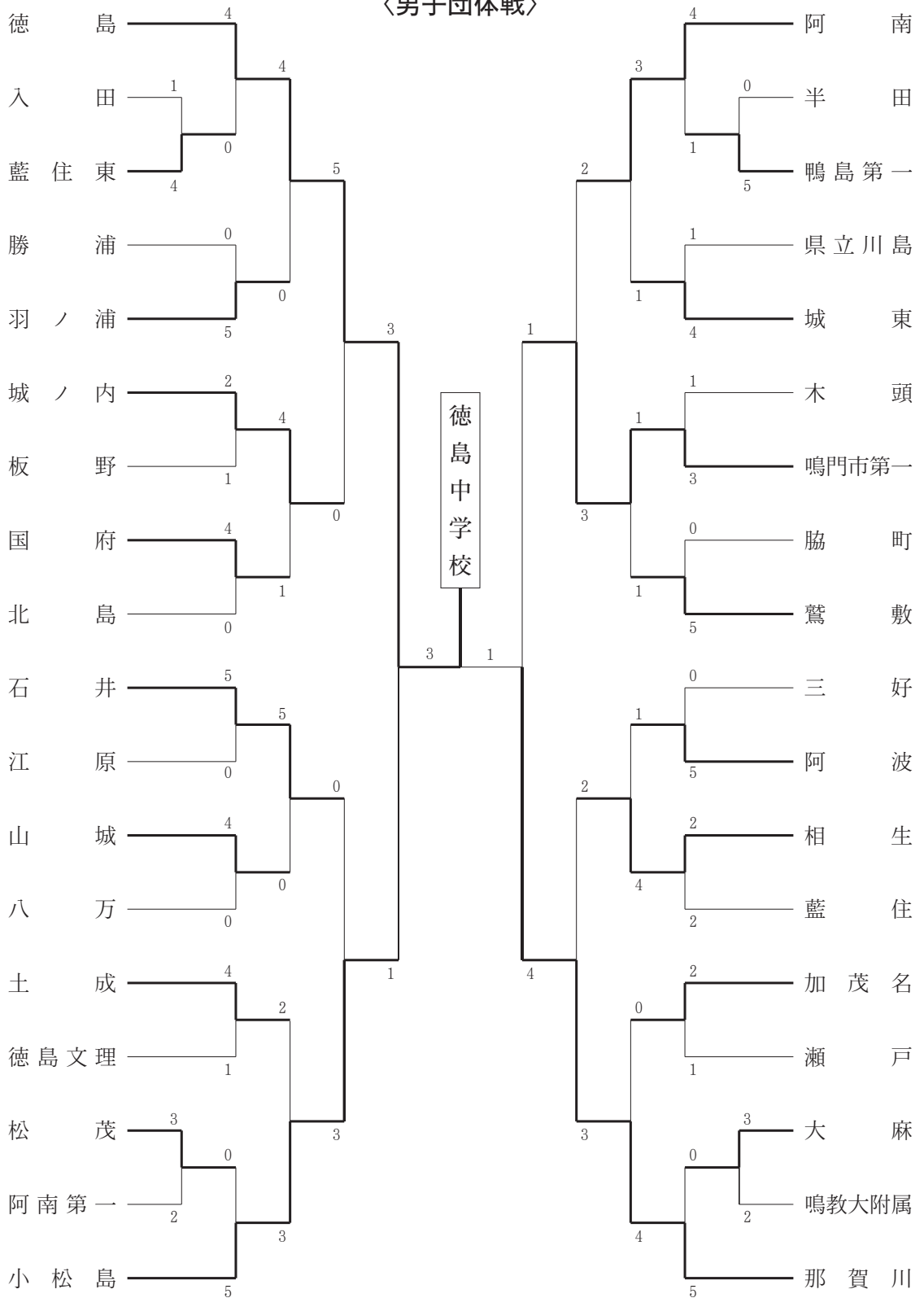
### [女子決勝]

学校名	先 鋒	次 鋒	中 堅	副 将	大 将	勝 敗	代表戦
那賀川中	内田こ	山 本	柏 原	甘 利	高 嶋		
	メ	メ	メ	コ			
徳島文理中		メメ					
	小 田	中 村	米 倉	秋 山	古 川		

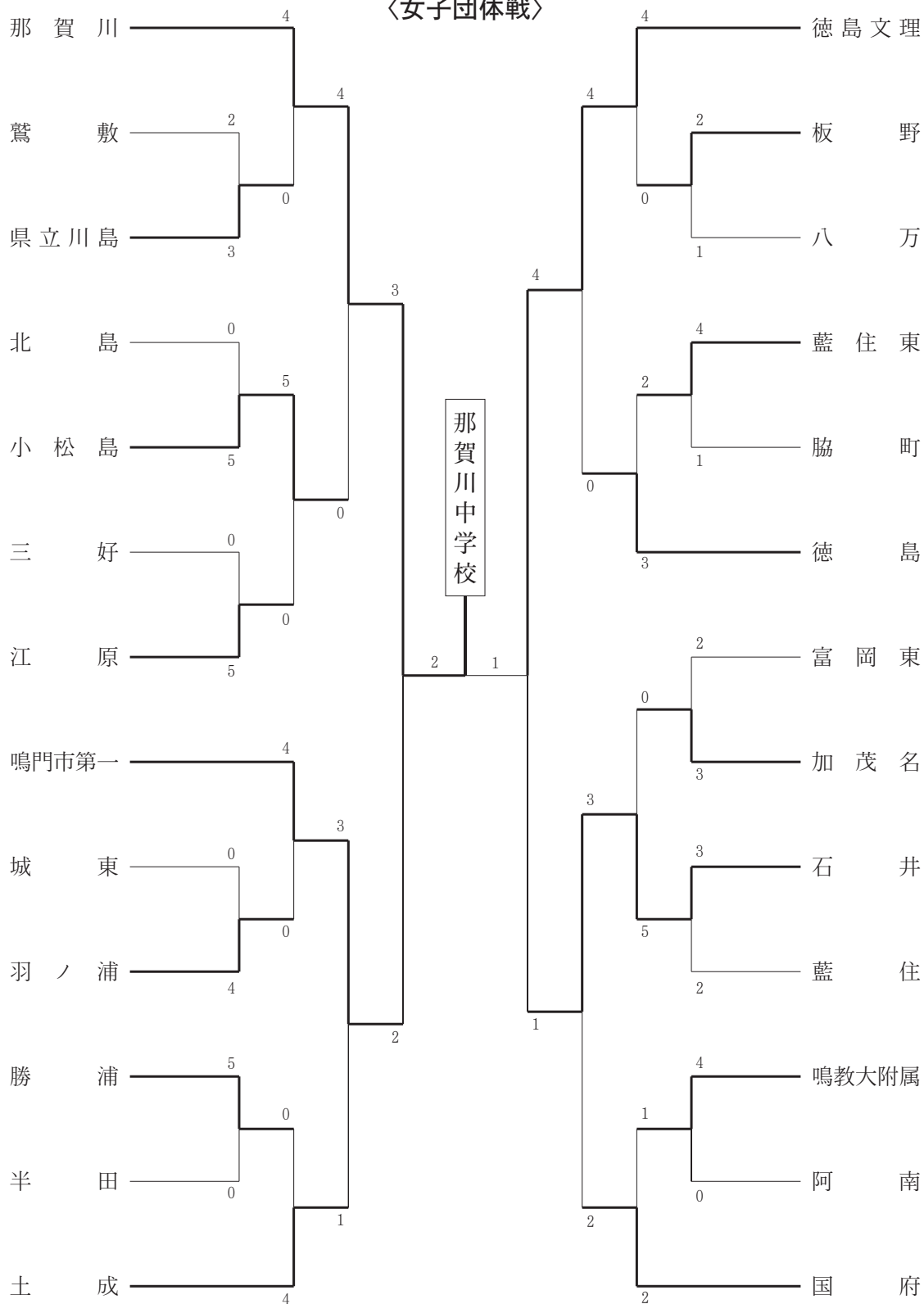
## 【 個 人 戦 】

順位	男 子	学校名	女 子	学校名
優 勝	片 岡 恭 二 朗	徳 島 中	鈴 江 海 音	木 頭 中
準 優 勝	橋 本 葵	那 賀 川 中	高 嶋 桜 子	那 賀 川 中
第 3 位	藏 本 望 海	徳 島 中	内 田 こ ころ	那 賀 川 中
第 3 位	楠 本 悠 太	徳 島 中	秋 山 鈴 奈	徳 島 文 理 中

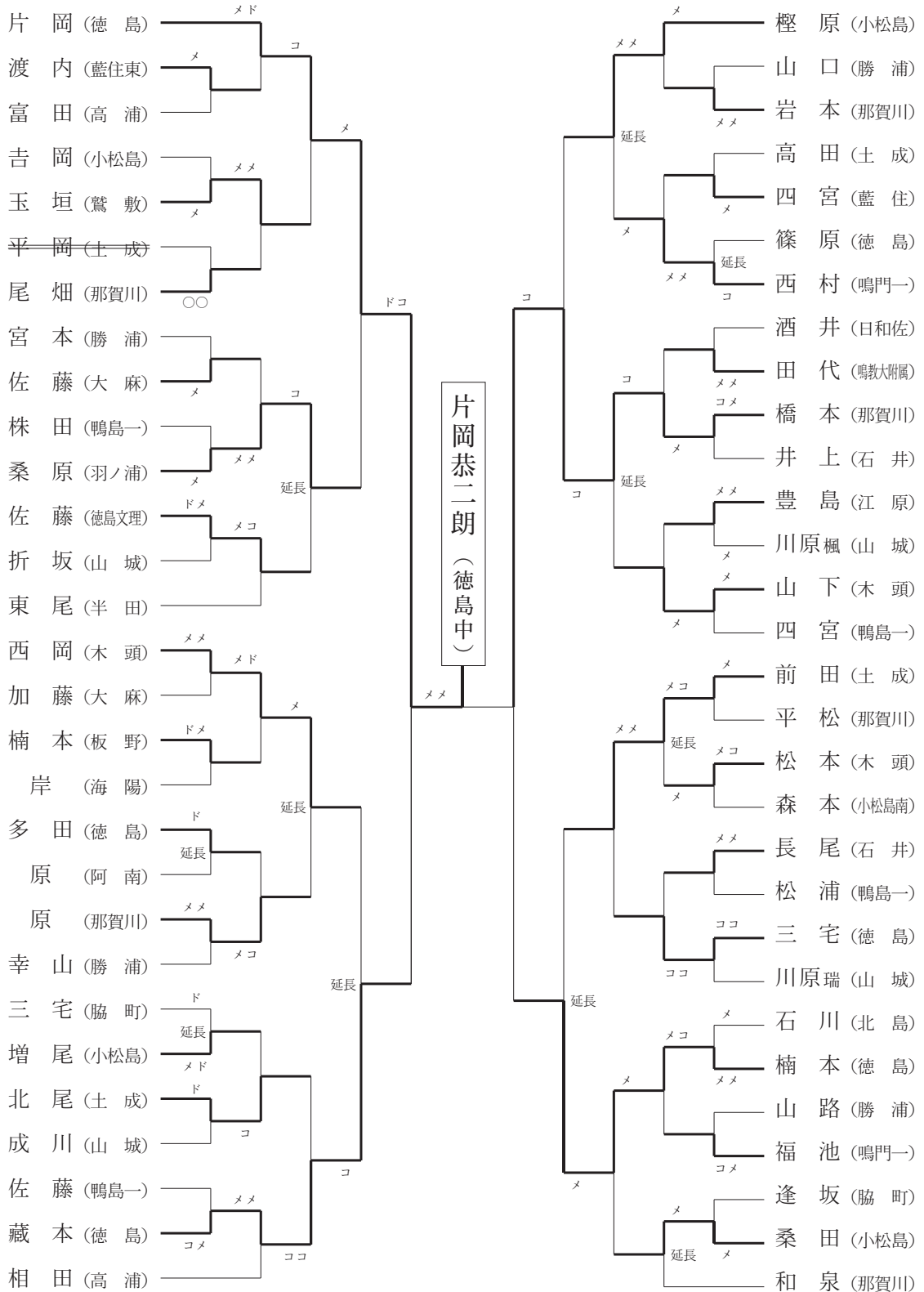
〈男子団体戦〉



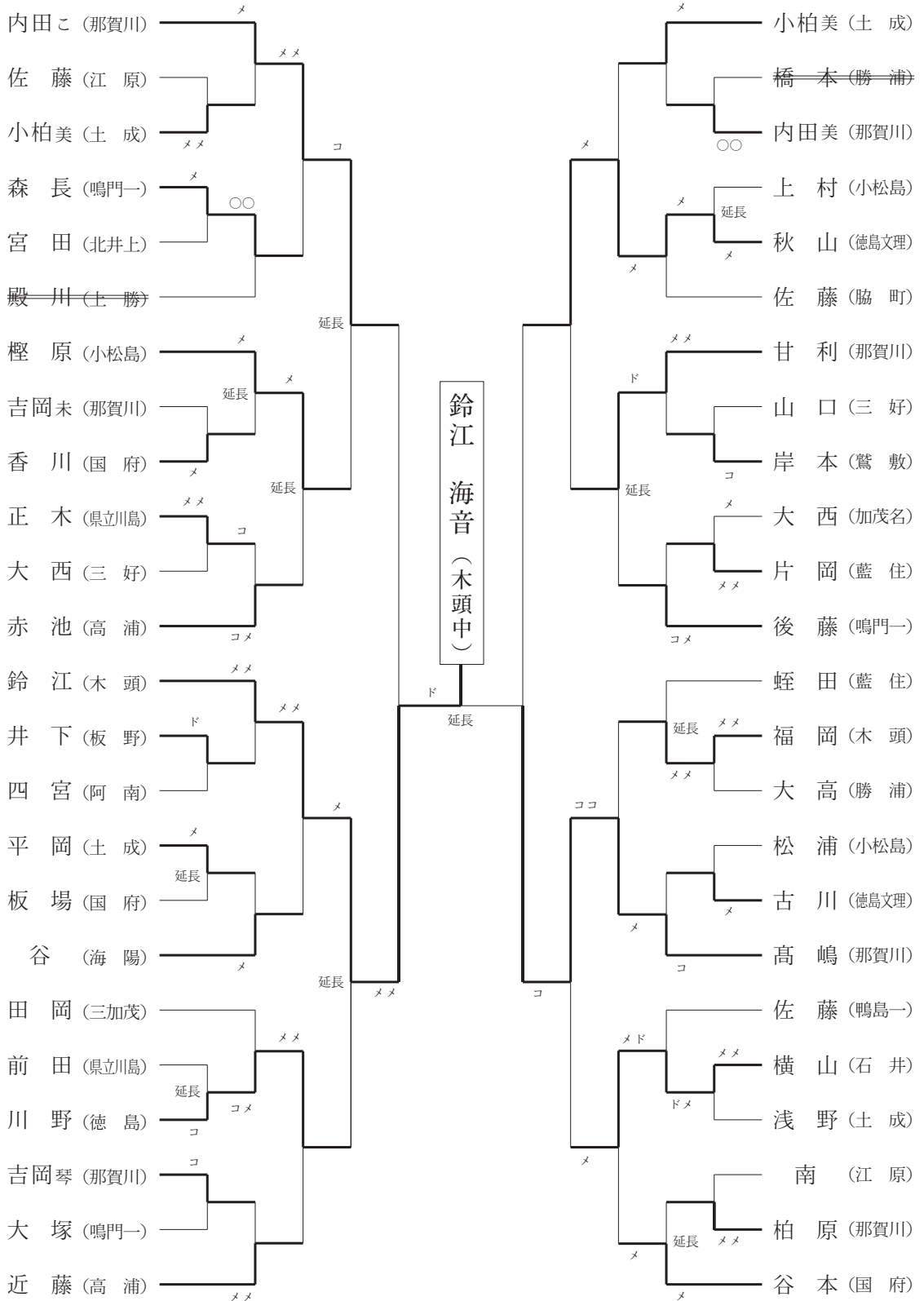
〈女子団体戦〉



個人戦〈男子〉



# 個人戦〈女子〉





## 第59回 四国中学校総合体育大会

### 団 体 戦

日 時 令 和 3 年 8 月 1 日

場 所 アミノバリュー体育館

#### 〈男子予選リーグ〉

第 1 試合場

	徳島 (徳)	大津 (高)	城辺 (愛)	龍雲 (香)	勝 点	勝 者 数	総 本 数	順 位
徳島 (徳)		$\frac{2}{2}$	$\frac{3}{1}$	$\frac{0}{0}$	1	3	5	3
大津 (高)	$\frac{0}{0}$		$\frac{0}{0}$	$\frac{2}{1}$	0	1	2	4
城辺 (愛)	$\frac{4}{1}$	$\frac{6}{4}$		$\frac{2}{1}$	2	6	12	2
龍雲 (香)	$\frac{5}{4}$	$\frac{3}{3}$	$\frac{5}{3}$		3	10	13	1

第 3 試合場

	那賀川 (徳)	鏡野 (高)	三間 (愛)	満濃 (香)	勝 点	勝 者 数	総 本 数	順 位
那賀川 (徳)		$\frac{3}{2}$	$\frac{2}{1}$	$\frac{2}{2}$	2	5	7	2
鏡野 (高)	$\frac{1}{1}$		$\frac{0}{0}$	$\frac{3}{3}$	1	4	4	3
三間 (愛)	$\frac{4}{3}$	$\frac{3}{2}$		$\frac{6}{3}$	3	8	13	1
満濃 (香)	$\frac{1}{1}$	$\frac{1}{1}$	$\frac{0}{0}$		0	2	2	4

#### 〈女子選リーグ〉

第 1 試合場

	那賀川 (徳)	香長 (高)	龍雲 (香)	伯方 (愛)	勝 点	勝 者 数	総 本 数	順 位
那賀川 (徳)		$\frac{6}{3}$	$\frac{0}{0}$	$\frac{4}{2}$	1	5	10	3
香長 (高)	$\frac{0}{0}$		$\frac{0}{0}$	$\frac{2}{1}$	0	1	2	4
龍雲 (香)	$\frac{3}{2}$	$\frac{8}{5}$		$\frac{6}{3}$	3	10	17	1
伯方 (愛)	$\frac{5}{3}$	$\frac{6}{3}$	$\frac{1}{0}$		2	6	12	2

第 3 試合場

	那賀川 (徳)	鏡野 (高)	三間 (愛)	満濃 (香)	勝 点	勝 者 数	総 本 数	順 位
徳島 (徳)		$\frac{4}{3}$	$\frac{0}{0}$	$\frac{0}{0}$	1	3	4	4
大津 (高)	$\frac{2}{1}$		$\frac{5}{4}$	$\frac{3}{2}$	1.5	7	10	2
城辺 (愛)	$\frac{2}{2}$	$\frac{0}{0}$		$\frac{3}{1}$	1.5	3	5	3
龍雲 (香)	$\frac{4}{3}$	$\frac{3}{2}$	$\frac{3}{1}$		2	6	10	1



〈男子団体決勝トーナメント〉

準決勝 第1試合場

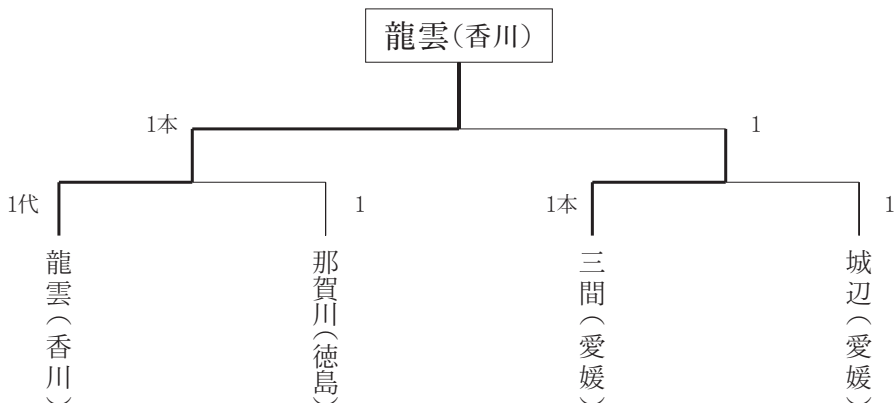
学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	対戦結果	代表
龍雲 (香川)	田中 志武	新名 海人	椎崎 海里	東根 昌希	矢葺 尊	$\frac{1}{1}$	矢葺 尊
				メ			ド
那賀川 (徳島)			コ			$\frac{1}{1}$	
	岩本 響輝	原 那由多	和泉 皓大	平松 政樹	橋本 葵		橋本 葵

準決勝 第3試合場

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	対戦結果	代表
三間 (愛媛)	大野 泰史	善家 悠太	吉岡 大我	岡崎 煌生	安岡慶二郎	$\frac{2}{1}$	
					メ メ		
城辺 (愛媛)				メ		$\frac{1}{1}$	
	浦川 隼	竹田 千紘	清水 祐成	児島 武尊	菊池 康聖		

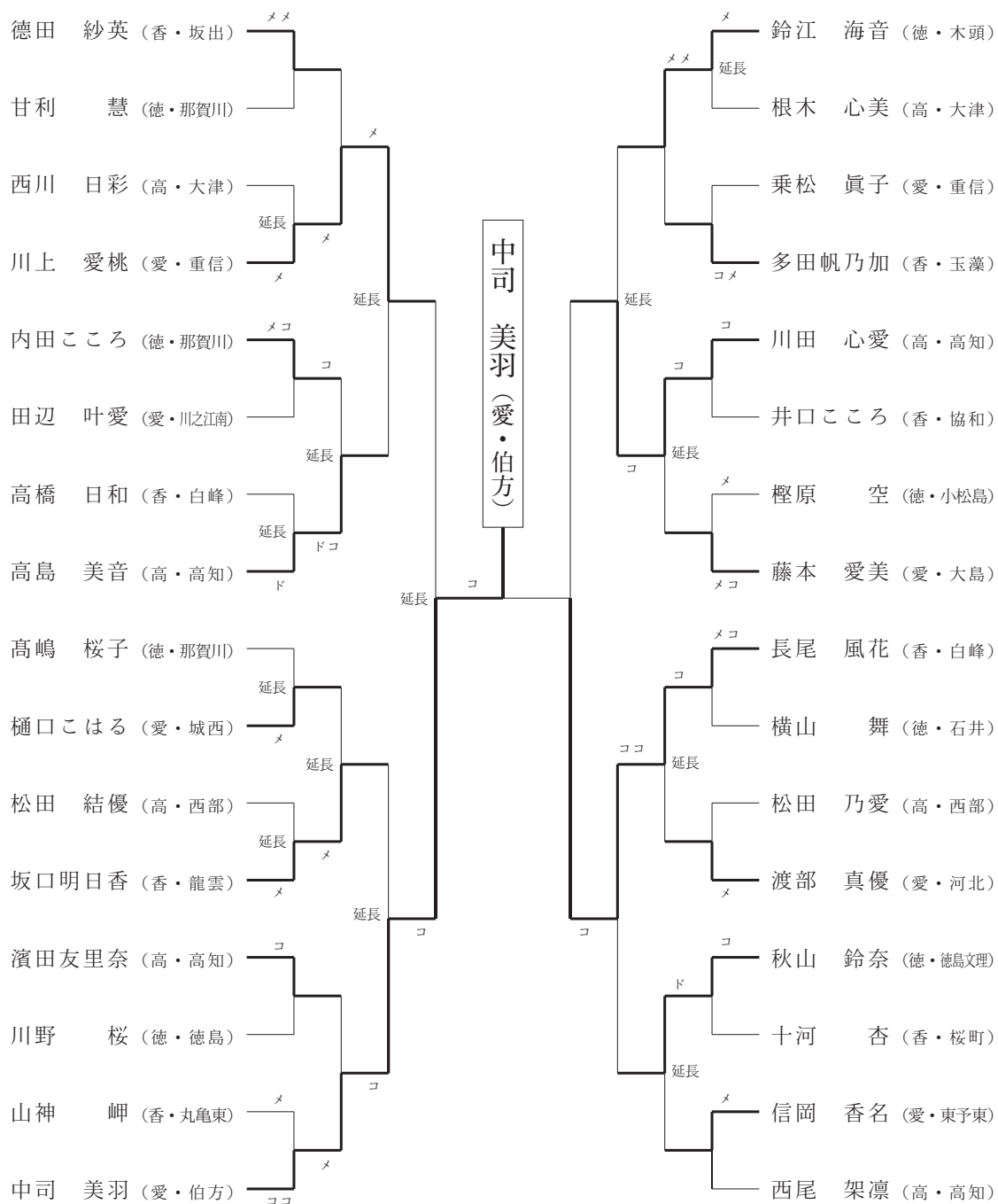
決勝 第1試合場

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	対戦結果	代表
龍雲 (香川)	田中 志武	新名 海人	椎崎 海里	東根 昌希	矢葺 尊	$\frac{4}{1}$	
	メ コ		メ		メ		
三間 (愛媛)			コ	コ	メ	$\frac{3}{1}$	
	大野 泰史	善家 悠太	吉岡 大我	岡崎 煌生	安岡慶二郎		



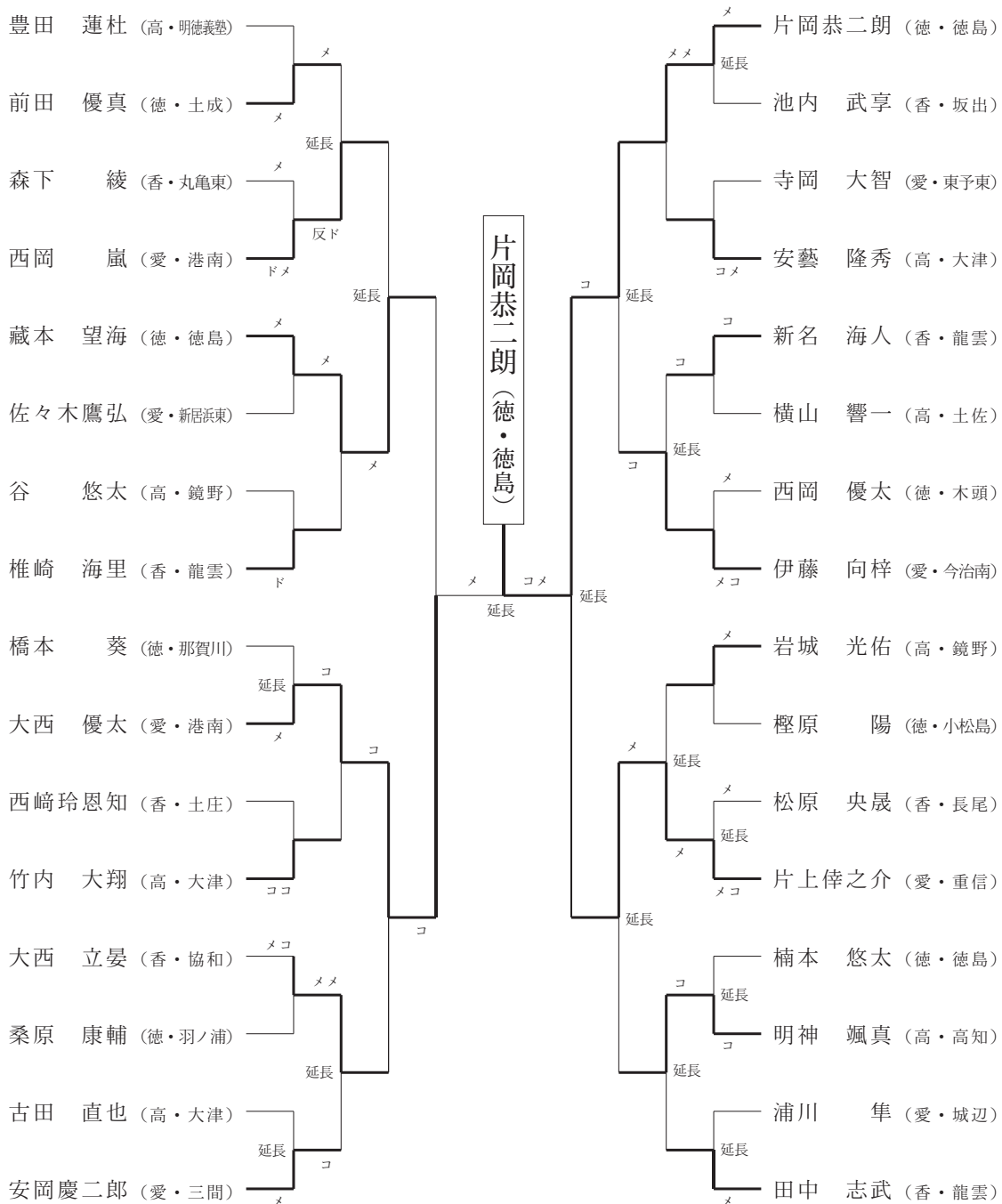
## 〈女子個人戦〉

優勝 中司 美羽 (伯方中学校)  
 準優勝 長尾 風花 (白峰中学校)  
 第3位 川上 愛桃 (重信中学校)  
 第3位 川田 心愛 (高知中学校)



〈男子個人戦〉

優勝 片岡 恭二郎 (徳島中学校)  
 準優勝 大西 優太 (港南中学校)  
 第3位 片上 倅之介 (重信中学校)  
 第3位 藏本 望海 (徳島中学校)









# 第42回 国民体育大会四国ブロック大会

日時 令和3年8月22日  
場所 吉野川市民プラザ

## 〈少年女子〉

## 〈少年男子〉

### 第1試合

県名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝者数	総本数	勝敗
香川	楠瀬	椎崎	宮本	玉井	大西	0	0	△ 0 0
	一本勝 ⊗				一本勝 ⊗			
徳島	古川	岩本	塚田	山田	岡崎	2	2	○ 2 2

### 第1試合

県名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝者数	総本数	勝敗
香川	井手	田村	中野	井上	日裏	2	3	○ 3 2
	⊗ ⊙				▲ ⊗ 一本勝			
徳島	橋本	添木	立石	富田	松本	1	1	△ 1 1
				一本勝 ⊗				

### 第2試合

県名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝者数	総本数	勝敗
愛媛	岡田	越智	小田	荒木	乾	1	2	△ 2 1
			⊗ 一本勝		⊕			
徳島	古川	岩本	塚田	山田	岡崎	2	3	○ 3 2
	▲ ⊗ 一本勝			一本勝 ⊗	⊗			

### 第2試合

県名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝者数	総本数	勝敗
徳島	橋本	添木	立石	富田	松本	0	0	△ 0 0
			▲					
愛媛	竹内	土居	村上	渡部	片山	1	1	○ 1 1
	一本勝 ⊕							

### 第3試合

県名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝者数	総本数	勝敗
高知	楠岡	岡部	中脇	間城	永野	2	3	○ 3 2
	⊙ 一本勝				⊗ ⊕			
徳島	古川	岩本	塚田	山田	岡崎	1	1	△ 1 1
		▲		一本勝 ⊗				

### 第3試合

県名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝者数	総本数	勝敗
高知	柴田	酒井	山崎	篠篠	弘田	0	0	△ 0 0
	▲							
徳島	橋本	添木	立石	富田	松本	1	1	○ 1 1
		一本勝 ⊗						

〈少年男子〉

	香川	高知	愛媛	徳島	勝数	勝者数	取得本数	順位
香川		$\frac{2}{1}$	$\frac{4}{2}$	$\frac{3}{2}$	3	5	9	1
高知	$\frac{1}{1}$		$\frac{2}{1}$	$\frac{0}{0}$	0	2	3	4
愛媛	$\frac{2}{1}$	$\frac{2}{2}$		$\frac{1}{1}$	2	4	5	2
徳島	$\frac{1}{1}$	$\frac{1}{1}$	$\frac{0}{0}$		1	2	2	3

〈成年女子〉

第1試合

県名	先鋒	中堅	大将	勝者数	総本数	勝敗
愛媛	岩中	馬越	川野	2	2	$\frac{2}{2}$
	⊗一本勝	⊗一本勝	▲			
徳島	山本	井口	金野	0	0	$\frac{0}{0}$

〈少年女子〉

	香川	高知	愛媛	徳島	勝数	勝者数	取得本数	順位
香川		$\frac{4}{3}$	$\frac{3}{1}$	$\frac{0}{0}$	1	4	7	3
高知	$\frac{0}{0}$		$\frac{4}{3}$	$\frac{3}{2}$	2	5	7	1
愛媛	$\frac{3}{2}$	$\frac{1}{0}$		$\frac{2}{1}$	1	3	6	4
徳島	$\frac{2}{2}$	$\frac{1}{1}$	$\frac{3}{2}$		2	5	6	2

第2試合

県名	先鋒	中堅	大将	勝者数	総本数	勝敗
香川	藤本	河村	松永	0	0	$\frac{0}{0}$
徳島	⊙⊗山本	井口	金野	1	2	$\frac{2}{1}$

〈成年女子〉

	香川	高知	愛媛	徳島	勝数	勝者数	取得本数	順位
香川		$\frac{1}{0}$	$\frac{1}{0}$	$\frac{0}{0}$	0	0	2	4
高知	$\frac{4}{2}$		$\frac{1}{0}$	$\frac{1}{0}$	1	2	6	3
愛媛	$\frac{3}{2}$	$\frac{3}{1}$		$\frac{2}{2}$	3	5	8	1
徳島	$\frac{2}{1}$	$\frac{2}{1}$	$\frac{0}{0}$		2	2	4	2

第3試合

県名	先鋒	中堅	大将	勝者数	総本数	勝敗
高知	吉田	芝	松田	0	1	$\frac{1}{0}$
		⊗				
徳島	山本	井口	一本勝⊗金野	1	2	$\frac{2}{1}$
		⊕				

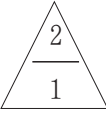
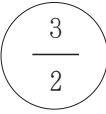
# 第18回 徳島県中学校剣道1年生大会

## 【団体戦】

日時 令和3年10月30日(土)  
場所 鳴門ソイジョイ武道館

順位	男子	女子
優勝	徳島中学校	那賀川中学校
準優勝	藍住中学校	鳴門市第一中学校
第3位	松茂中学校	徳島文理中学校
第3位	那賀川中学校	小松島中学校

### [男子団体戦 決勝]

学校名	先鋒	中堅	大将	勝敗	代表戦
藍住中	坂野	喜多	四宮		
			コメ		
徳島中	メ	ドメ			
	村瀬	山本	野田		

### [女子団体戦 決勝]

学校名	先鋒	中堅	大将	勝敗	代表戦
那賀川中	吉岡未	吉岡琴	内田		
		ココ	コメ		
鳴門市第一中	ココ				
	西村	大谷	大塚		

## 【個人戦】

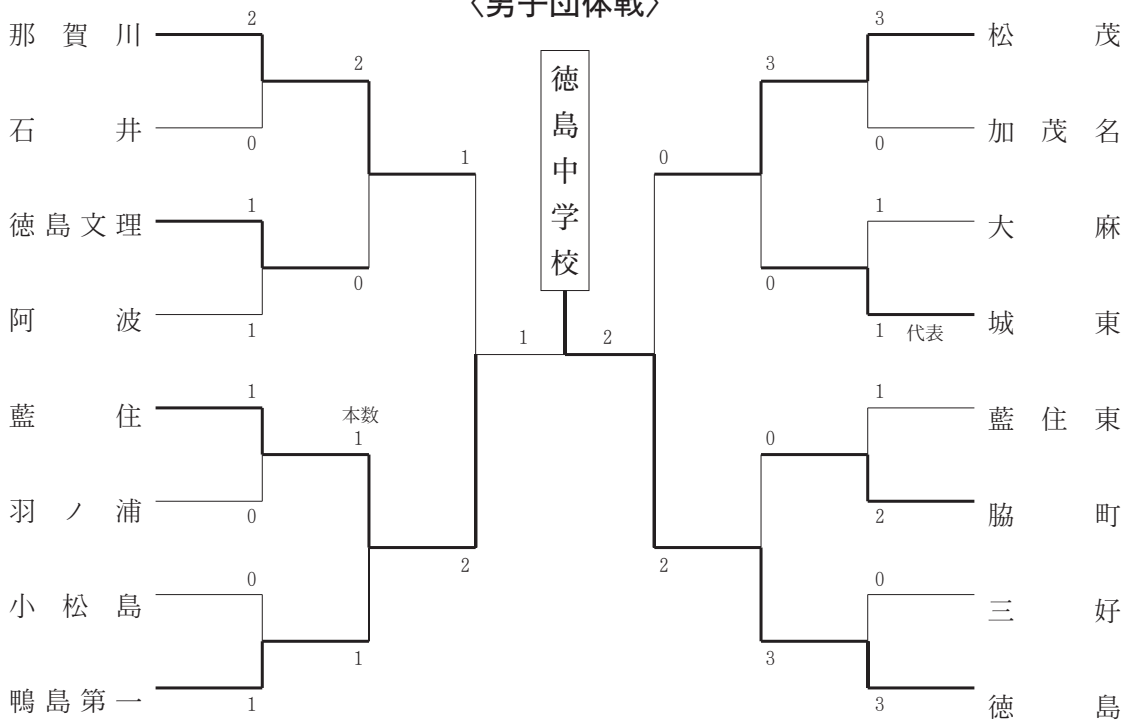
順位	男子	学校名	女子	学校名
優勝	松本奏利	木頭中	前田優莉	県立川島中
準優勝	豊田大晴	鳴門市第一中	谷珠菜	海陽中
第3位	高松宏樹	入田中	濱田百合愛	那賀川中
第3位	澳津瑛太	那賀川中	六條瑚子	石井中



〈女子団体戦〉

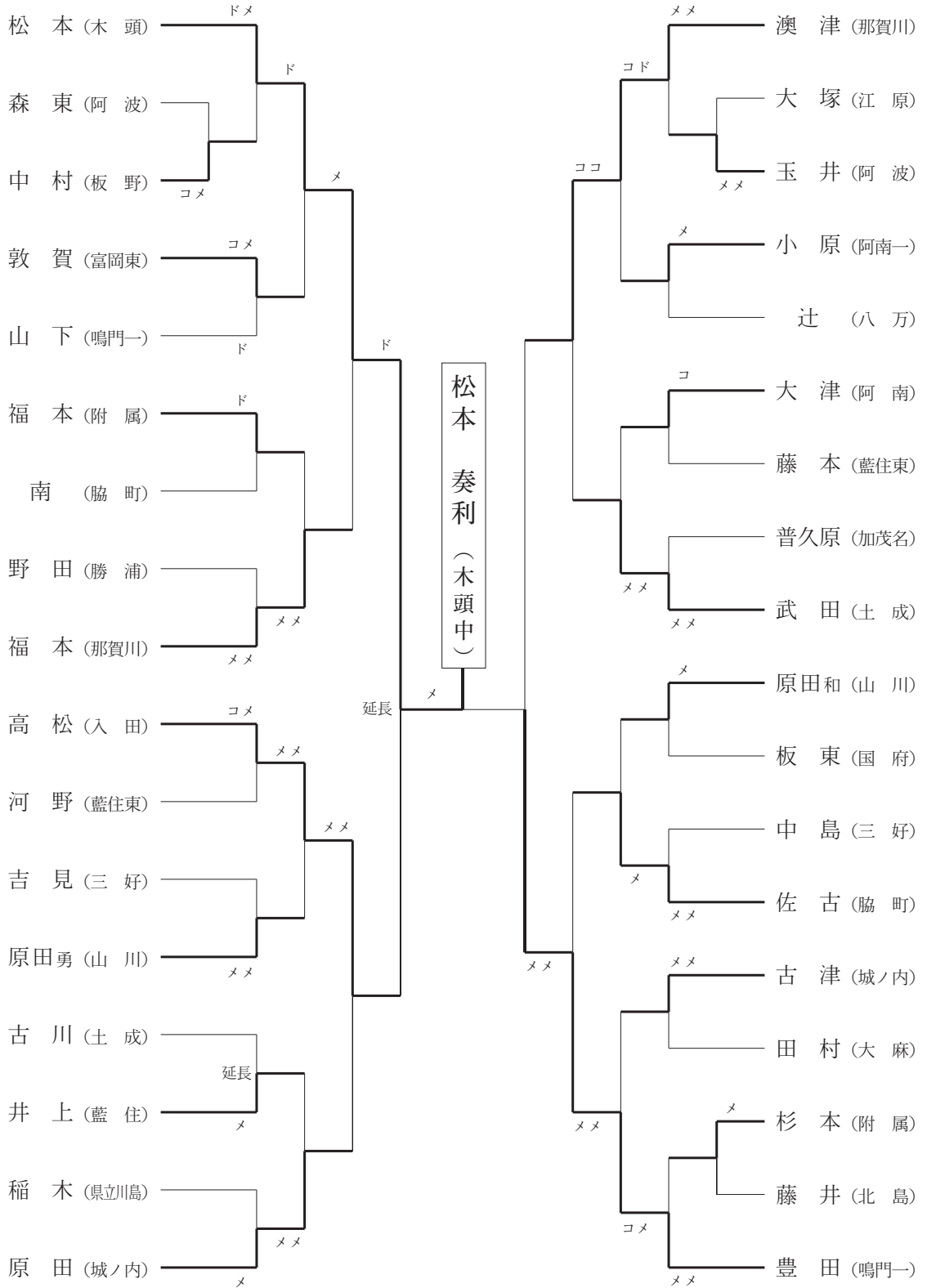


〈男子団体戦〉





個人戦〈男子〉



**第39回 徳島県スポーツ少年団剣道交流大会**  
**第44回 全国スポーツ少年団剣道交流大会**  
**(徳島県予選会)**

**【 団体戦 (小学生) 】**

日 時 令 和 3 年 12 月 5 日  
 場 所 松 茂 総 合 体 育 館

順位	郡 市			監 督 名	(所属チーム)
	先鋒選手名	次鋒選手名	中堅選手名	副将選手名	大将選手名
	所属チーム	所属チーム	所属チーム	所属チーム	所属チーム
優 勝	徳 島 市 A			生 田 浩 章	徳島少年剣道教室
	橋 本 佳 都	茨 木 里 音	柏 原 健 人	鶴 上 詩 乃	中 岡 亮 仁
	徳島少年剣道教室	徳島少年剣道教室	養 武 館	徳島少年剣道教室	徳島少年剣道教室
準 優 勝	小 松 島 市			青 木 博 志	小松島少剣クラブ
	西 尾 柚 花	上 村 優 亜	坂 井 蓮	橋 本 愛 生	西 尾 育 真
	小松島少剣クラブ	小松島少剣クラブ	和 田 島 少 年 剣 道 ク ラ ブ	小松島少剣クラブ	小松島少剣クラブ
第 三 位	阿 南 A			中 西 実	阿南少年剣道教室
	山ノ井 夏希	尺長 紗和子	西岡 葵士	湯 浅 花	阿 井 輝
	那賀川少年剣道教室わかあゆ会	新野少年剣道教室	阿南少年剣道教室	徳島剣清塾	阿南少年剣道教室
第 三 位	阿 南 B			馬 見 和 秀	新野少年剣道教室
	須 藤 汰 心	橋 本 蘭	須 藤 悠 成	高 瀬 智 菜	金 澤 悠 翔
	阿南少年剣道教室	那賀川少年剣道教室わかあゆ会	阿南少年剣道教室	新野少年剣道教室	阿南少年剣道教室

**【 中学生 (個人戦) 】**

**[男子個人戦]**

順位	選手氏名	郡 市	所属チーム
優 勝	藏 本 望 海	吉野川市	川島剣道スポーツ少年団
準 優 勝	三 宅 遼	板野郡	藍住剣道スポーツ少年団
第 3 位	平 松 政 樹	阿南市	那賀川少年剣道教室わかあゆ会
第 3 位	西 岡 優 太	那賀郡	木 頭 錬 心 館

**[女子個人戦]**

順位	選手氏名	郡 市	所属チーム
優 勝	高 嶋 桜 子	板野郡	藍住剣道スポーツ少年団
準 優 勝	鈴 江 海 音	那賀郡	木 頭 錬 心 館
第 3 位	森 長 未 来	鳴門市	鳴門市光武館道場
第 3 位	福 岡 詩	那賀郡	木 頭 錬 心 館

〈小学生の部 団体予選リーグ戦〉

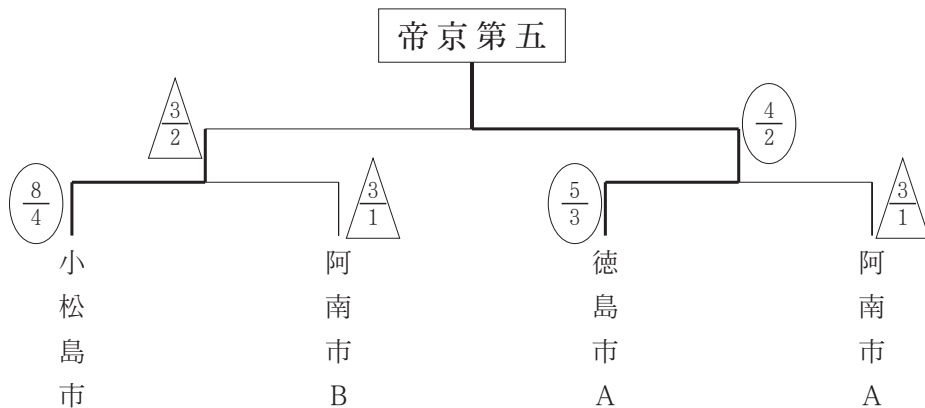
第1試合場

A					B												
徳島D	板野A	小松島	吉野川B	勝点	勝者数	総本数	順位	順位	阿波	阿南B	徳島B	名西	勝点	勝者数	総本数	順位	順位
	$\frac{3}{2}$	$\frac{2}{1}$	$\frac{3}{1}$	0	4	8	0	4		$\frac{0}{0}$	$\frac{2}{0}$	$\frac{0}{0}$	0	0	2	0	4
$\frac{5}{3}$		$\frac{4}{2}$	$\frac{2}{1}$	1	6	11	1	3	$\frac{10}{5}$		$\frac{9}{4}$	$\frac{6}{3}$	3	12	25	3	1
$\frac{8}{4}$	$\frac{6}{3}$		$\frac{7}{3}$	3	10	21	3	1	$\frac{9}{5}$	$\frac{2}{1}$		$\frac{6}{3}$	2	9	17	2	2
$\frac{3}{2}$	$\frac{5}{3}$	$\frac{3}{1}$		2	6	11	2	2	$\frac{6}{3}$	$\frac{3}{1}$	$\frac{3}{1}$		1	5	11	1	3

第2試合場

C					D											
吉野川A	徳島A	板野B	那賀	勝点	勝者数	総本数	順位	順位	鳴門	徳島C	阿南A	勝点	勝者数	総本数	順位	順位
	$\frac{2}{1}$	$\frac{6}{4}$	$\frac{7}{4}$	2	9	15	2.5	2		$\frac{0}{0}$	$\frac{0}{0}$	0	0	0	0	3
$\frac{2}{1}$		$\frac{7}{4}$	$\frac{8}{4}$	2	9	17	2.5	1	$\frac{8}{4}$		$\frac{1}{0}$	1	4	9	1	2
$\frac{0}{0}$	$\frac{0}{0}$		$\frac{4}{2}$	0	2	4	0	4	$\frac{8}{4}$	$\frac{5}{3}$		2	7	13	2	1
$\frac{0}{0}$	$\frac{2}{1}$	$\frac{7}{3}$		1	4	9	1	3								

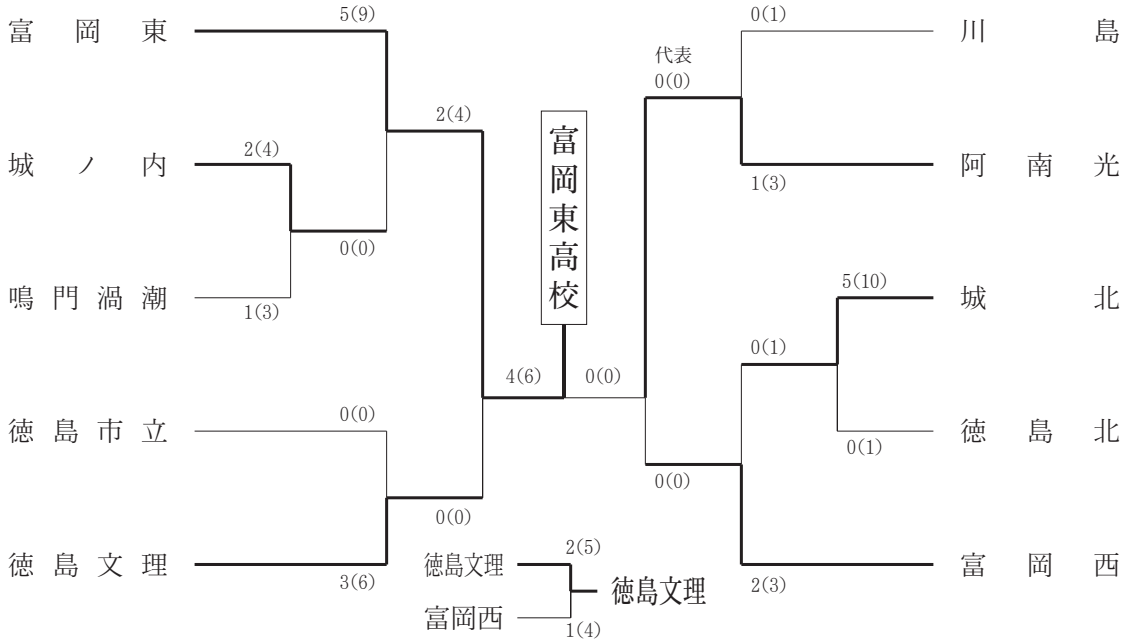
〈決勝トーナメント〉



# 第66回 徳島県高等学校剣道新人大会兼全国選抜大会県予選会

## 〈女子の部〉

日時 令和4年1月16日  
場所 鳴門ソイジョイ武道館



### 準決勝

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
富岡東	島田	小島	平田	鳥澤	大谷村	2	4	
	△	⊗ ⊗	▲	▲ ⊗ ⊖	△			
徳島文理	古川	佐々木	東道	金野	播磨	0	0	
	△		▲		△			

### 準決勝

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
阿南光	西崎	古賀	阿井	入江	大岩佐	0	0	代岩佐 ⊗
	△	△	△	△	△			
富岡西	中尾	田窪	山崎	森川	羽坂	0	0	羽坂
	▲	△	△	△	△			

### 決勝

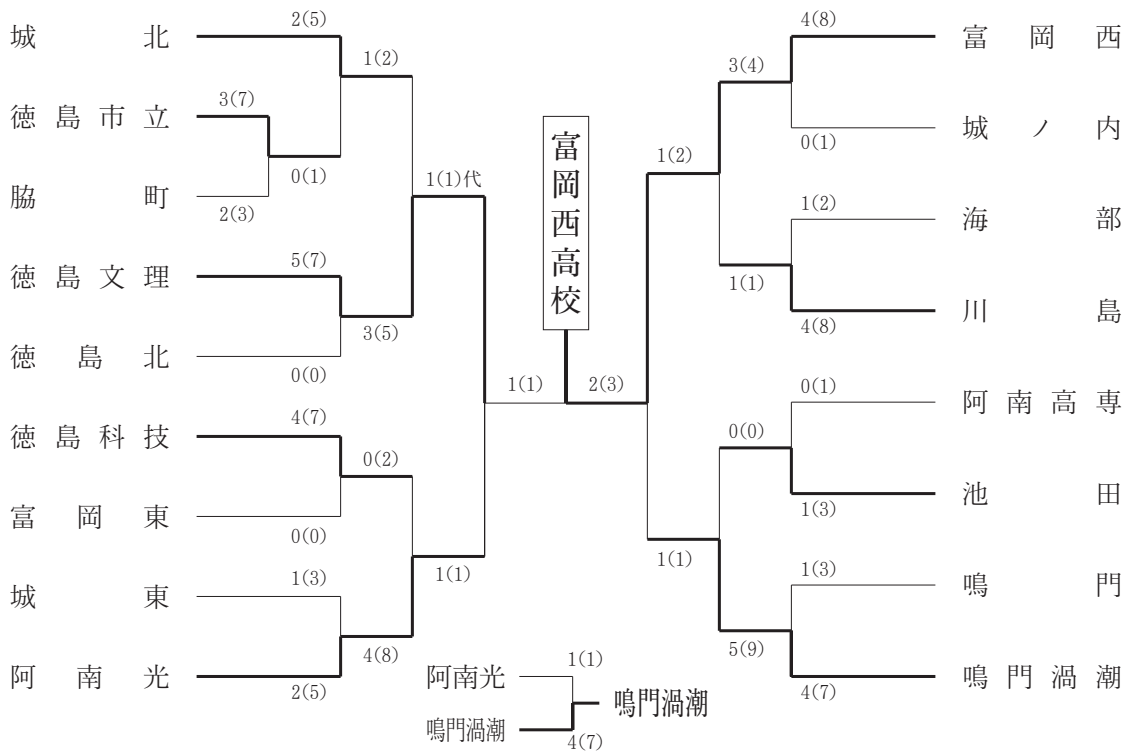
校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
富岡東	島田	小島	平田	鳥澤	大谷村	4	6	
	⊗ ⊖	一本勝	⊗ ⊗		一本勝			
阿南光	西崎	古賀	阿井	入江	大岩佐	0	0	
	△	△	△	△	△			

### 順位決定戦

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
徳島文理	古川	佐々木	東道	金野	播磨	2	5	
	⊗ ⊖	△	⊖	⊖ ⊗				
富岡西	中尾	田窪	山崎	森川	羽坂	1	4	
	△	△	⊗	⊗ ⊗	⊗ ⊗			



## 〈男子の部〉



### 準決勝

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
徳島文理	▲	一本勝				1	1	一本勝
阿南光					一本勝	1	1	富田

### 準決勝

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
富岡西					一本勝	1	2	
鳴門渦潮		一本勝	▲	▲		1	1	

### 決勝

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
徳島文理	▲	一本勝				1	1	
富岡西	一本勝		一本勝	▲		2	3	

### 順位決定戦

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
阿南光	▲	一本勝				1	1	
鳴門渦潮		一本勝	一本勝	一本勝	一本勝	4	7	


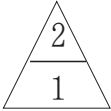
## 第32回 徳島県中学校剣道強化錬成大会

日時 令和4年1月22日(土)  
場所 鳴門ソイジョイ武道館


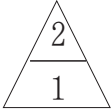
### [団体戦]

順位	男 子	女 子
優 勝	那 賀 川 中 学 校	那 賀 川 中 学 校
準 優 勝	徳 島 中 学 校	小 松 島 中 学 校
第 3 位	城 ノ 内 中 学 校	鳴 門 第 一 中 学 校
第 3 位	鳴 教 大 附 属 中 学 校	徳 島 文 理 中 学 校

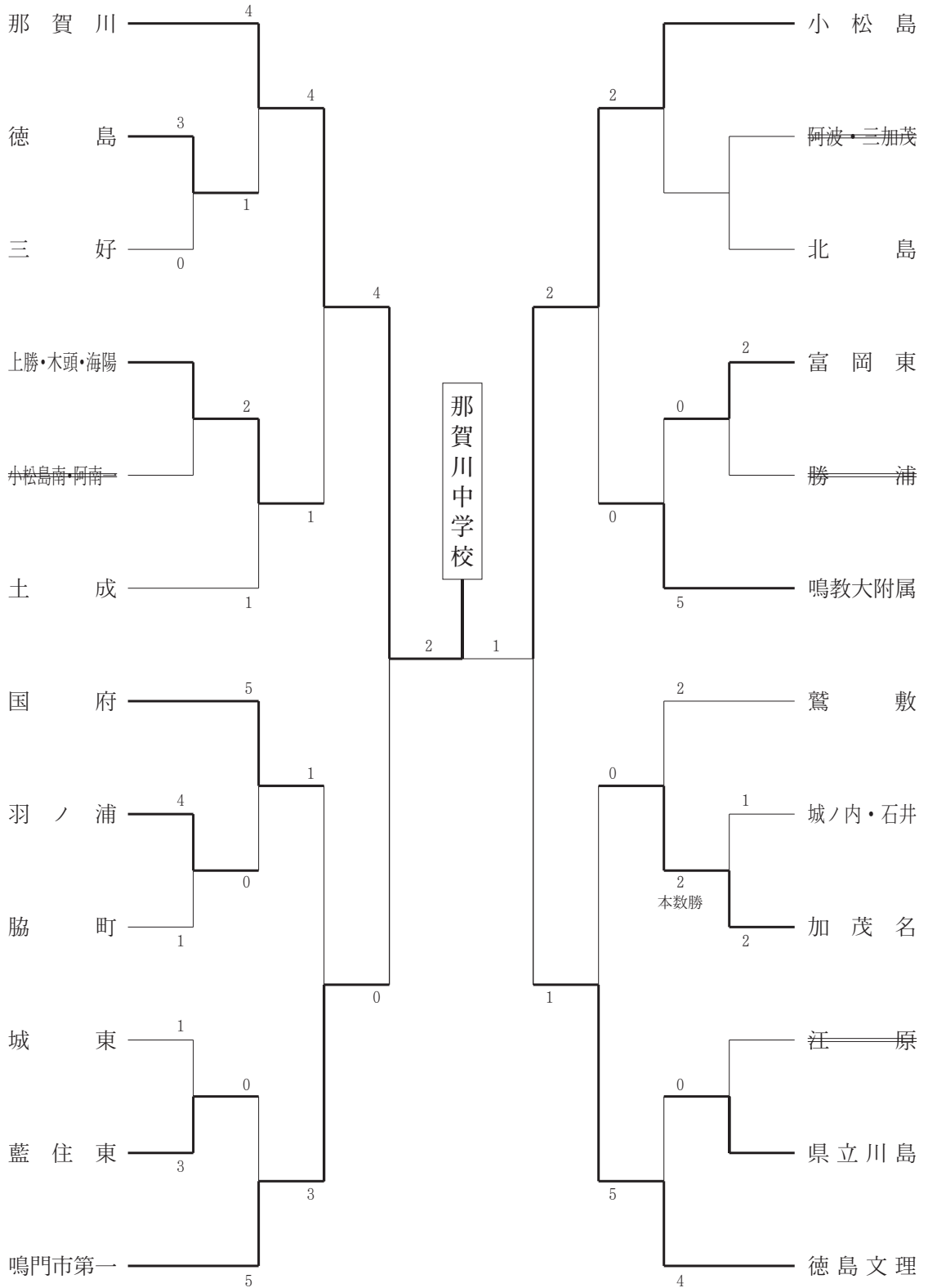
### [男子決勝]

学校名	先 鋒	次 鋒	中 堅	副 将	大 将	勝 敗	代表戦
那賀川中	岩 本	大 和	原	尾 畑	平 松		
	ココ	メ	X	メ			
徳島中			X		メ メ		
	入 江	村 瀬	山 本	多 田	富 増		

### [女子決勝]

学校名	先 鋒	次 鋒	中 堅	副 将	大 将	勝 敗	代表戦
那賀川中	内 田	山 本	柏 原	甘 利	高 嶋		
		X	コ メ	メ メ	X		
小松島中	ド メ	X			X		
	檜 原	中 野	上 村	松 浦	岩 谷		

〈女子団体戦〉





2021年(令和3年)3月23日 火曜日



# 剣道

◆2020年度阿南支部錬成賞受賞者

賞者  
林巧(阿南少年剣道教室)、甘利惟(新野少年剣道教室)、小原優翔(大野小剣道部)、大和希輔、澳津瑛太、曾谷唯人、渡川零、酒田百合愛、川野稔泰(以上那賀川剣道教室わかあひ会)、福本章也、山田稟、北村直路(以上那賀川少年剣道クラブ)、高嶺大翔、藤川創一郎、天羽龍慎、竹内咲綾、上田冬真(以上羽ノ浦剣道教室)

# 徳島新聞に見る戦いの跡

2021年(令和3年)3月28日 日曜日

地域総合 (34)

昨年の県高校総体代替大会剣道女子個人の部を制し、文部科学大臣特別賞を受けた富岡西高校(阿南市)3年の垣内菜々香さん(18)。「お世話になった人たちが喜んでくれて、優勝したという実感が湧いた」と振り返る。試合ではいつも力んで硬くなり、これまで優勝に縁がなかった。新型コロナウイルスの影響で長期間練習は休みに。再開後、手ぬぐいを口にまいてフェースシールドを着けるなどの感染対策にも苦勞した。それでも「最

## 「継続は力」を大切に



後だからいい思い出し(県)では日本文学を専攻しよう」とリラックスしてする。夢は国語教師。臨んだのが功を奏した。「自分で限界を決めずに読書好き。夏目漱石や、続けていけば、いつかい森鷗外などの名著で近代の結果に結びつくことを文学の魅力に触れ、進学 伝えたい」と抱負を語る先の尾道市立大(広島県)。(高橋翼)

ひーぷる

PEOPLE

2021年(令和3年)4月13日

**あわー  
スポーツ**

記録・情報はお客さまセンター  
まで早めにお届けください。

電話 088 (655) 7231  
FAX (0120) 333414  
メール awaspo@topics.or.jp

参加した6年生男子(上)と6年生女子ら



剣道



優勝者と表彰者



◆阿南少年剣道主催6年生大会  
会(目7日・阿南市武道館)  
【男子】①松本泰和(木頭錬心  
館)②大和精輔(那賀川剣道教室)  
③米富貴典(徳島少年剣道教室)  
④吉岡尊弥(徳武館)⑤谷珠菜  
(海部川剣道教室)  
◆第6回目野林月間チャレンジ大  
会(3月27日・吉野川市立川島中  
学校体育館)  
▽小学低学年①山田朋弥(鴨島  
少年剣道教室)▽同中学年の後藤  
田みと②山川修錬館▽同高学  
年の①中川通守(鴨島少年剣道教  
室)▽中学①藏本諒海(川島剣道  
スポーツ少年団)  
▽男子①酒口りあ(鴨島  
少年剣道教室)  
【2020年度最優秀選手】小  
学低学年 原田恵史(山川修錬  
館)▽同中学年 後藤田みと  
(山川修錬館)▽同高年 中川  
通守(鴨島少年剣道教室)▽中学  
藏本諒海(川島剣道スポーツ少年  
団)  
▽女子①藤田由志(山川  
修錬館)②近藤瑞太(上浦剣道教  
室)③佐藤千夏(脇町中)④酒口り  
あ(鴨島少年剣道教室)



2021年(令和3年)4月21日

## 杖で技繰り出す伝統武道

# 「杖道」県内普及へ部会



杖道の稽古に励む会員＝鳴門ソイジョイ武道館

## 県剣道連盟に発足 会員、稽古に励む

日本の伝統武道の一つで、剣道、居合道と並び「三道」に位置付けられている杖道(じょうどう)を、徳島県内で普及、発展させようと、県剣道連盟に今月、杖道部会が発足した。1本の杖で多様な技を繰り出す形武道で、年

齢や性別に関係なく取り組めるのが特徴。大半の都道府県で実施されているが、徳島では行われていなかったため有志が立ち上げた。会員らは技の習得を目指し、稽古に励んでいる。

現在、会員は27、78歳の男性16人、女性1人で、ほとんどが剣道や居合道の経験者。部会発足後初の稽古会が17日に鳴門ソイジョイ武道館であり、県内最高級の腕前を持つ青木茂生部会長(68)の指導の下、参加者らは「えいっ」と気合を込めな

がらさまざまな形の動きを学んで始まり、前後左右に体をさばり、太刀の攻撃をかわし、相手を制する技を出す。試合では、杖を持つ選手と太刀を持つ選手が交代で規定の技を演武し、礼法や姿勢の正しさを、打ち込みの強弱などを審判が判定して勝敗を決める。昨年は新型コロナウイルスの影響で中止になったが、全国大会も毎年開かれている。

全剣連が統括する三道のうち、剣道と居合道は全都道府県で行われている。杖道は43都道府県で稽古会や講習会が開かれているが、徳島、香川、福井、栃木の4県では未実施だった。そのため徳島にも根付かせようと、全剣連理事の米倉滋・県剣道連盟副会長(66)が中心となって2019年度から数人で稽古を開始。徐々に参加者が増え、県連盟に部会の新設が認められた。

今後毎月2、4回のペースで稽古を行い、昇級・昇段審査も受ける。米倉副会長は「左右の手足を使うので健康づくりに向いている。武道経験者でなくても気軽に参加してほしい」と呼び掛け、青木部会長は「県内で杖道の普及、振興を目指したい」と話している。

入会希望などの問い合わせは米倉さん、電話088(668)6660。(石津遼)

# 全国切符目指し

## 第61回 県高校総体

### 各競技の展望

第61回徳島県高校総合体育大会(県高体連、県教委主催、徳島新聞社など後援)は4日から4日間、県内各地で本格的に開かれる。昨年は新型コロナウイルスの影響で中止となったため、県総体の開催は2年ぶりとなる。今大会は32競技に37校の7888人が出場し、6月18日からの四国選手権(水泳を除く)や7、8月に福井、新潟、富山、石川など北信越地区で開かれる全国高校総体(インターハイ)の出場権を懸けて熱戦を繰り広げる。新型コロナウイルス予防のため、全競技を無観客で行い、選手の健康チェックも徹底させる。5月30日に終了した自転車競技を除き、競技別に有力校や注目選手、試合の見どころなどを紹介する。(運動部取材班)

## 男子 城北軸に混戦か 女子 富岡東がリード

### 剣道

17校が出場する男子団体は、1月の県新人大会を制した城北を準優勝の富岡西、4強入りした鳴門渦潮、阿南光が追う。徳島文理、川島も力があり、混戦になる可能性も

ある。個人は四国新人大会準優勝の松本(城北)、県選手権準優勝の立石(阿南光)、同3位の谷川(城北)や元(鳴門渦潮)ら有力だ。9校で争う女子は、3月の全国選抜大会で8強入りの富岡東が抜けている。県新人大会準優勝の徳島文理、富岡西、川島、城北が追う。個人は2年連続で四国新人大会3位の塚田、県選手権優勝の岡崎、同3位の山室、嶋田の富岡東勢の争いとなりそうだ。【日程】5日男女団体▽6日男女個人



4強入りを目指す川島の剣道部員





2021年(令和3年)6月28日



剣道

◆第48回鳴門市戦没者追悼少年大会(6月5日・鳴門市剣道場)  
 【小学】低学年①丹羽拓(鳴門市光武館)②橋本愛美(鳴門市光武館)③橋原暎人(鳴門市光武館)④紅崎尚輝(鳴門市少年剣道教室)  
 【中学】男子①村翔(鳴門一中)②柳田周作(鳴門一中)③加藤雅希(大森中)④佐藤敬(大森中)⑤女子①森長来(鳴門一中)②後藤彩祿(鳴門一中)③西村浩(鳴門一中)



上位入賞者ら

寧▽高学年①矢野大馳(大森錬成館)②橋本実咲(鳴門市光武館)③沖野(鳴門市光武館)④田心音(鳴門少年剣道教室)

徳島新聞 2021年(令和3年)6月15日 火曜日

剣道

小学生 佐古剣道クラブ  
 中学生 鳴門市光武館

V

剣道の第3回徳島県道場連盟少年大会が5月23日、鳴門ソイヨイ武道館で第55回全国道場少年大会と全国道場少年選手権大会の徳島県予選を兼ねて行われた。団体は小学生の部で佐古剣道クラブが優勝、中学生の部は鳴門市光武館道場が制した。佐古剣道クラブと鳴門市光武館道場は全国大会(7月28、29日・大阪市)、個人各クラスの優勝者は全国選手権大会(9月19日・島根県)にそれぞれ出場する。

【団体】小学生の部①佐古クラブA(先鋒①岸田敏春 中堅①眞貝もも、大将①谷本遙)②養武館A▽中学生の部①光武館B(先鋒①秋山鈴奈、中堅①後藤彩祿、大将①森長来)

【個人】小学男子①大和智哉(養武館)②徳原瑞崎(佐古クラブ)③谷本遙(佐古クラブ)④柏原健人(養武館)▽小学女子①眞貝もも(佐古クラブ)②橋本実咲(光武館)③沖野(光武館)④豊田葉菜(光武館)▽中学男子①西村翔(光武館)②柳田周作(光武館)③多田健人(養武館)④鈴木壱二(松和会)▽中学女子①後藤彩祿(光武館)②森長来(光武館)



個人戦の優勝者



団体中学生の部優勝の鳴門市光武館B



団体小学生の部優勝の佐古剣道クラブA

③豊田葉々(佐古クラブ)④谷本真智子(佐古クラブ)

2021年(令和3年)6月20日

(春野総合運動公園体育館)  
 【女子】団体予選リーグA組④  
 富岡西1分け2敗▽B組④川島3  
 敗▽C組④徳島文理3敗▽D組①  
 富岡東3勝  
 ▽決勝トーナメント準決勝 富  
 岡東3-1琴平  
 ▽決勝  
 帝京五 3-0 富岡東  
 ○岡田 梅 藤井  
 ○梶岡 梅 岩本  
 ○小田 梅 山田  
 荒木 塚田  
 乾 岡崎  
 帝京五は2年連続11度目の優  
 勝。  
 ▽個人準々決勝 大西(琴平)  
 コー塚田(富岡東)、荒木(帝  
 京五) 梅 松葉(富岡西)、岡  
 田(帝京五) 梅 山田(富岡東)  
 ▽決勝 大西 1-0 岡田

剣道

2021年(令和3年)6月21日

(春野総合運動公園体育館)  
 【男子】団体予選リーグA組①  
 鳴門渦潮3勝▽B組①富岡西3勝  
 ▽C組①城北2勝1分け▽D組④  
 阿南光3敗  
 ▽決勝トーナメント準決勝 富  
 岡西3-1鳴門渦潮、高知4-1  
 城北  
 ▽決勝  
 高知 3-0 富岡西  
 寺村 田上  
 宇賀 梅 岩谷  
 山崎 梅 三好  
 川田 橋本  
 弘田 梅 松田  
 高知は3年ぶり10度目の優勝。  
 ▽個人準々決勝 松本(城北)  
 梅 松田(富岡西) ▽準決勝  
 片山(新田) コー 松本 ▽決勝  
 片山 1-0 村上(新田)

剣道

富岡西準優勝



前期  
第2日



2021年(令和3年)7月15日

準特選



「先手必勝」 薩摩 弘則(富岡西3年)

県高校総体

写真コンクール



# 徳島 4年ぶり栄冠 女子是那賀川2年連続

2018年7月22日



男子決勝・徳島対那賀川 中堅戦で攻め込む徳島の蔵本(右)  
＝鳴門ソイジョイ武道館 (山田旬撮影)

## 剣道

【男子】団体1回戦  
徳島3-1那賀川  
蔵本3-1岩本  
三宅1-原  
蔵本3-1平松  
片岡3-1橋本  
【女子】団体1回戦  
徳島5-0北城  
1奥立川嶋鳴門3-1木頭  
松茂5-0脇町阿波5-0三好  
驚敷5-0脇町阿波5-0三好

相手(全勝勝)2兼佳 加茂  
名2-1齋 那賀川5-0大麻  
▽回戦 徳島4-0羽浦城  
鳴敷大付4-0阿南▽回戦 那  
賀川4-0奥川島 小松5-1  
内4-1園府 石井5-0山城  
小松5-1代表勝 1兼敷  
東嶋門1-1代表勝 1兼敷  
相手1-阿波 那賀川4-0加  
茂▽準々決勝 徳島5-0城  
内 小松5-0石井 鳴門3  
▽回戦 那賀川3-2相手準  
決勝 徳島3-1小松島 那賀川  
4-1鳴門

▽決勝  
徳島3-1那賀川  
蔵本3-1岩本  
三宅1-原  
蔵本3-1平松  
片岡3-1橋本  
【女子】団体1回戦  
徳島5-0北城  
1奥立川嶋鳴門3-1木頭  
松茂5-0脇町阿波5-0三好  
驚敷5-0脇町阿波5-0三好

八又 兼佳東4-1脇町 加茂名  
3-2高東 石井3-2兼佳  
鳴敷大付4-0阿南▽回戦 那  
賀川4-0奥川島 小松5-1  
内4-1園府 石井5-0山城  
小松5-1代表勝 1兼敷  
東嶋門1-1代表勝 1兼敷  
相手1-阿波 那賀川4-0加  
茂▽準々決勝 徳島5-0城  
内 小松5-0石井 鳴門3  
▽回戦 那賀川3-2相手準  
決勝 徳島3-1小松島 那賀川  
4-1鳴門

▽決勝  
徳島3-1那賀川  
蔵本3-1岩本  
三宅1-原  
蔵本3-1平松  
片岡3-1橋本  
【女子】団体1回戦  
徳島5-0北城  
1奥立川嶋鳴門3-1木頭  
松茂5-0脇町阿波5-0三好  
驚敷5-0脇町阿波5-0三好

## 堅実な試合運びで主導権 徳島

昨年の県新人大会と同日の言葉通り、中堅の蔵本主将は打ち込みを交わすことから「引き面」に続き、つばせり合いから胴を決めて流れを確実にした。副将は敗れたが、本数差で優勝が決まった。大将の片岡は相手の隙を突くドウを決め、勝利に締めくくった。

新チーム発足後、全中制覇を目標に腕を磨いてきたといい、橋本、蔵本、片岡は全勝するなく、稽

古の成果を存分に発揮した。松本監督は「個々の良いところが出せた」と振り返り、試合後は選手一人一人の頭をなでながら頭張りをたたえた。

県大会はあくまでも通過点と強調する蔵本。「全員が底力を出発できたけれど、仕掛けたら受けたりした後に隙もあった。しっかりと課題を克服する」と心技体の錬成を誓った。(石川浩行)

込む接戦となった女子団体決勝は、那賀川が地方を發揮して逆転勝ちした。1勝同士で迎えた副将戦で甘利が得意のコテで勝ち越し、「練習してきたことを出し切る」と臨んだ大将の高嶋が引き分けに持ち込んだ。連覇を成し遂げた選手たちは涙を流して喜び合った。控えに回った内田美主将は写真の応援も力を与えた。中学で剣道を始めた唯一の3年生として部をけん引。この日は2回戦と準々決勝に登場し、1勝1分けでチ





2021年(令和3年)7月24日

第 7 日

剣道

(鳴ノイシヨイ武道館)  
 【男子個人準々決勝】片岡徳島×1 桑原(羽ノ浦)、藏本(徳島)×1 西岡(木頭)、橋本(那賀川)×1 櫻原(小松島)、楠本(徳島)×1 前田(土成)  
 ▼準決勝 片岡ドコ 藏本、橋本コ 楠本 ▼代表決定戦 藏本コ×1 楠本  
 ▼決勝  
 片 岡×1 橋 本  
 【女子】個人準々決勝 内田(那賀川)×1 櫻原(小松島)、鈴江(木頭)×1 川野(徳島)、秋山(徳島文理)×1 甘利(那賀川)、高嶋(那賀川)×1 横山(石井) ▼準決勝 鈴江×1 内田、高嶋×1 秋山  
 ▼決勝  
 鈴 江ド 高 嶋

男子 白木 (名西支部)  
 女子 山田 (富岡東高) V  
 全日本剣道県予選  
 剣道の第69回全日本選手権・第60回全日本女子選手権徳島県予選会は23日、県立中央武道館で行われ、14人で争った男子は白木恒一郎(名西支部)、8人が出場し

た女子は山田莉子(富岡東高)が優勝した。白木は全日本選手権(11月3日・東京都)、山田は全日本女子選手権(9月19日・奈良県)の代表権を得た。  
 【男子】準々決勝 白木恒(名西支部)×1 大山(徳島大)、西田(徳島支部)×1 日和田麻植支部、竹内(鳴門支部)×1 大石(阿南支部)、森(徳島支部)×1 山井(阿南支部) ▼山 田コ 山 室  
 ▼決勝  
 白木恒×1 森  
 【女子】1回戦 岩本(富岡東高)×1 坪井(環太平洋大)、山田(富岡東高)×1 西井(鳴教大)、山室(富岡東高)ド 松葉(鳴教大)、塚田(富岡東高)×1 藤井(富岡東高) ▼準決勝 山田×1 岩本、山室×1 塚田





# 全国高校総体

## 北信越

第18日

全国高校総体体育大会（インターハイ）第18日は19競技行われた。金沢市のいしかわ総合体育センターでは、八代白百合学園は徳島中出身の大将・岩原千

# 富岡東女子8強ならず

## 城北男子決勝T進出

### 剣道

（いしかわ総合）

【男子】団体予選リーグ

城北	北二	野田学園
宮田	山	山口
宮田	佐伯	
小田	村沢	
永浜	齊藤	
松本	藤井	
北	仙台育英	
宮木	宮城	
宮田	長南	
小田	北瀬口	
永浜	遠藤	
松本	伊深	
松本	渡会	
▽予選リーグ	▽予選リーグ	▽予選リーグ
▽予選リーグ	▽予選リーグ	▽予選リーグ
▽予選リーグ	▽予選リーグ	▽予選リーグ

千佳（同じ徳島中出身の松山若樹と共に準優勝に貢献）、「松山選手と二人で支え合って練習してきた成果が出て良かった。準優勝に終わったけど、2年生なので、もう一度チャンスがある。来年は地元の四国で優勝できるように頑張りたい」



先鋒（せんほう）が引き分けて緊張感が漂う中、機先を制したのが次鋒の藤井II写真右IIだった。相手Iが上段の構えに

佳と副将・松山若樹（わかなが）が活躍し、準優勝した。男子団体の城北は予選リーグを1位で通過し、決勝トーナメント（熊本）に代表負けし、8強入りを逃した富岡東。3月の全国選抜大会で8強に

入るやいなや、公式戦で初めて決めたというツキでリードを奪い、「命中率が悪いので毎日練習していた」と喜んだ。

# 柏木（吉野）4強逃す

## ホクシング

（福井県体育連）

▽予選リーグ

定で屈した。「プレッシャーをかけられ、有効打を当てられなかった。接戦を振り返り、深く負けを認めた。



ともにサウスポー同士。1回は互いにシャッパを打ち合う展開となり、2回以降は得意の左ストレートを当てようとする距離を詰めたところが、4強入りの懸かった一戦で難敵を攻略できず、判

## 主権握れず 接戦を落とす

（八代白百合）

1-1 富岡東

1、2回戦を順調に勝ち上がったってきた11級の柏木（吉野川）II写真左IIが、4強入りの懸かった一戦で難敵を攻略できず、判

ながら横に動いてかわし続けた。主権を握れな

2021年(令和3年)8月12日

2021年(令和3年)8月13日 金曜日

# 全国高校総体

## 北信越

第19日

全国高校総体体育大会（インターハイ）第19日は12日、北信越5県で8トナメント1回戦で磐田東（静岡）に0-1で敗れ、8強入りを逃した。

# 城北男子8強逃す

### 剣道

（いしかわ総合）

【男子】団体予選トーナメント

城北	北	宮田
宮田	山	山口
宮田	佐伯	
小田	村沢	
永浜	齊藤	
松本	藤井	
北	仙台育英	
宮木	宮城	
宮田	長南	
小田	北瀬口	
永浜	遠藤	
松本	伊深	
松本	渡会	
▽予選リーグ	▽予選リーグ	▽予選リーグ
▽予選リーグ	▽予選リーグ	▽予選リーグ
▽予選リーグ	▽予選リーグ	▽予選リーグ

城北。先鋒（せんほう）Iを1位通過して同様の16強入りを果たし、初戦で1本取って守りに入った相手に対し、城北は各選手が果敢に技を仕掛け、大將の松本主将II同左IIは「全員から勝ちたいという気持ちが出ていて雰囲気良かった。チームとして、これまで一番いい試合ができた大会だったと充実感を覚えました」



を組んで攻めたが取り切れなかった」と振り返り、初戦で磐田東（静岡）に0-1で惜敗し、8強に届かなかった男子団体の

## フエシング

柔道は女子個人78級で溝渕菜月（生茂学園）が3回戦まで進んだものの、8強入りはならなかった。フエシングでは、女子個人Aへの花岡亜美（徳島文理）が予選トーナメント1回戦を突破してベスト16入りし、13日の2回戦に進出した。

（須見千次郎）



2021年(令和3年)8月22日

全国中学校  
体育大会  
第5日

れも決勝トーナメントに進めなかった。体操女子は須原渾音(鳴門)が個人総合で40位だった。

徳島男子は  
決勝ト逃す

剣道

全国中学校体育大会(全中)第5日は22日、川崎市とろろきアリーナなどで行われ、剣道男子団体の徳島はグループトーナメント1回戦を突破したが、2回戦で九州学院(熊本)に敗れ、決勝トーナメント進出はならなかった。パドミントン女子個人ダブルスの佐藤西・高橋舞組(徳島)は1回戦で敗退。相撲個人の髙原史恩(石井)、長谷川奨(阿南)はじ

徳島1	東(宮城)	本数勝	橋本メー	渡邊
徳島2	三宅	清野	早坂	小笠原
徳島3	蔵本	早坂	小笠原	秋葉
徳島4	徳島	秋葉	秋葉	秋葉

2021年(令和3年)8月23日

全国中学校  
体育大会  
第6日

剣道

徳島1	星改汰	山梨・玉	橋本葵	伊藤院
徳島2	山梨・玉	橋本葵	伊藤院	伊藤院
徳島3	山梨・玉	橋本葵	伊藤院	伊藤院
徳島4	山梨・玉	橋本葵	伊藤院	伊藤院

2021年(令和3年)8月23日

剣道



◆2021年度阿南中央ローグ1クラブ杯喜喜喜少年大会兼徳島県ホーツ少年大会阿南市選考会(7月25日、阿南市武道館)【団体】小学低学年①徳島剣道塾A(先鋒)河田淳紀、中堅②水口明貴、大将③棚橋斗、④阿南少年剣道教室⑤那賀川剣道教室

かあゆ会⑥徳島剣道塾B⑦高学年⑧阿南少年剣道教室A(先鋒)西岡葵士、中堅②金澤翔、大将③阿井輝④徳島剣道塾⑤那賀川剣道教室わかあゆ会A⑥阿南少年剣道教室B【個人】新人主①平田妃奈(那賀川剣道教室わかあゆ会)②平田紗愛(徳島剣道塾③上原徳香徳島剣道塾④廣瀬将也(大野小剣道部)⑤小学1年①大西潤②那賀川剣道教室わかあゆ会③野村拓未(徳島剣道塾)④水口相奈(徳島剣道塾)⑤亀井結心(徳島剣道塾)⑥藤原真(那賀川剣道塾)⑦2年①福田真(那賀川剣道教室わかあゆ会)②高橋明里(徳島剣道塾)③鹿島凛子(徳島剣道塾)④大松谷澤太郎(那賀川)

2021年(令和3年)9月20日

山田(富岡)は  
1回戦敗退

全日本女子剣道 剣道の第60回全日本女子選手権は19日、奈良県橿原市のシエイクトアリーナ奈良で行われ、徳島県の山田莉子3段(富岡高)は1回戦で敗退した。妹尾舞香4段(鹿屋体大)が2度目の出場で初優勝を果たした。妹尾は連決勝で川合芳奈3段(筑波大)を下し、決勝では志藤綾子5段(伊田エクス)からメ

富永	山田
志藤	志藤
藤	藤

2021年(令和3年)11月8日

剣道

◆第24回西杯争奪少年大会(10月10日・鳴門アミナリニューホ

ル) 【小学】低学年の徳島剣清塾②



小学高学年の部優勝の阿南少年剣道教室



小学低学年の部優勝の徳島剣清塾



中学女子の部優勝の城ノ内・木頭



中学男子の部優勝的那賀川

小松島少剣クラブ③鳴門市光武館道場③徳島少年剣道教室▽高学年①阿南少年剣道教室②小松島少剣クラブ③右井少年剣道クラブ③徳島少年剣道教室  
【中学】男子①那賀川(徳島)②鳴門第一③小松島④女子①城ノ内・木頭の木頭心館・海部川剣道教室②鳴門第一③那賀川④

2021年(令和3年)11月25日

剣道の第40回徳島県大  
学選手権層山杯大会は23  
日、徳島市の徳島文理大  
体育館剣道場で男女の個  
人戦が行われ、男子は松  
本喜起(徳島大蔵本)、

松本(徳島大蔵本)と  
田村(四国大)優勝

県大学剣道

女子は田村真尋(四国大)が優勝した。

【男子】準々決勝 森(徳島大蔵本)ドメー 矢田(徳島大蔵本)、片岡(徳島大蔵本)メー 兼近(鳴教大)、小山田(徳島大蔵三島)メー 諸君(徳島文理大)、松本(徳島大蔵本)メー 小島涼(徳島大蔵三島)▽準決勝 片岡コメー 森、松本メー 小山田

▽決勝

松 本コメー 片岡  
【女子】準々決勝 森川(鳴教大)コメー 藤井(徳島大蔵本)、福山(四国大)メー 村本(徳島大蔵三島)、北林(徳島大蔵三島)メー 藤藤(徳島大蔵本)、田村(四国大)メー 阿部(徳島文理大)▽準決勝 福山メー 森川、田村メー 北林

▽決勝

田 村メー 福山



2021年(令和3年)11月24日

# 那賀川 男女とも優勝

剣道

県中学新人大会

剣道の第46回徳島県中学校新人大会は23日、鳴門ソイヨイ武道館で男子25校、女子20校が参加して団体戦が行われ、男女とも那賀川が優勝した。男子は2年ぶり8度



女子団体決勝・那賀川対徳島文理 中堅戦を制し優勝を決めた那賀川の柏原(右) 鳴門ソイヨイ武道館(山崎哲撮影)

目、女子は3年連続20年度の栄冠。男女の上位4校が四国新人大会(来年2月20日・鳴門アミ)パリュウホール)に出場する。

【男子】団体1回戦 小松島3 1山城 羽津2 1園府 石井4 1板野 脇2 本数勝2 鷲敷 城東3 1半田 阿波5 付 準決勝 那賀川4 1阿南

徳島3 1鴨島 1加茂名、鴨島4 0 藍住東 鳴教大付3 10 藍住、三好3 1 2 瀬戸、大塚2 1 徳島文理2 回戦 那賀川4 0 小松島、石井4 1 羽津、松茂3 0 勝野、城内5 0 城東、鴨島5 0 阿波、鳴教大付4 1 三好、徳島3 1 2 大塚、準々決勝 那賀川5 0 石井、阿南3 1 松茂、鴨島2 3 1 城内、徳島4 1 鳴教大付 準決勝 那賀川4 1 阿南

士成2 0 北島、鳴教大付1 代表 表勝ち 1 羽津、徳島文理4 1 勝浦、準々決勝 那賀川5 0 鷲敷、小松島3 1 園府、鳴門1 4 1 土成、徳島文理1 本数勝ち 1 鳴教大付 準決勝 那賀川3 0 小松島、徳島文理2 1 鳴門 1 準決勝 那賀川5 0 徳島文理 0 内田、コヨー 北倉 0 山本、コヨー 米島 0 柏原、メド1 小田 0 甘利、コヨー 中村 0 高嶋、ドメ1 秋山

## 圧倒オール2本勝ち 女子

相手に付け入る隙を与えなかった。女子決勝は那賀川がオール2本勝ちと、徳島文理を圧倒して3連覇。開始50秒足らずで2本目のメンを決めた大将の高嶋は「みんなが2本取っていたので続きがなかった。ほっとした」と笑みを浮かべた。

積極的に仕掛けた先鋒(せんほう)の内田、鋭い竹刀さばきを見せた次鋒の山本が連勝し、優勝に王手。中堅の柏原主将は「170センチの長身を生かして、やや遠い間合いから思い切りよく踏み込んで

メンを奪うと、直後には鮮やかな返しドウで勝負を決めた。チームの大黒柱は「先生や仲間のアドバイスを生かして力を発揮できた」と喜んだ。同じ5人で臨んだ今夏の県総体を3年ぶりに制した。全国中学校体育大会(全中)は初戦で敗れたものの、収穫も多く得た。目標は来夏の全中入賞。副将の甘利は「チームの団結を強め、一人一人も持ち味を出せるように努力していく」とさらなる精進を誓った。(石津遼)



## 今夏のリベンジ

○今夏の県総体決勝と同じ顔合わせとなった男子決勝は、那賀川が徳島にリベンジを果たした。2年ぶりに頂点に立った。200で迎えた副将戦で、先にコテを取られながらもメンの2連取で優勝を決めた岩本は「1本取られても慌てず、切り替えて自分の剣道ができた」とうなずいた。準備優勝に終わった県総体後はチーム内のコミュニケーションを重視。互いの課題や弱点を遠慮せず

に指摘し合い、改善やレベルアップにつなげてきた。大将の平松主将「写真Ⅱは「ずっと倒されてきた相手に勝ててうれしい」と喜びつつ、「今後県内の大会は全部優勝したい」と気持ちを引き締めていた。

# 男女各6部門 代表決まる

## 剣道

部道府県対抗県予選

剣道の第70回全日本都道府県対抗優勝大会と第14回同女子優勝大会の出場を懸けた徳島県予選会は12日、鳴門ソイジョイ武道館で行われ、男女各6部門の代表が決まった。男子は次鋒(じほう)・河野寛之(中部大)、5将・松本好史(小松島支部)、中堅・白木恒一郎(名西支部)、3将・山本義征(警察支部)、副将・日和田慈海(麻植支部)、大将・玉田晋作(徳島支部)となった。女子は中堅・長地千景(阿南支部)、3将・前田奈々枝(阿波支部)、大将・竹内佳代子(鳴門支部)が代表に。出場1人の部門は次鋒・山室愛子(徳島支部)、5将・松本美紗樹(警察支部)、副将・金野裕美(徳島支部)に決まった。

男女とも先鋒は、県高体連から推薦される。男子の全日本大会は来年4月29日に大阪市で、女子は7月10日に東京都で開催予定。(山口隆弘)

【男子】次鋒(大生) 決勝 河野寛之(中部大) 松本好史(徳島大)

5将(18歳以上35歳未満) 1 田中(極東支部) 2 取

3 井口(極東支部) 4 竹内(鳴門支部)

5 玉田(徳島支部)

【女子】中堅・3将(30歳以上) 35歳以上 準決勝 日和田慈海(阿波支部) 1勝1敗

2勝(長地千景(阿南支部) 1勝1敗)

3 井口(極東支部) 2 取

4 竹内(鳴門支部) 5 玉田(徳島支部)

【男子】3将・山本義征(警察支部) 11人の争い(お互い「お互い」を制し)

【女子】3将・山本義征(警察支部) 11人の争い(お互い「お互い」を制し)

【男子】3将・山本義征(警察支部) 11人の争い(お互い「お互い」を制し)

【女子】3将・山本義征(警察支部) 11人の争い(お互い「お互い」を制し)

【男子】3将・山本義征(警察支部) 11人の争い(お互い「お互い」を制し)

【女子】3将・山本義征(警察支部) 11人の争い(お互い「お互い」を制し)

【男子】3将・山本義征(警察支部) 11人の争い(お互い「お互い」を制し)

【女子】3将・山本義征(警察支部) 11人の争い(お互い「お互い」を制し)

【男子】3将・山本義征(警察支部) 11人の争い(お互い「お互い」を制し)

【女子】3将・山本義征(警察支部) 11人の争い(お互い「お互い」を制し)

【男子】3将・山本義征(警察支部) 11人の争い(お互い「お互い」を制し)

【女子】3将・山本義征(警察支部) 11人の争い(お互い「お互い」を制し)

【男子】3将・山本義征(警察支部) 11人の争い(お互い「お互い」を制し)

【女子】3将・山本義征(警察支部) 11人の争い(お互い「お互い」を制し)

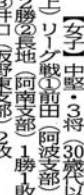
【男子】3将・山本義征(警察支部) 11人の争い(お互い「お互い」を制し)

【女子】3将・山本義征(警察支部) 11人の争い(お互い「お互い」を制し)

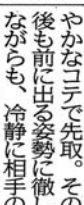
【男子】3将・山本義征(警察支部) 11人の争い(お互い「お互い」を制し)

【女子】3将・山本義征(警察支部) 11人の争い(お互い「お互い」を制し)

【男子】3将・山本義征(警察支部) 11人の争い(お互い「お互い」を制し)



【男子】3将・山本義征(警察支部) 11人の争い(お互い「お互い」を制し)



【女子】3将・山本義征(警察支部) 11人の争い(お互い「お互い」を制し)



男子5将戦決勝で果敢に攻め込む松本(右) 鳴門ソイジョイ武道館(岡野将大撮影)

【男子】3将・山本義征(警察支部) 11人の争い(お互い「お互い」を制し)

【女子】3将・山本義征(警察支部) 11人の争い(お互い「お互い」を制し)

【男子】3将・山本義征(警察支部) 11人の争い(お互い「お互い」を制し)

【女子】3将・山本義征(警察支部) 11人の争い(お互い「お互い」を制し)



2021年(令和3年)12月13日 月曜日



剣道

◆清原杯争奪第66回県下大会 10月31日、11月3日・阿南市立新野中学校ほか

【小学】小松島少剣クラブ先鋒 西尾育真、次鋒 原瑛大、中堅 川添将義、副将 橋本愛生、大将 上村優亜、補員 平井大陽、殿川鉄心、②新野教室、③阿南教室、③徳島剣道塾  
【中学】男子 ①那賀川(先鋒 岩本響輝、次鋒 大和優真、中堅

原那史多、副将 尾畑涼月、大将 平松政樹、補員 黒崎蒼太、稲田裕亮、②徳島 ③城ノ内 ③阿南  
▽女子 ①那賀川(先鋒 内田こころ、次鋒 山本実加子、中堅 柏原あこ、副将 甘利慧、大将 高嶋核子、補員 濱田心愛、吉岡未徠、②徳島文理 ③鳴門第一 ③国府

城北  
▽女子 ①富岡東(先鋒 鳥澤明未、次鋒 小島理奈、中堅 平田大和、副将 嶋田優月、大将 谷村七海、補員 坂野陽菜、村田七菜、②富岡西 ③城北 ③阿南光  
【一般】男子 ①阿南支部(先鋒 濱田諒、次鋒 井上稔大、中堅 大石真也、副将 敦賀晋平、大将 林洋行、補員 大城健作、②徳島支部 ③徳島大学 ④小松島支部  
▽女子 ①阿南支部(先鋒 長谷川愛実、中堅 長地千景、大将 阿井恵子、②徳島大学 ③小松島支部

2021年(令和3年)12月20日 月曜日

剣道

◆第16回吉野川市民体育祭(11月21日・美郷ふるさとセンター)体育剣道教室B  
【団体】①上浦剣道教室A ②吉野川少年剣道教室A ③吉野川少年剣道教室B

【個人】木刀による剣道基本技稽古法 ①片岡寛之 ②後藤田正之 ③山出直樹 ④森本伸子 ⑤小学2年生以下 ⑥北川心都 ⑦山出朋弥 ⑧原田恵史 ⑨森本貴介 ⑩3・4年 ⑪三好琥珀 ⑫片岡遼大 ⑬山出直弥 ⑭高居湧大 ⑮5・6年 ⑯三木琉真 ⑰後藤田みさと ⑱近藤瑠太 ⑲坂東真帆 ⑳中学男子 ㉑藏本望海 ㉒四宮真一郎 ㉓佐藤圭悟 ㉔七條隼 ㉕同女子 ㉖前田優莉 ㉗正木七菜 ㉘佐藤優多 ㉙阿部花南 ㉚高校男子 ㉛小原将暉 ㉜海部樹 ㉝野尻壮馬 ㉞七條樹 ㉟同女子 ㊱伊丹千尋 ㊲坂東皇夢 ㊳尾方暖心 ㊴兼松優那 ㊵一般 ㊶鳴瀧朝希 ㊷花川智彦 ㊸本間佑太郎 ㊹三好延年



上位入賞者ら

2022年(令和4年)1月10日



1・2年の上位入賞者ら



5・6年の上位入賞者

◆2021年度徳門市体育祭  
 (1月27日・鳴門市剣道)  
 【小学】毎年〇徳田菜(鳴門市光武) 〇藤原人(鳴門市光武) 〇橋本実(鳴門市光武) 〇高学年〇矢野大馳(大塚練成) 〇橋本実咲(鳴門市武越) 〇吉水百花(鳴門教室)  
 【中学】男〇吉田天晴(鳴門第) 〇佐藤誠之介(天麻) 〇清水悠成(天麻) 〇宇〇西村権(鳴門第) 〇大塚仁葉(鳴門第) 〇山根梨(鳴門第)  
 ◆第4回若狭杯争奪大会(1月23日・那賀川スポーツセンター)  
 【団体】小学1・2年の徳島剣道連(先鋒) 〇高橋明真(中堅) 〇鹿島優太(大将) 〇岩瀬時(〇和由馬クラブ) 〇白根心葵(那賀川教室) わかあゆ会  
 〇3・4年の徳島剣道連(先鋒) 〇河田純(中堅) 〇水口朝貴(大

塚) 〇堀尾輝斗(〇阿南教室) 〇日亜練心館(〇徳島教室)  
 〇5・6年の阿南教室A(先鋒) 〇西岡葵土(中堅) 〇澤崎大(大将) 〇小松崎少剣クラブ(〇徳島剣道連A) 〇阿南教室B

3・4年の上位入賞者ら

剣道



上位入賞者

2022年(令和4年)1月18日



1・2年の入賞者



5・6年の入賞者



3・4年の入賞者

◆徳島県第38回新野少年剣道大会(12月19日・阿南市立新野中学校)  
 【個人】小学1年の野村拓未(徳島剣道連) 〇山原彰(鴨島教室) 〇長原真(新野教室) 〇赤嶺凌翔(徳島至誠館) 〇若尾詩(徳島剣道連) 〇高橋明真(徳島剣道連) 〇本貫介(鴨島教室) 〇大松大郎(那賀川教室) わかあゆ会 〇3年の水口朝貴(徳島剣道連) 〇平田尊(徳島剣道連) 〇大内克(那賀川教室) わかあゆ会 〇4年の河田純(徳島剣道連) 〇山ノ井夏希(那賀川教室) わかあゆ会 〇小島陽斗(大野小剣

剣道

道部) 〇川添大義(小松崎少剣クラブ) 〇5年の河田生(徳島剣道連) 〇水口新汰(徳島剣道連) 〇長崎和子(新野教室) 〇鹿島大雅(徳島剣道連) 〇6年の阿南教室(〇三木瑠真(吉野川教室) 〇上村徳亜(小松崎少剣クラブ) 〇金澤悠翔(阿南教室)







# 悲願の初優勝へけん引

昨年8月、金沢市で行われた全国高校総体(インターハイ)剣道競技の女子団体。決勝トーナメント1回戦で徳島県代表の富岡東を代表戦の末に下して勢いに乗った八代白百合学園(熊本県)は、それまでの最高成績のベスト8を上回り、初の決勝進出を果たした。

春の全国選抜で優勝4度を誇り、玉童旗大会(福岡)、魁星旗大会(秋田)

**岩原 千佳**  
**松山 若樹**

熊本・八代  
白百合学園  
(徳島中出身)

剣道



インターハイ剣道女子団体で優勝を狙う岩原(左)と松山=熊本県八代市(八代白百合学園高校提供)

を制したこともある名門強豪、中村学園女子(福岡)を背負い込んだ。なぜかインターハイ(岡)との決勝は0-0で、代表戦にもつれ込み、命山も悔しさを味わった。悲願の初優勝を目指すチームを引っ張るのは、徳島出身の2人の2年島中出身の2人の2年。突入。岩原が竹刀を少し上げた時、鋭いコテを、小松島市出身だった。5大会連続優勝を狙う

激闘を見つめるしかなかつた。小学生時代から同じクラブで剣道に打ち込んだ岩原と松山は、徳島中3年の時に徳島県総体、四国総体の団体でいずれも初優勝を成し遂げた。大阪市で行われた全国中学校体育大会(全中)にも出場した。進学先を選ぶに当たって、2人はレベルの高い九州から全国制覇を目指す道を選ぶ。岩原は「本一を目指すという奮闘

気と楽しそうな雰囲気があり、めりはりが利いている」という点に引かれたという。熊本県内外から集った選手との寮生活は充実していた。日常生活でも剣道でも「相手の思いをくめるような人間になりたい」と澤田武秀(たつひで)監督から教えられ、着実に歩んできた。

昨年のインターハイの後、新チームで岩原は主将、松山は副主将になった。澤田監督は「一部の歴史をつくってほしい」と、2人に全幅の信頼を寄せ

敗れた代表戦で最後に決められたコテの感触をまだ覚えているという岩原は「二つ二つの場面、一瞬を大切にしよう」とより強く心掛けるようになった。松山は「一本の重さを意識して、気持ちで負ける。『いける』と信じて打てるようにしたい」と話す。

高知県で開かれるインターハイで目指す日本一の頂はすぐそこだ。まずは3月下旬の全国選抜で5度目の戴冠を狙う。

(加治陽) におわり



令和四年度

# 剣道・居合道・杖道昇段審査 学科試験問題・解答例

## 【剣道】

### 初段の部

1 日本剣道形太刀の形の一本目・二本目・三本目について説明した文の（ ）に適語を語群から選び記入なさい。

〔一本目〕

打太刀は諸手(①)、仕太刀は諸手(②)で、打太刀は左足、仕太刀は右足から、互いに進み、間合に接したとき、打太刀は機を見て右足を踏み出し、仕太刀の(③)を打つ。

この度、徳島県剣道連盟では、学科問題検討委員会を開設し、剣道および居合道の段位審査学科問題の改訂と杖道段位審査学科問題の策定について協議をし、平成四年度から実施することとなった。

なお、この解答にあたっては、適語選択については名称等、正確に記憶しておかねばならない事項もあるが、記述式の問題においては、今の自分のレベルで考え、自分の言葉で表現することを求めている。

打ち込んでくるのを抜いて、大きく右足を踏み出すと同時に打太刀の(⑥)を打つ。

〔三本目〕

打太刀、仕太刀相(⑦)で互いに右足から進み、間合に接したとき、互いに気争いで自然に相中段になる。そこで打太刀は機を見て、刃先を少し仕太刀の左に向け、右足から一歩踏み込みながら、鎧ですり込み、諸手で仕太刀の(⑧)を突く。仕太刀は、左足から一歩大きく体をひきながら、打太刀の刀身を物打ちの鎧で軽く入れ突きになやすと同時に打太刀の(⑨)へ突き返す。

打太刀はこの時、右足を後ろにひくと同時に、剣先を仕太刀の刀の下から返して、諸手をやや伸ばし、左自然体の構えとなり、剣先は仕太刀の(⑩)につけて仕太刀の刀を物打ちの鎧で右に押さえる。

《語群》 中段 下段 左上段 右上段  
水月 正面 咽喉部 右小手  
顔 胸部

⑥	①
⑦	②
⑧	③
⑨	④
⑩	⑤

〔解答〕 ①左上段 ②右上段 ③正面 ④顔

⑤中段 ⑥右小手 ⑦下段 ⑧水月  
⑨胸部 ⑩咽喉部

仕太刀は、左足から右足をともなって左斜め後ろにひくと同時に、剣先を下げて、打太刀の刀の下で半円をえがく心持ちで打太刀の

打太刀、仕太刀相(⑤)で、互いに右足から進み、間合に接したとき、打太刀は機を見て仕太刀の(⑥)を打つ。



2 「気剣体一致」について説明した文の( )に適語を語群から選び記入しなさい。

主に打突動作に関する教えであり、気とは(①)、剣とは(②)、体とは(③)と体勢のことである。これらがタイミングよく(④)がとれ、一体となって働くことで(⑤)となり得る。

《語群》有効打突 気力 体さばき  
調和 竹刀操作

①
②
③
④
⑤

〔解答〕 ①気力 ②竹刀操作 ③体さばき  
④調和 ⑤有効打突

3 全日本剣道連盟が制定した「剣道の理念」の( )に適語を語群から選び記入しなさい。

『剣道は(①)の(②)の(③)による(④)の(⑤)である』

《語群》人間形成 理法 道 剣  
修錬

①
②
③
④
⑤

〔解答〕 ①剣 ②理法 ③修錬  
④人間形成 ⑤道

4 「切り返しの目的」について説明した文の( )に適語を語群から選び記入しなさい。

切り返しは、正面打ちと、連続左右面打ちを組み合わせ、基本動作を総合的に練習するためのものである。切り返しのなかで、姿勢や(①)、打ちの(②)や手の内の作用、足さばき、(③)の取り方、(④)、さらに体力や気力を養い、(⑤)の打突の習得を目的とする。

《語群》間合 刃筋 気剣体一致  
構え 呼吸法

①
②
③
④
⑤

〔解答〕 ①構え ②刃筋 ③間合  
④呼吸法 ⑤気剣体一致

### 二段の部

1 日本剣道形太刀の形四本目と五本目について説明した文の( )に適語を語群から選び記入しなさい。

〔四本目〕

打太刀は、(①)、仕太刀は(②)で、互いに左足から進み間合に接したとき、打太刀は機を見て(①)から、諸手左上段に、仕太刀もすかさず(②)から、諸手左上段に変化して、互いに右足を踏み出すと同時に、十分な

(③)で相手の(④)に打ち込み、切り結んで相打ちとなる。

相打ちとなつてからは、双方同じ気位で互いの刀身が鏑を削るようにして、自然に相中段となり、打太刀は機を見て刃先を少し仕太刀の左に向け、右足を(左足もともなつて)進めると同時に、諸手で仕太刀の(⑤)を突く。

仕太刀は、左足を左前に、右足をその後ろに移すと同時に大きく巻き返して打太刀の(④)を打つ。

打太刀は左足から、仕太刀は右足から十分に(⑥)の気位を示しながら相中段になりつつ、抜き合わせた位置にもどり、剣先を下げて元の位置にかえる。

〔五本目〕

打太刀は(⑦)、仕太刀は(⑧)で、打太刀は(⑨)から仕太刀は(⑩)から、互いに進み、間合いに接したとき、打太刀は機を見て右足を踏み出すと同時に(⑦)から、仕太刀の(④)を打つ。

仕太刀は、左足からひくと同時に左鏑で打太刀の刀をすり上げ、右足を踏み出して(④)を打ち、右足をひきながら(⑦)に振りかぶって残心を示す。

打太刀が剣先を(⑧)につけ始めるので、同時に仕太刀も左足をひいて剣先を(⑧)に下ろし、相(⑧)になる。打太刀は左足から、仕太刀は右足から小足三步で、刀を抜き合わ

せた位置にもどり、剣先を下げて元の位置にかえる。

《語群》 中段 下段 諸手左上段

脇構え 諸手右上段 八相の構え  
正面 残心 氣勢 右肺  
右足 左足 胸部 咽喉部

⑥	①
⑦	②
⑧	③
⑨	④
⑩	⑤

〔解答〕 ①八相の構え ②脇構え ③氣勢

④正面 ⑤右肺 ⑥残心  
⑦諸手左上段 ⑧中段 ⑨左足  
⑩右足

## 2 「打突の好機」について五つあげなさい。

〔解答〕 以下の基本的な項目から答えること。

- ・相手の動作の起こり(出ばな)
- ・技の尽きたところ(動作や技が終わったところ)
- ・居ついたところ(身体の緊張がゆるんだ瞬間、気持ちで圧倒されたとき)
- ・退がるどころ(引きはな)
- ・受け止めたところ(受け止めた時に隙が生じる)
- ・息を深く吸うところ(息を吸う時は、相手の動作が止まる)

3 「稽古で心がけなければならないこと」について述べた文の( )に適語を語群から選び記入しなさい。

(1) 竹刀の(1)、準備運動、整理運動をはじめとした(2)に留意する。

(2) 大きな目標や(3)をもって取り組む。

(3) (4)を重んじる。

(4) 立会いの「(5)」を大事にして、一本一本をおろそかにしないように、常に旺盛な

(6)で、精魂を込めて稽古をする。

(5) (7)に忠実な稽古をする。

(6) (8)を積極的に使って稽古をする。

(7) 稽古後は(9)し、(10)・研究をおこたらない。

《語群》 研究心 初太刀 点検 気力

工夫 反省 安全面  
しかけていく技 基本 礼儀作法

⑥	①
⑦	②
⑧	③
⑨	④
⑩	⑤

〔解答〕 ①点検 ②安全面 ③研究心

④礼儀作法 ⑤初太刀 ⑥気力  
⑦基本 ⑧しかけていく技  
⑨反省 ⑩工夫

4 全日本剣道連盟が制定した「剣道修練の心構え」について、( )に適語を語群から選び記入しなさい。

「剣道修練の心構え」

剣道を正しく(1)に学び

心身を(2)して旺盛なる(3)を養い

剣道の(4)を通じて(5)をとうとび

(6)を重んじ(7)を尽くして常に自己の(8)に努め

もって(9)を愛して

広く人類の(10)に

寄与せんとするものである

《語群》 国家社会 気力 信義

平和繁栄 錬磨 誠  
修養 真剣 特性 礼節

⑥	①
⑦	②
⑧	③
⑨	④
⑩	⑤

〔解答〕 ①真剣 ②錬磨 ③気力

④特性 ⑤礼節 ⑥信義 ⑦誠  
⑧修養 ⑨国家社会 ⑩平和繁栄



三段の部

1 日本剣道形太刀の形六本目と七本目について説明した文の( )に適語を語群から選び文を完 成させなさい。

〔六本目〕

打太刀は、(①)、仕太刀は(②)で、互いに右足から進み、間合に接したとき、仕太刀は機を見て(②)から打太刀の両拳の中心を攻める氣勢で、(①)に上げ始めるので、同時に打太刀も、これに應ずる心持ちでやや剣先を下げて、仕太刀の刀と合おうとする瞬間、右足をひいて(③)に振りかぶる。

仕太刀はすかさず(①)のまま大きく右足から(左足もともなって)一歩進む。打太刀は直ちに左足をひいて(①)となり、機を見て仕太刀の(④)を打つ。

仕太刀はその刀を、左足を左にひらくと同時に、小さく半円を描く心持ちで、右蹠ですり上げ、右足を踏み出し、打太刀の(④)を打つ。

打太刀は剣先を下げて、左足から左斜め後ろに大きくひくので、仕太刀は左足を踏み出しながら、(③)に振りかぶり(⑤)を示す。

〔七本目〕

打太刀、仕太刀相(①)で、互いに右足から進み、間合に接したとき、打太刀は機を見て、一歩軽く踏み込み、刃先をやや仕太刀の

左斜め下に向けて、蹠ですり込みながら、諸手で仕太刀の(⑥)を突く。仕太刀は、打太刀の進む程度に應じて、左足から体をひくと同時に、諸手を伸ばし、刃先を左斜め下に向け、物打ちの蹠で打太刀の刀を支える。

互いに相(①)になり、打太刀は、(⑦)を踏み出し、右足を踏み出すと同時に、体を捨てて諸手で仕太刀の(⑧)に打ち込む。

仕太刀は右足を右前にひらき、左足を踏み出して体をすれ違いながら諸手で、打太刀の(⑨)を打ち、右足を踏み出し左足の右斜め前に軽く右膝をつけて、爪先を立て左膝を立てる。諸手は十分に伸ばし、刀は手とほぼ平行に右斜め前にとり、刃先は右に向ける。その後、刀を返して(⑩)に構えて、(⑤)を示す。

《語群》 諸手左上段 諸手右上段 中段  
下段 脇構え 八相の構え  
右小手 左小手 右胴 左胴 正面  
胸部 咽喉部 残心 右足  
左足

⑥	①
⑦	②
⑧	③
⑨	④
⑩	⑤

〔解答〕

- ①中段 ②下段 ③諸手左上段  
④右小手 ⑤残心 ⑥胸部  
⑦左足 ⑧正面 ⑨右胴  
⑩脇構え

2 「平常心」について説明しなさい。

〔解答例〕

物事(事象)の変化に対し動揺することなく、日頃の気持ちで冷静に対応できる磨かれた心の状態をいう。事に臨んで心を動かすことなく、ふだんと変わらない平常心の心で対処することは非常に難しいことである。剣道では、この平常と変わらない心を持たねばならないことを強く求めている。

3 「三殺法」について説明しなさい。

〔解答例〕

相手を制するための手だてとして、相手の剣、技、気の三つを封ざること。  
 剣を殺す⇨相手の剣を押さえ、払うなどして 剣の働きを制する。  
 技を殺す⇨先手先手と攻め、相手に技を仕かける余裕を与えない。  
 気を殺す⇨気力で相手を圧倒し、相手が攻撃しようとする機先を制する。

4 互格稽古で注意することを書きなさい。

〔解答例〕

- ①修得した基本動作や応用動作を崩すことなく、充実した氣勢で真剣に行う。  
 ②相手と対等の気持ちで行う。

③立ち会いの「初太刀」を大切にし、一本一本に精魂込めて打突する。

④間合のとり方や攻め方、打突の機会の見つけ方やつくり方、技の出し方などを工夫する。

⑤相手を選び好みしないで、多くの人と稽古する。

## 四段の部

1 日本剣道形 小太刀の形について（ ）に適語を語群から選び回答欄に記入しなさい。

〔二本目〕

打太刀は①、仕太刀は②の構えで、打太刀は左足から、仕太刀は右足から、互いに進み間合いに接したとき、仕太刀が入身になろうとするので、打太刀は右足を踏み出すと同時に、①から、仕太刀の③に打ち下ろす。

仕太刀は右足を斜め前に、左足をその後ろに進めて、体を右にひらくと同時に、右手を頭上へ上げ、刃先を後ろにし、左鑷で受け流して打太刀の③を打ち、左足から一歩ひいて上段にとって残心を示す。

〔二本目〕

打太刀は④、仕太刀は②の構えで、互いに右足から進み間合いに接したとき、打太刀は、守る意味で、④から中段になろうとする瞬間、仕太刀は、打太刀の刀を制して入身になろうとするので、打太刀は、右足を後ろにひいて⑤にひらくのを、すかさず、仕太刀が、再び中段で入身になって攻めてくるので、打太刀は⑤から変化して①に振りかぶり、右足を踏み出すと同時に仕太刀の③に打ち込む。

仕太刀は左足を左斜め前に、右足をその後ろに進めて、体を左にひらくと同時に、右手を頭上へ上げ、刃先を後ろにし、右鑷で受け流して面を打ち、打太刀の⑥を押さえて腕の自由を制すると同時に、右拳を右腰にとり、刃先を右斜め下に向け、剣先を⑦につけて残心を示す。

〔三本目〕

打太刀は中段、仕太刀は⑧の構えで、打太刀は立ち会いの間合から、右足、左足と進み、次の右足を踏み出すとき、仕太刀が入身になろうとするのを中段から⑨に振りかぶって、仕太刀の③に打ち下ろす。仕太刀は、その刀をいったんすり上げて打太刀の右斜めにすり落とす。

打太刀は、直ちに左足を踏み出し、仕太刀の⑩を打つ。仕太刀は左足を左斜め前に踏み出し、体を右斜めにひらくと同時に、胴を打ってくる打太刀の刀を、左鑷ですり流し、そのまま左鑷で、打太刀の鐔元にすり込み、小太刀の刃部のはばきで打太刀の鐔元を押さえ、入身になり、打太刀の⑥を押さえ

る。

打太刀がひくので、仕太刀はそのまま攻めて、二三歩進み右拳を右腰にとり、刃先を右斜め下に向けて、剣先を⑦につけ、残心を示す。

《語群》 諸手左上段 諸手右上段

中段半身 下段半身 下段

脇構え 八相の構え 二の腕

右小手 右胴 左胴 正面

胸部 咽喉部

⑥	①
⑦	②
⑧	③
⑨	④
⑩	⑤

〔解答〕 ①諸手左上段 ②中段半身 ③正面

④下段 ⑤脇構え ⑥二の腕

⑦咽喉部 ⑧下段半身

⑨諸手右上段 ⑩右胴

2 有効打突について説明しなさい。

〔解答例〕

有効打突は、剣道試合・審判規則に、充実した氣勢、適正な姿勢をもって、竹刀の打突部で打突部位を刃筋正しく打突し、残心あるものと規定されている。このような諸条件を満たした一本が有効打突となる。

言いかえれば、気剣体一致の打突である。有効な打突は理合と残心からなっており、理

合を要素と要件に分けると、要素には、間合・機会・体さばき・手の内の作用・強さと刃えが含まれる。要件には、姿勢・氣勢（発声）・打突部位・竹刀の打突部・刃筋が含まれる。残心は、打突後の身構え・気構えである。

### 3 残心の重要性について述べなさい。

〔解答例〕

打突した後でも相手に心を留めて、もし相手が再び反撃しようとしたら、直ちにこれを制し得る油断のない身構えと気構えにならなければならない。もし、打突した後には油断していたならば逆に相手に反撃されてしまう。また、打突した後には心を残そうとすれば、かえって残そうとすると心に心が止まってしまうとされている。心を残さず、思い切って捨て身で打突することによってこそ、自然と相手に対する油断のない心が生まれ、これが相手の反撃に備える身構えと気構えになる。

### 4 剣道における熱中症の予防と対処方法について述べなさい。

〔解答例〕

熱中症とは、高温環境に高湿度が加わると、うっ熱によって、体温上昇が助長されて体温調節機能が障害される。このような状態を総称して熱中症と言う。

〔熱中症の予防〕 熱中症を防ぐためには

- ① 剣道場の換気、風通しに十分注意すること。
- ② 稽古の前にはコップ1〜2杯の水分を摂取すること。
- ③ 急に暑くなったときには、稽古量を少なめから始め、暑さに慣れるまでは徐々に増やしていくこと。

- ④ 稽古は長時間続けずに、面をはずして定期的な休息をとること。
- ⑤ 稽古の間には十分量の水分を補給すること。スポーツドリンクや食塩水（水1リットルに1〜2gの食塩）が望ましい。

〔対処方法〕 熱中症になったら

- ① ただちに涼しいところに運び、防具を外して袴のひもをゆるめ、頭を低くして寝かせろ。
- ② 冷たいタオルで全身の汗をぬぐいつつ、首の周囲や太ももの付け根などを、水を包んだタオルなどで冷やす。
- ③ 水分補給をスポーツドリンクや食塩水で行う。
- ④ 三十八度以上熱があるとき、けいれんが起こったとき、意識がもうろうとしたり、意識がないときは危険なので、すこしでもおかしいときは、体温を下げる応急処置を行いなから救急車を呼んで病院にて治療を行う。

## 五段の部

1 審判員の心得について「一般的要件」と「留意事項」を述べなさい。

〔解答例〕

一般的要件

- ① 公正無私であること。
- ② 剣道試合・審判規則、運営要領を熟知し、正しく運用できること。
- ③ 剣理に精通していること。
- ④ 審判技術に熟達していること。
- ⑤ 健康体で、かつ活動的であること。

留意事項

- ① 服装を端正にすること。
- ② 姿勢・態度・所作などを厳正にすること。
- ③ 言語が明晰であること。
- ④ 数多くの審判を経験し、反省と研鑽に努めること。
- ⑤ よい審判を見て学ぶこと。

2 「指導者としての心構え」について述べなさい。

〔解答例〕

- ① 確固たる信念と情熱、愛情と誠意をもって指導する。
- ② 指導を受ける者の人格と個性を尊重しながら

ら指導する。

③自らの人格を養い、信頼される指導者となるように努力する。

④指導を受ける者とともに修練に励み、技能の向上に努める。

⑤能率的・合理的な指導法の研究を心がけ、指導を受ける者が理解しやすい指導の方法を研究する。

⑥指導を受ける者の健康や安全に留意する。

### 3 「互格稽古」について説明し、「指導上の留意点」を述べなさい。

#### 〔解答例〕

技能や気力の同等の者、あるいは同等に近い者が、互いに気をはかり、相手の変化に対して互格の態度や対等の気持ちで有効打突を競い合うなかで、総合的な能力を養う稽古法である。

①修得した基本動作や応用動作を崩すことなく、充実した氣勢で真剣に行わせる。

②相手を恐れず侮らず、相手と対等の気持ちで行わせる。

③立会いの「初太刀」を大事にし、一本一本に精魂込めて打突させる。

④間合のとり方や攻め方、打突の機会の見つけ方やつくり方、技の出し方などを工夫させる。

⑤相手をより好みしないで、多くの人と稽古

をさせる。

### 4 剣道形を実施するときの留意点について述べなさい。

#### 〔解答例〕

剣道形は、一定の形式と順序に従って行う一連の約束動作であるが、形を形骸化させない生きたものにするために、お互いが寸分の緩みのない気の働きをもって行わなければならない。

①立会前後の作法、立会の所作、刀の取り扱いを適切に行う。

②五つの構えと小太刀の半身の構えを正しく行う。

③目付けや呼吸法を心得て、終始、充実した氣勢、気迫をもって合気で行う。

④打太刀（師の位）、仕太刀（弟子の位）の関係を理解し、原則として打太刀が先に動作を起こす。

⑤「機を見て」「入身になろうとする」といった打突の機会を理解して行う。

⑥打太刀は一足一刀の間合いから打突し、仕太刀は物打ちで打突部位を正確に打突する。

⑦振りかぶりは、剣先が両こぶしより下がらないようにし、一拍子で打つ。

⑧足さばきはすり足で行い、打突するときは後ろ足を前足に引き付ける。

⑨残心は十分な気位をもって行う。

## 【居合道】

### 初段の部

1 全日本剣道連盟が昭和50年3月20日に制定した「剣道の理念」を記せ

剣道は剣の理法の修練による人間形成の道である。

2 「居合道と礼」について記せ

礼は、対人関係や社会の秩序を円滑に維持し、平和で充実した社会生活を送るために必要なことであるが、世代を超えて学び合い、生涯にわたる人間形成の道である居合道においても同じことがいえる。居合道は道場での稽古を始め、講習会や大会など様々な場互いに学び、修練を積み重ねることによって自己の錬磨と修養につなげることができるのであり、ともに居合道を学んでいる人々に対しては常に敬意と感謝の念を持ち、礼儀正しく接していくことが大切である。

3 「柄の持ち方」について記せ

右手は鐙元近くを持ち、左手は「巻き止め」に小指がかからぬように「柄頭」を余して持つ。

両腕とも上筋より下筋を強くし、小指と薬指を締めて他の指をゆるめ、ちょうど鶏卵を握るように柄に手のひらが全部さわるように柔らかく持つ。

4 全日本剣道連盟が昭和50年3月20日に制定した「剣道修練の心構え」について穴埋め式による問題を10項目出題する。

### 二段の部

1 「居合道の目付け」について記せ

実際には見えない敵を相手とする居合道において「目付け」はとても大切である。居合道における「仮想敵」は常に動いているため、敵の位置や動きを意識して演武する必要がある。居合道の「仮想敵」は自分と同じくらいの背丈とし、仮想敵の顔の中心を見るようにするが、一点を注視するのではなく、敵の全体を見るようにする。また、敵を倒した後の目付けは倒れた敵を見越したところとし、気は四方にくばる。

2 「居合道の呼吸」について記せ

各技に移るときは原則として三呼吸目を吸い込んだときに動作を始める。各技を一呼吸で終えることが望ましいが、息継ぎする場合

は敵に悟られないように行う。

3 「演武の心得」について記せ

演武はすべて充実した氣勢、正確な刀法、適法な姿勢、「気・剣・体の一致」を心がけ、全身全霊を打ち込んで真剣勝負の心境で「行ずる」心がけが大切である。

4 「一本目・前」、「二本目・後ろ」、「三本目・受け流し」の「全日本剣道連盟居合審判・審査上の着眼点」について穴埋め問題を10項目出題する。

### 三段の部

1 「残心」について記せ

敵を倒した後も油断せず、どんな反撃にも直ちに対応できるような身構えと気構えのことである。居合道においては倒した敵に心を残すことではなく、四方いづれの方向からの新たな攻撃にも対処できる気を配ることが最も重要であり、新たな敵に対する気構え、体構えのことである。

2 「気剣体の一致」について記せ

「気」とは氣勢、「剣」とは刀の操作、「体」



とは体さばきと体勢のことで、これらがタイミングよく調和がとれ、一体となって働くことにより、効果的な斬突が可能となる。

### 3 「中段の構え」及び「諸手左上段の構え」について記せ

「中段の構え」は右足を前に左こぶしをへそ前より約一握り前にして両手で刀を持ち、剣先の延長が敵の両眼の間の方向に向くように刀を保持した構え。

「諸手左上段の構え」は両手で刀を頭上上げた構えで、中段の構えから左足を前に出し、左こぶしを左額の前上一握りのところとし、剣先は約45度後ろ上方に向け、やや右に寄せる。

### 4 「四本目・柄当て」、「五本目・袈裟切り」、「六本目・諸手突き」における「全日本剣道連盟居合審判・審査上の着眼点」について穴埋め問題を10項目出題する。

## 四段の部

### 1 「試合における勝敗の決定」について記せ

正しい礼法・作法による充実した氣勢と適正な姿勢をもって、正確な技術と刀法に基づいた気・剣・体一致の技前と心構えの優劣に

よって勝敗の判定を決定する。勝敗の判定基準は次のとおり

①修行の深さ、②礼儀、③正確な抜きつけと切りつけ、④正確な鞘離れと刃筋、⑤正確な血振りと角度、⑥正確な納刀、⑦心の落着き、⑧目付け、⑨気迫・残心・間と間合い、⑩気・剣・体の一致、⑪武道として合理的な居合であることとし、「全日本剣道連盟居合（解説）」の審判・審査上の着眼点を参考とする。

### 2 「守破離」について記せ

剣道や居合道における修行上の段階を示す教えで、「守」は指導者の教えに忠実に従って学び、それを確実に身につける段階。「破」は「守」の段階で学んだことについて工夫を凝らし、技術を高める段階、「離」は「守」・「破」といったことを超越して、技術をさらに深め、新しい境地を開いて確立していく段階のことである。

### 3 「八相の構え」及び「脇構え」について記せ

「八相の構え」は「諸手左上段の構え」から、そのまま右拳を右肩のあたりまで下ろした形で、刀をとる位置は鰐を口の高さにし、口からほぼ拳ひとつ離す。左拳の位置はほぼ正中線とし、刀身の傾きは後ろ上方約45度と

し刃先は敵に向ける。

「脇構え」は右足を後ろにし、左半身となり、刀を右脇に剣先を後ろにし、刃先は右斜め下に向ける。剣先は下段の構え（膝頭より約3〜6センチメートル下）より少し下げた位置にとり、刀身が相手から見えないように構える。

### 4 「七本目・三方切り」、「八本目・顔面当て」、「九本目・添え手突き」における「全日本剣道連盟居合審判・審査上の着眼点」について穴埋め問題を10項目出題する。

## 五段の部

### 1 全日本剣道連盟が平成19年3月14日に制定した「剣道指導の心構え」をもとに「居合道指導の心構え」について記せ

居合道の正しい伝承と発展のために、剣の理法に基づく刀の扱い方の指導に努める。相手の人格を尊重し、心豊かな人間の育成のために礼法を重んずる指導に努める。ともに居合道を学び、安全・健康に留意しつつ、生涯にわたる人間形成の道を見出す指導に努める。

2 「自信と慢心」について記せ

〔解答例〕

修練を重ね居合が上達してくると、おのずと自信がついてくる。自信をもつことにより平常心を保つことができ、いかなる場合にも確かな技前を発揮することができる。また、そこには気位も備わってくるものである。

しかし、行き過ぎた自信は慢心となり、修行の妨げとなる。このため、居合道の修行においては常に謙虚な気持ちで向上心を持ち続け、反省と工夫を怠らないことが肝要である。

3 居合道段位審査における五段以下の実技審査について「全日本剣道連盟居合（解説）」の「審判・審査上の着眼点」のうち、「特に留意すべき項目」について記せ

初段から三段までの特に留意すべき項目は①正しい着装と作法、②正確な抜付け、切付け、③正確な血振り・角度、④正確な納刀の4項目であり、四段及び五段では三段までの4項目に①心の落ち着き、②目付け、③気迫、④気・剣・体の一致の4項目を加えた8項目である。

4 「十本目・四方切り」「十一本目・総切り」

「十二本目・抜き打ち」における「全日本剣道連盟居合審判・審査上の着眼点」について穴埋め問題を10項目出題する。

## 【杖道】

### 初段の部

#### 1 流租、流名について記せ。

流租は、夢想権之助勝吉、流名は、神道夢想流杖術である。

権之助は、寛永の頃の人と言われ、筑前の国（今の福岡県）宝満山に祈願参籠し、御神託を授かり、独自の杖術を創始されたのである。以来、今日まで永々として伝えられている。

#### 2 形一本目「着杖」について解説せよ。

正面から切り下ろす太刀を、体を右斜め後ろにかわして左小手を打ち、さらに、退きながら上段に構えるその左小手を本手打する形である。

#### (打)

- 1 八相に構えてから間合に進み、右足を踏み出して正面を水平まで切り下す。
  - 2 右足から退きながら左上段に構える。
  - 3 右足から退きながら太刀を右脇下におろす。
  - 4 左足を右足の後ろに退き、構えを解く。
- (仕)
- 1 常の構えから右手を正面に伸ばし、すべ

らせて、杖尾を床につけて立て、杖先を握る。

- 2 右足から右斜め後ろに大きく退きながら体をかまし、右手を持ち替え腰にとり、左手で杖を握る。杖先を右に半円を描くように回すと同時に、左足から踏み出して左本手で左小手を打つ。

- 3 を両手いっぱいにとり、右足を踏み出し、左小手を本手打する。

- 4 杖先を顔面につけて残心を示す。

- 5 左手を後ろに引き、杖を両手いっぴいにとり、左手を肩の高さにし右手を右膝上につける。

- 6 右手を上から持ち替え、杖を右手の内側にすべらせながら左足を右足に揃え、常の構えとなる。

#### 3 杖道を学ぶ目的とその効果について記せ。

杖道は精神の修養と身体の鍛錬を第一義とする。決して手足の技ではなく心の技で、その目的は精神修養にある。

杖道修練の効果は数多いが、主として次の5点をあげることができる。

- 1 礼儀、信義、誠実、忍耐等の精神が養われる。
- 2 身体を強健にし、活動を敏活にする。
- 3 姿勢態度がよくなる。
- 4 判断力、決断力が養われ、自信をもって

事に当たれるようになる。  
5 対人関係がよくなり、社会生活に必要な協調性が養われる。

### 二段の部

#### 1 基本技の修得について記せ。

基本は、杖の操法の基礎となるものであって、これを修得することによって杖道形が自由かつ円滑に行われるようになるものである。

- 1 正しい姿勢と気位を高める。

- 2 間合がわかり、打突が確実となる。

- 3 動作が正確、機敏、活発となる。

- 4 個癖がなくなり、打筋が正しくなる。

- 5 目付け、眼が明らかとなり、気合が充実してくる。

#### 2 形二本目「水月」について解説せよ。

太刀で正面を切りかかるところを、右斜め前に体をかわして水月を突き、さらに引落打する形である。

#### (打)

- 1 八相に構えて間合に進み、振りかぶりながら右足を踏み込み正面を切る。
- 2 右足から大きく退きながら八相に構える。
- 3 右足から踏み込み切り付けるように中段に構える。

4 太刀を右後方に打ち落とされると同時に右足から退く。

5 左足を右足に引きつけ、構えを解く。  
(仕)

1 常の構えから右足を右斜め前に踏み出し、左足をわずかに移動させて体をかわしながら左手は腰にとり、右手は杖の中央を握ったままで水月を突く。

2 右足から後ろに退くと同時に杖を右後ろに引き、左手を杖先にかけて、右手を持ち替え引落に構える。

3 太刀を引落打すると同時に、右足から踏み出し「打」の顔面を攻める。

4 残心を示す。

5 左手を後ろに引き、右手を肩の高さにし、杖を両手いっぱいにとり、左手を肩の高さにし右手を右膝上につけ、右手を上から持ち替え、杖を右手の内に押し込みながら左足を右足に引きつけ、常の構えとなる。

### 3 杖道の稽古のあり方について述べよ。

稽古とは、古を稽えることであって、師の教えを忠実に守って、これを繰り返し繰返し修行し、正しい技を修得し体得することである。

稽古を行うためには、上達をする最も大切な条件がある。

「汗の出る分量だけ強くなる」といわれる

が、時間の許す限り、精進の続く限り稽古することによって、技術が向上する。そして始めて杖道の目的である心身の練磨と人間性が、次第に養成されていくのであり、自分のためにも、社会貢献のためにも、充分肝に銘じて稽古に励まねばならない。

## 三段の部

### 1 杖の構え方について記せ。

構え方は、体勢を正しく相手を威圧する如く正々堂々の構えでなくてはならない。杖道における構え方は非常に多いが、その主なるものは、次の4つにわけられる。

#### 1 「常の構え」

自然体のまま右手で杖の中央を握り、右体側に軽くつけ、杖先をほぼ「へそ」の高さにし、両足を揃えて立つ。

#### 2 「本手の構え」

##### ① 右本手の構え

常の構えから、右手、右足を前に出し、左手で杖尾を握り、右手をすべらせて、全長のほぼ4分の1の手幅にとり、杖先を相手の目の高さにし、「やや半身」となって構える。

##### ② 左本手の構え

右本手の構えの左右逆となる。

#### 3 「逆手の構え」

##### ① 右逆手の構え

常の構えから、杖先を左手で逆に握り、右足を1歩踏み出すと同時に、右手は持ち替えることなく、杖尾を右後ろ上から回して前に出しつつ、右手をすべらせて、全長のほぼ4分の1の手幅にとり、杖先を相手の目の高さにし、「やや半身」となって構える。

##### ② 左逆手の構え

いったん右逆手に構えてから、左手を引いて杖を両手いっぱいにとり、左足を出すと同時に杖を左後ろ上から回して前に出しつつ、左手をすべらせて、全長のほぼ4分の1の手幅にとり、杖先を相手の目の高さとし、「やや半身」となって構える。

#### 4 「引落の構え」(右左)

##### ① 右引落の構え

常の構えから、左足を前に出すと同時に杖先に左手をかけ、左手親指の付け根を左乳部に軽くつけ、四指を揃えて上に伸ばし「真半身」となり、右手を順に持ち替え、杖を下から握る。

##### ② 左引落の構え

右本手の構えから、左親指をはずし、左手掌を返しながら杖を後ろ下に引落とし、右手を持ち替えて右乳部に右手親指の付け根を軽くつけ、四指を揃えて上に伸ばし真半身に構える。

## 2 形五本目「左貫」の理合いについて記せ。

太刀で水月を突いてくるのを、体を退きながら杖で受け流し、突外打の要領で、太刀を打ち、さらに引落打する形である。

## 3 杖道修練の心構えについて述べよ。

杖道は、精神の修養と心体鍛錬を目的とし、精神を根本とする心の技である。

- 1 杖道は、一生が修行である。一時的に猛練習しても途中で中止するようでは効果がない。杖道を正しく真剣に学ばなければならぬ。
- 2 心身を錬磨して旺盛なる気力を養うことが大切である。
- 3 杖道の特性を通じて礼節をとるとび信義を重んじ誠を尽して常に自己の修養に努めること。
- 4 師の教えを守り、自ら稽古に励み、更に向上の道を求めなければならない。
- 5 国家社会を愛して広く人類の平和繁栄に寄与することである。

## 四段の部

### 1 太刀の構え方について記せ。

基本的なものとしては、次のような構えがある。

#### 1 「中段の構え」

右足を前に、左拳はへそ前より約ひと握り前にして、左手親指の付け根の関節をへその高さにする。剣先の延長は、両眼の中央または左目とする。

(一足一刀の間合を前提とする)

#### 2 「諸手左上段の構え」

中段の構えから左足を前に出し、左拳を左額の前方約ひと握りのところとし、剣先は約45度後ろ上方に向け、やや右に寄せる。

#### 3 「諸手右上段の構え」

中段の構えから左拳を額の前上約ひと握りのところとし、剣先は45度上方に向け、正中線上とする。

#### 4 「下段の構え」

中段の構えから、そのまま剣先を相手の膝頭より約3〜6センチ下とする。

#### 5 「八相の構え」

中段の構えから左足を出し、太刀を大きく諸手左上段に振りかぶる気持ちで構え、刃先は相手に向ける。

諸手左上段の構えから、そのまま右拳を右肩のあたりまで下ろした形で、太刀をと

る位置は髀を口の高さにし、口から約ひと握り離す。

左拳の位置はほぼ正中線上とし、刀身の傾きは後ろ上方約45度とする。

右足先はやや外側に向け、かかどが床に着かないように注意する。

#### 6 「脇構え」

中段から右足を後ろに退きながら、太刀を右拳がおおむね口の高さを通るくらいに大きく右脇にとり、左半身となる。

右足先はやや外側に向け、かかどが床に着かないように注意する。

剣先は後ろに、刃先は右斜め下に向け、特に刀身が相手から見えないようにする。

左拳は、「へそ」の右斜め下約ひと握りのところにおく。この時、左手首は曲げない。

剣先は下段の構えより少し下げた位置にとる。

## 2 形八本目「太刀落」の理合いについて記せ。

中段に構えている「打」に対して、体かわして頭部を打ち、ついで繰り付け、後退するところを返し突きし、さらに引落打する形である。



### 3 杖道上達の要点について述べよ。

武道の向上は、一にも二にも数多く練習をすることである。いかに理論だけかわしても、身体の運用が伴わなければ、上達するものではない。武道は、人が十回すれば、自分は百回するという信念のもとに、積極的に稽古に取り組まなければ上達しない。あわせて、良き指導者を師とし、基本を十分に練習し、しっかりした土台をつくり、理論と一つ一つの基本技がともなってはじめて進歩がはやるものである。師や先輩の教えを守り、自ら鋭意の研究と工夫をもって、継続した稽古をすることが上達の秘訣と言えよう。

ことである。

### 2 形十本「正眼」の理合いについて記せ。

「打」が柄に手をかけたところ、機先を制して水月を打ち、退くところの脾腹を突き、さらに水月を打つ形である。

### 3 指導者としての心構えについて述べよ。

指導者は、人の手本と言われるよう平素より自覚を持って努力精進しなければならない。指導者として重要な点を具体的に述べてみよう。

1 指導者は、自身の修行と人間性の向上をはかり、尊敬される人間にならなければならない。

2 権威と自信を持って忍耐強く、公平に和の精神をもって合理的な指導を行う。

3 実態を把握し、興味をもたせるには如何に導くかを念頭におき、魅力ある指導法を研究する。自主性を育て楽しく稽古ができる指導法を研究する。

4 基本訓練をおろそかにせず、技術の向上にしたがって、術理面も指導し、上達の喜びを味あわせるようにする。

5 常に道場の整備、武具の点検、健康管理等の危険防止に留意し、稽古内容にも安全を第一とし、事故のないよう心がける。

## 五段の部

### 1 掌中の働き（手の内）とその効果について記せ。

杖道には、打突と構えの杖の持ち方と力の入れ方が重要である。何れも、もっとも合理的状態において打突技の効果が最高度に発揮されるのである。即ち、両手の持ち方、力の入れ具合、打突時の両手の力関係が充分把握され、体の運用が自然である場合はじめて、打突の冴えがあらわれるのである。特に注意しなければならないことは、手先だけの打突ではなく、全身の力関係を集中して打突する





# 令和4年度 徳島県剣道連盟行事予定

県内行事					
月	日	曜日	行事	場所	主催
4	10	日	少年剣道教室指導者講習会	ソイジョイ武道館	県剣連
	17	日	杖道春季講習会	松茂町第二体育館	〃
			第77回国体予選	ソイジョイ武道館	〃
	23	土	第1回少年強化訓練	ソイジョイ武道館	〃
	24	日	第47回会長杯争奪高等学校剣道大会	ソイジョイ武道館	〃
29	金・祝	第1回審査会(剣道 初段以下)	ソイジョイ武道館他	〃	
5	7	土	第51回中学校剣道選手権大会	ソイジョイ武道館	中体連
	8	日	剣道中央講習伝達講習会	ソイジョイ武道館	県剣連
			居合道春季講習会、審査会	松茂町第二体育館	〃
	21	土	第2回少年強化訓練	ソイジョイ武道館	〃
22	日	第1回剣道 審査会(二段以上)	ソイジョイ武道館	〃	
6	4~5	土~日	第62回徳島県高等学校総合体育大会	藍住町町民体育館	高体連
	11	土	第3回少年強化訓練	ソイジョイ武道館	県剣連
	19	日	第2回審査会(剣道 初段以下)	ソイジョイ武道館他	〃
	25~26	土~日	令和4年度四国インカレ大会	ソイジョイ武道館	大学連
7	3	日	第1回徳島県少年剣道選手権	ソイジョイ武道館	県剣連
	16~17	土~日	第76回徳島県中学校総合体育大会	ソイジョイ武道館	中体連
	22~24	金~日	剣道連盟土用稽古	中央武道館	県剣連
8	19	金	令和4年度 徳島県防犯少年大会	ソイジョイ武道館	県警察本部
	20	土	第4回少年強化訓練	ソイジョイ武道館	県剣連
	25~26	木~金	令和4年度全国高等専門学校剣道大会	徳島市立体育館	全国高専連合会
	28	日	第2回剣道審査会(二段以上・称号)	ソイジョイ武道館	県剣連
9	3	土	第5回少年強化訓練	ソイジョイ武道館	県剣連
	4	日	第42回女子剣道大会	ソイジョイ武道館	〃
	18	日	第50回徳島県社会人剣道大会	ソイジョイ武道館	〃
			居合道伝達講習会、審査会	松茂町第二体育館	〃
	24	土	第27回徳島県健康福祉祭剣道交流大会	松茂町第二体育館	県高齢者会
25	日	第3回審査会(剣道 初段以下)	ソイジョイ武道館他	県剣連	
10	1	土	第6回少年強化訓練	中央武道館	県剣連
	8~9	土~日	剣道講師要員「試合・審判法」ブロック研修会	中央武道館	全剣連
	16	日	杖道秋季講習会	松茂町第二体育館	県剣連
	21	金	南部交流稽古会		〃
	29	土	第19回徳島県中学校剣道1年生大会	ソイジョイ武道館	中体連
11	4	金	西部交流稽古会		県剣連
	6	日	第52回徳島県少年剣道錬成大会	ソイジョイ武道館	〃
			居合道秋季講習会、審査会	松茂町第二体育館	〃
	12	土	第7回少年強化訓練	ソイジョイ武道館	〃
	13	日	第56回高等学校剣道選手権大会	ソイジョイ武道館	高体連
	19	土	第46回中学校新人剣道大会	ソイジョイ武道館	中体連
	23	祝・水	眉山杯大学剣道大会	徳島文理大学	大学連
	26	土	第67回県高等学校新人大会兼全国選抜大会県予選会	ソイジョイ武道館	高体連
27	日	第3回剣道 審査会(二段以上)	ソイジョイ武道館	県剣連	
12	3	土	中四国地区剣道合同稽古会	脇町うだつアリーナ	全剣連後援
	4	日	第45回全国スポーツ少年団剣道交流大会県予選会	ソイジョイ武道館	県スポーツ協会
	10	土	常任理事会	アミノハビュー視聴覚室	県剣連
	17	土	第8回少年強化訓練	ソイジョイ武道館	〃
	18	日	第71回全日本都道府県対抗剣道優勝大会県予選会	ソイジョイ武道館	〃
			第15回全日本都道府県対抗女子剣道優勝大会県予選会	ソイジョイ武道館	〃
	25	日	眉山ライオンズ剣道大会	徳島市立体育館	眉山ライオンズクラブ
1	7	土	新年役員会、互礼会	未定	県剣連
	8	日	令和5年 稽古始め	松茂町総合体育館	〃
	14	土	第9回少年強化訓練	ソイジョイ武道館	〃
	20~22	金~日	剣道寒稽古	中央武道館	〃
	21	土	第33回県下中学校剣道強化錬成大会	ソイジョイ武道館	中体連
2	29	日	長期育成強化訓練	那賀川スポーツセンター	県剣連
			第4回審査会(剣道 初段以下)	ソイジョイ武道館他	〃
	4~5	土~日	第23回四国高等学校剣道新人大会	藍住町町民体育館	四国高体連
	4	土	第10回少年強化訓練	ソイジョイ武道館	県剣連
	5	日	剣道四、五段受審者講習会	中央武道館	〃
	19	日	第4回剣道審査会(二段以上・称号)	ソイジョイ武道館	〃
3	25~26	土~日	居合道県下大会、審査会	松茂町第二体育館	〃
			第18回四国中学校新人剣道大会	脇町うだつアリーナ	四国中体連
	25	土	令和4年度 理事会	アミノハビュー視聴覚室	県剣連
	11	土	第11回少年強化訓練	ソイジョイ武道館	県剣連
12	日	令和4年度 総会	未定	〃	
26	日	令和5年度審査員・審判員講習会	ソイジョイ武道館	〃	

# 令和4年度 全剣連(主催・共催・後援)行事予定

月	日	曜日	《全剣連 居合道審査会》	場所	主催
5	3	火・祝	八段審査会 称号(範士・教士・錬士)	京都市	全剣連
7	22	金	六・七段審査会	岡山県	〃
11	18	金	称号(教士・錬士)	八王子市	〃
	26	土	八段審査会	江戸川区	〃
3	27	日	六・七段審査会	〃	〃
	5	日	六・七段審査会	京都市	〃
月	日	曜日	《全剣連 杖道審査会》	場所	主催
5	3	火・祝	八段審査会 称号(範士・教士・錬士)	京都市	全剣連
8	26	金	六・七段審査会	和歌山市	〃
11	18	金	称号(教士・錬士)	八王子市	〃
3	10	金	六・七・八段審査会	江戸川区	〃
月	日	曜日	《全剣連 剣道審査会》	場所	主催
4	29	金・祝	六段審査会	京都市	全剣連
	30	土	七段審査会	〃	〃
5	1~2	日~月	八段審査会	〃	〃
	6	金	称号(範士・教士・錬士)	〃	〃
	14	土	七段審査会	名古屋市	〃
	15	日	六段審査会	〃	〃
8	6	土	七段審査会	福岡県	〃
	7	日	六段審査会	〃	〃
	13~14	土~日	八段審査会	名古屋市	〃
	20	土	七段審査会	新潟県	〃
	21	日	六段審査会	〃	〃
11	12	土	七段審査会	名古屋市	〃
	13	日	六段審査会	名古屋市	〃
	18	金	六段審査会 称号(教士・錬士)	八王子市	〃
	19	土	七段審査会	〃	〃
2	24~25	木~金	八段審査会	千代田区	〃
	4	土	七段審査会	福岡市	〃
2	5	日	六段審査会	〃	〃
	18	土	七段審査会	長野市	〃
	19	日	六段審査会	〃	〃
月	日	曜日	《県外行事》	場所	主催
4	2~3	土~日	第57回中央講習会(剣道)	神戸市	全剣連
	17	日	第20回全日本選抜剣道八段優勝大会	名古屋市	全剣連
	23	土	中四国合同稽古会(広島県)	広島市	後援 全剣連
5	29	金・祝	第70全日本都道府県対抗剣道優勝大会	大阪市	〃
	2~5	月~木	全日本剣道演武大会	京都市	〃
6	15	日	第74回四国四県剣道大会	愛媛県武道館	全剣連後援
	29	日	剣道講師要員「指導法」ブロック研修会	高知県サンピアセーブ	〃
	6	月	令和4年度全日本高齢者武道大会	東京都	後援 全剣連
	10~12	金~日	第60回 中堅剣士講習会	奈良市	全剣連共催
	12	日	第59回西日本勤労者剣道大会	高知市	後援 全剣連
7	18~19	土~日	四国高等学校総合体育大会	香川県	四国高体連
	25	土	中四国合同稽古会(愛媛県)	愛媛県武道館	後援 全剣連
7	26~27	土~日	中央・地区講習会(居合道)	大分県	全剣連
	2	土	中四国合同稽古会(岡山県)	岡山武道館	後援 全剣連
	10	日	第14回全日本都道府県女子剣道優勝大会	日本武道館	〃
9	23~24	土~日	中央・地区講習会(居合道)	岡山県	全剣連
	23~24	土~日	令和4年度全日本少年少女武道(剣道)錬成大会	千代田区	全剣連共催
	30~31	土~日	第1回骨太ブロック別講習会(前期)	香川県	全剣連
8	3	水	四国中学校総合体育大会	香川県	四国中体連
	5~8	金~月	第69回全国高等学校総合体育大会	高知市	全剣連共催
	11	木・祝	第64回全国教職員剣道大会	長野市	全剣連共催
	19~21	金~日	第52回全国中学総合体育大会	釧路市	全剣連共催
	21	日	国民体育大会第43回四国ブロック大会	高知県南国市	主管 高知県
9	22	月	四国教職員剣道大会	高知県	四国学剣連
	27~28	土~日	中央・地区講習会(杖道)	和歌山市	全剣連
10	3	土	中四国合同稽古会(香川県)	高松市	後援 全剣連
	4	日	第61回全日本女子剣道選手権大会	奈良県	全剣連
	10	土	中四国合同稽古会(広島県)	広島市	後援 全剣連
	18	日	第17回全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会 第68回全日本東西対抗剣道大会	大阪市 兵庫県	後援 全剣連 全剣連
11	3~5	月~水	第77回国民体育大会剣道大会	宇都宮市	主管 全剣連
	8	日	第57回全日本居合道大会	東京都	全剣連
12	3	木祝	第70回全日本剣道選手権大会	東京都	全剣連
	12~13	土~日	第 回全国青年剣道大会	足立区	全剣連共催
1	3	土	中四国合同稽古会(徳島県)	脇町うだつアリーナ	後援 全剣連
	16~18	金~日	第140回社会体育指導員講習会(初級)	高松市	全剣連
2	21~22	土~日	第1回骨太ブロック別講習会(後期)	愛媛県武道館	全剣連
	29~30	土~日	中央・地区講習会(杖道)	東京都	全剣連
3	4	土	中四国合同稽古会(岡山県)	岡山武道館	後援 全剣連
	11	土	中四国稽古会(高知県)	高知県立武道館	後援 全剣連
3	26~28	日~火	第 回全国スポーツ少年団剣道交流大会		全剣連共催
			第32回全国高等学校剣道選抜大会	愛知県春日井市	全剣連共催
未定			第49回全日本杖道大会 第12回女子指導法講習会 第27回女子審判法講習会		全剣連 〃 〃

# 令和4年度 審査会実施計画表

## 【 剣 道 】

### \* 初 段 以 下

審査日	4月29日(祝・金)	6月19日(日)	9月25日(日)	1月29日(日)	初段以下審査会の申込み先
申込期日	4月15日(金)	6月5日(日)	9月11日(日)	1月15日(日)	
審査会場	中部 ソイゾイ武道館 (鳴門支部担当)	ソイゾイ武道館 (徳島支部担当)	ソイゾイ武道館 (板野東支部担当)	ソイゾイ武道館 (鳴門支部担当)	〒770-0861 徳島市住吉3丁目9-6 栗本マンション106 徳島県剣道連盟 生田 浩章 宛 TEL 088-652-2337
	西部 土成農業者 トレーニングセンター	美郷ふるさと センター体育館	三野体育館	穴吹 スポーツセンター	〒778-5251 三好市池田町白地本名987-1 山田 泰弘 宛 TEL 090-4976-1344
	南部 阿南市武道館	小松島市立 体育館	美波町日和佐 総合体育館	相生体育館	〒775-0203 海部郡海陽町大里字松原35の4 丸岡 偉人 宛 TEL 0884-73-3175

### \* 二 段 以 上

審査日	5月22日(日)	8月28日(日)	11月27日(日)	2月12日(日)	二段以上審査会の申込み先
申込期日	5月8日(日)	8月14日(日)	11月13日(日)	1月29日(日)	
審査種目	二～五段	二～五段・称号	二～五段	二～五段・称号	〒770-0861 徳島市住吉3丁目9-6 栗本マンション106
審査会場	ソイゾイ武道館	ソイゾイ武道館	ソイゾイ武道館	ソイゾイ武道館	徳島県剣道連盟 柳谷 照男 宛 TEL 088-652-2337
◇ 四・五段講習会		2月5日(日)	9:30～15:00	中央武道館	・携行品 … 剣道具・木刀・筆記用具

- ※注意
- ① 四・五段受審予定者は、「四・五段講習会」または伝達講習会(5月)のいずれかを受講すること。  
受講から1年以内に2回の審査を受審できるものとする。
  - ② 全剣連の称号受審者は、伝達講習会(5月)を受講のうえ1年以内に上記称号推薦選考会を受けること。

### \* 審 査 会 日 程

審査受付	8:45～9:30
剣道連盟稽古会	8:30～9:25
受審者稽古会	9:25～9:45
開会式	9:50～

※初段以下審査 学科審査(初段)、木刀による剣道基本技稽古法(3級～1級)同時開始。  
木刀による剣道基本技稽古法 3級…4本まで 2級…6本まで 1級…9本まで  
上記終了後、5級より実技審査を開始する。

※ 段 審 査 学科審査、実技審査、剣道形審査の順で行う。

※ 日本剣道形審査 初段…1本目～3本目 二段…1本目～5本目 三段…1本目～7本目  
四段・五段…1本目～7本目、小太刀3本

## 【 居 合 道 】

審査日	5月8日(日)	9月18日(日)	11月6日(日)	2月19日(日)
申込期日	4月24日(日)	9月4日(日)	10月23日(日)	2月5日(日)
審査種目	級・段	級・段・称号	級・段	級・段・称号
講習会 他	春季講習会	伝達講習会	秋季講習会	居合道県下大会
審査会場	松茂第二 体育館	松茂第二 体育館	松茂第二 体育館	松茂第二 体育館
申込み先				
〒772-0014 鳴門市撫養町弁財天字派名34-31 居合道部会事務局 満壽 良史 宛 TEL 090-9778-2350				

## 【 杖 道 】

審査日	未 定
申込期日	
審査種目	
審査会場	
申込み先	
〒770-8070 徳島市八万町馬場山43-2 杖道部会事務局 米倉 武志 宛 TEL 088-668-6650	

## 【 審 査 申 込 み 時 の 注 意 】

- ① 審査申込書の全ての項目を正確に記入すること。(この申込書は全剣連への登録に必要となります)
- ② 審査申込書の「申込責任者」欄は次に記載する責任者の署名・捺印とする。
  - ・ 小・中学生・高校生は、所属する道場・教室・クラブ又は、学校の部活動の責任者。
  - ・ 県内大学剣道部に所属する大学生は、所属する大学剣道部の責任者。県外大学の剣道部に所属する大学生は、出身地域の支部長。
  - ・ 徳島県剣道連盟支部会員は、所属支部の支部長。
- ③ 現級・段位を徳島県以外で取得した場合、申込時に段位証明書又は証書のコピーを添付すること。(申込書に取得した都道府県名を記入すること)
- ④ 審査申込期日は上記一覧表のとおりとし 各申込先へ審査料を添えて申し込むこと。(別紙「審査料・登録料一覧表」参照)
- ⑤ 徳島県剣道連盟の審査会を初めて受審する場合、審査料と合わせて入会金(1,000円)を納入すること。
- ⑥ 申込締め切り後においては、審査会欠席時の審査料の返金は行わないものとする。
- ⑦ 申込書を郵送または、事務局郵便受けに直接投函した場合は、申込書が届いているか必ず確認すること。

## 徳島県剣道連盟 審査資格

令和4年4月1日改正

級・段位	資 格
6～8級	小学1年～3年生は、認定により技倆相当の級位を与える。
5 級	小学4年生以上は、5級より受審できる。
4 級	中学生以上は、4級より受審できる。
3 級	高校生（相当年齢）以上は、3級より受審できる。
2 級	3級受有者で小学5年生以上を受審資格とする。
1 級	2級受有者で小学6年生以上を受審資格とする。 大学生、一般（大学生相当年齢以上）は1級より受審できる。 居合道・杖道受審者の大学生・一般（大学生相当年齢以上）は、1級を認定とする。
初 段	1級受有者で、13歳以上（審査日基準）を受審資格とする。
二 段	初段受有後、1年以上修業した者。
三 段	二段受有後、2年以上修業した者。
四 段	三段受有後、3年以上修業した者。指定講習会を受講済みであること。
五 段	四段受有後、4年以上修業した者。指定講習会を受講済みであること。 社会体育指導者資格初級の認定を受けた者については、五段の学科審査を免除するものとする。
六 段	五段受有後、5年以上修業した者。
七 段	六段受有後、6年以上修業した者。
八 段	七段受有後、10年以上修業し、かつ、満46歳以上である者。
錬 士	六段取得日より1年以上経過した者。指定講習会を受講済みであること。
教 士	七段取得日より2年以上経過した者。指定講習会を受講済みであること。

## 審査料・登録料（消費税含）一覧表

令和4年4月1日現在

〈単位＝円〉

	入 会 金 (徳島県で初めて受審する者)	審 査 料 (消費税10%含)	再 審 査 料	登 録 料 (消費税10%含)
3級以下	1,000	1,000	—	2,500
2 級	〃	1,500	—	3,500
1 級	〃	2,000	—	3,500
初 段	〃	3,000	3,000	6,950
二 段	〃	4,000	4,000	9,120
三 段	〃	5,000	5,000	12,390
四 段	〃	6,000	6,000	17,820
五 段	〃	8,000	8,000	23,280
六 段	〃	11,000	—	46,000
七 段	〃	15,400	—	57,000
八 段	〃	19,800	—	79,000
錬 士	〃	18,700	—	46,000
教 士	〃	27,500	—	79,000
範 士	〃	—	—	167,000



# 剣道連盟事務局だより

事務局長 柳 谷 照 男

令和三年度も、令和二年一月頃からの新型コロナウイルスの世界的流行により、引き続き稽古の自粛の願いを余儀なくされ、各種行事も中止が相次ぎました。一方、少しずつ、新型コロナウイルスはどのような状況になると感染リスクが高まるのか判明してきたことから、稽古前後の手指消毒、飛沫を防ぐためにマスクの着装、更にシールドをつけ、飛沫を受けない状態等々、不便を感じながらも稽古に励まれていたことと思います。

事務局としては、感染対策を徹底しながら各種大会の準備等に追われることから、通常の二倍以上の期間がかかっています。参加者の皆様方には新型コロナウイルス感染予防を行いながらの稽古等の周知徹底をお願いし、現時点では無事にいくつかの行事も終える事ができました。

少し気を緩めてしまうと、集団感染につながることから、今後についても、気を緩めることなく感染予防を徹底して、稽古等に励んでいただけますようお願い申し上げます。

来年度は、今年以上に行事開催できるよう願っています。

## 一、審査について

(1) 審査会実施にあたって「感染拡大予防ガイドライン」を发出しております。

受審者並びに審査員・立ち合い・係員等には受付時、審査時等内容の徹底をお願い致します。

(2) 審査の申し込みは、各支部長及び各学校と道場の責任者が責任を持って申し込みをお願い致します。

特に次の確認をお願い致します。

### 〈確認事項〉

- ① 申請書には、申請者が必要事項を記入すること。
- ② 徳島県剣道連盟審査資格の年齢、年数等を満たしているか。
- ③ 氏名欄には、ふりがなが正しくふられているか。
- (特に初段登録時に大切なものとなっている)
- ④ 前回受審日に間違いがないか。
- ⑤ 責任者は、記載漏れ等確認したことを称するための押印を忘れていないか。

## 二、徳島県剣道連盟主催の大会及び講習会等の情報提供について

新型コロナウイルス感染防止のため、令和二年度は大会及び講習会等の中止は余儀なくされております。今後は必要に応じて、情報提供してまいりますので、各支部長及び各学校・各道場の責任者は情報の周知徹底をお願い致します。

### 三、各販売書籍について

「徳島の剣道」もインターネットでも閲覧できるようにりましたが、会員の中には、冊子を好まれる方もおられますので、引き続き冊子での発行は致します。

会員の皆様のご理解とご協力の上、すべて完売できますよう、ご協力をお願い致します。

### 四、徳島県剣道連盟ホームページ掲載について

各種大会及び講習会等できる限り、会員の皆様方に情報を発信するよう、努力してまいりますので、ご理解お願いいたします。

### 五、各支部及び会員からの情報提供について (役員等の計報の手配と連絡)

令和三年度より、医・科学委員会を立ち上げています。何でもかまわないので、情報提供をお願い致します。

連盟関係者の計報については、確認が取れ次第、事務局に報告依頼と関係者に連絡をお願い致します。

### 六、徳島県の人口減少が確実な現状について

剣道人口も平成十六年から比較すると半減しています。徳島県人口も平成十六年四月には八十一万人でしたが、令和三年四月には七十一万人と一万人減少しています。

剣道人口も平成十六年には、三、三〇〇人から令和三年には、二、〇〇〇人となっています。小・中・高生を比較すると半減しています。

少子高齢化が進む中、更には、新型コロナウイルスによって、剣道教室の稽古等の活動に支障がでている状況下ではありますが、幸いにも「鬼滅の刃」の漫画が継続してブームとなっております。その影響を受けて、剣道を始められる方もおられるようです。今後も徳島県剣道連盟会員一人一人が多くの人に声をかけて、少なくとも現状維持に取り組んでいきたいと思っておりますので、皆様方のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

### 七、令和四年度から審査規則が変わります

#### 1 剣道関係

(1) 受審資格(審査規則11条第1項)の改正

○二級：三級受審者で小学5年生以上を受審資格とする。

○一級：二級受審者で小学6年生以上を受審資格とする。

(従来と同じ。)

○大学生、一般(大学生相当年齢以上)は一級より受審できる。

#### (2) 剣道審査実施要領の策定

○日本剣道形の実施本数の変更

- ・初段：太刀の形一本目から三本目まで
- ・二段：太刀の形一本目から五本目まで

したので、ご確認下さい。

三段以上は従来と同じです。

○六級ないし八級の認定は、小学生三年生以下の子供達たちに剣道への取組みを奨励するため、指導者からの申請により剣連会長が認定証を交付できることにしました。認定証は無料です。

## 2 居合道関係

### (1) 認定証の交付

一級を認定していますが、認定は剣連会長が認定証の交付を行うことにしました。

(2) 居合道段級位審査実施要領を策定（段級位審査方法を明示しました。）

## 3 杖道関係

(1) 級位の審査は審査員3名で実施（杖道審査規則を策定し明示しました。）

### (2) 級位の認定

大学生及び一般については、居合道と同様に一級を認定とし、剣連会長が認定証の交付を行うことにしました。

(3) 審査実施要領の策定（審査上の着眼点について明示しました。）

## 4 剣道、居合道及び杖道の審査における学科問題の改訂

剣道・居合道・杖道の学科問題について、出題内容が変わります。

文体表現を理解しやすく、また回答しやすい内容に見直します。









## 編集後記

『徳島の剣道』第9号（p10）に故・坂本裕二先生が「徳島県阿波國市郷一般撃劍英名録（明治18年）」を紹介されている。この英名録は大相撲の番付形式で四百六十一名の名前が記載されており、当時の剣道愛好家を東西の大関から前頭としてその実力評価がなされている。このような番付英名録が作成されるためには、剣術流派間の交流があり、互いの実力評価をオープンにできることを通して、剣道へのまとまりができていったことを示す貴重な資料である。

この英名録には現在も山家旗として顕彰されている大関・山根正雄先生をはじめ、数名は生前の業績を把握されているが、記載されている大多数は名前以外にどのような人物であったのか、どのような剣道指導をされたのか等の記録は残されていない。しかし、明治時代に剣道を広め伝えてくれたこれらの方々の存在があって、今日の剣道があることは間違いない。

現在、この『徳島の剣道』には「先生を偲ぶ」「随想」「昇段手記」等として生前それぞれの立場で活躍された先生方の姿が記載されている。毎回、関係者の方々より心打たれる文章が寄稿されており、徳島県剣道連盟の広報誌としての価値を高めていただいている。本当にありがたいことである。

## 『徳島の剣道』第三十八号

### 編集委員会

西	別	柳	中	玉	白	福	米	西	三	藤	木
本	宮	谷	村	田	木	多	倉	谷	木	川	原
浩	憲	照	総	晋	洋	雅	肇	肇		和	資
章	治	男	裕	作	一	英	滋	一	毅	秋	裕

## 『徳島の剣道』第38号

令和4年8月20日発行

編集・発行 徳島県剣道連盟

代表者 藤川和秋

☎770-0861 徳島市住吉三丁目9-6  
栗本マンション106号室

TEL 088-652-2337

FAX 088-652-2360

